

ヲチャラセナイチャシ跡

・ヲチャラセナイ遺跡

—厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5—

[第 1 分冊]

2013.3

厚真町教育委員会

カラー図版1



1. 遺跡遠景(E→)

カラー図版2



1. ヲチャラセナイチャシ跡遠景(S→)

カラー図版3



1. ヲチャラセナイチャシ跡近景(E→)



2. ヲチャラセナイチャシ跡(W→)

カラー図版4



1. III GP-01 (SW→)



2. III GP-01 主体部 (SW→)



3. III GP-01 副葬品出土状態 (SE→)



4. 鮫皮着せ腰刀拡大 (SE→)

カラー図版5



1. VH-01床面検出(NW→)



2. VH-01屋根土上面遺物出土状態(E→)

カラー図版6



1. 縄文時代前期後半 竪穴式住居跡群検出 NW →



2. 2号(奥)・3号(前)竪穴式住居跡完掘 NW→

カラー図版7



1. 縄文時代前期後半 捨て場跡検出1(赤旗は未被熱のシカ歯冠部) N→



2. 縄文時代前期後半 捨て場跡内VBB-03検出(赤旗は未被熱のシカ歯冠部) NW→

カラー図版8



1. III GP-01出土副葬品

序 文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する農業の町であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物へ恩恵を授ける大切な河川でもあります。この豊かな厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、農業用水確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が、平成7年度に本格着工されました。

さて、本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて、沈み行く地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査されたヲチャラセナイチャシ跡及びヲチャラセナイ遺跡の報告書であります。平成20年度より始まった本調査では数々の発見が相次ぎ、厚真の歴史について新たな知見を得ることができました。とりわけアイヌ民族の象徴的な遺跡であるチャシ跡の調査は、厚真町のみならず北海道の歴史を物語る上でも重要な調査であったと感じております。また、ヲチャラセナイ遺跡ではチャシ跡と同時期の集落跡が見つかり興味深い成果を得ております。他にも約5,200年前の縄文時代前期の大規模な集落跡が見つかり、集落内より道内初の「シカ塚」が見つかるなど、当時の生業を考える上でも貴重な発見となりました。

厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、今後も数年にわたり継続される予定でございますが、この様な貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として普及活用を推し進めてまいりたいと思っております。また、本書が、広く、埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、誠に厚く、感謝申し上げます次第であります。

厚真町教育委員会
教育長 兵頭利彦

例言

1. 本書は、平成 20～22 年度に行った厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査されたヲチャラセナイチャシ跡(登載番号：J-13-100)・ヲチャラセナイ遺跡(登載番号：J-13-101)の発掘調査報告書である。
2. 調査は、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部の委託を厚真町教育委員会が受託し、発掘調査を行った。
3. 調査・整理は以下の体制で行った。

調査担当者：天方博章(平成 21・22 年度) 奈良智法(平成 22 年度) 乾 哲也(平成 20～22 年度)
小野哲也(平成 20 年度)

調査担当者：天方博章(平成 20 年度)

調査補助員：山田和史

測量技能作業員・写図工：宮崎美奈子 海津孝之 渡辺博道 畑嶋朝江

整備技能作業員：小林輝男 松本 稔 佐伯憲吾 大坪正典

天方：金属製品実測・撮影(平成 20 年度出土分)、擦文土器実測・撮影(平成 20 年度出土分)、続縄文土器実測・撮影、縄文土器実測・撮影、剥片石器実測(平成 20・21 年度出土分)、礫石器実測・撮影(平成 20・21 年度出土分)、第二章～第六章遺構図作成、写真図版作成

奈良：陶磁器実測、金属製品実測(平成 22 年度出土分)、擦文土器実測(平成 20・22 年度出土分)、剥片石器実測(平成 22 年度出土分)、礫石器実測(平成 22 年度出土分)、第一章

乾：統括、涉外、第一章

調査協力：荻野幸男(厚真町教育委員会嘱託職員)
4. 本書の編集は乾・奈良の協力を得て天方が行った。下記執筆。

第一章：乾・天方 第二章～第六章・第七章：天方
5. 関連諸科学については、以下の機関および個人に依頼した。

AMS 法 ¹⁴C 年代測定：株式会社 加速器分析研究所、パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

樹種同定：パリノ・サーヴェイ株式会社、パレオ・ラボ

炭化種子同定：札幌国際大学博物館 客員研究員 椿坂恭代

動物遺存体同定：千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理

土器胎土分析：(株)第四紀 地質研究所、アースサイエンス株式会社

黒曜石原産地分析：(株)第四紀 地質研究所

石器石材同定：アースサイエンス株式会社

金属製品保存処理分析：岩手県立博物館、元興寺文化財研究所
6. 調査・報告にあたり下記の方々より特段の御指導を賜った。

土器の整理・分類：大沼忠春
7. カラー図版の遺物・平成 22 年度出土遺物及び遺構の一部写真撮影：有限会社スタジオクリーク 佐藤 雅彦
8. 地形測量の一部、遺物出土状態平面図の一部、復元土器実測の一部、剥片石器の実測は株式会社 シン技術コンサル、株式会社トラスト技研に委託した。
9. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会で保管している。
10. 調査・報告にあたって下記の機関および個人より御指導御協力を頂いた、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課、財団法人北海道埋蔵文化財センター、社団法人北海道アイヌ協会・胆振地区支部連合会、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、北海道立アイヌ文化研究センター、北海道開拓記念館、苫小牧駒澤大学国際文化学部、札幌学院大学人文学部、札幌国際大学、東京大学常呂実習施設、旭川市博物館、浦河町立郷土博物館、恵庭市教育委員会、帯広市百年記念館、上ノ国町教育委員会、釧路市埋蔵文化財調査センター、標茶町教育委員会、標津町教育委員会、清水町教育委員会、新ひだか町教育委員会、伊達市教育委員会、千歳市埋蔵文化財センター、苫小牧市博物館、泊村教育委員会、日高町教育委員会、白老町教育委員会、平取町沙流川歴史館、平取町立二風谷アイヌ資料館、深川市教育委員会、富良野市教育委員会、余市町教育委員会、小樽市総合博物館、羅臼町教育委員会、岩手県立博物館、元興寺文化財研究所、三重県埋蔵文化財センター、厚真町幌内自治会、(有)講神組

青野友哉、赤石慎三、秋野茂樹、天野哲也、石井淳平、出穂雅実、石川恵美、石川 朗、石神敏、石川直章、石橋孝夫、乾 芳宏、井上美知子、臼杵 勲、右代啓視、宇田川洋、上屋真一、大塚和義、岡田路明、長田佳宏、小野寺聡、小野裕子、葛西智義、加藤忠、加藤博文、川谷内修、川上 淳、菊池俊彦、北沢 実、木村淳一、工藤研治、熊谷仁志、越田賢一郎、古原敏弘、斉藤大朋、斉藤敏男、佐藤一夫、佐藤 剛、佐藤雄生、佐藤幸夫、澤田一憲、澤田健、杉浦信重、鈴木克彦、鈴木琢也、鈴木 信、瀬川拓郎、関根達人、高橋和樹、田口 尚、田才雅彦、田中哲朗、種市幸生、田村俊之、鶴丸俊明、中田裕香、長沼 孝、長町章弘、中村和之、西脇対名夫、野村崇、長谷山隆博、畑宏明、平野敦史、福井淳一、藤原秀樹、本田裕子、前田正憲、松崎水穂、松谷純一、三浦正人、蓑島栄紀、宗像公司、森岡健治、森秀之、森 靖裕、八重樫忠郎、藪中 剛、山崎幸治、吉田正明

凡 例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

[遺構] 住居址：H 住居内のピット：HP 住居内の焼土：HF 墓塚：GP 土坑：P 焼土：F
灰集中：AS 杭穴：KP SP：小ピット

[遺物] 土器：P 擦文土器：SP 続縄文土器：ZP 縄文土器：JP 土製品：CP 剥片石器：FT
礫石器：ST フレイク・チップ：FC 礫：S 石製品：STP 鉄製品：IP 銅製品：BP ガラス製品：GP
骨角器：BHP

[遺物等集中] 土器片集中：PB フレイク・チップ集中：FCB 礫集中：SB
獣骨集中：BB 炭化物集中：CB

2. 調査区を含めた周辺の河岸段丘面に以下の記号を用いた。

標高約 56.2-56.8m(氾濫原)：T₀ 標高約 58m：T₁ 標高約 62m：T₂ 標高約 68m：T₃
標高約 72.5-75m：T₄ 標高約 80-100m：T₅

3. 地層等について下記の略号を用いた。

[堆積土] 樽前 a 砂質降下火山灰：Ta-a 駒ヶ岳 C2 砂質降下火山灰：Ko-c2 樽前 b 降下軽石：Ta-b
白頭山苫小牧火山灰：B-Tm 樽前 c 砂質降下軽石：Ta-c 樽前 d1 細礫質降下スコリア：Ta-d1
樽前 d2 中礫質降下軽石：Ta-d2.p 粘土質黄褐色シルト(いわゆるローム)：L 攪乱：KR

[色調] 小山・竹原編著(1994)『新版 標準土色帳』に従った。

[注記] 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については()内に粒径(単位：mm)、状態を記載した。

混入土の比率

A + B : A と B が同量比混じる A-B : A を主体に B が多量に混じる

A = B : A を主体に B が少量 A≡B : A を主体に B が微量

φ : 粒径(単位・mm) ↓ : 以下 (状態) : 斑状に混じる・均一に混じる

[層位] 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や風倒木攪乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また各層の上・中・下位について下記の略号を用いている。

U : 上位 M : 中位 L : 下位

4. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。また、図版掲載遺物は基本的に挿図と同縮尺である。

遺構周辺図 : 1/100、1/80、1/60、 住居跡 : 1/100、1/80、1/60、1/50

住居跡に付属する柱穴その他の土坑 : 1/20 土坑 : 1/40 焼土 : 1/20

集中遺物出土状態 : 1/10、1/20

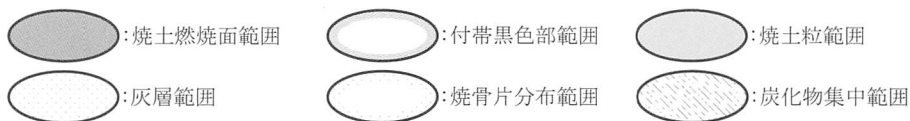
土器実測図 : 1/3、1/4 土器拓影図 : 1/3 剥片石器実測図 : 1/2 礫石器実測図 : 1/3、1/4

5. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。

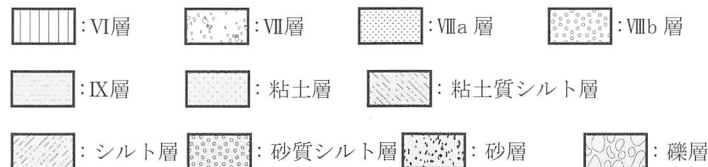
[線種]

----- : オーバーハング - - - - - : 推定線

[焼土] 被熱による土壌赤色化の度合いの表現に以下のトーンを用いた。



[Tピット] 第VI章第1節ではTピット堆積図に下記トーンを用いている。



6. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。

[断面] √————√ : たたき痕 |————| : 剥片石器 微細剥離 / 礫石器 擦り痕・滑沢面

[平面]  : 滑沢面範囲  : 被熱による赤色化/付着物範囲

7. 一覧表中の材質については、天方・奈良が肉眼観察で分類し、下記の略号を用いた。緑泥片岩は緑色泥岩に含めている。また、頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察による。

Aga. : メノウ Aga-Sh. : メノウ質頁岩 Amp. : 角閃岩 And. : 安山岩 Bl-Sch. : 青色片岩

Cha. : チャート Con. : 礫岩 Dio. : 閃緑岩 Gra. : 花崗岩 Gr-Mud. : 緑色泥岩 Mud. : 泥岩

Obs. : 黒曜石 Qu. : 石英 Qua. : 珪岩 Sch. : 片岩 Sa. : 砂岩 Ser. : 蛇紋岩 Sh. : 頁岩 Tu. : 凝灰岩

Tu-Sa. : 凝灰質砂岩

Cray. : 粘土 Iron. : 鉄 Cu. : 銅 Sn. : 錫 B. : 骨 Jp. : 漆

第1分冊 本文目次

カラー図版

- 1 遺跡遠景
- 2 ヲチャラセナイチャシ跡遠景
- 3-1 ヲチャラセナイチャシ跡近景
- 3-2 ヲチャラセナイチャシ跡
- 4-1 III GP-01
- 4-2 III GP-01 主体部
- 4-3 III GP-01 副葬品出土状態
- 4-4 鮫皮着せ腰刀拡大
- 5-1 VH-01 床面検出
- 5-2 VH-01 屋根土上面遺物出土状態
- 6-1 縄文時代前期後半竪穴式住居跡群検出
- 6-2 2号(奥)・3号(前)竪穴式住居跡完掘
- 7-1 縄文時代前期後半 捨て場跡検出1
(赤旗は未被熱のシカ歯冠部)
- 7-2 縄文時代前期後半 捨て場跡内VBB-03 検出
(赤旗は未被熱のシカ歯冠部)
- 8-1 III GP-01 出土副葬品

序文

例言

凡例

第I章 調査の概要

- 第1節 調査要項と体制 …………… 1
 - 1. 調査要項 …………… 1
 - 2. 調査体制 …………… 1
- 第2節 調査に至る経緯 …………… 2
 - 1. 厚幌ダム建設事業 …………… 2
 - 2. 発掘調査までの経緯 …………… 4
- 第3節 調査の方法 …………… 7
 - 1. 調査区の設定 …………… 7
 - 2. グリット設定 …………… 7
 - 3. 包含層および遺構調査の方法 …………… 7
 - 4. 整理作業 …………… 9

- 第4節 遺物の分類 …………… 10
 - 1. 土器 …………… 10
 - 2. 剥片石器 …………… 12
 - 3. 礫石器 …………… 12
 - 4. 鉄器 …………… 13
 - 5. 土器一覧表について …………… 14
- 第5節 遺跡の位置 …………… 15
 - 1. 厚真町の概要 …………… 15
 - 2. 遺跡の位置と周辺的环境 …………… 23
 - 3. 調査区内の地形と地質 …………… 30

第II章 ヲチャラセナイチャシ跡の調査

- 第1節 チャシ跡 …………… 42
- 第2節 内郭平地式建物跡 …………… 59
- 第3節 内郭付属遺構 …………… 63

第III章 アイヌ文化期の調査

- 第1節 平地式住居跡と関連遺構 …………… 71
- 第2節 建物跡 …………… 119
- 第3節 集中区 …………… 125
- 第4節 土坑墓 …………… 144
- 第5節 焼土 …………… 149
- 第6節 集中遺物 …………… 151
- 第7節 アイヌ文化期包含層出土遺物 …………… 152

第IV章 擦文文化期の調査

- 第1節 集中区 …………… 159
- 第2節 土坑 …………… 168
- 第3節 焼土 …………… 173
- 第4節 集中遺物 …………… 178
- 第5節 擦文文化期包含層出土遺物 …………… 187

第V章 続縄文文化期の調査

- 第1節 続縄文文化期包含層出土遺物 …………… 193

第VI章 縄文時代の調査

第1節	竪穴住居跡	196
第2節	土坑墓	238
第3節	土坑	252
第4節	Tピット	256
第5節	焼土	289

第6節	獣骨集中	301
第7節	集中遺物	329
第8節	段丘崖崩落土	371
第9節	包含層出土遺物	375

挿 図 目 次

第I章

図 I-1	厚幌ダム湛水地域埋蔵文化財 包蔵地位置図	3
図 I-2	遺跡周辺の地形図	6
図 I-3	年度別調査範囲及びグリット網 設定図	8
図 I-4	厚真町内遺跡分布図	18
図 I-5	遺跡周辺の地形面区分図	24
図 I-6	厚真川上流域と鶴川 中流域遺跡分布図	26
図 I-7	厚真川上流域と鶴川中流域 の地形図	29
図 I-8	発掘調査区内の地形	32
図 I-9	基本土層柱状図	33
図 I-10	AEライン土層断面図(1)	34
図 I-11	21ライン土層断面図(1)	35
図 I-12	Pライン土層断面図(1)	36
図 I-13	Pライン土層断面図(2)及び 21ライン土層断面図(1)	37
図 I-14	21ライン土層断面図(2)	38
図 I-15	旧石器時代確認調査範囲 及びIX層土層柱状図	39

第II章

図 II-1	チャシ跡検出時地形測量図及び 呼称区分図	43
図 II-2	チャシ跡平面図	45
図 II-3	チャシ跡土層断面図	47

図 II-4	チャシ跡壕 A 及び不明二次堆積土 土層断面図	49
図 II-5	チャシ跡壕 B 土層断面図	52
図 II-6	チャシ跡内郭土塁土層断面図	54
図 II-7	チャシ跡内郭出土遺物	56
図 II-8	内郭検出遺構平面図及び平地式建物跡 炉跡	57
図 II-9	チャシ跡内郭建物跡附属遺構	60
図 II-10	チャシ跡内郭建物跡出土遺物	62
図 II-11	柱穴列 A 柱穴断面	65
図 II-12	溝跡 1 断面図	66
図 II-13	柱穴列 B 及び溝跡 2 断面図	67
図 II-14	溝跡 3~5 断面図	68
図 II-15	西側土塁平坦面柱穴及び 単体柱穴断面図	69
図 II-16	チャシ土塁下削平跡断面図	70

第III章

図 III-1	アイヌ文化期遺構配置図	73
図 III-2	1号平地式住居跡 周辺平面図	75
図 III-3	1号平地式住居跡(IIIH-01) 平面図	77
図 III-4	1号平地式住居跡附属遺構(1)	78
図 III-5	1号平地式住居跡附属遺構(2)	79
図 III-6	1号平地式住居跡出土遺物	80
図 III-7	灰集中 1 (IIIAS-01) 及び出土遺物	84
図 III-8	獣骨集中 1・2 (III BB-01・02) 平面図	85

第V章

図V-1 縄縄文文化期包含層出土遺物…… 194

第VI章

図VI-1 縄文時代遺構配置図…………… 197

図VI-2 VH-01 平面図及び
断面図・付属遺構断面図…………… 200

図VI-3 VH-01 出土遺物…………… 202

図VI-4 VH-01 覆土上層捨て場跡…………… 205

図VI-5 VH-01 覆土上層捨て場跡
関連土器集中及び出土遺物(1) …… 206

図VI-6 VH-01 覆土上層捨て場跡
出土遺物(2)…………… 207

図VI-7 VH-01 覆土上層捨て場跡
出土遺物(3)…………… 208

図VI-8 VH-02 平面図及び断面図
・付属遺構断面図…………… 210

図VI-9 VH-02 柱穴断面…………… 213

図VI-10 VH-02 出土遺物(1)…………… 214

図VI-11 VH-02 出土遺物(2)…………… 215

図VI-12 VH-03・05、VMZ-01 平面図…………… 218

図VI-13 VH-03 断面図及び柱穴断面(1) …… 220

図VI-14 VH-03 断面図及び柱穴断面(2) …… 221

図VI-15 VH-03 断面図及び柱穴断面(3) …… 222

図VI-16 VH-03 出土遺物…………… 223

図VI-17 VH-03 覆土上層捨て場跡…………… 226

図VI-18 VH-03 覆土上層捨て場跡
出土遺物(1)…………… 227

図VI-19 VH-03 覆土上層捨て場跡
出土遺物(2)…………… 228

図VI-20 VH-03 覆土上層捨て場跡
出土遺物(3)…………… 229

図VI-21 VH-03 覆土上層捨て場跡
出土遺物(4)…………… 230

図VI-22 VH-04 平面及び断面…………… 223

図VI-23 VH-04 平面図及び断面図
・付属遺構断面図…………… 234

図VI-24 VH-04 柱穴断面図…………… 235

図VI-25 VH-04 出土遺物(1)…………… 236

図VI-26 VH-04 出土遺物(2)…………… 237

図VI-27 VGP-01～03…………… 241

図VI-28 VGP-04～07…………… 242

図VI-29 VGP-08～11…………… 243

図VI-30 VGP-12～15…………… 244

図VI-31 VGP-16～20…………… 245

図VI-32 VGP-21～24…………… 246

図VI-33 VGP 出土遺物(1)…………… 247

図VI-34 VGP 出土遺物(2)…………… 249

図VI-35 VGP 出土遺物(3)…………… 249

図VI-36 VGP 出土遺物(4)…………… 250

図VI-37 VP-01・02・05～10・13…………… 254

図VI-38 VP-14～18…………… 255

図VI-39 Tピット配置図…………… 257

図VI-40 TP-01～03…………… 262

図VI-41 TP-04～06、VPB-03…………… 263

図VI-42 TP-07～10…………… 264

図VI-43 TP-11・12・14、VPB-01・04…………… 265

図VI-44 TP-15～18…………… 266

図VI-45 TP-20～22…………… 267

図VI-46 TP-23～25・27…………… 268

図VI-47 TP-28～32…………… 269

図VI-48 TP-33～36…………… 270

図VI-49 TP-37～39…………… 271

図VI-50 TP-40、41…………… 272

図VI-51 TP-42、VPB-24…………… 273

図VI-52 TP-43…………… 274

図VI-53 TP-44…………… 275

図VI-54 TP-45…………… 276

図VI-55 TP-46～49…………… 279

図VI-56 TP-50～52…………… 280

図VI-57 TP-53・54…………… 281

図VI-58 TP-55・56…………… 282

図VI-59 TP-57・58…………… 283

図VI-60 TP-59・60…………… 284

図VI-61 TP-61・62…………… 285

図VI-62 TP 出土遺物(1) ……………	286	図VI-100 縄文時代剥片石器集中(2) ……………	347
図VI-63 TP 出土遺物(2) ……………	287	図VI-101 縄文時代剥片石器集中(3) ……………	348
図VI-64 焼土配置図 ……………	291	図VI-102 縄文時代剥片石器集中(4) ……………	349
図VI-65 VF-01~05・08~12 ……………	293	図VI-103 縄文時代剥片石器集中(5) ……………	350
図VI-66 VF-18~27 ……………	294	図VI-104 縄文時代剥片石器集中(6) ……………	351
図VI-67 VF-28~36 ……………	295	図VI-105 縄文時代剥片石器集中(7) ……………	352
図VI-68 VF-37~45 ……………	296	図VI-106 縄文時代剥片石器集中(8) ……………	353
図VI-69 VF-46~54 ……………	297	図VI-107 縄文時代剥片集中(1) ……………	356
図VI-70 VF-55・56 ……………	298	図VI-108 縄文時代剥片集中(2) ……………	357
図VI-71 VF 出土遺物 ……………	299	図VI-109 VAXB 平面図及び出土遺物 ……………	358
図VI-72 VBB-01・02・04~06 平面図 ……………	301	図VI-110 VSTB 平面図 ……………	360
図VI-73 捨て場跡平面図及び断面図 ……………	303	図VI-111 VSTB 出土遺物(1) ……………	361
図VI-74 捨て場跡出土土器接合線 ……………	305	図VI-112 VSTB 出土遺物(2) ……………	362
図VI-75 VAS-01 ……………	307	図VI-113 VSB 平面図(1) ……………	364
図VI-76 VBB-03 出土遺物(1) ……………	311	図VI-114 VSB 平面図(2) ……………	365
図VI-77 VBB-03 出土遺物(2) ……………	312	図VI-115 VSB 平面図(3) ……………	366
図VI-78 VBB-03 出土遺物(3) ……………	313	図VI-116 VSB 関連土器集中 ……………	367
図VI-79 VBB-03 出土遺物(4) ……………	314	図VI-117 VSB 出土遺物 ……………	368
図VI-80 VBB-03 出土遺物(5) ……………	315	図VI-118 段丘崖崩落土と出土遺物 ……………	372
図VI-81 VBB-03 出土遺物(6) ……………	317	図VI-119 縄文時代包含層出土土器(1) ……………	378
図VI-82 VBB-03 出土遺物(7) ……………	318	図VI-120 縄文時代包含層出土土器(2) ……………	379
図VI-83 VBB-03 出土遺物(8) ……………	319	図VI-121 縄文時代包含層出土土器(3) ……………	380
図VI-84 VBB-03 出土遺物(9) ……………	320	図VI-122 縄文時代包含層出土土器(4) ……………	381
図VI-85 VBB-03 出土遺物(10) ……………	321	図VI-123 縄文時代包含層出土土器(5) ……………	382
図VI-86 VBB-03 出土遺物(11) ……………	322	図VI-124 縄文時代包含層出土土器(6) ……………	383
図VI-87 土器集中分布図(1) ……………	330	図VI-125 縄文時代包含層出土土器(7) ……………	390
図VI-88 土器集中分布図(2) ……………	331	図VI-126 縄文時代包含層出土剥片石器(1) ……	391
図VI-89 土器集中分布図(3) ……………	332	図VI-127 縄文時代包含層出土剥片石器(2) ……	392
図VI-90 土器集中分布図(4) ……………	333	図VI-128 縄文時代包含層出土剥片石器(3) ……	393
図VI-91 土器集中分布図(5) ……………	334	図VI-129 縄文時代包含層出土剥片石器(4) ……	394
図VI-92 土器集中分布図(6) ……………	335	図VI-130 縄文時代包含層出土剥片石器(5) ……	395
図VI-93 土器集中出土遺物(1) ……………	336	図VI-131 縄文時代包含層出土礫石器(1) ……	400
図VI-94 土器集中出土遺物(2) ……………	337	図VI-132 縄文時代包含層出土礫石器(2) ……	401
図VI-95 土器集中出土遺物(3) ……………	338	図VI-133 縄文時代包含層出土礫石器(3) ……	402
図VI-96 土器集中出土遺物(4) ……………	339	図VI-134 縄文時代包含層出土礫石器(4) ……	403
図VI-97 土器集中出土遺物(5) ……………	340	図VI-135 縄文時代包含層出土礫石器(5) ……	404
図VI-98 土器集中出土遺物(6) ……………	341	図VI-136 縄文時代包含層出土礫石器(6) ……	405
図VI-99 縄文時代剥片石器集中(1) ……………	346	図VI-137 縄文時代包含層出土礫石器(7) ……	406

図VI-138 縄文時代包含層出土礫石器(8)…… 407
 図VI-139 縄文時代包含層出土礫石器(9)

及び土製品…………… 408

表 目 次

第 I 章		表III-1	アイヌ文化期遺構群一覧表……………	71	
表 I-1	グリット設定関係杭数値……………	8	表III-2	IIIH-01 属性表……………	81
表 I-2	厚真町内埋蔵文化財包蔵地 一覧表(1)……………	19	表III-3	IIIH-01 付属炉属性表……………	81
表 I-3	厚真町内埋蔵文化財包蔵地 一覧表(2)……………	20	表III-4	IIIH-01 柱穴属性表……………	81
表 I-4	厚真町内埋蔵文化財包蔵地 一覧表(3)……………	21	表III-5	IIIH-01 出土遺物属性表……………	81
表 I-5	厚真川流域の河岸段丘面区分……………	24	表III-6	IIISB-01 属性表……………	82
第 II 章		表III-7	IIISB-02 属性表……………	82	
表 II-1	チャシ属性表……………	53	表III-8	IIIH-01 周辺灰集中属性表……………	83
表 II-2	壕属性表……………	55	表III-9	IIIAS-01 出土遺物属性表……………	83
表 II-3	チャシ内郭出土遺物属性表……………	56	表III-10	IIIH-01 周辺獣骨集中属性表……………	86
表 II-4	チャシ内郭平地式建物跡属性表……………	61	表III-11	IIIH-01 周辺杭穴属性表……………	87
表 II-5	内郭平地式建物跡付属炉属性表……………	61	表III-12	IIIH-02 属性表……………	93
表 II-6	チャシ内郭平地式建物跡 柱穴属性表……………	61	表III-13	IIIH-02 付属炉属性表……………	93
表 II-7	内郭建物跡出土遺物属性表……………	62	表III-14	IIIH-02 柱穴属性表……………	93
表 II-8	CHA. SB01 属性表……………	63	表III-15	IIIH-02 出土遺物属性表……………	93
表 II-9	CHA. SB02 属性表……………	63	表III-16	IIIH-02. S 属性表……………	93
表 II-10	柱穴列 A 柱穴属性表……………	66	表III-17	IIIH-05 属性表……………	97
表 II-11	溝跡 1 属性表……………	66	表III-18	IIIH-05 付属炉属性表……………	97
表 II-12	柱穴列 B 柱穴属性表……………	67	表III-19	IIIH-05 柱穴属性表……………	97
表 II-13	溝跡 2 属性表……………	67	表III-20	IIIH-05 出土遺物属性表……………	97
表 II-14	溝跡 3～5 属性表……………	68	表III-21	IIIH-03 属性表……………	104
表 II-15	西側土壘平坦面柱穴属性表……………	68	表III-22	IIIH-03 付属炉属性表……………	104
表 II-16	単体柱穴属性表……………	69	表III-23	IIIH-03 柱穴属性表……………	104
表 II-17	削平跡属性表……………	70	表III-24	IIIH-03 出土遺物属性表……………	104
第 III 章		表III-25	IIIH-03. S 属性表……………	105	
		表III-26	IIIH-04 属性表……………	106	
		表III-27	IIIH-04 付属炉属性表……………	106	
		表III-28	IIIH-04 柱穴属性表……………	110	
		表III-29	IIIH-04 出土遺物属性表……………	111	
		表III-30	IIIH-04. S 属性表……………	111	
		表III-31	IIIH-03 周辺獣骨集中属性表……………	112	

表Ⅲ-32	ⅢBB-03 出土遺物属性表	112
表Ⅲ-33	ⅢH-03・04 周辺杭穴属性表	116
表Ⅲ-34	ⅢH-06 属性表	117
表Ⅲ-35	ⅢH-06 付属炉属性表	117
表Ⅲ-36	ⅢH-06 柱穴属性表	119
表Ⅲ-37	建物跡1 柱穴属性表	121
表Ⅲ-38	建物跡1 出土遺物属性表	121
表Ⅲ-39	建物跡2 柱穴属性表	121
表Ⅲ-40	建物跡3 柱穴属性表	124
表Ⅲ-41	建物跡4 柱穴属性表	124
表Ⅲ-42	集中区1 出土遺物属性表	127
表Ⅲ-43	集中区2 付属炉属性表	130
表Ⅲ-44	集中区2 柱穴属性表	130
表Ⅲ-45	集中区2 付属炉属性表	131
表Ⅲ-46	集中区3 出土遺物属性表	133
表Ⅲ-47	集中区3 出土遺物属性表	133
表Ⅲ-48	ⅢSB-16 属性表	133
表Ⅲ-49	ⅢSB-18 属性表	136
表Ⅲ-50	集中区4 付属炉属性表	141
表Ⅲ-51	集中区4 出土遺物属性表	141
表Ⅲ-52	ⅢSB-13 属性表	141
表Ⅲ-53	ⅢSB-14 属性表	141
表Ⅲ-54	ⅢSB-15 属性表	142
表Ⅲ-55	ⅢGP-01 属性表	147
表Ⅲ-56	ⅢGP-01 墓標穴属性表	149
表Ⅲ-57	ⅢGP-01 出土遺物属性表	149
表Ⅲ-58	焼土属性表	150
表Ⅲ-59	ⅢSB-03 属性表	151
表Ⅲ-60	ⅢSB-19 属性表	152

第IV章

表IV-1	擦文文化期遺構群一覧表	159
表IV-2	集中区5 焼土属性表	160
表IV-3	集中区5 出土土器属性表	160
表IV-4	ⅢSB-04 属性表	160
表IV-5	ⅢSB-05 属性表	164
表IV-6	ⅢSB-06 属性表	165
表IV-7	集中区6 焼土属性表	167
表IV-8	集中区6 出土土器属性表	168

表IV-9	ⅢSB-07 属性表	168
表IV-10	擦文土坑属性表	172
表IV-11	土坑出土土器属性表	172
表IV-12	ⅢSB-12 属性表	173
表IV-13	擦文文化期焼土属性表	178
表IV-14	土器集中出土土器属性表	183
表IV-15	ⅢSB-08 属性表	185
表IV-16	ⅢSB-09 属性表	186
表IV-17	ⅢSB-10 属性表	186
表IV-18	ⅢSB-11 属性表	186
表IV-19	礫集中出土遺物属性表	186
表IV-20	擦文文化期包含層出土土器 属性表	189
表IV-21	擦文文化期包含層出土遺物 属性表	190

第V章

表V-1	続縄文文化期包含層出土土器 属性表	193
表V-2	続縄文文化期包含層出土石器 属性表	194

第VI章

表VI-1	平成20～22年度V層地区別検出遺構 ・遺物一覧表	195
表VI-2	VH-01 属性表	203
表VI-3	VH-01 付属炉属性表	203
表VI-4	VH-01 付属土坑属性表	203
表VI-5	VH-01 柱穴属性表	203
表VI-6	VH-01 出土土器属性表	203
表VI-7	VH-01 出土石器属性表	203
表VI-8	VH-01 覆土上層捨て場跡 出土土器属性表	209
表VI-9	VH-01 覆土上層捨て場跡 出土石器属性表	209
表VI-10	VH-02 属性表	215
表VI-11	VH-02 付属土坑属性表	215
表VI-12	VH-02 柱穴属性表	215
表VI-13	VH-02 出土土器属性表	216

表VI-14	VH-02 出土石器属性表	216	表VI-39	シカ歯冠の歯種別重量表	324
表VI-15	VH-03 属性表	222	表VI-40	VBB-03 出土土器属性表	325
表VI-16	VH-03 付属土坑属性表	222	表VI-41	VBB-03 出土遺物属性表	328
表VI-17	VH-03 柱穴属性表	222	表VI-42	土器集中出土土器属性表	342
表VI-18	VH-03 出土石器属性表	223	表VI-43	縄文時代土器集中出土 石器属性表	345
表VI-19	VH-05 属性表	224	表VI-44	VFTB-01 出土石器属性表	354
表VI-20	VH-03 覆土上層捨て場跡 出土土器属性表	231	表VI-45	VFTB-02 出土石器属性表	354
表VI-21	VH-03 覆土上層捨て場跡 出土石器属性表	232	表VI-46	VFTB-03 出土石器属性表	354
表VI-22	VH-04 属性表	235	表VI-47	フレイク・チップ集中属性表	357
表VI-23	VH-04 柱穴属性表	235	表VI-48	フレイク・チップ集中出土石器 属性表	357
表VI-24	VH-04 出土土器属性表	238	表VI-49	VAXB-01 出土石器属性表	358
表VI-25	VH-04 出土石器属性表	238	表VI-50	VSTB 出土石器属性表	363
表VI-26	縄文時代土坑墓属性表	251	表VI-51	VSB-01 属性表	369
表VI-27	VGP 出土土器属性表	252	表VI-52	VSB-02 属性表	370
表VI-28	VGP 出土石器属性表	252	表VI-53	VSB-03 属性表	370
表VI-29	縄文時代土坑属性表	256	表VI-54	VSB-04 属性表	371
表VI-30	Tピット計測一覧表	288	表VI-55	VSB 出土土器属性表	371
表VI-31	TP 出土土器属性表	289	表VI-56	VSB 出土遺物属性表	371
表VI-32	TP 出土石器属性表	289	表VI-57	段丘崖崩落土属性表	374
表VI-33	縄文時代焼土属性表	300	表VI-58	MO-01 出土土器属性表	374
表VI-34	焼土出土土器属性表	300	表VI-59	縄文時代包含層出土土器属性表	384
表VI-35	焼土出土石器属性表	301	表VI-60	縄文時代包含層出土 剥片石器属性表	396
表VI-36	焼骨片集中属性表	302	表VI-61	縄文時代包含層出土礫石器 属性表	409
表VI-37	VBB-03 属性表	324	表VI-62	縄文時代包含層 出土土製品属性表	410
表VI-38	VAS-01 属性表	324			

第 I 章 調査の概要

第 1 節 調査要項と体制

1. 調査要項

事業名：厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部（旧北海道室蘭土木現業所）

受託者：厚真町教育委員会

遺跡名：ヲチャラセナイチャシ跡（J-13-100）・ヲチャラセナイ遺跡（J-13-101）

所在地：勇払郡厚真町字幌内 112-1、114、124

調査面積：平成 20 年度：4,239 m² 平成 21 年度：1,003 m² 平成 22 年度：3,470 m²
合計：8,712 m²

受託期間：平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日・平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
平成 22 年 4 月 15 日～平成 23 年 3 月 31 日

調査期間：（発掘）平成 20 年 7 月 8 日～10 月 31 日 平成 21 年 5 月 14 日～7 月 31 日
平成 22 年 6 月 1 日～11 月 17 日
（整理）平成 20 年 11 月 1 日～平成 21 年 3 月 18 日
平成 21 年 8 月 1 日～平成 22 年 2 月 26 日
平成 22 年 11 月 8 日～平成 23 年 3 月 16 日

2. 調査体制

厚真町教育委員会 教育長 兵頭 利彦（平成 20～22 年度）

生涯学習課 参事 佐藤 照美（平成 20～22 年度）

主幹 上田 敦子（平成 22 年度） 主査 森田 正樹（平成 20～22 年度）

学芸員 乾 哲也（調査担当者：平成 20～22 年度）

嘱託職員 小野 哲也（調査担当者：平成 20 年度）

〃 天方 博章（調査員：平成 20 年度、調査担当者：平成 21・22 年度）

〃 奈良 智法（調査担当者：平成 22 年度）・山田 和史（調査補助員：平成 22 年度）

〃 佐々木 都（事務員：平成 20・22 年度）・畑島 志穂（事務員：平成 21 年度）

臨時職員

測量技能作業員 海津 孝之・宮崎 美奈子・畑嶋 朝江（平成 20～22 年度）
渡辺 博道（平成 20 年度）

整備技能作業員 松本 稔（平成 20～22 年度）・小林 輝男（平成 20・21 年度）
大坪 正典・佐伯 憲吾（平成 22 年度）

写 図 工 宮崎美奈子（平成 20・22 年度） 畑嶋 朝江（平成 21・22 年度）
海津 孝之（平成 22 年度）

発掘作業員 平成 20 年度：43 名 平成 21 年度：13 名 平成 22 年度：44 名

整理作業員 平成 20 年度：25 名 平成 21 年度：9 名 平成 22 年度：14 名

第2節 調査に至る経緯

1. 厚幌ダム建設事業(図 I-1)

町内を縦貫する厚真川中下流域には約 3,000ha もの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和 45 (1970) 年に現河口より 38km 地点に、農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和 45 年には洪水と渇水、昭和 48・50・56 年にも洪水が発生し、近年においても、平成 12 年春の融雪期と平成 13 年秋に、家屋や農地に被害をおよぼす洪水、平成 18 年にも一部がオーバーフローする事態が発生している。また、昭和 59・60・63 年には深刻な水不足にも見舞われており、平成 19 年は、幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年でもあった。特に田植え時期における農業用水の確保は農業者にとっては勿論、厚真町民にとっても関心事であり、厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設が陳情されていた。また、市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港への水道水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

これらの状況の抜本的な治水等の改善策として、昭和 52 年に北海道土木現業所により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手されている。その後、昭和 61 年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まり、平成 7 (1995) 年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして、現厚真ダム下流に「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また、同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所が開設され、その後、沿岸漁業団体への説明会や環境アセスメントも実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業(厚幌導水路建設)が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工として、平成 14 年度からの水没地域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで延長開通の計画である。厚幌ダム本体(堤体)は、平成 21 年に建設費節減のため最新工法での設計変更がなされ、堤体長 516m、高さ 47.2m、台形 C S G ダムで、ヲチャラセナイ遺跡より約 450m 下流に堤体を建設する計画である。貯水は常時湛水面標高 85.4m、最深湛水面標高 88.1m であり、総貯水量は 47,400 千 m^3 、現在の厚真ダムのおおよそ 4.7 倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な効果波及が想定され、早期完成が望まれていた。

しかし、北海道内の複数のダム事業との関係からダム堤体着手の予算確保が困難な状況が続き、当初計画の平成 24 年完成から平成 27 年秋に試験湛水、28 年に春に供用を開始する計画となり工期が延長された。その後、平成 20 年 11 月に公共事業再評価を受け、多目的ダムの必要において A 評価を受け事業継続となっていた。ところが、平成 21 年 7 月の政権交代によって、全国の公共事業、とりわけダム事業の否定的見直しが進められ、厚幌ダムもその対象となっている(苫小牧民報社 2009.10.7)。その後平成 23 年 8 月に国土交通省は事業継続を決定し、平成 24 年度からは完成に向けて、埋蔵文化財発掘調査費用も予算が配当され、道埋文センターも調査に参入している。なお、厚幌ダムは国費 54%、道費 44.6%等のいわゆる「補助ダム」と称されるダムである。

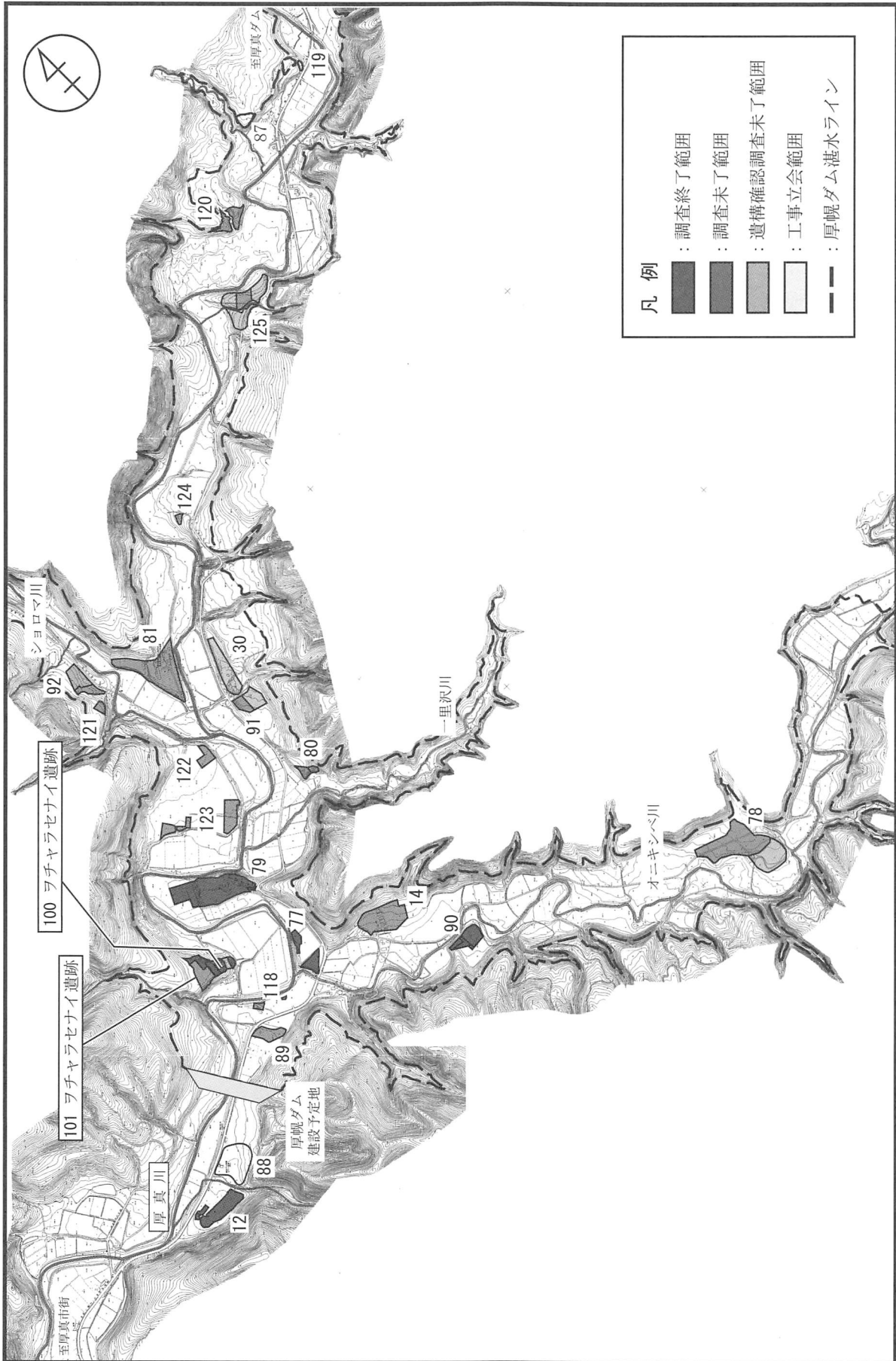


図 I-1 厚幌ダム湛水地域埋蔵文化財包蔵地位置図

2. 発掘調査までの経緯

A 厚幌ダム湛水地域内の埋蔵文化財事前調査

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて、平成12年7月6日に北海道室蘭土木現業所厚幌ダム建設事務所(以下、ダム事務所)より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書(室土厚幌第158号)が厚真町教育委員会(以下、町教委)を経て北海道教育委員会(以下、道教委)へ提出された。協議区域は最深湛水面標高88.1m以下の区域と道道切替路線幅の合計約235,500㎡に及ぶ。まず、平成13年6月に道教委により試掘調査が行われ、約8,250㎡の「要発掘調査」面積となり、厚幌1遺跡(J-13-25)として新規登録された(平成13年7月18日付 教文第4265号)。これを受け、厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した結果、ダム関連の試掘調査までは道教委が行い、厚幌ダム建設に係わる受益者が厚真町1町であることから、発掘調査は町教委と北海道室蘭土木現業所で委託契約を結び、町教委が行うこととなった。翌平成14・15年度の2カ年で厚幌1遺跡の発掘調査を行った(厚真町教育委員会2004)。

湛水地域内については、平成13年10月に所在確認調査が行われ、周知の遺跡(オニキシベ1遺跡、上幌内1遺跡)を含め16カ所、面積235,500㎡の要試掘調査の回答がされた(平成13年11月16日付教文第4532号)。以後、追加箇所や範囲拡張もあるが平成19年度までに8回、18地点の試掘調査が実施され、14遺跡、約143,000㎡の要発掘・要遺構確認調査地点が確認されていた。

しかし、これまでの発掘調査成果から、河岸段丘の低位面にも埋蔵文化財包蔵地が広がること等この地区における遺跡の立地パターンが判明してきており、建設中の発見を避けるため新たな視点での再試掘調査の必要性が町教委やダム事務所等から望まれていた。これを受け道教委は平成21年5月に湛水地域内の所在確認踏査を行い、要試掘調査地点10カ所を回答した(平成21年6月11日付教文第928号)。このうち8地点については7月、8月に試掘踏査が実施され、6カ所の包蔵地が発見された(平成21年9月10日付教文第1940号)。さらに21年12月にも試掘調査が実施され新たに1カ所が追加された(平成22年1月5日付教文第3145号)。既に発掘調査が終了した面積と遺構確認調査面積を含め、平成22年3月現在の要発掘調査地点は20カ所に及び、うち発掘調査終了面積が39,256㎡、要発掘面積103,068㎡、要遺構確認調査面積は38,648㎡となっている。発掘調査終了面積を含めると180,972㎡の埋蔵文化財包蔵地が所在している(図I-1)。

B ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡の発見経緯

ヲチャラセナイチャシ跡については、平成17年6月に町教委の踏査によって、厚真川右岸に舌状に突出した標高70m前後の河岸段丘先端部に発見された。現地表面で約70cm窪む円形ないしは馬蹄形の壕1条と郭内に三日月状の土塁を確認できた。7月に道教委によってチャシ跡の範囲及び構築時期確認の試掘調査が行われた。この結果、標高55m前後の低位段丘面と標高75m前後の高位段丘面に埋蔵文化財包蔵地が確認され、チャシ跡を含む13,300㎡の要発掘調査の回答がなされた(平成20年1月22日付 教文第4112号)。合わせてチャシ跡部分をフレチャシ跡(J-13-100)、周囲の埋蔵文化財包蔵地をヲチャラセナイ遺跡(J-13-101)として町教委によって登録された(平成17年9月6日付厚教社号)。その後、道教委よりチャシ跡の名称が不適切との指導を受け現在のヲチャラセナイチャシ跡に名称変更を行っている(平成19年4月20日付厚教社号)。

C ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡の発掘現場準備と土工運営

当初、厚幌ダム堤体工事着工は平成 24 年度であり、本遺跡の段丘がダム建設母材として採掘される工事計画が立案された。これに伴う試験採掘を平成 22 年度に実施する工程が生まれ、早急に発掘調査を行う必要が生じたため、平成 20 年 7 月 8 日から発掘調査を開始した。13,300 m²を当初計画では平成 20 年度から 22 年度にかけての 3 ヶ年の発掘調査を計画した。これに基づき、平成 20 年 5 月中旬からの約 2 ヶ月間、町教委は厚真川左岸のオニキシベ 2 遺跡 A 地区の発掘調査を行い、平成 19 年度から継続調査していた同遺跡の調査を終了させた。この間にダム事務所によって本遺跡の上流側に仮設架橋工事が行われ、上幌内モイ遺跡経由でヲチャラセナイ遺跡へのアクセスルートの確保がなされた。同時に町教委は、伐採及び火山灰除去や進入路整備の土木準備工の他、グリッド設定、伐採木枝葉の産廃処理、仮設トイレの設置、北電柱へのトランス及び分電盤の設置等の調査準備作業を行った。これらの架橋工事や土木準備工等はダム事務所との積極的かつ協力的な協議のもと実施できた。プレハブ用地や従来よりあった高位段丘面へのアクセスルートの整備のため、低位段丘面 1,078 m²の調査から開始した。平成 20 年度は 5 月の発掘調査開始時のオニキシベ 2 遺跡に発掘調査事務所を設置し、ワゴン車による作業員輸送で対応した。現地にはビニールハウスと仮設テントを設置し、作業員の休憩所及び発掘器材、出土礫の仮保管場所とした。調査開始間もなくには段丘崖裾に作業用水及び発掘現場散水用の井戸を掘削し、電気ポンプやエンジンポンプによる汲み上げ利用を行った。また、携帯電話は圏外地域であることから、電話等の連絡は事務所整理作業員からの無線機対応とし、時間と経費の節減に努めた。これらの多くは環境整備技能作業員や各発掘作業員の創意工夫や協力によるものが大きい。

高位段丘面の調査準備として、当地在住の農家が利用していた登坂路をワゴン車等の車両でも通行可能な程度にまで重機で整備し、作業員搬送や機材運搬路の確保を図った。この登坂路は低位段丘の発掘調査区にもかかっており、地形的に迂回路の確保が困難であったことから一時的に通行不可能な状態となった。この期間は、低位段丘面の調査に作業員配分の主体を振り分け、通行止めの支障を最低限に留め、全体の作業効率維持を図った。なお、低位段丘面調査中は水田跡地を利用した迂回路で対応し、排水側溝は伐採木の端切れを利用し仮設木橋を敷設した。

低位段丘面の調査は 8 月に終了し、同時に埋め戻し作業を行い高位段丘面へのアクセスの効率化を進めた。また早期の埋め戻し作業により地盤の安定が進み、平成 21 年度の現場事務所設置において敷鋼板は不要であった。高位段丘面の調査終了後は、器材や作業員搬送車両の巡回や駐車スペース確保のため調査区内を整地、填圧をかけ次年度の作業準備を行った。

平成 21 年度は発掘調査を終えた低位段丘面に現場事務所を設置し、新たに電話線の引き込みを行った。この際、電話線敷設工事の厚真川河川横断のため室蘭土木現業所苫小牧出張所に工事届出を工事業者側から提出している。また、発掘現場事務所の設置についても必要との指導を受け、河川敷地占有許可申請書も提出した。この他の作業環境については平成 20 年度に整備しており、新たな準備工は行っていない。なお、21 年度の入札業務において大幅な入札減が生じたため、ダム事務所と協議し、次年度の調査予定地の伐採作業に設計変更をかけた。この作業により、発掘調査の早期着手の他、枝葉の産廃処理において重量軽減等で処理費の節減につながった。この方法は平成 22 年度以降も行っている。

(乾)

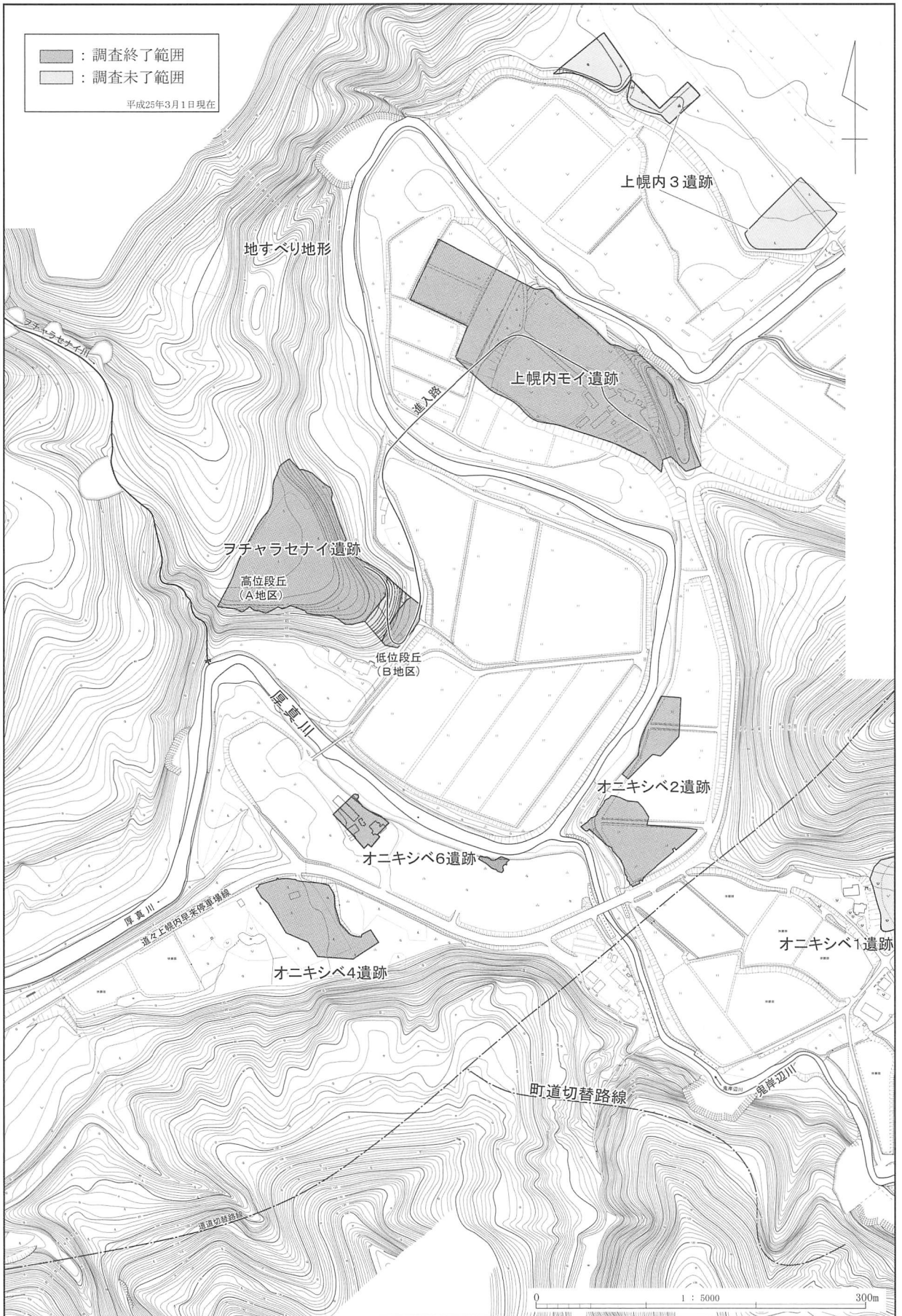


図 I-2 遺跡周辺の地形図

第3節 調査の方法

1. 調査区の設定

ヲチャラセナイ遺跡の発掘調査範囲は、ダム湛水地域内であることから、遺跡の全面が調査対象となっており、道教委の試掘調査によって回答された「要発掘範囲」を基本としている（平成 20 年 1 月 22 日付け 教文ス第 4112 号）。回答書添付の地形図と段丘面縁辺部など現地の地形が異なる場合があり、実際の調査区は回答書と若干異なる。この点は、明瞭な施工範囲等が確定している厚幌導水路の発掘区設定とは異なっている。

また、発掘調査の結果、当初の調査区外へ包蔵地が広がることもあり、道教委、ダム事務所と協議し、必要に応じて調査範囲の拡張を行っている。ヲチャラセナイ遺跡の低位段丘面（B 地区）においても、発掘調査の結果、段丘崖 T3-T1 への遺物の広がりが見込まれたことから工事立会区として拡張している（平成 22 年 1 月 12 日付け教文ス第 3216 号）。

これらの結果、平成 20 年度は、低位段丘面 B 地区全体と高位段丘面 A 地区の先端部で、4,239 m²の調査を行い、平成 21 年度は A 地区チャシ跡の周辺部 1,003 m²の調査を行った。

2. グリッド設定（図 I-3・5）

発掘調査にあたってのグリッド網は公共座標（世界測地系）に従い、遺物包含層が想定される段丘面全てを含む 220m×250m の広域に設定し、5m 四方のメッシュで区分した。グリッド網の起点（A-1 区：X=-136,550.000 Y=-20,660.000）は北東コーナーとし、南北の X 軸を A・B・C・・・のアルファベット列で、東西の Y 軸ラインを 1・2・3・・・のアラビア数字列とした。各グリッドの呼称も北東コーナーの杭とし、A-1 区、A-2 区・・・とし記した。なお、V 層の調査では 2.5m 四方の中グリッドを設定して 4 分割し、遺物の取上げを行っている。中グリッドの呼称は全てアラビア数字とし、配列は、北東を基点とし東西の Y 軸方向に向け 1、2 とし、南北の X 軸方向へ折り返し、3、4 としている。（図 I-5 右）。

現地での設定方法は、20 年度はグリッド設定基準杭 10 点の設置を（有）幅田測量に委託し、これを基に測量技能作業員が光波式トータルステーションを用いて調査区全面のグリッド杭を設置した。グリッド設定の基準点は意づれも 3 級基準点で、上幌内モイ遺跡高位段丘面の「H 8 No.3-43」とオニキシベ 4 遺跡近くの 3 級基準点「H 8 No.3-45」、ヲチャラセナイ沢左岸河口周辺の「H 8 No.3-46」の 3 点である。調査終了時には、発掘区内に数点の控杭を深く打設し、次年度の基準杭としている。

絶対高は、本遺跡の南西端部、ヲチャラセナイ沢が開析する河岸段丘上に所在する「H 8 No.3-49 H=73.515m 厚幌ダム建設事務所」より基準杭打設とあわせて水準測量したものである。

3. 包含層および遺構調査の方法（図 I-4・5）

調査の準備段階として、調査員立会のもとバックホーにより樹根を残しながら表土や盛土と Ta-b 火山灰の除去を行った。Ⅲ層上面でアイヌ文化期の遺構、遺物が検出されることから火山灰は 3cm 前後残し、Ⅲ層上面まではジョレンを用いて人力による清掃作業を行った。

調査方法に関しては、これまでの町内での調査結果からⅢ層は、基本的にⅢa 層からⅢb 層下位にかけては移植ゴテを用いて 1~2cm 程度ずつ掘り下げた。面的な遺物出土状態などから時期を把握し、新しい時期のアイヌ文化期（Ⅲb 層上位・ⅢbU）、古い時期のアイヌ文化期（Ⅲb 層中位・Ⅲ

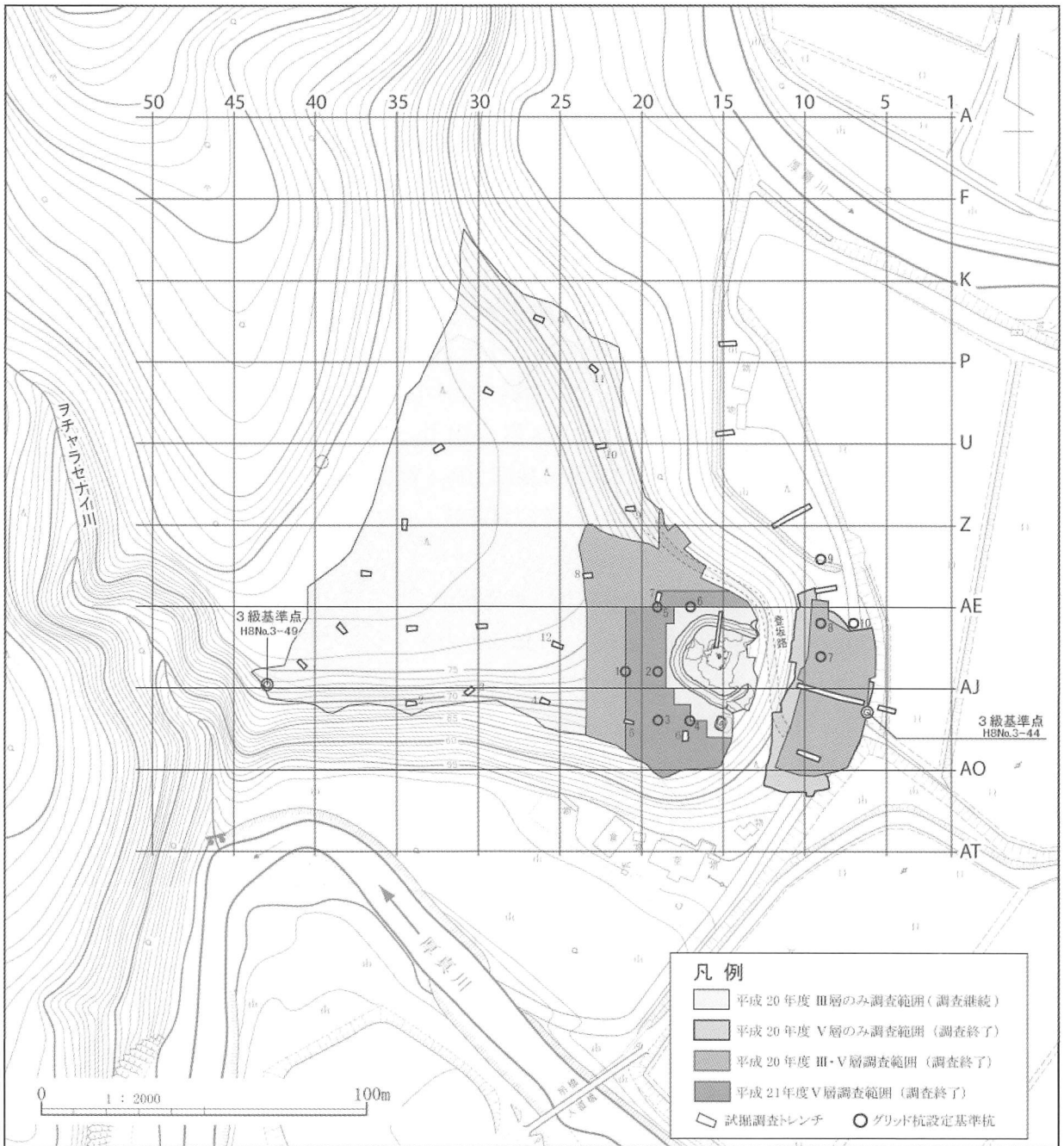


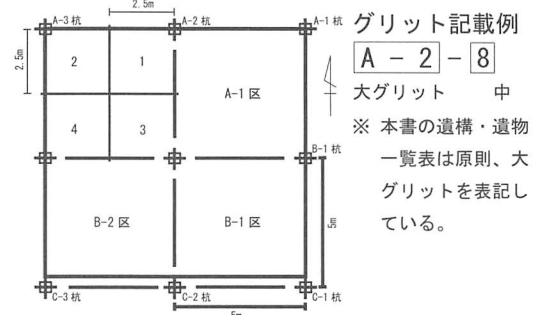
図 I - 3 年度別調査範囲及びグリッド網設定図

表 I - 1 グリッド設定関係杭数値

杭名	X座標	Y座標	Z座標
三級基準点 H8No.3-49	-136933.196	-20561.721	73.515m
三級基準点 H8No.3-49	-136995.906	-20382.265	57.574m
1(AI-21)	-136715.000	-20760.000	
2(AI-19)	-136715.000	-20750.000	69.861m
9(AB-9)	-136680.000	-20700.000	
10(AF-7)	-136700.000	-20690.000	

※標高はヲチャラセナイ遺構周辺での現地表面標高

【大・中グリッド区分】



bM)、擦文文化期（Ⅲb 層下位・ⅢbL）の 3 面を考慮したうえでの調査を開始した。

無遺物層のⅣ層（Ta-c）はバックホーとジョレンで除去した。Ⅴ層は 25%調査を行いⅥ層までの遺物出土頻度を確認し、一部ジョレンを用いての調査とした。（図 I-4）。

遺構は、住居址など包含層上面から上位で窪みとして確認できたものは、先行トレンチや土層観察ベルトを設定し、できるだけ遺構構築面の把握や構築面での調査を考慮した。焼土や遺物集中区、炭化物集中区等については、焼土面や形成面のほぼ全量をフローテーションサンプルとして採取し、処理は作業用水の井戸を掘削し、調査期間中にフローテーション処理を行った。記録図化については光波式トータルステーションを用いて平面形およびエレベーションを記録し、堆積状態については調査担当者が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積図作成の実測を行った。各調査経過は 35mm 一眼レフカメラでデジタル・モノクロ・リバーサルで写真記録し、一部は 6×7 中盤カメラでも撮影を行った。

遺物については、Ⅲ層については全点に遺物番号を付した。取り上げについては調査員による層位確認と段丘堆積物中の自然礫とを認定区分したうえで、光波式トータルステーションによる XYZ 座標（公共座標世界測地系）をデジタル記録し、取り上げた。この時、手簿（日付・グリッド・層位・遺物名等）の記載も行い、データ入力ミスの補完を行っている。Ⅴ層では個々の位置記録を行わず、層位を記録しながら 5m グリッドを 4 分割した中グリッド単位で取上げを行っている。

4. 整理作業

発掘調査が終了した 11 月から翌年 3 月中旬にかけて厚真町中心域の本郷地区に所在する旧かしわ保育園を利用して行っている。廃園施設利用については、トイレの改修業務を必要最低限の労務環境整備の一環として事業者との調整のうえ実施した。なお、厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務（事業者：国土交通省北海道開発局）と共同で利用していることから、電気・ガス・水道の需用費や灯油代などの燃料費は作業員人工数の比率からの案分で支出している。

一次整理は、一部現場段階から水洗、注記作業を行い、整理業務に入ってから各担当の調査員が調査区遺構名や層位、種別、細分類、分類等の台帳確認作業を行った。また並行して、フローテーション作業と処理後の選別作業も行っている。

二次整理は、各種遺物の接合・復元・実測・拓本等の作業を行い、遺構図等の第二原図の作成やトレース作業・編集については、パソコン(0s Windows Adobe IllustratorCS)で行った。なお、金属製品などの脆弱遺物については、パソコン上での写真实測を行っている。写真撮影は 35mm 一眼レフデジタルカメラで行い、パソコン(0s Windows Adobe PhotoshopCS)でのコントラスト補正等を行っている。平成 22 年度からは出土遺物撮影の一部を有限会社クリークへ委託している。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトで行い、本文の Word 文書と合わせて印刷所へデジタル入稿している。

遺物の保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは、分類および調査区毎にコンテナに収納し町内の廃校舎に收藏している。

(乾)

第4節 遺物の分類

1. 土器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字に群別し、アルファベットで時期細分した。

第I群土器 縄文時代早期に属する土器。

- A類 貝殻文・条痕文土器。
- B類 早期後半の東釧路式土器群。絡条体圧痕文、組紐圧痕文などを施すもの。
- B1類 東釧路Ⅱ式に相当するもの。
- B2類 東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。
- B3類 中茶路式に相当するもの。
- B4類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

第II群土器 縄文時代前期に属する土器。

- A類 縄文丸底・尖底土器群。
- A1類 美沢3式、網文式土器に相当するもの。
- A2類 トビノ式、静内中野式に相当するもの。
- B類 円筒下層式系土器群。
- B1類 円筒下層 a 式ないしは b 式に相当するもの。
- B2類 a 円筒下層 c 式ないしは d 式に相当するもの。所謂フゴッペ貝塚式土器も含めている。
- B2類 b 植内式ないしは大麻Ⅴ式に相当するもの。便宜的に宮本式の一群である、横走沈線文上に刺突文を施す土器を含めている。
- B2類 c シュブノツナイ式に相当するもの。
- B2類 d 胎土に蛇紋岩を含む土器。分類基準等の詳細については本文中第Ⅵ章第9節で記載する。

第III群土器 縄文時代中期に属する土器。

- A類 中期前半の円筒上層式系土器群。
- A1類 円筒上層 a 式または b 式に相当するもの。
- A2類 円筒上層 c 式または d 式、厚真Ⅰ式に相当するもの。

- B類 中期後半から末葉の土器群。
- B1類 萩ヶ岡Ⅰ・Ⅱ式、天神山式に相当するもの。
- B2類 柏木川式に相当するもの。
- B3類 a 北筒式に相当するもの。
- B3類 b 煉瓦台式に相当するもの。

第IV群土器 縄文時代後期に属する土器。

- A類 後期初頭の土器群。
- A1類 a 古手の余市式土器。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。
- A1類 b IV群 A1類 a 土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。
- A1類 c 天祐寺式に相当するもの。IV群 A1類 a 土器に併存する。非在地系。
- A2類 新しい段階の余市式。タブコブ式の古手。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。
- B類 後期前葉の土器群。
- B1類 新木のタブコブ式。縦位の棒状貼付帯縄線文または地文縄文のみが施されているもの。
- B2類 手稲砂山式に相当するもの。
- B3類 入江式、大津7群、白坂3式土器。
- C類 後期中葉の土器群。
- C1類 ウサクマイ C 式に相当するもの。
- C2類 手稲式に相当するもの。
- C3類 ホッケマ式に相当するもの。
- D類 後期後葉の土器群。
- D1類 堂林式、御殿山式に相当するもの。

第 V 群 縄文時代晩期に属する土器群。

A 類 晩期前葉の土器群。

A1 類 爪形文や刺突文を施すもの。

A2 類 大洞 B・BC 式土器に相当するもの。

B 類 晩期中葉の土器群。

B1 類 縄線文や円弧文を施すもの。美々3式、
ママチ I・II 群に相当するもの。

B2 類 大洞 C1・C2 式土器に相当するもの。

C 類 晩期後葉の土器群。

C1 類 ママチ III・IV・V 群に相当するもの。

C2 類 大洞 A・A' 式土器に相当するもの。

第 VI 群土器 続縄文時代に属する土器群。

A1 類 砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。

a: 札幌市 H37 遺跡 丘珠空港地点相当のもの。

b: いわゆる汐見式相当。縄線文が施され、地

文に帯縄文発達以前の土器。

A2 類 砂沢式・二枚橋式に並存する搬入系土器。

a: 砂沢式土器。 b: 二枚橋式土器。

B1 類 アヨロ 2 類土器並行の土器。

a: アヨロ 2 類 a 相当の土器。

b: アヨロ 2 類 b 相当の土器。

B2 類 アヨロ 3 類相当の土器。

C1 類 江別太 1~3 式土器。

C2 類 後北 B 式土器。

C3 類 後北 C₁ 式土器。C4 類 後北 C₂-D 式土器。

D1 類 宇津内 II a 式土器。

D2 類 宇津内 II b 式土器。

E1 類 北大 I 式土器。

E2 類 北大 II 式土器。

第 VII 群土器 擦文文化期に属する土器群。

A 北大 III 式相当

B 甕形

B1: 擦文「前期」に相当するもの。

主として胴部上半に横走沈線のみを施す一群。

B1a: 軽い段により頸部を形成した無文も
しくは数条の横走沈線を廻らすもの。

B1b: 多条の横走沈線を施すものもの。

B2: 擦文「中期」に相当するもの。

主として口縁部文様帯が未形成もしくは
単調な刻みのみの一群。B2a: 横走沈線を地文とし、刻文を重ねる
もの。

B2b: 刻文のみもの。

B2c: 無文のもの。

B3: 擦文「後期」に相当するもの。

主として口縁部文様帯を形成した一群。

B3a: 横走沈線を地文とするもの。

B3b: 綾杉文主体のもの。

B3c: 斜位、あるいは縦位の沈線で鋸歯状
文、「X」字状文等を施すもの。

B3d: 胴部文様帯を 3 段以上に区画した上

で VII B3a~c の文様要素を施したもの。

B3e: 無文のもの。

B3f: 口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせ
たもの。

C 坏形

C1: 台部を有さないもの。

C2: 平底の低い台部を有するもの。

C3: 平底の高台部を有するもの。

C4: 上げ底の高台部を有するもの。

C4a: 口縁部に沈線を有するもの。

C4b: 体部に刻文を施すもの。

D 鉢形・壺形

E ロクロ成形土器

E1: 甕形

E2: 壺形

E3: 鉢形

E4: 坏形

E4a: 軟質で内面黒色処理を施さないもの。

E4b: 軟質で内面黒色処理を施すもの。

E4c: 硬質で酸化炎焼成のもの。

E4d: 硬質で還元炎焼成のもの。

2. 剥片石器

ポイント類

長軸4cmを境に石鏃と石槍・石銛とを区分した。

A 「石鏃」

- 1 細身で薄手のもの。
- 2 無茎のもの。
- 3 明瞭な基部をもつもの。
- 4 不明瞭な基部を持つもの。
- 5 片岩製で周縁のみに調整加工を施すもの。

続縄文時代に特徴的なもの。

B 「石槍」・「石銛」

- 1 明瞭な基部をもつもの。
a 基部端が平ら。 b 基部端が尖る
c 基部端部付近につまみのあるもの。
- 2 不明瞭な基部をもつもの。

C 欠損品・未製品

1 素材の周縁にのみ加工を施したもの。

2 素材の片面全体に加工を施したもの。

3 素材の両面全体に加工を施したもの。

B 素材端部に刃部が形成されているもの。

1 「ラウンド・スクレイパー」

2 「エンド・スクレイパー」

C 素材端部に刃部が形成されていないもの。

1 「サイド・スクレイパー」

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

2 「コンケイブ・スクレイパー」

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

3 「抉入石器」

D 続縄文時代に伴う「ナイフ状石器」

E 欠損品

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

石 錐

- A 剥片の一部に機能部を作出したもの。
- B 柄と機能部の区別が明瞭なもの。
- C 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。
- D 柄と機能部の区別が不明瞭で棒状のもの。
- E 他石器からの転用品と思われるもの。

ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

A 「つまみ付きナイフ」

3. 礫石器

石 斧

A 磨製石斧

B 未製品1：剥離敲打により完成品に近い大きさまで整形されているもの。

C 未製品2：礫皮を残すが、擦り切り・剥離・敲打調整により素材礫形状が不明瞭なもの。

D 未製品3：剥離・敲打調整が部分的に施され、

素材礫の形状を大きく残すもの。

たたき石

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

I 平面形が縦長のもの。

A 扁平のもの。

1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有

両面調整石器

RF・UF

縁辺部に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分未満の連続的剥離のあるものをRF、使用によると思われる微細剥離のあるものをUFとして扱っている。

石 核

火打石

メノウ、チャート、石英（水晶）を石材とし縁縁辺部等に微細剥離が観察できるもの。

するもの。

3 1・2を並存するもの。

B 棒状または角柱状のもの。

1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3 1・2が並存するもの。

II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。

A 扁平のもの。

1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3 1・2を並存するもの。

B 棒状または角柱状のもの

1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3 1・2が並存するもの。

III 平面形が円～楕円形のもの。

A 扁平のもの。

B 球形または棒状のもの。

IV 破片のため上記に分類不可のもの。

V 擦石と複合するもの。

擦石

A 断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。

B 断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。

C 扁平礫の側縁にすり面があるもの。

D 北海道式石冠

4. 鉄器

鉄器の内、刀剣類については以下の基準に基づき分類を行った。

刀子 目釘穴のないもの

刀 刀身長 40cm 以上のもの

小刀 刀身長 20cm 以上 40cm 未満のもの
状となるもの。

E その他

砥石

素材礫の形状が変形する研磨面を有するもの。

滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。線條痕はほとんど観察できない。(III層のみ)

線條痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線條痕があるもの。

石皿・台石

便宜的に素材礫の重量が 900 g 以上で、素材礫の平坦面に擦痕・敲打痕があるもの。

滑沢面と敲打痕のある大型礫

I 表裏面にそれぞれが単独で認められるもの。

II 一面に両方の痕跡が認められるもの。

加工痕のある礫

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧（打点）部分に潰打面が形成されず、側面観が稜線

自然礫

加工痕や明瞭な使用痕が認められないもの。

I 平面形が縦長のもの。

A : 扁平のもの。

B : 棒状または角柱状のもの。

II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。

A : 扁平のもの。

B : 棒状または角柱状のもの。

III 平面形が円～楕円形のもの。

A : 扁平のもの。

B : 球形または棒状のもの。

短刀 刀身長 20cm 未満のもの

5. 土器一覧表について

縄文時代土器一覧表

縄文時代の土器一覧表の属性表記載において、下記の認識のもと行っている。〔部位〕・〔器形〕・〔胎土〕については、相対比較によるもので観察者の主観による。

〔個体名称〕 同一個体にアラビア数字、破片資料にアルファベットを付番した。

〔器形等・文様〕 各部位毎の形態を示した。「口縁」は口縁部器表面、「底部側面」は底部器表面、「変換点」は底側面と底面の状態を記載した。

〔文様〕 以下の認識で記載した。

記号：+は文様要素の重複、・は文様要素の複合ないしは充填構成。

文様要素：

縄の圧痕文：貼付帯や口唇等の面に対し、直交あるいは斜位に縄を圧痕するもの。

刻み：貼付帯や口唇等の面に対し、直交あるいは斜位に工具で刻みを付けたもの。

縄線文（同一条異原体）：Ⅱ群 B2 類 bで見られるもので、1条の縄線文中に異なる原体で押捺しているもの。2段の原体の場合、接する部分では縄の粒がハの字状になる。

押引文：器面に対し施文工具が斜め方向から突き刺され、水平方向に連続して動く。

突引文：器面に対し施文工具が垂直方向から突き刺され、水平方向に連続して動く。

隆帯 1：Ⅱ群 B2 類 a で頸部に横環する隆帯 1条で口縁部文様帯を区画するもの。

隆帯 2：隆帯 1のもので、文様帯内にも隆帯が廻るもの。

2段異原体羽状縄文：燃りの異なる2段の原体による羽状縄文。

重複縄文：燃りの異なる原体を新旧重複して施文するもの。

(天方)

第5節 遺跡の位置

1. 厚真町の概要

A 地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振支庁の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川水系に水田地帯が広がる、人口 4,777 人（平成 25 年 2 月 28 日現在）の農業の町である。町域の総面積は 404.56 k² で、流路 52.3km の二級河川厚真川流域に広がり南北 32.5km、東西 17.3km と細長く、南部は約 6.5km にわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。海道の空の玄関口である新千歳空港から車で 35 分、海上物流の拠点である苫小牧港からは 40 分と現代社会において利便性に恵まれた位置でもある。町域を縦貫する厚真川は源流部から河口までの 1 河川流域で厚真町域のみを流下し、全国において 1 河川流域を有する自治体は数少ない。行政区域の北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南部の標高 200~600m の山地が続き、総面積の約 70% を山林が占める。東は夕張山地から続く低い山地を挟んでむかわ町と接し、北西は標高 100m 前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯（以下、苫東地区）内で苫小牧市と接している。厚真の語源は 3 説ほどあるが、最も有力な説として「アットマム」(at-to-man 「向こうの湿地帯」) で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという(厚真村 1956)。

町内は、大きく 4 つの地区に分かれ、厚真川沿いに下流域の浜厚真・上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の幌内地区で、むかわ町と接し、入鹿別川流域の鹿沼地区がある。ここでは厚真川流域を中心に概略を述べる。

南部は砂浜が続き、明治期以前より地引網での鱒漁が盛んであったが、現在では、苫小牧沿岸にかけてホッキ貝の全国一の漁場となっている。かつては標高 10m 前後の砂丘列が発達し、背後には勇払原野の湿地帯が広がっていたが、現在は苫東地区の一部で、苫小牧東港や道内最大の火力発電所、石油備蓄タンク群等の工業用地となっている。また国道や高規格道路、鉄道があり、札幌圏から日高方面への主要幹線路ともなっている。地形的には、苫東地区の静川・源武台地と同じ様相を示し、樹枝状に開折された標高 10~20m 前後の支笏火山・樽前山の火山灰で構成される低平な台地と湿地、湖沼群が見られる。特に厚真川左岸から入鹿別川右岸にかけての厚和地区は静川台地と全く同じ地形・地質様相を呈している(仮称厚和台地・鯉沼台地)。中部には厚真町の中心市街があり、鶴川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展していた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追山地南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中部以北では、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。北部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部で、本流とシュルク川、幌内川の 3 河川の合流点でもある。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、昭和 5 年から 24 年まで早来駅とを結ぶガソリン機関車軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く(松野・石田 1960)。標高 400m 以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との 1 市 2 町の境界線付近、標高 500m 付近の夕張山地南域に源流部がある。

B 歴史的環境

(1) 埋蔵文化財包蔵地の概要

厚真町内には平成 24 年 3 月 1 日現在で 136 ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近世アイヌ文化期にいたるまでである（図 I-2、表 I-2・3・4）。遺跡の分布傾向として、開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区や厚真川下流域左岸から入鹿別川流域右岸にかけての仮称厚和台地や仮称鯉沼台地、厚真川中流域の支流河川沿い、北部の高丘地区および幌内地区にやや集中する傾向がある。遺跡の立地は、南部において湿地と隣接する台地縁辺部や湧水地付近、中部では厚真川沿いや小河川との合流点付近の河岸段丘縁辺部に多い。北部の山間部では、頗美宇（はびう）川流域の高丘地区や厚幌ダム水没地域内に多く分布する。これらは安平町安平地区や夕張市滝之上地区、むかわ町穂別・豊田地区に抜ける山越えのルート上の遺跡と考えられる。

時期的には、町内最古の遺跡として上幌内モイ遺跡で札滑型細石刃核を伴う石器集が 1 ヶ所検出されており、AMS 法炭素年代測定の結果、補正年代 3 点の平均で $14,591.69 \pm 60 \text{yrB.P.}$ が得られている（厚真町教育委員会 2006a）。縄文時代の最も古いものでは豊沢 4 遺跡の試掘調査で早期前半の物見台系貝殻文土器片 1 点が出土し、時期が下って浜厚真 3 遺跡で東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している（北海道埋蔵文化財センター 2003）。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代早期後葉の中茶路式期と考えられ、前期前葉の静内中野式期には個々の遺跡の内容も充実し、盛土遺構を伴い多量の被熱礫や哺乳網の焼骨片が出土する遺跡が厚真町南部から北部に至るまで多数確認されている。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期の遺跡数でピークを迎える。縄文時代後期中葉から後葉にかけて遺跡数が激減し、晩期前葉以降、続縄文文化期に再び増加し、擦文文化期前期は遺跡数が再び減少する傾向にある。この様な各時期における遺跡数の偏りは苫小牧市の傾向と概ね一致している。苫小牧市との差異として擦文文化期中期から中世アイヌ文化期にかけてはやや遺跡数が増加する傾向がある。

(2) 町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究は、大きく 3 期に別けることが可能である。

a. 厚真村郷土史研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究（昭和 20 年代後半から 40 年代中頃）

最初の記録として、大正 5 年、現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を、教材として学校に保管する許可書が発行されたことである（厚真村郷土研究会 1956）。遺物の多くは縄文晩期初頭の土器片と思われ、数点の土偶片も出土している（厚真村郷土研究会 1956、亀井 1956、古井 1961、北海道大学附属図書館 HP 北方資料データベース）。その後、元厚真村長 亀井喜久太郎氏の熱心な働きかけで昭和 27 年に八幡一郎氏、30 年に大場利夫氏等が来村し、町内の遺跡・遺物を実見している。また、亀井氏は昭和 28 年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報『郷土研究』で遺物の紹介を行い、昭和 31 年には『厚真村古代史』を刊行している（厚真村郷土研究会 1956）。現在、埋蔵文化財保護の基礎資料である埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「昭和 31 年 7 月 厚真村郷土研究会『厚真村古代史』」や「昭和 47 年 12 月 厚真町郷土史研究会 踏査」の記載で始まるものが 32 遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残し、礎となっている。町内で初めての組織的な発掘調査は、昭和 37 年に厚真村郷土史研究会によって朝日遺跡と共和遺跡で行われた。調査に関する詳細は不明だが、縄文時代晩期初頭の土器片を中心とした出土遺物がコンテナにして 5 箱分、厚真町教育委員会に保管されている。

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模な行政発掘「苫東調査」(昭和 48 年から昭和 54 年)

昭和 48 年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、昭和 59 年までの 12 年間で厚真町域にかかるもので新規登載 14 遺跡、調査着手 11 遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。調査成果として、昭和 51 年調査の厚真 1 遺跡(苫小牧市教育委員会 1986)では、この地域で初めての Tピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真 1 式土器」(赤石 1999)の標識遺跡でもある。厚真 7 遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居址 8 軒の検出と、石狩川中流域で数多く出土する「丸のみ形石斧」も出土している(苫小牧市教育委員会 1987)。また、共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居址 2 軒が調査されている(苫小牧市教育委員会 1987)。これらの成果は苫小牧市教育委員会により『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』として報告書が刊行されている(苫小牧市教育委員会 1986・1987・1990・1992)。整理・報告後の出土遺物等は平成 13 年度に町教委へ返却・保管されている。

なお、厚真町域における町教委による「埋蔵文化財包蔵地資料整備の一般分布調査」は、昭和 54 年 9 月行われ、52 遺跡の包蔵地カードが作成されている。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業等の開始(平成 10 年以降)

近年は火山灰採取などの開発に伴う試掘調査や工事立会調査が増加し、町教委による豊川 1 遺跡(厚真町教育委員会 2001b)、鯉沼 2 遺跡(厚真町教育委員会 2001a)、鯉沼 3 遺跡(厚真町教育委員会 2005・2006b・2008)などの調査が行われた。高規格道路日高自動車道の建設に伴う(財)北海道埋蔵文化財センターによる浜厚真 3 遺跡の調査では、187 基の Tピットが検出されている(北海道埋蔵文化財センター 2003)。これらの調査結果では、縄文時代中期後葉以前に Tピットが数多く構築されていることが分かり、周囲には比較的規模の大きい集落跡の存在が想定できる。

平成 12 年には北海道室蘭土木現業所より厚幌ダム建設事業に係る埋蔵文化財保護の事前協議書が提出され所在踏査や試掘調査が開始された。発掘調査は平成 14 年から町教委により継続的に行われ、厚幌 1 遺跡(厚真町教育委員会 2004)、上幌内モイ遺跡(厚真町教育委員会 2006a・2007・2009)、オニキシベ 2 遺跡(厚真町教育委員会 2011)、ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡(本書)、オニキシベ 5 遺跡(印刷中)、オニキシベ 4 遺跡(整理中)、オニキシベ 6 遺跡(整理中)、オニキシベ 1 遺跡(調査継続中)が調査されている。平成 24 年度からは道埋文が参入し、24 年度までの 11 年間の調査面積は約 75,100 m²に及んでいる。これらの調査成果は、厚真川上流域において当初の予想を上回る遺構遺物が確認され、道内に留まらず道外からも注目を浴びている。

平成 15 年には総延長 24.5km に及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、所在確認踏査や試掘調査が行われている。試掘調査等は未了の箇所があるものの、現在 11 遺跡での要発掘・工事立会調査地点が確認され、平成 19 年度には厚真川中流域富里地区のニタップナイ遺跡(厚真町教育委員会 2009a)、20 年度は厚幌 1 遺跡と幌内 7 遺跡(厚真町教育委員会 2010)、21 年度は幌内 5 遺跡と富里 2(厚真町教育委員会 2010b)遺跡の発掘調査を行っている。現在はダム事業の再検証によって埋蔵文化財発掘調査も休止状態となっている。

また、道道上幌内早来停車場改良工事でも平成 21・22 年度において厚真川中流域の吉野地区ヲイカルマイ遺跡(町教委印刷中)、平成 24 年度に朝日遺跡(道埋文整理中)の発掘調査が実施されている。今後も厚真川河川改修や町水道整備事業などがあり、大規模開発に伴う埋蔵文化財発掘調査は平成 29 年度まで継続される予定である。(乾)

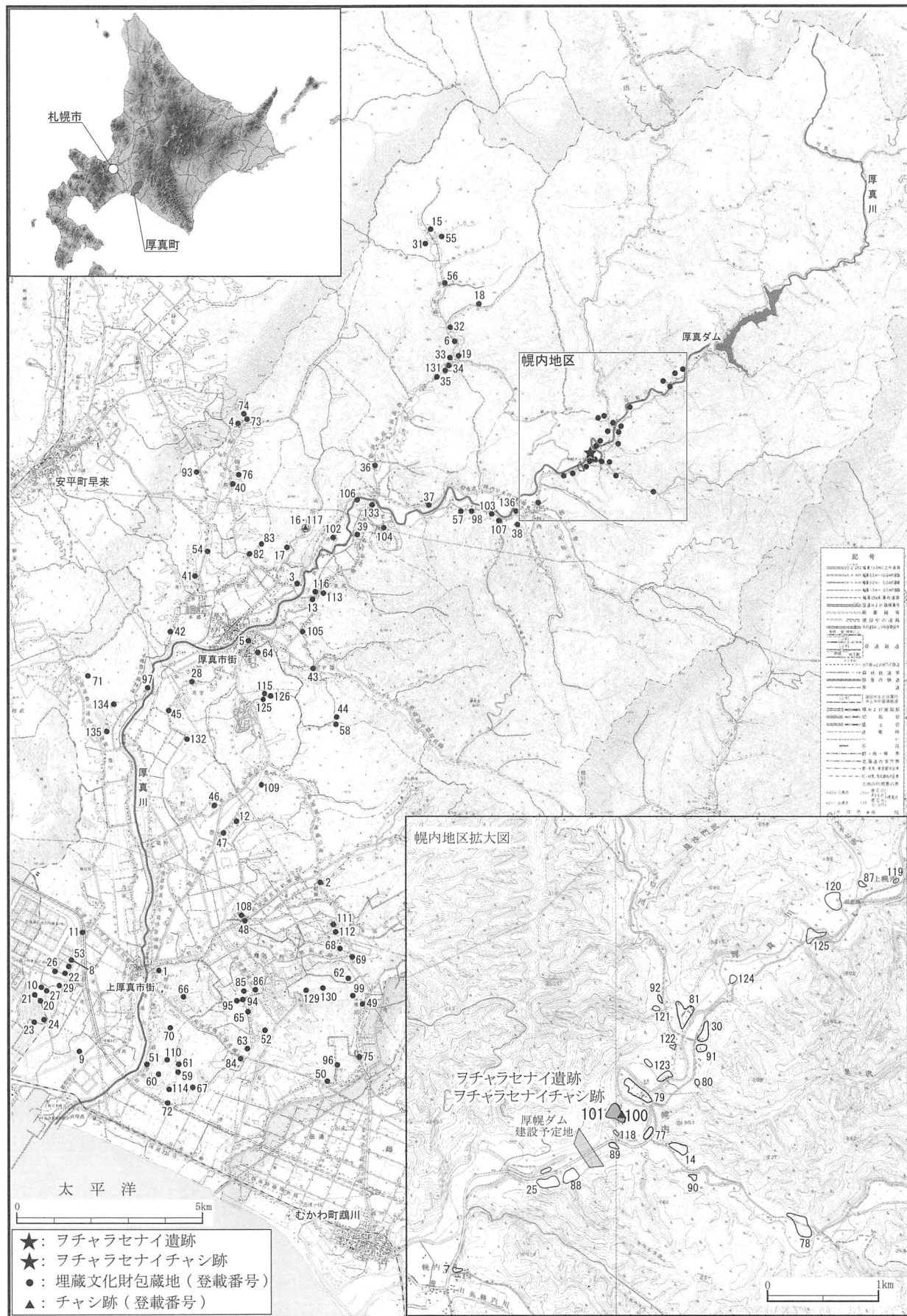


図 I-4 厚真町内遺跡分布図 (平成 25 年 1 月 1 日現在)

表I-2 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)

登載 番号	種 別	名 称	時 代	文献等
1	遺物包含地	上厚真遺跡	縄文中～後期・統縄文・擦文期	1
2	遺物包含地	軽舞遺跡	縄文中期・統縄文期	1
3	遺物包含地	朝日遺跡(文献1:振老)	縄文後～晩期・統縄文・擦文期	1,2,31
4	遺物包含地	幌里1遺跡(文献1:仁達幌)	縄文中・晩期・統縄文期	1
5	遺物包含地	新町遺跡(文献1:上振内)	縄文中期・統縄文・擦文・アイヌ期	1,4,6
6	遺物包含地	高丘1遺跡(文献1:頗美宇)	縄文中期・統縄文期	1
7	遺物包含地	幌内1遺跡	縄文中・統縄文期	1
8	集落跡	共和遺跡(文献1:西周文)	縄文晩期・擦文期	1,8
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	縄文?	
10	溝穴遺構	厚真10遺跡	縄文中・晩期	3,8
11	遺物包含地	厚真11遺跡	縄文晩期	
12	遺物包含地	豊沢1遺跡(文献1:当麻内)	統縄文期	1
13	遺物包含地	東和遺跡(文献1:東老軽舞)	縄文・統縄文期	1
14	集落跡	オニキシベ1遺跡(文献1:オニキシベ)	縄文中・後期	1
15	遺物包含地	高丘3遺跡	縄文中期	
16	チャン跡	桜丘チャン跡	中世アイヌ期	4,6
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	縄文晩期	
18	遺物包含地	高丘2遺跡	縄文?	
19	集落跡	高丘10遺跡	縄文?	
20	集落跡	厚真1遺跡	縄文中期	8,13
21	溝穴遺構	厚真2遺跡	縄文中期?	8
22	溝穴遺構	厚真3遺跡	縄文早・中～晩期・統縄文期	10
23	集落跡	厚真4遺跡	縄文	
24	遺物包含地	厚真5遺跡	縄文前～晩期・統縄文・擦文期	
25	集落跡	厚幌1遺跡	縄文早～晩期・統縄文・擦文・アイヌ期	18,30
26	集落跡	厚真7遺跡	縄文早・中～晩期・統縄文・擦文期	9
27	集落跡	厚真8遺跡	縄文中～晩期	8
28	遺物包含地	美里2遺跡	縄文早・中期	
29	墳墓	厚真12遺跡	縄文中・晩期・擦文	10
30	遺物包含地	上幌内1遺跡(旧幌内3遺跡)	縄文中期	
31	遺物包含地	高丘4遺跡	縄文	
32	遺物包含地	高丘5遺跡	縄文?	
33	遺物包含地	高丘6遺跡	縄文?	
34	遺物包含地	高丘7遺跡	縄文?	
35	遺物包含地	高丘8遺跡	縄文?	
36	遺物包含地	高丘9遺跡	統縄文期	
37	遺物包含地	富里1遺跡(文献1:檜山)	縄文中～晩期	1
38	遺物包含地	幌内4遺跡	縄文中期?	
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	縄文?	
40	遺物包含地	幌里2遺跡	縄文中期	
41	遺物包含地	本郷1遺跡	縄文中・晩期	
42	遺物包含地	本郷2遺跡	縄文後期	
43	遺物包含地	宇隆1遺跡	縄文・中世アイヌ期	16
44	遺物包含地	宇隆2遺跡	統縄文期	
45	遺物包含地	美里1遺跡(文献1:振内)	縄文中期	1
46	遺物包含地	豊沢2遺跡	擦文期	
47	遺物包含地	豊沢3遺跡	統縄文期	
48	遺物包含地	鯉沼1遺跡(文献1:上周文?)	縄文	1
49	遺物包含地	鹿沼2遺跡(文献5:鹿沼B)	縄文中期	5
50	遺物包含地	鹿沼1遺跡(文献5:鹿沼A)	縄文	5
51	遺物包含地	厚和1遺跡(文献5:周文)	縄文中期・アイヌ期	1,4,6
52	遺物包含地	鹿沼3遺跡	縄文中・晩期	
53	溝穴遺構	厚真13遺跡	縄文早～中・晩期・統縄文・擦文期	10
54	遺物包含地	本郷3遺跡	縄文?	
55	遺物包含地	高丘11遺跡	縄文晩期	
56	遺物包含地	高丘12遺跡	縄文	
57	墳墓	幌内5遺跡	縄文前・後期・アイヌ期	32
58	溝穴遺構	豊沢4遺跡	縄文早・中～後期	
59	遺物包含地	厚和2遺跡	縄文中期	
60	遺物包含地	厚和3遺跡	縄文後期	

表 I-3 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)

登載番号	種別	名称	時代	文献等
61	遺物包含地	厚和4遺跡	縄文中期	
62	遺物包含地	鹿沼4遺跡	縄文	
63	遺物包含地	厚和5遺跡	縄文	
64	遺物包含地	新町2遺跡	縄文中期	
65	遺物包含地	鹿沼5遺跡	縄文後期	
66	遺物包含地	厚和6遺跡	縄文前期	
67	遺物包含地	浜厚真2遺跡	縄文早期	
68	溝穴遺構	鯉沼2遺跡	縄文中期	14
69	遺物包含地	豊丘遺跡	縄文中期	
70	集落跡	厚和7遺跡	縄文後期	
71	集落跡	豊川1遺跡	縄文前・後～晩期	15
72	遺物包含地	浜厚真3遺跡	縄文早・後期	17
73	遺物包含地	ニタツポロ沢遺跡	縄文後・晩期	
74	遺物包含地	幌里神社遺跡	縄文早・後期	
75	溝穴遺構	入鹿別沼遺跡	縄文中期?	
76	溝穴遺構	幌里3遺跡	縄文	
77	遺物包含地	オニキシベ2遺跡	縄文中～後期・続縄文・擦文・中世アイヌ期	
78	遺物包含地	オニキシベ3遺跡	縄文後期	
79	集落跡・墳墓	上幌内モイ遺跡	旧石器・縄文早・中～後期・続縄文・擦文・中近世アイヌ	19,21,22,24,26,27,28
80	遺物包含地	一里沢遺跡	縄文前～中期・アイヌ期	4,5,21
81	集落跡	シヨロマ1遺跡	縄文前・後期	
82	遺物包含地	東ニタツポロ1遺跡	縄文中・晩期	
83	遺物包含地	東ニタツポロ2遺跡	縄文中・晩期	
84	遺物包含地	浜厚真4遺跡	縄文中期	
85	溝穴遺構	鯉沼3遺跡	縄文前～後期	20,23,25
86	溝穴遺構	鯉沼4遺跡	縄文後期	
87	遺物包含地	イクバンドユクチセ遺跡	縄文後期	
88	遺物包含地	厚幌2遺跡	縄文前期	
89	遺物包含地	オニキシベ4遺跡	縄文	
90	遺物包含地	オニキシベ5遺跡	縄文中期～後期	
91	溝穴遺構	上幌内2遺跡	縄文・アイヌ期	
92	遺物包含地	シヨロマ2遺跡	縄文中期	
93	溝穴遺構	幌里4遺跡	縄文	
94	集落跡	厚和8遺跡	縄文中～後期	
95	遺物包含地	厚和9遺跡	縄文中期	
96	遺物包含地	鹿沼6遺跡	縄文	
97	遺物包含地	豊川2遺跡	続縄文・擦文	
98	遺物包含地	幌内6遺跡	縄文後期	
99	溝穴遺構	鹿沼7遺跡	縄文早～晩期	
100	チャシ跡	ヲチャラセナイチャシ跡	中世アイヌ期	
101	遺物包含地	ヲチャラセナイ遺跡	縄文早～後期・続縄文・擦文・中世アイヌ期	
102	遺物包含地	吉野1遺跡	縄文中・晩期	
103	遺物包含地	幌内7遺跡	縄文晩期・擦文	
104	集落跡	ニタツナイ遺跡	縄文前～後期・続縄文・擦文・近世アイヌ期	29,32
105	遺物包含地	宇隆3遺跡	縄文中期	
106	遺物包蔵地	富里2遺跡	縄文後・晩期・続縄文・擦文・中近世アイヌ期	32
107	遺物包蔵地	オコッコ1遺跡	縄文前・中・後期・擦文	
108	遺物包含地	軽舞2遺跡	縄文前期・続縄文	
109	遺物包蔵地	豊沢5遺跡	縄文後期	
110	溝穴遺構	厚和10遺跡	縄文早・中・後期	
111	遺物包含地	豊丘2遺跡	縄文早期	
112	遺物包蔵地	豊丘3遺跡	縄文中期	
113	遺物包蔵地	東和2遺跡	縄文晩期	
114	遺物包含地	浜厚真5遺跡	縄文後期	
115	遺物包蔵地	豊沢6遺跡	縄文早・中・後期	
116	遺物包蔵地	東和3遺跡	縄文早期	
117	遺物包含地	桜丘2遺跡	縄文中・後期	
118	遺物包含地	オニキシベ6遺跡	縄文後期	
119	溝穴遺構	イクバンドユクチセ2遺跡	縄文後期	

表I-4 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(3)

登載番号	種別	名称	時代	文献等
120	遺物包含地	イクバンドユクチセ3遺跡	縄文中・後期・続縄文期	
121	遺物包含地	シヨロマ3遺跡	続縄文期	
122	遺物包含地	シヨロマ4遺跡	縄文	
123	遺物包含地	上幌内3遺跡	縄文中・後期	
124	遺物包含地	上幌内4遺跡	縄文中期	
125	溝穴遺構	上幌内5遺跡	縄文	
126	遺物包含地	豊沢7遺跡	縄文中・後期	
127	遺物包含地	豊沢8遺跡	縄文後期	
128	遺物包含地	ライカルマイ遺跡	続縄文・擦文・中世アイヌ期・明治期	
129	遺物包含地	長沼1遺跡	縄文早期	
130	溝穴遺構	長沼2遺跡	縄文	
131	遺物包含地	高丘13遺跡	縄文前期・擦文期	
132	遺物包含地	上野1遺跡	縄文中期	
133	遺物包含地	富里3遺跡	縄文中・晩期	
134	遺物包含地	豊川3遺跡	縄文晩期	
135	遺物包含地	三ヶ月沼遺跡	縄文晩期	
136	遺物包含地	幌内8遺跡	縄文前・中期	

関連文献

1: 厚真村郷土研究会 1956『厚真村古代史』 2: 亀井喜久太郎 1957「厚真出土の土偶」『先史時代3』 3: 苫小牧市教育委員会 1974『苫小牧東部工業地帯内埋蔵文化財分布調査報告書』 4: 亀井喜久太郎・池田実 1976『厚真の旧地名を尋ねて』 5: 鶴川町教育委員会 1977『鶴川町遺跡分布報告』 6: 亀井喜久太郎・池田実 1978『続厚真の旧地名を尋ねて』 7: 松浦武四郎(高倉新一郎校訂) 1985『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』 8: 苫小牧市教育委員会 1986『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』 9: 苫小牧市教育委員会 1987『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』 10: 苫小牧市教育委員会 1990『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』 11: 苫小牧市教育委員会 1992『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』 12: 苫小牧市教育委員会 1995『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅴ』 13: 赤石慎三 1999「苫小牧地方の円筒上層式について」『苫小牧埋蔵文化財調査センター所報1』 14: 厚真町教育委員会 2001『鯉沼2遺跡』 15: 厚真町教育委員会 2001『豊川1遺跡』 16: 鈴木信 2001「IV-4 北海道の中世陶磁器」『千歳市ユカンボンC15遺跡(4)』(財)北海道埋蔵文化財センター159 17: (財)北海道埋蔵文化財センター 2003『厚真町浜厚真3遺跡』 18: 厚真町教育委員会 2004『厚幌1遺跡』 19: 厚真町教育委員会 2005『上幌内モイ遺跡発掘調査概要報告書』 20: 厚真町教育委員会 2005『鯉沼3遺跡』 21: 養島栄紀 2005「松浦武四郎の旅程からみた胆振東部・日高西部の古交通路」『前近代アイヌ民族における交通路の研究(胆振・日高I)』 22: 厚真町教育委員会 2006『上幌内モイ遺跡(1)』 23: 厚真町教育委員会 2006『鯉沼3遺跡(2)』 24: 厚真町教育委員会 2007『上幌内モイ遺跡(2)』 25: 厚真町教育委員会 2008『鯉沼3遺跡(3)』 26: 出穂雅実他 2008『論集忍路子Ⅱ』 27: 関根達人 2008「平泉文化と北方交易2—擦文期の銅鏡をめぐって—」『平泉文化研究年報8』 28: 厚真町教育委員会 2009『上幌内モイ遺跡』発掘調査報告書(3) 29: 厚真町教育委員会 2009『ニタツナイ遺跡(1)』 30: 厚真町教育委員会 2010a『厚幌1遺跡(2)・幌内7遺跡(1)』 31: 北海道大学附属図書館HP北方資料データベース 32: 厚真町教育委員会 2010b『幌内5遺跡(1)・富里2遺跡・ニタツナイ遺跡(2)』 33: 厚真町教育委員会2011『オニキシベ2遺跡』 34: 苫小牧民報社2011.3.3 新聞記事

(2)歴史時代

厚真周辺の記録として、1643(寛永20)年に編纂された北海道最古の文書とされる『新羅之記録』(松前1643)によると、「松前以東は阪川西は與依地迄人間往古する事、右大将頼朝卿進発して奥州の泰衡を追討し御ひし節、糠部津軽より人多く此国に逃げ渡って居住す。」とあり12世紀末葉には東北北部の和人が厚真周辺域まで進出していたことが伺われる。

厚真町とほぼ特定できる最初の記述は、1692(元禄5)年に書かれた『蝦夷記』(野澤1692)にシャクシャインの戦い(1669・寛文9年)に関連して「於多久具印住處阿津摩ニテ討取ル」とある。関連するものとして厚真町中部に位置する桜丘チャシ跡が想定されていたが、平成21年度のトレンチ調査により樽前bテフラより1~2cm程度黒色土を被覆することが判明し、より古い中世アイヌ文化期のチャシ跡であることが判明している。この時期の遺跡は厚真川上中流域の厚幌ダムや厚幌導水路建設関連の発掘調査で多数の遺構遺物が検出されており、今後も増加するものと思われる。

これ以降の記録として、1700年の『松前家臣支配所持名前帳』には鳥屋支配所として「志古津ノ阿津満」と記され、2ヶ所の鷹打場が設けられている。シャクシャインの戦いに係わる『津軽一統志』(相坂兵右衛門1731)の調査報告中にて、「あつまへつ〜川有、戸田義兵衛 商場」と記されてい

るが、産物や周辺のコタンについての記述は見られない。1739年頃に成立した『蝦夷商賣聞書』には義経伝説を交えた記述の中に「右之山奥ニアツマト申所ニ城跡ト申而松柏之古木沢山ニ繁リテアリ〜」や1785年の「三国通覧図説蝦夷国全図」に「アヅマ」と記載があり、注記に「鬼ヒノ出処」と記されている（林子平 1785）。また、寛政から文化年間（18世紀末～19世紀初）の『東蝦夷地道中記』（1791）や『蝦夷記行』（谷元旦 1799）、『拾遺北日本地図全図蝦夷地出産交通略図』などの紀行文や古地図に僅かな記述にすぎず、1800年に八王子千人同心等、数名の和人が浜厚真に移り住むが定住することはない。近世アツマ場所や明治期の産物として干鮭や椎茸、シナ縄、鹿皮が挙げられているが、詳細な記述はなく、以降の紀行文や測量日誌にも交通路であった勇払と鶴川間の厚真川河口周辺の簡単な記述に留まっている。本町の和人定住者として、明治3（1870）年に新潟県人の青木与八が厚真川河口に渡船場を開業したことが始めとされている（厚真村 1956）。

内陸部までの詳述は、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』（松浦・吉田 1962、松浦・秋葉他 1985）で、1857（安政5）年6月に苫小牧市勇払から厚真川河口を経てトニカ（現富里）にて2泊している。蝦夷地探検の6回目で、町内には6ヶ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいコタンでは、粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んに行われているが、直前に襲った厚真川の洪水によって、畑地のほとんどが流出したことも記され、かつてより氾濫の多い河川であったことが伺える。宿泊したトニカコタンのイカシユ（乙名板蔵）の家中について「西同所の土人等とは大に違ひ、凡行器の三十も有、耳盥の七ツ八ツ、筐の式ツ計、蝦夷太刀の二十五六振も懸、また此余短刀の七八本も有るよし語りけるなり。」（松浦・秋葉他 1985）とあり漆器や刀剣類の宝物が多く、その裕福さに驚いている。この他、猟犬としての北海道犬厚真系の活躍についても記述している（松浦・吉田 1962）。上流部に関しては聞き取りによる記述で、3穴の吊耳鉄鍋の残置伝承があるカニシユウ（現幌内・一里沢遺跡）も記述されている。苫小牧駒澤大学 養島栄紀氏は、これらの松浦武四郎の記録から古交通路について論じており、トニカコタンの記述や上流の上幌内モイ遺跡の搬入系遺物の出土量から鶴川水系や夕張水系へのルートの存在についても述べている（養島 2005）。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム建設に係わる発掘調査で確認された厚幌1遺跡（厚真町教育委員会 2004）、上幌内モイ遺跡（厚真町教育委員会 2007a・2009a）、オニキンベ2遺跡の他、試掘調査でも上幌内2遺跡、一里沢遺跡がある。厚幌導水路建設事業関連の発掘調査で発見されたニタツナイ遺跡（厚真町教育委員会 2009b）や幌内7遺跡（厚真町教育委員会 2010a）、富里2遺跡（厚真町教育委員会 2010b）がある。その他、試掘調査で層位的確認がされた新町遺跡のほか、厚和1遺跡、幌内5遺跡では近世アイヌ墓が単独で発見されている。

明治維新後、廃藩置県までは高知藩所管の時代があり、1873（明治6）年以降に開拓使苫小牧出張所や勇払郡役所の所管となる。現在の厚真町が行政単位として1897（明治30）年4月1日に苫小牧外6ヶ村から分離独立し、厚真村戸長役場が現桜丘地区の専厚寺境内に設置されたことによる。

内陸部の和人開拓は明治20年代からで、ほぼ同時期に手掘りによる石油掘削も始めら、明治21年には開拓使から農事指導員が派遣され西老軽舞（現吉野地区）へ集住させられたアイヌ民族への勸農政策も実施されている。1892（明治25）年には鉄道室蘭線が開通し、近隣である厚真の内陸部も開拓移住者が増加した。これらは明治19年の国有未開地の開放によって北海道開拓の促進を図る

「北海道土地私下規則」が制定されたことにもよる。以後、開拓移住者の増加が続き現在の農業の町厚真の礎が確立されていく。

2. 遺跡の位置と周辺環境

A 地理的環境

ヲチャラセナイ遺跡の周辺地域を遺跡の東に隣接するヲチャラセナイ沢から厚真ダムまでの厚真川本流域とその支流域としたい。この地域は夕張山地南端部に当たり標高約 150~400mの山地に囲まれ、その多くは 200~300mの山頂が続く。山地は樹枝状に浸食が進んだ複雑な山稜を呈している。厚真川及び多数の支流域は浸食開折した谷状の地形を呈し、北東-南西軸の“線状”の地域となっている。遺跡群はこれらの流域に形成された河岸段丘上に立地している。急峻な山稜や河岸段丘の発達、この地域の基盤層が新第三紀に形成された砂岩泥岩層（松野・石田 1960）の比較的軟弱な岩相であることに起因すると思われる。

本遺跡は厚真川の河口から約 30km の右岸に位置し、上幌内モイ遺跡の河岸段丘と合わせ厚真川が S 字状に大きく蛇行し、流路延長 9km の鬼岸辺川との合流点に面している。厚真川沿いには河岸段丘が形成され、北東右岸に上幌内モイ遺跡、南東右岸にオニキシベ 2 遺跡、南右岸にオニキシベ 6 遺跡、オニキシベ 4 遺跡が立地している。この S 字状の特徴的な地形は、この地域における最初の地形図である明治 29 年製版の「ワイカルマイ」(5 万分の 1) にも明瞭に記載されている (図 I-9)。

本遺跡の南東方向を流下する厚真川との約 200mの間は沖積低地となっており、殆どは水田として利用されていたが、平成 15 年以降、厚幌ダム建設に伴う移転補償のため廃耕田となっており、ヤナギやセイタカアワダチソウが密生している。遺跡の背後は、北西に約 1000mの地点に位置する標高約 300m の山頂から続く傾斜地が連続し、ナラ等を主体とする広葉樹林が形成され、一部にはカラマツなどの針葉樹が植林されている。

本遺跡の南西には少量の流水を伴う無名の小沢が開析している。この小沢と厚真川の合流点には比高差約 3mの滝があり、松浦武四郎の「ヲチャラセナイ」に相当するものと思われ（松浦・秋葉 1985、亀井・池田 1978）、本遺跡名はこの無名沢の旧地名から冠したものである。

北側は標高約 200mの小頂部の山体があり、これを厚真川が浸食し急傾斜地が形成されている。一部には砂岩泥岩の基盤層を露出する崖面となっており、周辺の地形図等高線や現地における凹凸地形などから地すべり地形と判断される。地すべり地形の範囲は本来の山体等高線に並行する北西-南東軸に幅約 280m、直行する平面崩落距離が 60~180m、崩壊面頂部から堆積物までの比高差は約 60mの広範囲に及ぶ。発生時期は、厚幌 1 遺跡のマウンド堆積物（田近・大津 2004）や上幌内モイ遺跡低位段丘面における洪水堆積物（厚真町教育委員会 2010）のイベント堆積物層位などから、約 4,000 年前に発生したと考えられ、その起因は石狩低地帯東縁活断層によるものと思われる。

本遺跡の北東へ直線距離約 850mの地点には北から流れ込む流路延長 11.2km のショロマ川がある。またその間の厚真川左岸域には流路延長 4km の一里沢があり、比較的大きな支流が厚真川に流入している地域でもある。これらの支流やオニキシベ川との合流点付近は上流域の中でも開析が進み、広い河岸段丘面が形成され、盆地状の地形となり本遺跡における日照条件も良好である。

河岸段丘は現河川面 T0 面から標高 80-100mまでの T5 面まで細分（出穂 2006）でき、ヲチャラセナイ遺跡の高位段丘面 A 地区は恵庭 a テフラの堆積状態から T3 面、低位段丘面 B 地区は樽前 c テフラの堆積状態から T1 面に相当する（図 I-5、表 I-5）。

周辺に発達した河岸段丘面の多くには埋蔵文化財包蔵地が立地しており、厚幌ダム建設工事に伴う発掘調査の対象となっている。また、厚真川を挟んで南東には標高 150mの山体が突出し、盆地

状の本地区のランドマーク的な存在で昭和 40 年代ころまでは山頂に竜神を祀る神社があった。

比較的大きな支流である鬼岸边川は分水嶺を介して東方の鶴川水系むかわ町豊田地区へ、シヨロマ川は北方の石狩川水系夕張川の夕張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、本遺跡より約 5km 上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ沢川も分水嶺を越えて鶴川水系むかわ町穂別地区へのルートとして考えられる。

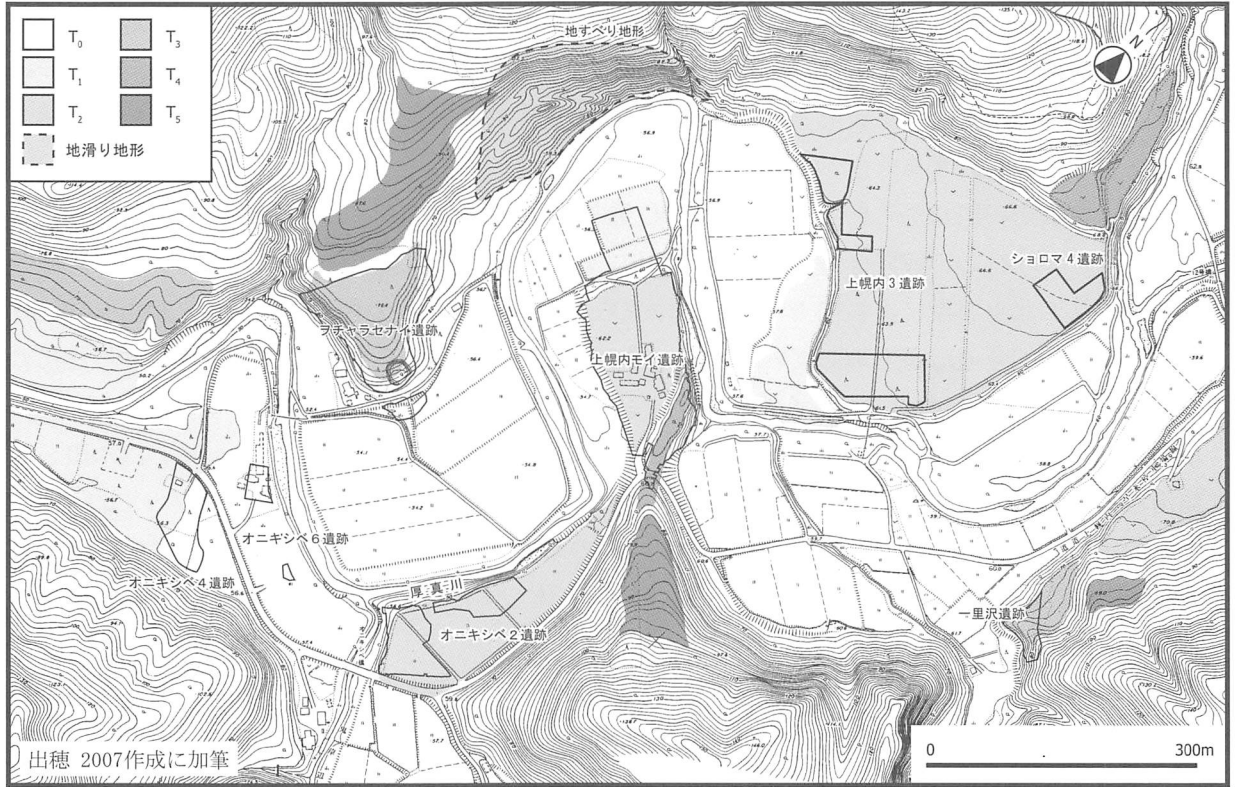


図 I-5 遺跡周辺の地形面区分図

表 I-5 厚真川流域の河岸段丘面区分

段丘面	標高	段丘面	標高
T0面	現河底面	T3面	71~77m
T1面	54m	T4面	—
T2面	58~60m	T5面	85~87m

B 歴史的環境

厚幌地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 15 遺跡が所在する (図 I-6 右下)。最上流のイクバンドユクチセ 2 遺跡 (J-13-87) は河口より約 37km の地点にあるが、地域住民の聞き取り調査から現在の厚真ダム堤体付近にも埋蔵文化財包蔵地が所在していたことがわかっている。立地として厚真川本流との比高差が約 5~10m 前後河岸段丘上に集中し、湧水や小河川に伴うものが多い。

(1) 旧石器時代

遺跡群の時期的な側面は、上幌内モイ遺跡において平成 16・17 年度の発掘調査において旧石器時代札滑型細石刃核を伴うブロックが焼土を伴って 1ヶ所検出され、厚幌地区に留まらず厚真町内において最古の埋蔵文化財包蔵地となっている。小規模なブロックであるものの、細石刃核、細石刃、彫器、削器、錐形石器などの剥片石器群が出土している。放射性炭素年代測定の結果、暦年較正年

代で約 14,500 年前の数値が得られている。、恵庭 a テフラを基質とする河岸段丘の再堆積物との層序関係においても良好な年代を得ている。

(2) 縄文時代

縄文時代では本遺跡の旧石器包含層確認トレンチ調査の際に、樽前 d テフラ下層のローム質土より無茎石鏃 1 点が出土している（平成 25 年度刊行予定）。本地区における縄文土器の出現は今のところ早期後葉の東釧路Ⅲ式期から散発的に出現し、中茶路式期より増加し縄文時代後期初頭の余市式土器群は各遺跡から出土しており遺跡数が最も多い。縄文後期中葉及び後葉の包蔵地はまとまって出土した例はオニキシベ 6 遺跡のみであり、縄文時代晩期においても上幌内モイ遺跡や本遺跡などで出土しているが、小規模なものに留まっている。

この地区の特徴として、土器の胎土中に粒径 1.5mm 以上の石英結晶粒を多量に含む「富良野盆地系土器」が出土し、厚真川上流域～鶴川流域～空知川流域への内陸ルートの存在が示唆されている（厚真町教育委員会 2004）。時期的にも中茶路式期から出現しはじめることから、本地域における土器や黒曜石などの流通において先述の内陸ルートを考慮したうえで、本地域、北海道中央部における社会構造を検討する一助となるものと思われる。なお、「富良野盆地系土器」は続縄文文化期後北 C1 式まで確認されている（厚真町教育委員会 2011）。この他にも、本遺跡においてアクチノ閃石、蛇紋岩を含む日高系土器や角礫状の凝灰岩を多量に含むフゴッペ貝塚式土器、器形、文様や調整、胎土から登別市倶多楽湖周辺で製作されたと思われる類円筒下層 d 式土器も出土している。

(3) 続縄文時代

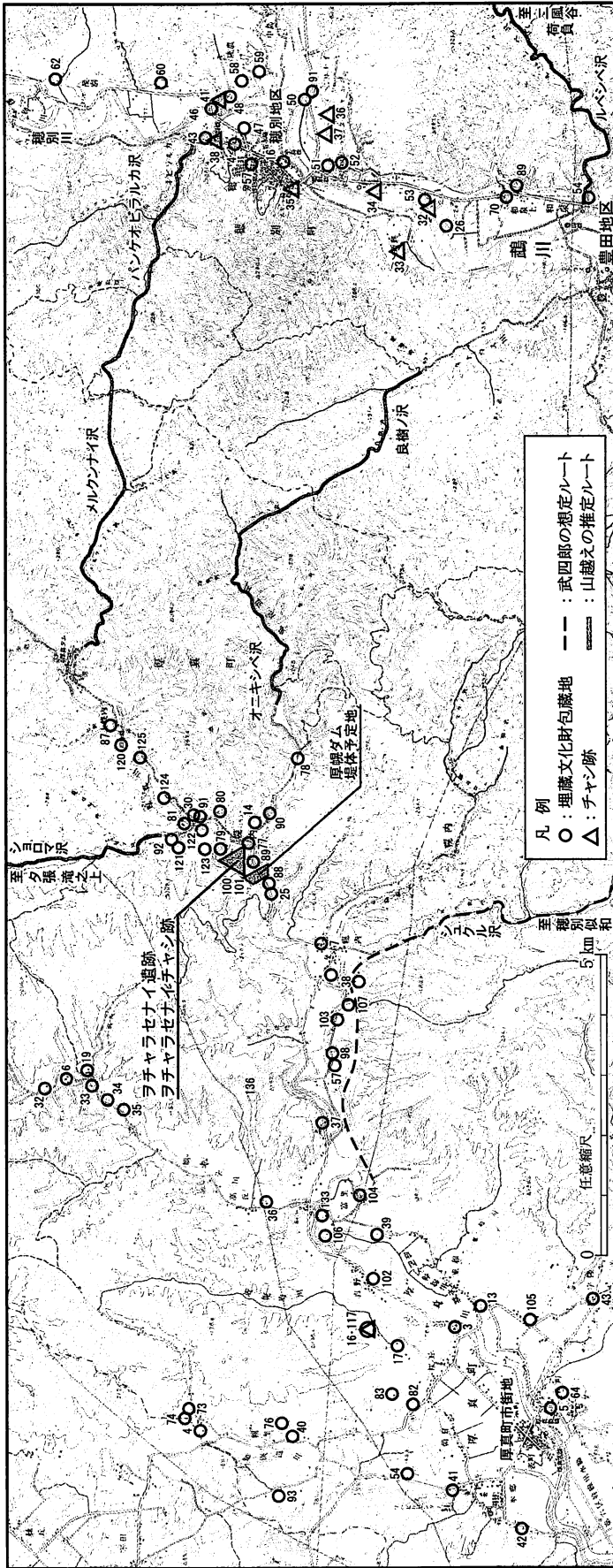
続縄文文化期では中期の後北 A～C1 式期に限られ、僅かに縄線文系の前半期の土器が出土しており、恵山式は出土していない。上幌内モイ遺跡、オニキシベ 2 遺跡、ショロマ 3 遺跡に留まっている。しかし、上幌内モイ遺跡やオニキシベ 2 遺跡では、この時期の土坑墓副葬品に特徴的な片岩製石鏃の製作地点も確認されている。また、焼骨片を伴う焼土や焼骨片集中も検出しているが、その主体構成はエゾシカと思われる陸棲哺乳である。

(4) 擦文文化期

擦文文化期では 8 世紀代の土師器がオニキシベ 2 遺跡、本遺跡から少量出土しているに過ぎないが、白頭山苦小牧火山灰（10 世紀前半降下）より上層の擦文中期から再び埋蔵文化財包蔵地が急増する。上幌内モイ遺跡では 11 世紀代と思われる「円形周溝遺構」や「遺物集中区」などの儀礼場跡や 12 世紀代の人骨を伴う伸展葬の土坑墓なども検出されている。しかし、これまで擦文文化期全般を通して調査された竪穴式住居跡はオニキシベ 2 遺跡での 1 軒に留まっているに過ぎない。本地域では 11 世紀に入ると平地式住居へ移行している可能性があると思われ、平成 24 年度ではオニキシベ 4 遺跡において擦文文化期後期の 12 世紀代と思われる住居跡 2 軒が検出されている。遺物では、佐波理鏡 4 個体や羽口や椀形滓などの鍛冶関連遺物セット、土師器・須恵器、報告確認されているものとしては道内最古の火打石などの本州系遺物が多数出土している。この他、コイル状装飾品といった北方系資料も出土しており、10 世紀後半以降に縄文時代以降続く内陸山間部までのルートが経済的な交易ルートと変化した可能性がある。

(5) アイヌ文化期

後続する中世アイヌ文化期においても埋蔵文化財包蔵地の検出確認例は多く、本遺跡の他、上幌内モイ遺跡でも 13 世紀から 17 世紀前葉にかけての平地式住居跡が 10 軒や土坑墓 3 基、オニキシベ



厚真町埋蔵文化財包蔵地

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
3	朝日遺跡	33	高丘6遺跡	64	新町2遺跡
4	幌里1遺跡	34	高丘7遺跡	73	ニタツポロ沢遺跡
5	新町遺跡	35	高丘8遺跡	74	幌内神社遺跡
6	高丘1遺跡	36	高丘9遺跡	76	幌里3遺跡
7	幌里1遺跡	37	富里1遺跡	77	オニキンベ2遺跡
13	東和遺跡	38	幌内4遺跡	78	オニキンベ3遺跡
14	オニキンベ1遺跡	39	チコモナナイ遺跡	79	上幌内モイ遺跡
16	桜丘チャシ跡	40	幌里2遺跡	80	一里沢遺跡
17	高丘1遺跡	41	本郷1遺跡	81	シヨロマ1遺跡
18	高丘2遺跡	42	本郷2遺跡	82	東ニタツポロ1遺跡
19	高丘10遺跡	43	宇隆1遺跡	83	東ニタツポロ2遺跡
25	厚幌1遺跡	44	本郷3遺跡	87	イクバドエクチセ遺跡
32	高丘5遺跡	45	幌内5遺跡	88	厚幌2遺跡
89	オニキンベ4遺跡	113	東和2遺跡	89	オニキンベ4遺跡
90	オニキンベ5遺跡	116	東和3遺跡	90	オニキンベ5遺跡
92	シヨロマ2遺跡	117	桜丘2遺跡	92	シヨロマ2遺跡
93	幌里4遺跡	118	オニキンベ6遺跡	93	幌里4遺跡
98	幌内6遺跡	119	イクバドエクチセ2遺跡	98	幌内6遺跡
100	ヲチャラセナイチャシ跡	120	イクバドエクチセ3遺跡	100	ヲチャラセナイチャシ跡
101	ヲチャラセナイ遺跡	121	シヨロマ3遺跡	101	ヲチャラセナイ遺跡
102	吉野1遺跡	122	シヨロマ4遺跡	102	吉野1遺跡
103	幌内7遺跡	123	上幌内3遺跡	103	幌内7遺跡
104	ニタツポロ1遺跡	124	上幌内4遺跡	104	ニタツポロ1遺跡
105	宇隆3遺跡	125	上幌内5遺跡	105	宇隆3遺跡
106	富里2遺跡	133	富里3遺跡	106	富里2遺跡
107	オコッコ1遺跡	133	幌内8遺跡	107	オコッコ1遺跡

むかわ町埋蔵文化財包蔵地

No.	遺跡名	No.	遺跡名
4	穂別D遺跡	50	穂別E遺跡
16	穂別4遺跡	51	穂別G遺跡
26	和泉4遺跡	52	穂別H遺跡
32	トロスチャシ跡	53	和泉2遺跡
33	ヲチャップチャシ跡	57	穂別2遺跡
34	オノンウシチャシ跡	58	隆農1遺跡
36	東芝チャシ跡	59	隆農3遺跡
37	ニサナイチャシ跡	60	茂別遺跡
38	ベップチャシ跡	62	旧相台遺跡
41	隆農チャシ跡	64	キウス2遺跡
43	穂別5遺跡	70	和泉3遺跡
46	穂別A遺跡	83	オビアルカチャシ跡
47	穂別B遺跡	89	和泉5遺跡
48	穂別C遺跡	91	穂別I遺跡

図 I-6 厚真川上流域と鶴川中流域遺跡分布図

2 遺跡では平地式住居跡 1 軒と土坑墓 4 基が検出されている。本遺跡のチャシ跡も 1667 年に降下した樽前 b テフラと掘り上げ土上面との黒色土の層厚や年代測定の結果から、13 世紀代のチャシ跡と考えられ、擦文文化期 10 世紀後半から中世アイヌ文化期まで連綿と遺構遺物が出土している。

平地式住居跡は打ち込み杭跡が長方形に配列するもので、いわゆるアイヌ文化の「チセ」の形態と思われる。その長軸は厚真川の流路方向と同じくほぼ北東-南西方向を呈するものが主体で、「神窓」とされる精神文化要素は、住居跡の立地や獣骨集中との位置関係より厚真川の上流方向を意識していると考えられる。また、住居跡内の炉跡の変化も見受けられ、2ヶ所 1 対の楕円形炉から、1ヶ所の主要炉への変遷も分かり始めている。

土坑墓では上幌内モイ遺跡で 3 基、オニキシベ 2 遺跡で 4 基、ヲチャラセナイ遺跡で 1 基の土坑墓を検出している。特に、オニキシベ 2 遺跡では鎌倉市佐助ヶ谷遺跡鎌倉税務署地点出土と同じ文様のスタンプ文漆器が出土しており、14 世紀前半の土坑墓群であることが判明している。1 号土坑墓からはロシア共和国ルダンニコーフ墓群と同形態のメノウ製襖玉と入組文を有するガラス玉、北宋銭主体の古銭、和鏡の鏝形再加工品からなる道内最古の「タマサイ」が出土している。3 号墓からは日本刀 1 振と飾り矢筒の銀象嵌装飾部分（九曜文）や内耳鉄鍋が出土している。これら 1 号・3 号墓は棺板材の出土や堆積状態、遺物の出土状態から木棺を伴う埋葬方法であったことが判明している。

これらの成果は、発掘調査時の樽前 b テフラ下層の黒色土層における層位的見解や遺物出土状態、炉跡出土の炭化種子年代測定から中世段階のものである。17 世紀代の遺物である煙管や寛永通寶は 1 点も出土しておらず、本地区の様相が一変することとなる。

C 松浦武四郎の記録とアイヌ語地名

本町におけるアイヌ語地名を詳述しているものは、江戸時代末期の安政 5(1857)年に厚真を訪れた松浦武四郎の『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌・安都摩日誌』（松浦・吉田 1962、松浦・高倉・秋葉 1985）が最も古い記録で、本地区に係る地名としてはヲチャラセナイやカニシユウ（現一里沢遺跡）、ヲニケレベ（現オニキシベ）、シヨウロマ（現シヨロマ）などが記載されている。また、『厚真村史』にも松浦武四郎が記録した地名を元に語源等について詳述しており、アイヌ語地名解は知里真志保氏の監修によるものである（厚真村 1956）。

松浦武四郎の安都摩日誌における本地区には集落（コタン）、集落跡（フシココタン）の記述はなく、鷲鷹猟や鹿猟に係る記述に留まる。19 世紀には無人地域であり狩猟や夕張川筋や鶴川筋への山越えのルートにあったことが読み取れる。このことは平成 14 年度より発掘調査を行いアイヌ文化期の遺構遺物が多数出土しているにも関わらず、厚幌 1 遺跡や上幌内モイ遺跡において樽前 b テフラをほぼ直接被覆する大木に伴う送り遺構（厚真町教育委員会 2004・2009）のみの検出であり、煙管や寛永通寶などの近世を示す遺物が皆無であることとも符合する。

ヲチャラセナイは本遺跡名となった地名で「小川にして高山の間に滝川に成りて落るより号し也。ヲチャラセは滝川に成て有ると云儀のよし也。」と記述されている（松浦・高倉・秋葉 1985）。本遺跡西側に開析する無名沢を指し、水量は少ないが通年の流水を保ち、厚真川との合流点には滝壺がある。水源は標高約 300m の山頂付近にあり、周囲の山頂の中でも最も高い。語源は「ヲ・チャラルセ・ナイ」＝「川口が・細い滝をなしてすべり落ちている・川」とされている（亀井 1978）。しかし、

安都摩日誌におけるチャシ跡に係る記述は無く、『東西蝦夷地山川地理取調地図』中に海岸部において「ライチャシノシケ」が示されているに過ぎない。本チャシ跡が17世紀をはるかに遡る時期に構築、遺棄されたとも想定できる。

ヲニケレベは本遺跡対岸の支流鬼岸辺川筋の地名であり、「右の方に同じく小沢也。此川すじ楡皮多く有るよし。よって号とかや。此辺え来りしや兩岸岨々として本川すじは皆赤崩平のみ也。」と記述されている(松浦・高倉・秋葉 1985)。語源としてオニキシベ「入口で・木を・削り・つけている・もの」とあり、「シナの木(オヒョウニレ)より樹皮を剥き採る場所」を意味するという(厚真村 1956)。

カニシユウは、日誌記述の順序等の内容より現在の一里沢となる。鉄鍋の残地伝承と「其処に木幣を立てて祭り有る也。」とイナウを祀っていたことが聞き取りにより記され、3穴の吊耳鉄鍋のスケッチも書き残されている(松浦・高倉・秋葉 1985)。一里沢口の河岸段丘上に立地する一里沢遺跡では平成14年に本事業に係る試掘調査際に未被熱の獣骨が出土しており、アイヌ文化期の包蔵地であることが既に判明している。苫小牧駒澤大学蓑島栄紀教授は一里沢の記録や上幌内モイ遺跡の円形周溝遺構やヲチャラセナイチャシ跡の存在から、この地区がかねてより聖域的な地区であったと推定している(蓑島 2005)。

シヨロマ(現シヨロマ川)は一里沢対岸で本遺跡の北東へ直線距離約850mの地点で、厚真村史では「草ソテツの群生するところ」(厚真村 1956)とある。「西岸川巾五六間、急流岨々たる山の間より落来るとかや。是滝川に成るより号るとかや。」(松浦・高倉・秋葉 1985)と記され、現在の地形等と一致する。このシヨロマ川流域には「マヤツチセ 是冬分鷲、熊等を取りに来りし時の小屋なりと、ヤツチセは木皮にて作りし名(家)也。」。「ベンケヤツチセ 木皮葺の家と云儀のよし也。是も獵師の立置処と云り。是より上高山はなけれども簇々と小山のみつゞき、其うしろはユウハリのソウホコマナイのうしろに当たるとかや。」とあり、シヨロマ沢がワシタカ類、ヒグマの狩猟場であり、夕張川筋への山越えルートであった可能性が高い。また「此川すじ魚類は鱒・鮭・桃花魚・雑喉等なりとかや。」とありマス・アメマス・ウグイなどの棲息魚類についても書き残している。武四郎は下流・中流域の支流小河川等においても棲息魚類の記録を残しているがサケに係る記録が一切ない。現在でも厚真川ではサケの棲息はごく少数に限られており、かつてよりサケの遡上が少ない河川であったことが伺える。このことは、発掘調査でフローテーション法における焼骨片の魚類椎体でもサケと思われる試料が少ないこととも一致している。

厚真川流域、特に上流域には支流河川が多数あり、それぞれにアイヌ語地名が付され日誌中に記されている。厚真川上流域では擦文・アイヌ文化期の包蔵地も多数あることから、松浦武四郎の日誌を証左することは、考古学的調査成果を補足し、より総合的な地域史、より真実に近い地域史をとらえるうえで重要な資料となっている。

D アイヌ語地名と内陸ルート

安都摩日誌では、聞き書きや地名そのものから当時の交通ルートを読み取ることもできる。また、そのルートを基盤に明治・大正年間の道路整備計画が成されることも他の地域においても多々ある。大正年間に厚真で初めて作成された全町域の道路計画図である「厚真村村道計画路線図」(図I-9)には厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川よりむかわ町穂別市街の北側へ続く計画路線が記されている。大正5年測図の地形図にはこのルートに幅1m以下の道も記載されている。厚真側のメルクン

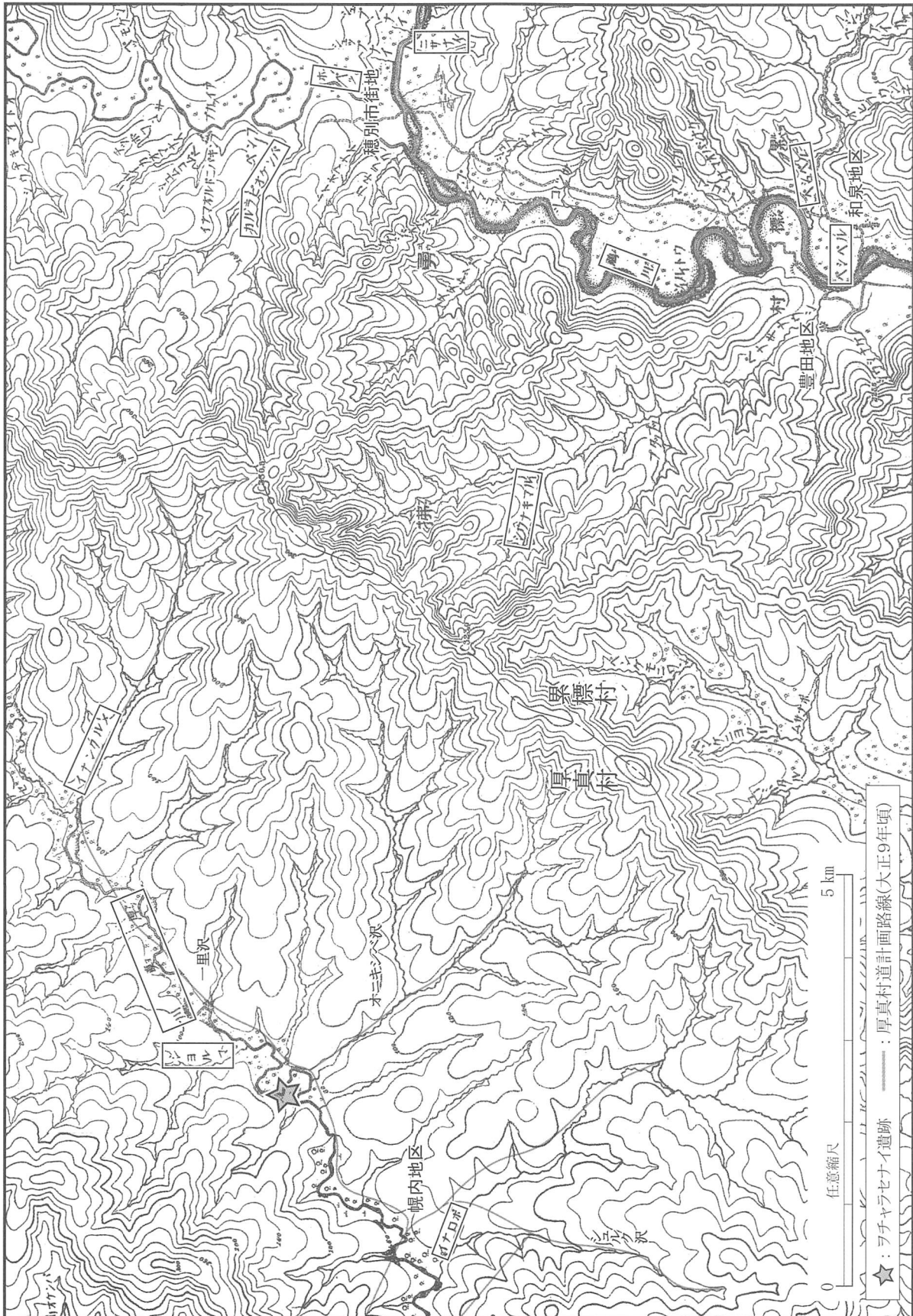


図 I-7 厚真川上流域と鶴川中流域の地形図 (明治29年発行 5万分の1「ライカルマイ」と「ルベシベ」の統合を50%縮小)

ナイの語源は「水路をもつ沢」（厚真村 1956）とされ、筆者の踏査でも沢水の流れの中を歩いていくルートであったことから名づけられた地名と思われる。また、分水嶺を越えて鶴川水系穂別地区はパンケオビラルカ沢で、オビラルカは「川尻が・崖・路・の上」で、パンケオビラルカは「川下の・オビラルカ」と解されている（扇谷 2003）。分水嶺は地形図から読み取っても周辺地域で最も低平な鞍部でもあり、厚真川水系、鶴川水系に「ル」（路）の付く地名がセットとなっていることから、古来より利用されている山越えのルートと思われる。現在は室蘭開発建設部苫小牧道路事務所により早来一平取間を結ぶ「道道北進平取線」の敷設工事が進められ、分水嶺には「オビラルカトンネル」（未開通）が建設されている。なお、パンケオビラルカは穂別川のさらに上流に位置するむかわ町穂別稲里地区に所在し、厚真ダムからむかわ町稲里へ抜ける「炭鉱厚真川林道」と「中穂別林道」で結ばれている。

さらに、厚幌地区内のシヨロマ（現シヨロマ川）も厚真村史では「草ソテツの群生するところ」（厚真村 1956）とある。明治 29 年発行の地形図には「シヨルマ」と記載されており、かつては滝瀬の中を道として馬車で木材や木炭を運び出したこと、明治・大正期の夕張山地への熊狩の記録（厚真村史 1956）から、夕張川水系滝ノ上地区於兎牛（おそうし）へのルートが想定できる。ソ（滝）・ル（路）・マ（泳ぎ渡る）とも読み取れるのではないだろうか。現在は「厚真川林道」で通り抜ける事が可能である。

これらのルートは厚真川本流と鬼岸辺川との合流点付近で 1 本となり、対岸に位置するヲチャラセナイチャシ跡は早来方面と穂別方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点でもある。先述のオニキシベの語源「入口で」とはこれらの山越えのルートを指し、ヒトやモノの流れにおいて厚幌地区が重要な位置にあったことも容易に想定される。

3. 調査区内の地形と地質

ヲチャラセナイ遺跡は平成 20 年度から発掘調査を実施しているが、今回は平成 20～22 年度調査区について記す。遺跡が立地する河岸段丘面は標高 57～59m の低位段丘面との標高 68.5～76m の高位段丘面との 2 面に大きく区分される。いずれも、標高約 190m の尾根から南東方向へ張り出す山体の先端部にあたる。

低位段丘面は発掘調査において B 地区とし、調査面積は 1,078 m² となる。上幌内モイ遺跡の河岸段丘面を標準地とした段丘面区分（出穂 2007）に従うと火山灰の堆積や標高から T₁ 面に相当し、この段丘面全域を発掘調査の対象とした。Ⅲ層上面の大部分が近現代の削平を受けているものの、地形的には高位段丘面の先端部に前面に隣接している。狭小であることと背後の高位段丘面との段丘崖が 35～40° 前後の急傾斜地を形成しており、Ⅴ層黒色土や樽前 d テフラの流出土砂によって本段丘面は扇状に緩い傾斜を有している。堆積状況では B 地区には樽前 d テフラの堆積が認められず、樽前 c テフラの降下層序の堆積が認められる。基盤は灰褐色シルトでこの直上のⅥ層漸移層より中茶路式土器などが多量に出土しており、樽前 d テフラ降下以降の離水直後、厚真川の川辺で当該期の活動があったものと思われる。

高位段丘面の A 地区は樽前 d テフラのフォールユニットが全面を覆い安定的に堆積している。Ⅲ層上面で標高 68.5～76m の範囲で上幌内モイ遺跡における T₃ 面の標高幅と概ね一致する。本段丘面全域を調査対象とし、平成 24 年度までの調査面積は 13,616 m² となっており、本地区において T₃

面で最も広い段丘である。段丘面は背後の段丘崖を開析する沢状地形などからの流出層の再堆積によって段丘先端部側へ傾斜を有している。調査区内においても標高 68.5~76m の南東方向へ平均で約 4° の傾斜を有し、先端部側 (AD-17 区付近) では傾斜角は約 1° とほぼ平坦な地形に対し、段丘面基部 (K-29 区付近) では約 6° の傾斜角である。これは恵庭 a 軽石を含む水成堆積構造を残す河岸段丘堆積物 X 層 (図 I-9) の上層に背後の高位段丘面、段丘崖から供給された斜面堆積物 IXb~IXe 層が堆積したことによるもので、先端部側 TR-05 では 1.2m、基部側の TR-04 では 1.5m の層厚となる。斜面堆積物はしまりが弱く、ボール状の恵庭 a 軽石やシルト岩角礫をを含むものの明瞭な層序区分は難しい。なお、上幌内モイ遺跡の旧石器出土地点は本遺跡と同じ堆積物層序が確認でき、上幌内モイ遺跡の旧石器人は厚真川の川辺で焼土を残しているものと思われる。

上記 2 面の段丘面の地形形成について記したが、厚真川本流に接していないことや本地区においても比較的古い段階に離水形成し、安定した段丘面であるものの、旧石器遺物包含層の確認トレンチでは、上幌内モイ遺跡 (厚真町教育委員会 2006a) における旧石器遺物包含層と同質の粒度が均質で極めて硬質な黄褐色ローム質土層は確認されていない。

なお、本遺跡では平成 23 年度の確認調査で樽前 d テフラより下層のローム質土 IX a 層より、黒曜石製の無形石鏃 1 が出土している。

樽前 d テフラより上層の黒色土については先端部側で層厚を減じる傾向があるものの、調査区西側の T3 面-T4 面段丘崖裾の基部側では黒色土がやや厚く発達している。先端部側は日照条件が良いものの、北西や南西の風が強く吹いているためではないだろうか。また、調査区の西壁面においては、不連続ではあるものの白頭山苫小牧テフラ (10 世紀前半降下) や駒ヶ岳 C2 テフラ (1694 年降下) の堆積も確認できる。

(乾)

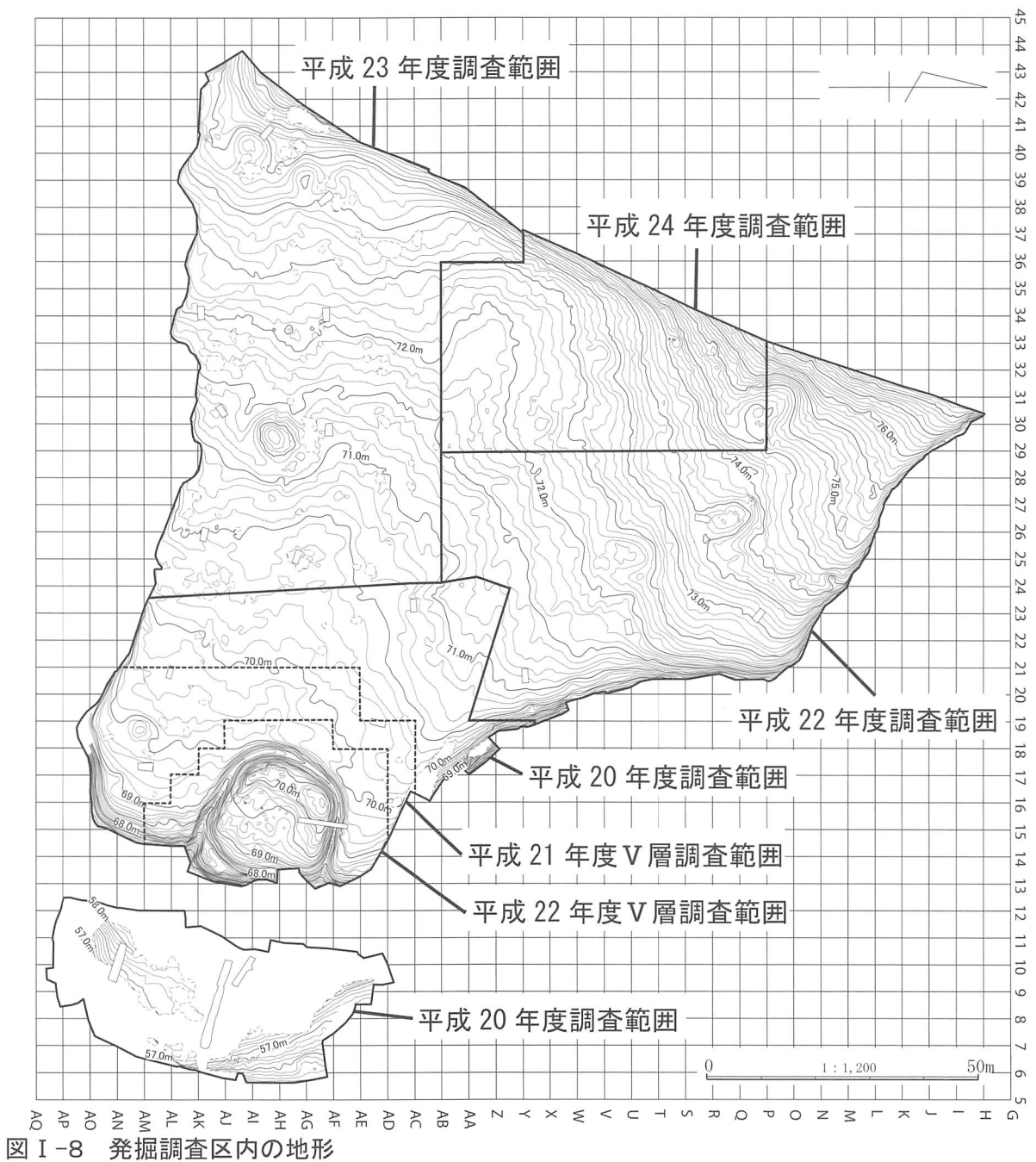


図 I-8 発掘調査区内の地形

〔基本土層〕

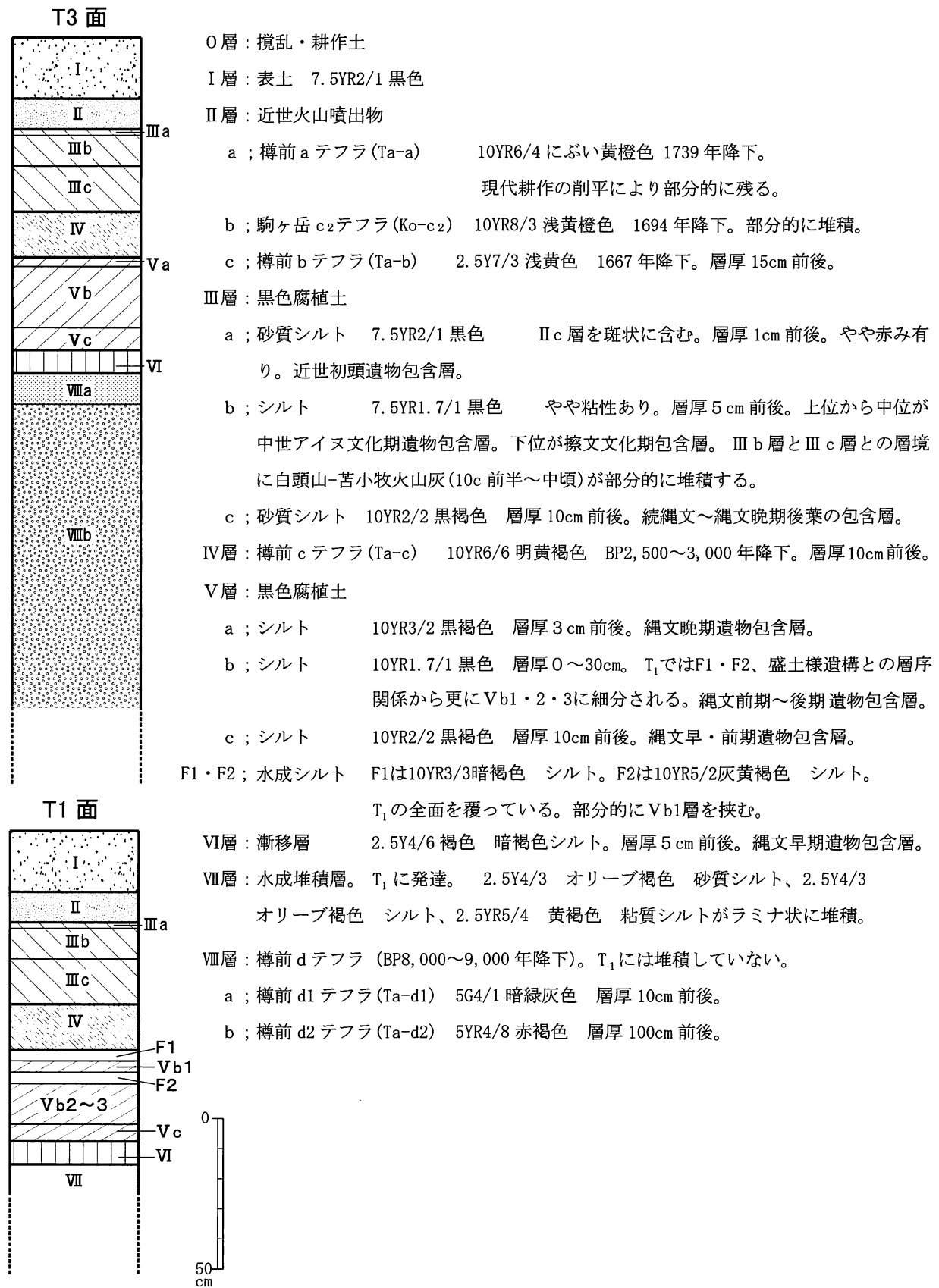


図 I-9 基本土層柱状図

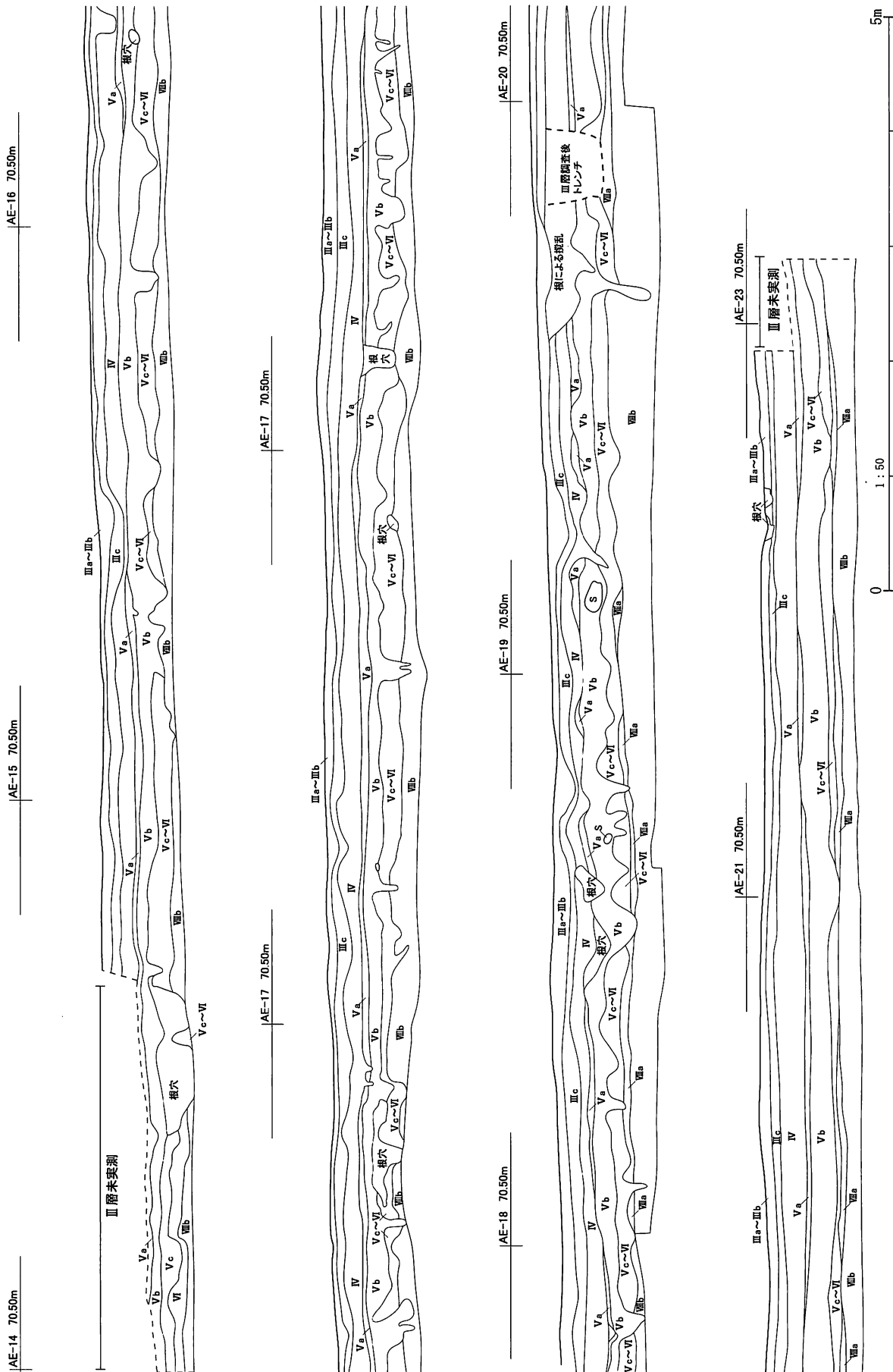


図 I-10 AEライン土層断面図(1)

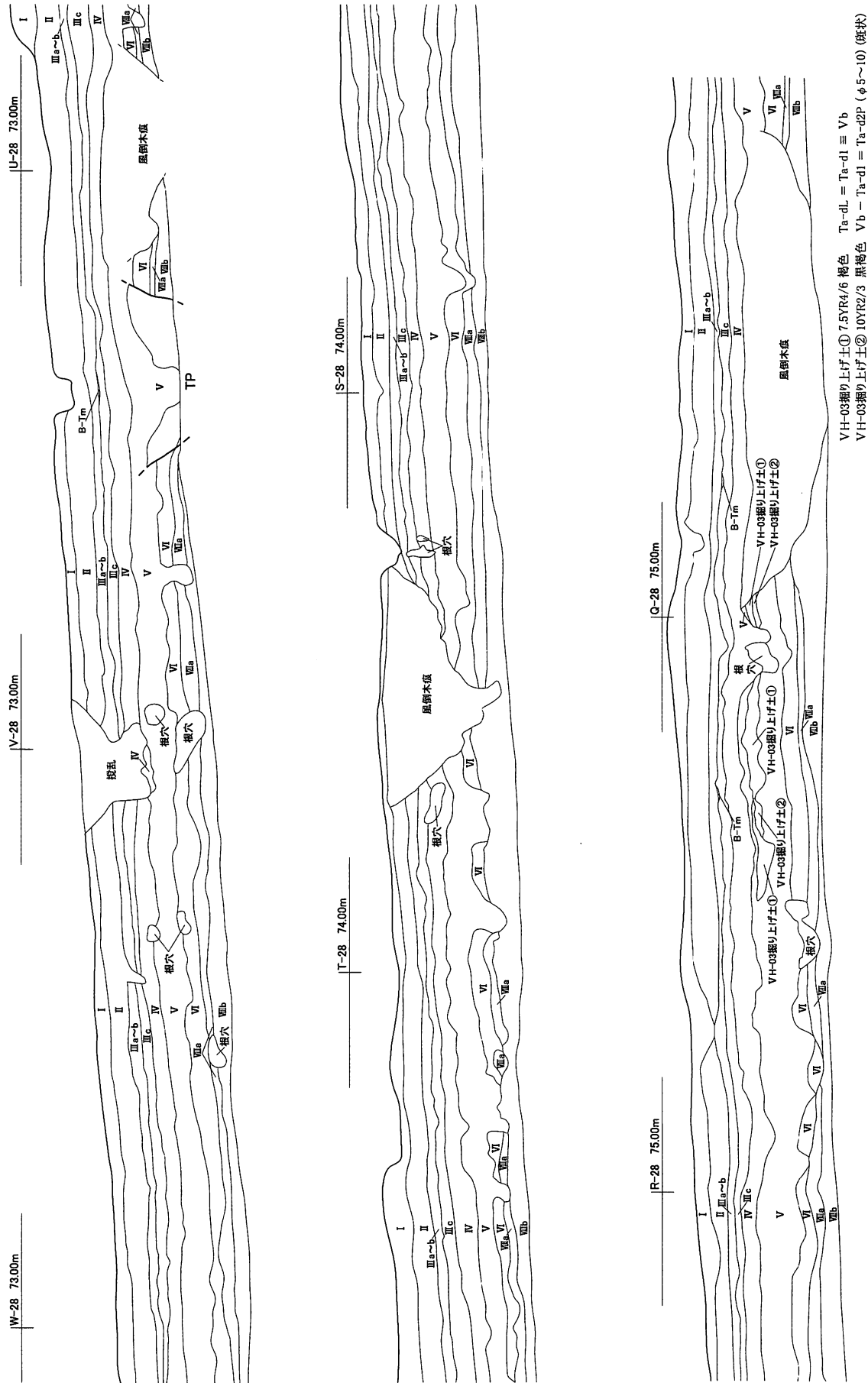


図 I-14 28 ライン土層断面図 (2)

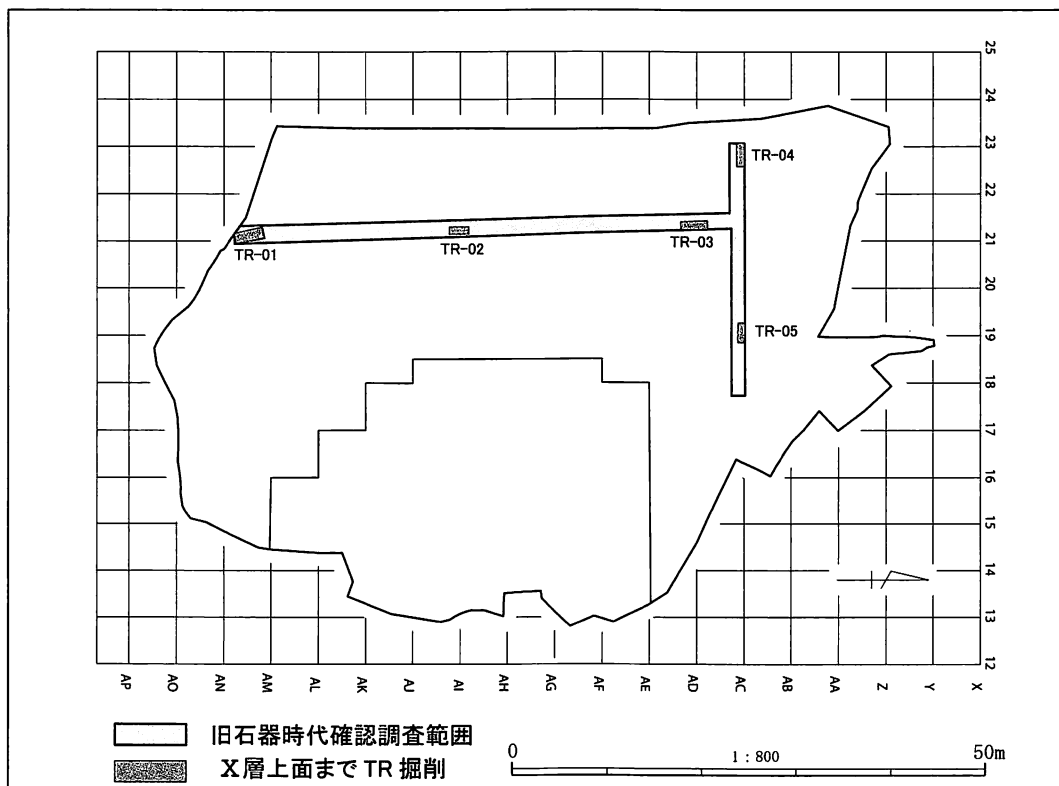
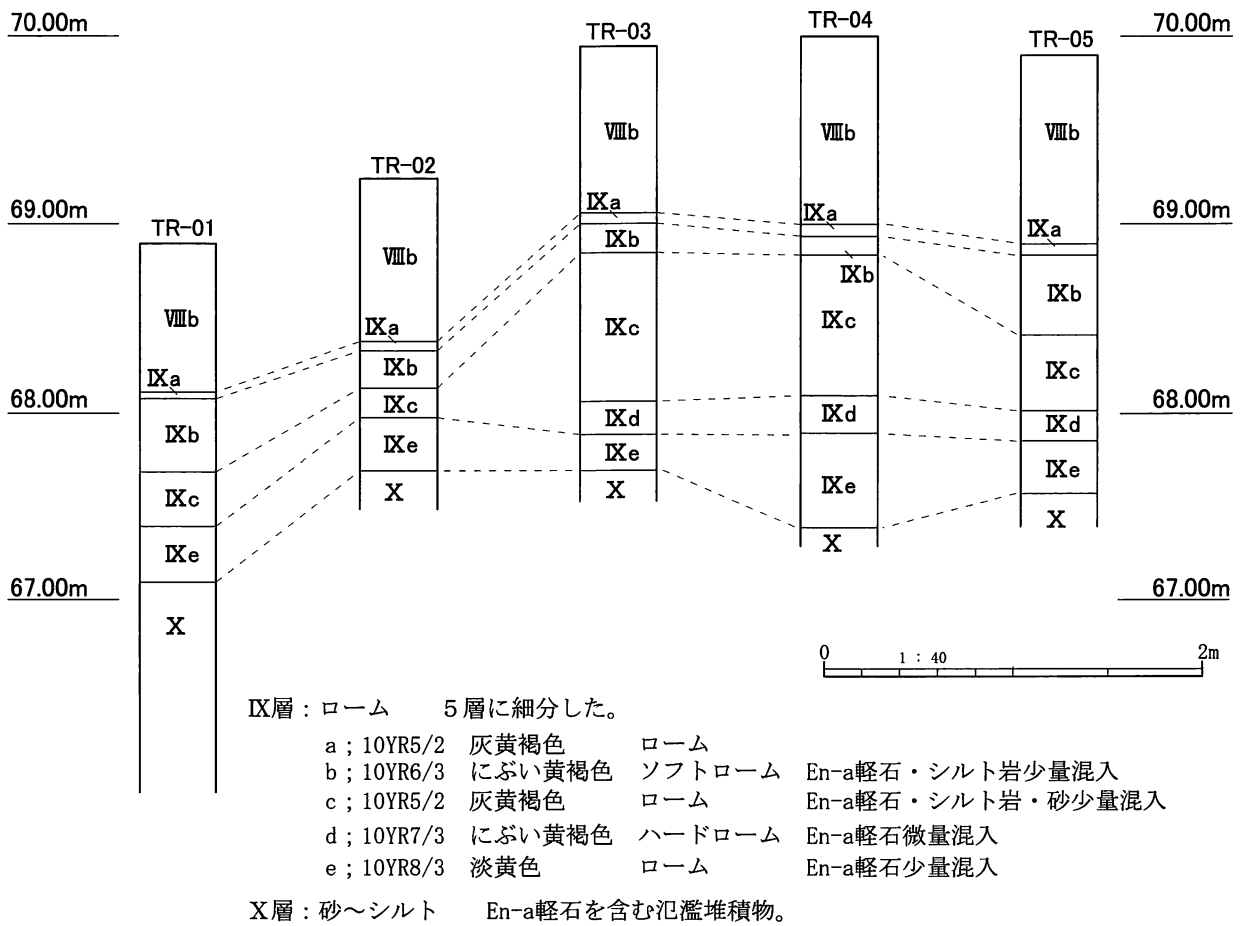


図 I -15 旧石器時代確認調査範囲及び区層土層柱状図

第Ⅱ章 ヲチャラセナイチャシ跡の調査

概要

ヲチャラセナイチャシ跡は T_3 面の標高 70m 程の先端部に立地している。1 条の壕で区画されており、丘先式のものである。 T_1 面との比高差は約 13m である。チャシ跡全面が 1,667 年降下の樽前 b 火山灰に覆われており、この火山灰の除去後に黒色土を 3~4 cm 程掘り下げたところで土塁の上面等を検出している。

壕は 1 条で、新旧 2 期あることを確認しており、平面形は U 字状から C 字状に造りなおされる。

この壕で区画された内郭に壕の掘り上げ土を盛って土塁としており、表面は最終的に樽前 d 火山灰で覆われて、チャシは全体的に赤くなっている。また、土塁は後背地側の壕に沿って三日月状に高くなっている。但し、これは左右対称とはなっておらず、南側は幅が狭く、北側は幅が広がっている。これは後述する溝跡 2 及び柱穴列 B に関わるものと考えられる。

内郭の中央で、この土塁に囲まれて平地式建物跡が発見されている。建物跡の中央には炉跡が重複してあり、壕と同じく新旧 2 期あることを確認している。炉跡からは焼骨片がまったく得られていないことや、炉跡が 1 ヶ所であることはヲチャラセナイ遺跡の他の平地式住居跡とは異なる。主柱穴は 8 本確認しているが、これも他の平地式住居跡とは柱の配置が異なるものである。また、柱は太く、深く打ち込まれている。これらのことから、通常の平地式住居跡とは構造が異なるものであり、機能や用途も異なるものであったと想定できる。また、建物跡の壁際に沿って炭化材を検出していることから、焼失建物跡と考えられる。

この平地式建物跡と三日月状の土塁の間より、溝跡 1 及び柱穴列 A を検出している。これらは共にコの字状で、近接していることから一連のものと思われる。溝跡 1 については、土塁の土留め板を埋めるためのものと想定している。柱穴列 A は溝跡 1 と場所によってはやや離れる所がある等、その上部構造については不明である。但し、柱穴には下記のような特徴がある。柱穴は太く、1m 以上深く差し込まれているものが殆どである。柱の表面を炭化させ防腐処理を行ったと思われるものがある。

溝跡 2 と柱穴列 B も位置関係より一連のものとして捉えている。溝跡 2 は溝跡 1 と同様の特徴をもつもので、土塁の土留め板を埋めるためのものと想定している。また、これらの遺構の内側の土塁上面は平坦であることから、何らかの施設があったと思われるが、上部構造や機能・用途を推測するに至らなかった。

溝跡 3~5 は板等を埋設していた痕跡はみられない。

土塁の下からは削平跡とした、不整形の大きな掘りこみを確認している。これは、壕の掘り上げ土で土塁を築く前に、溝跡 1 等の土留め板の根固めを行う際の土を確保した時の痕跡と考えられる。

チャシからは時期が明確に捉えられる遺物は出土しておらず、遺物からの時期の推定は困難である。平地式住居跡の炉跡から得られた炭化種子、焼失建物跡の炭化材、柱穴列 A の炭化した柱材等の AMS 年代測定を 6 点行った結果では 12 世紀後半~13 世紀後半の年代が得られており、炉跡の炭化種子では 13 世紀前半~後半の年代が得られている。

第1節 チャシ跡

チャシ〔CHASHI〕（図Ⅱ-1～16、カラー図版 2・3、図版 5～12）

位置：AE-14～16、AF-12～17、AG～AI-13～18、AJ-13～17、AK-13～15 区

規模：〔全体〕25.7m×24.2m 〔内郭〕20.3m×18.6m

遺構の用語（図Ⅱ-1）

〔壕 A〕 第1期の壕。平面形はU字状（馬蹄形）を呈する。

〔壕 B〕 第2期の壕。平面形はC字状を呈する。大部分は第1期の壕 A をそのまま利用し、壕 A の南端部で北側に壕を延長している。その際の掘り上げ土で壕 A の一部を埋めている。

〔内郭〕 壕と T₃-T₁の斜面によって区画された内部。

〔内郭平地式建物跡〕 内郭の中心に位置する平地式の建物跡。

〔土塁 A〕 内郭に位置し、平面形が三日月状を呈する。土塁 B よりも一段高い。

〔土塁 B〕 内郭のほぼ全面に広がる。

〔土塁 C〕 内郭平地式建物跡の東側に位置し、建物跡の東側壁面に沿って堤防状に一段高い。

〔土塁 D〕 壕 A と B の切り替え部付近の郭外に位置する。

〔土塁 E〕 壕 B の郭外、斜面に広がる。

〔掘り上げ土 A〕 壕 A を埋める。上部は現代の攪乱により削平を受けている。

〔西側土塁平坦面〕 土塁 A の中央に位置する平坦な面。

〔土塁崩落部〕 周囲の土塁は Ta-d2 で覆われているのに対し、この部分は Ta-d2 が見られない。

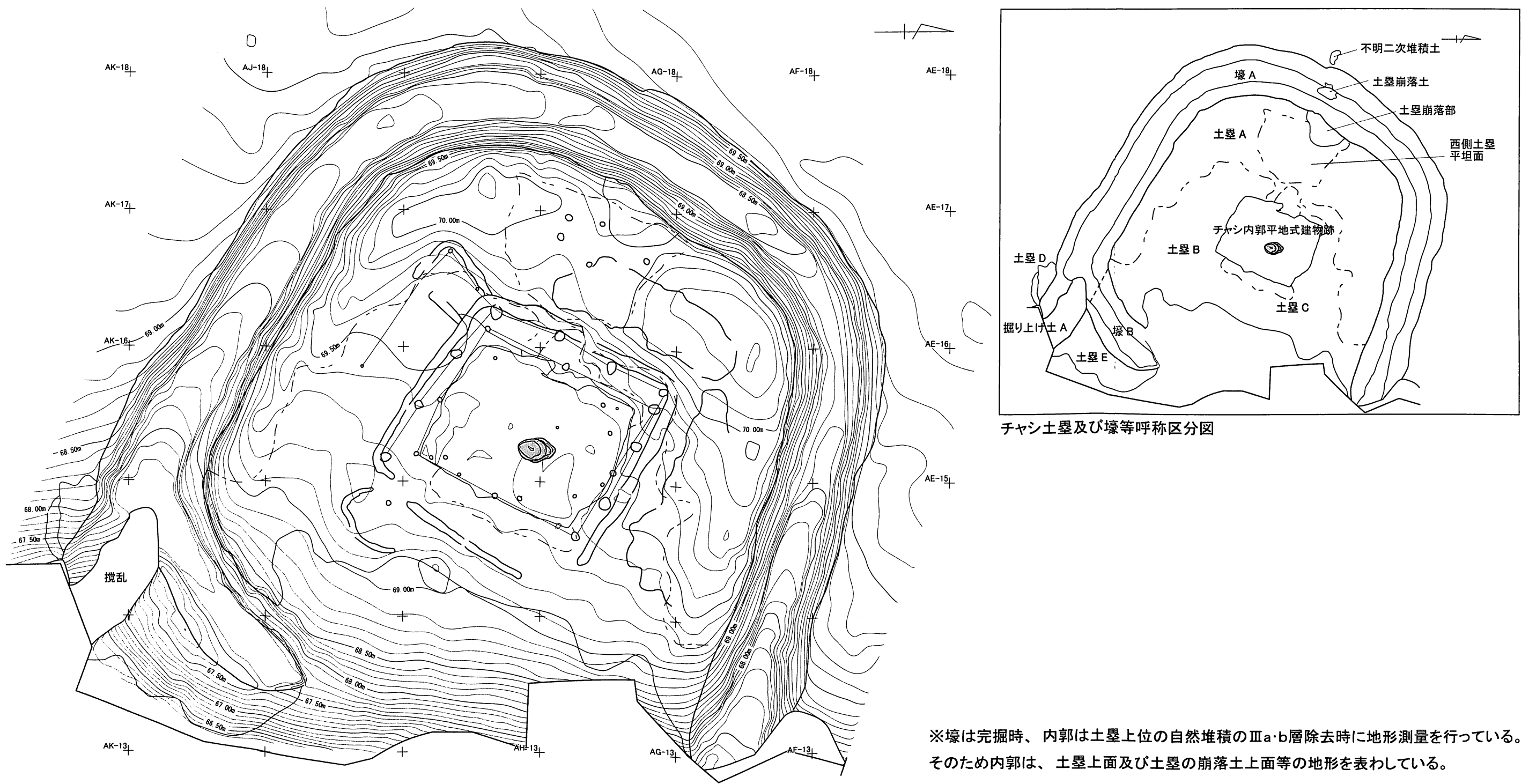
〔土塁崩落土〕 壕の覆土上部にブロック状に厚く堆積する Ta-d2 主体の土層。土塁崩落部からの崩落土と考えられる。

〔不明堆積土〕 郭外に位置する性格の不明な人為的堆積土。

確認・調査：チャシ跡の調査は平成 20・22 年度の 2 ヶ年で調査を行っている。平成 20 年度の調査では、壕の完掘、内郭の土塁等の検出及び平地式住居跡の一部の調査を行っている。平成 22 年度は土塁の調査を行い、土塁の下位で溝跡、柱穴列、削平跡等のチャシ跡に付属する遺構の調査を行っている。また、平成 20 年度から引き続いて内郭平地式建物跡の床面の検出と、支柱穴の調査を行っている。以下では、年度ごとに記載を行う。

平成 20 年度の調査では、試掘調査の結果より、樽前 b 火山灰降下以前のチャシ跡であることが判っていたので、他の調査範囲と同様に樽前 b 火山灰までを重機で除去している。但し、壕の立ち上がりや、土塁等を傷めないように、樽前 b 火山灰をやや厚く残すなど、細心の注意を払って行っている。残りの火山灰を人力で除去した後、この面でチャシ跡を含めた調査区全面の空中撮影と地形測量を委託している。チャシ跡の大部分は樽前 b 火山灰で覆われており、遺存状態は良かったが、チャシ跡南東部の壕付近は、壕の窪みを利用したと思われる、近現代の作業道が作られており、その攪乱で壕 A の南端は壊されている。また、壕 A の北端付近も現代の作業道を造るのに重機等で切り盛土され壊されている。

チャシ跡の長軸に合わせ十字にベルトを設定し、更に北西・南西・南東ベルト間に各 1 本のベルトを設定している。また、壕の部分にはそれ以外に 3 カ所ベルトを設定している。これらのベルトを残し、調査を開始した。

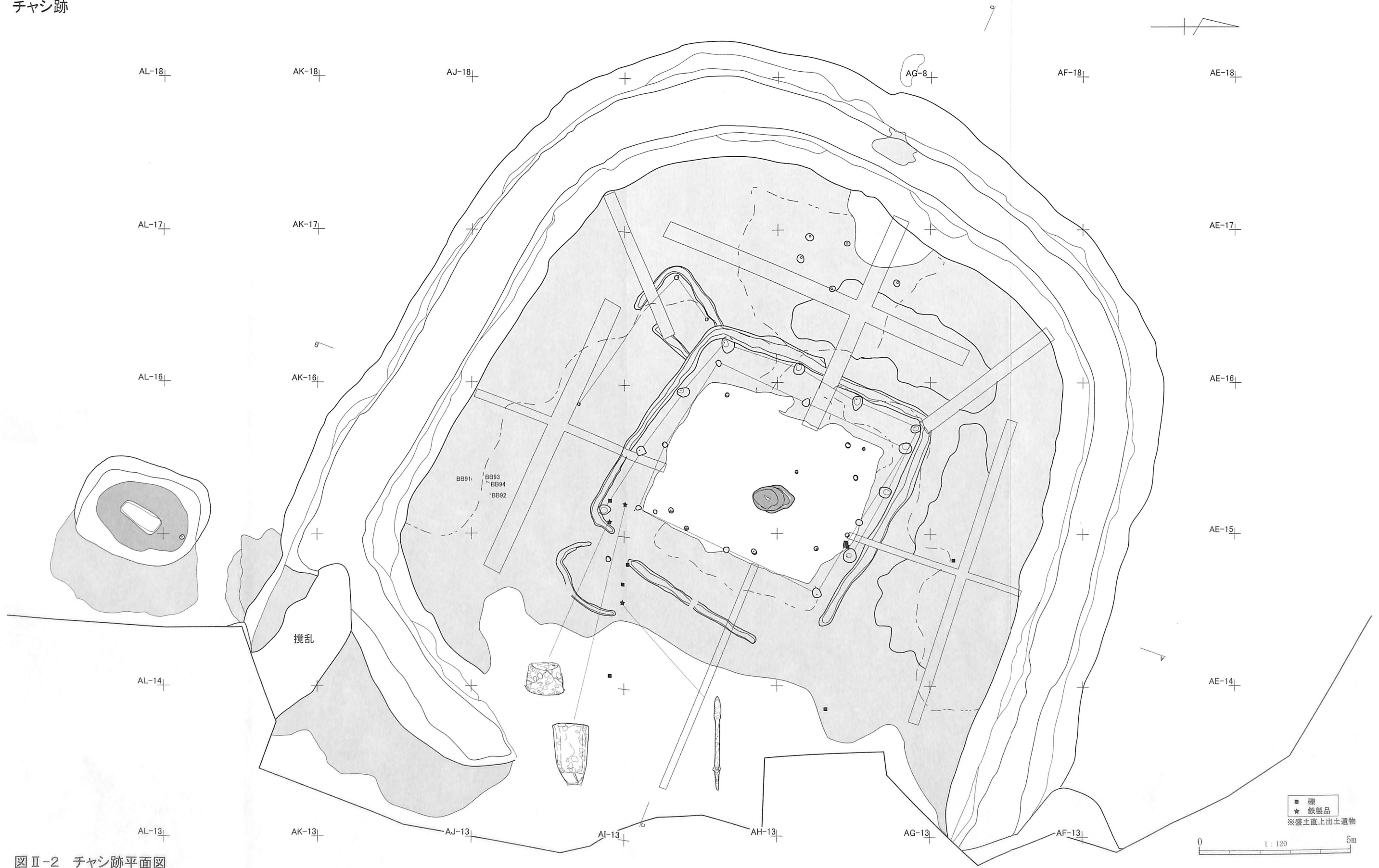


チャシ土壘及び壕等呼称区分図

※壕は完掘時、内郭は土壘上位の自然堆積のⅢa・b層除去時に地形測量を行っている。
そのため内郭は、土壘上面及び土壘の崩落土上面等の地形を表わしている。

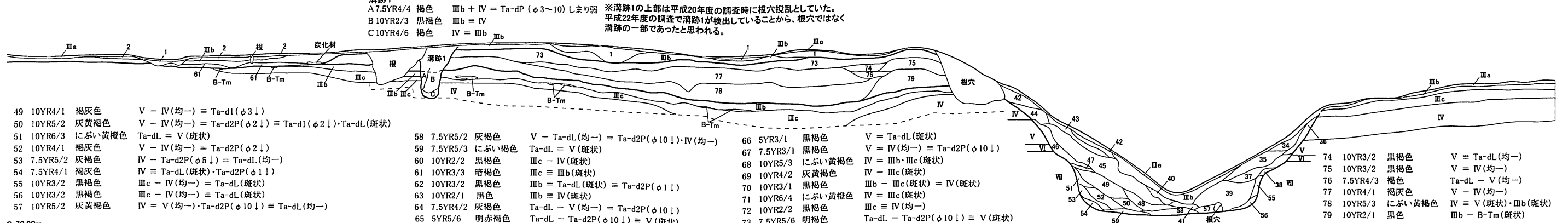
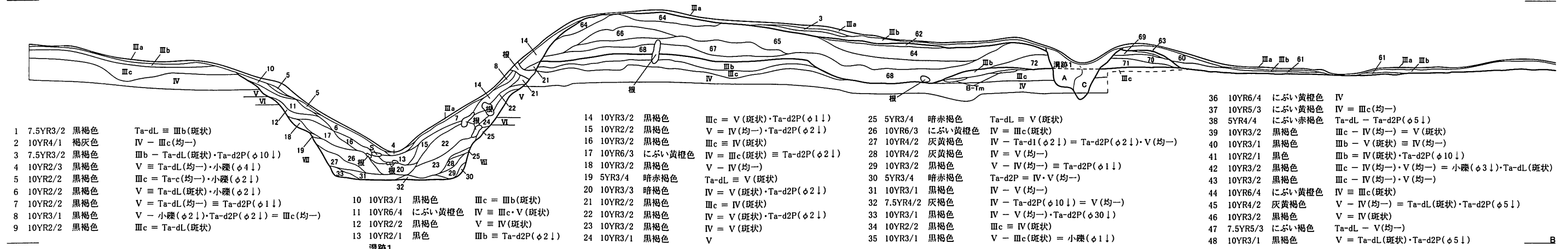
図II-1 チャシ跡検出時地形測量図及び呼称区分図

チャシ跡

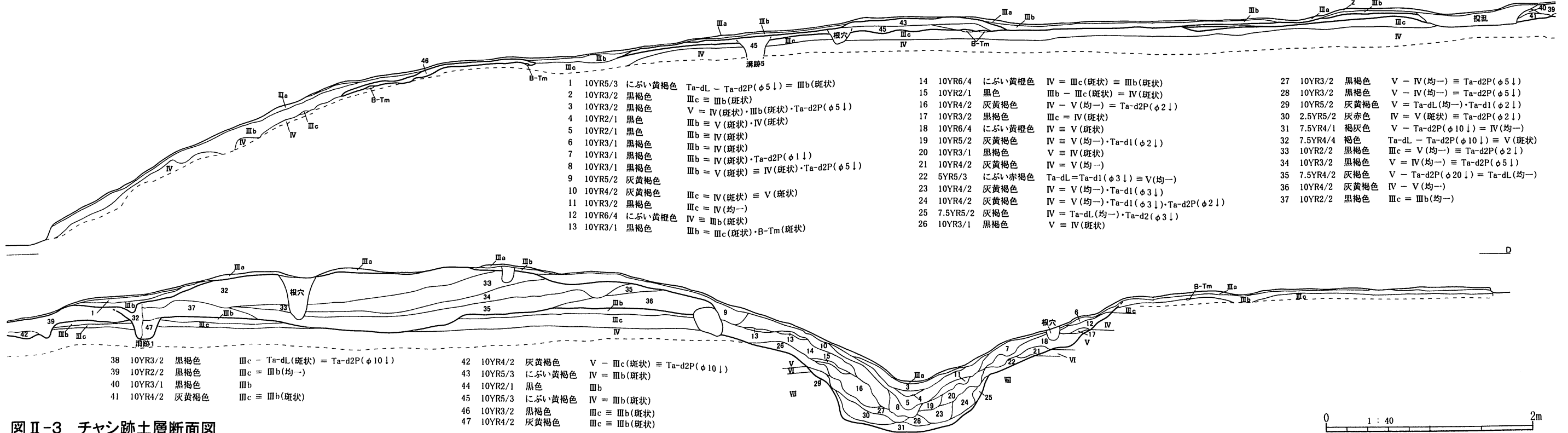


図II-2 チャシ跡平面図

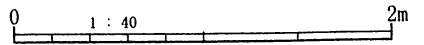
A 70.00m

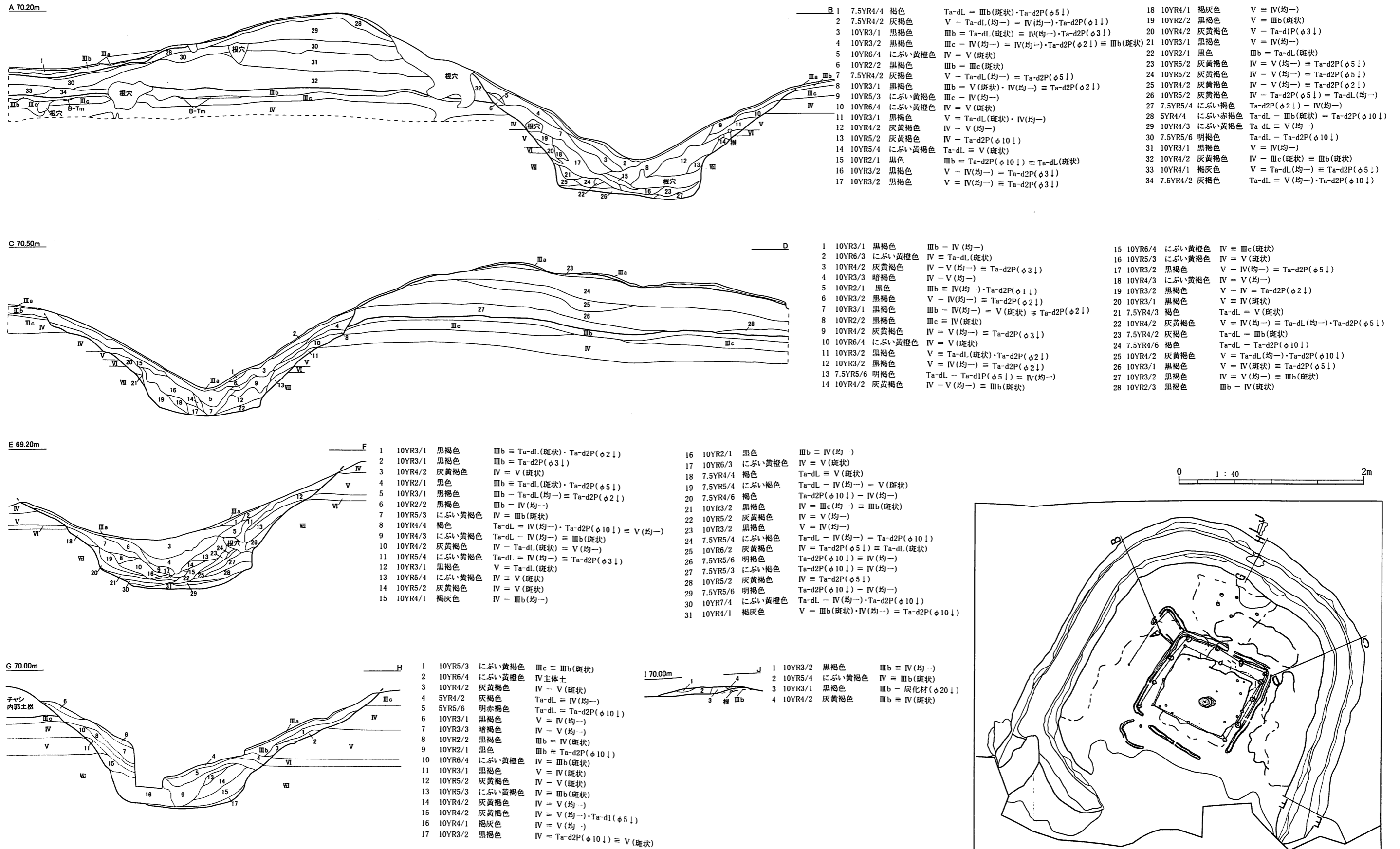


C 70.20m



図II-3 チャシ跡土層断面図





図II-4 チャシ跡壕A及び不明二次堆積土土層断面図

内郭ではⅢb層中で土塁(Ta-d2)の上面を確認したが、中央部では土塁が見られず長形状の落ち込みを確認した。この落ち込みに対し十字のベルトに沿うトレンチ調査を先行した。焼土を落ち込みのほぼ中央で確認したため、建物跡の炉であると考え、ベルトを残し床面の検出に努めた。南壁に沿って炭化材が並んで検出し、南東側の角で集石(CHA. SB01)が出土した。これらの出土位置を手掛かりに床面の検出を行った。この時点で建物内の付属遺構、出土遺物の平面図の作成を行った。

壕も同様にベルトを残し調査を進め、壕の底と壁面を検出した。壕Aの南端部で壕Bとの新旧関係を土層断面等から確認した。

内郭・壕の調査がここまで進んだ段階で、各ベルトの断面図を作成し、ベルト部分の調査を行った。チャシ跡全面を構築時の面まで調査した段階で、空中撮影の委託を行なっている。また、この面で地形測量を行った。

チャシ跡の構築時の面での撮影等を終了した段階で、盛土の土層堆積状況を確認するために土塁Aにトレンチを3ヵ所設けて調査を行い、断面図を作成した。内郭平地式建物跡も床面で調査を止めていたが、柱穴を確認するために炉跡を残し、床面より下位のⅣ層上面まで調査を行った。この面で柱穴を確認し、図化を行った。

これらの調査が終了した時点で、平成20年度の調査予定分の調査を終了し、トレンチを埋める等して養生を行った。

平成22年度の調査では、平成20年度に遺構の養生のために埋めた土の除去から行っている。その後、全面の清掃を行った。壕内部は特に養生を行っていなかったこともあり、平成20・21年の二冬を経て、崩落は著しかった。特に春先は、壕の底に溜まった雪の上にも、壁面の凍結融解によって生じた崩落土が厚く堆積する等、崩落が著しかった。チャシの使用時にもこのような壁面の崩落は起こったものと思われるが、今回の調査では、それを修復した痕跡等は確認されなかったことを追記したい。

調査は土塁の調査から行っている。この際、平成20年度に設定した東西のメインセクションをベルトとして設定している。土塁の調査は、レベルの高い部分より水平に掘削を行い、これを繰り返して、調査を進めている。この際、土塁上面で見逃した柱穴・杭穴がないか、精査を繰り返しているが、検出しなかった。土塁中からは少量の遺物が出土しており、縄文時代のものが殆どであった。

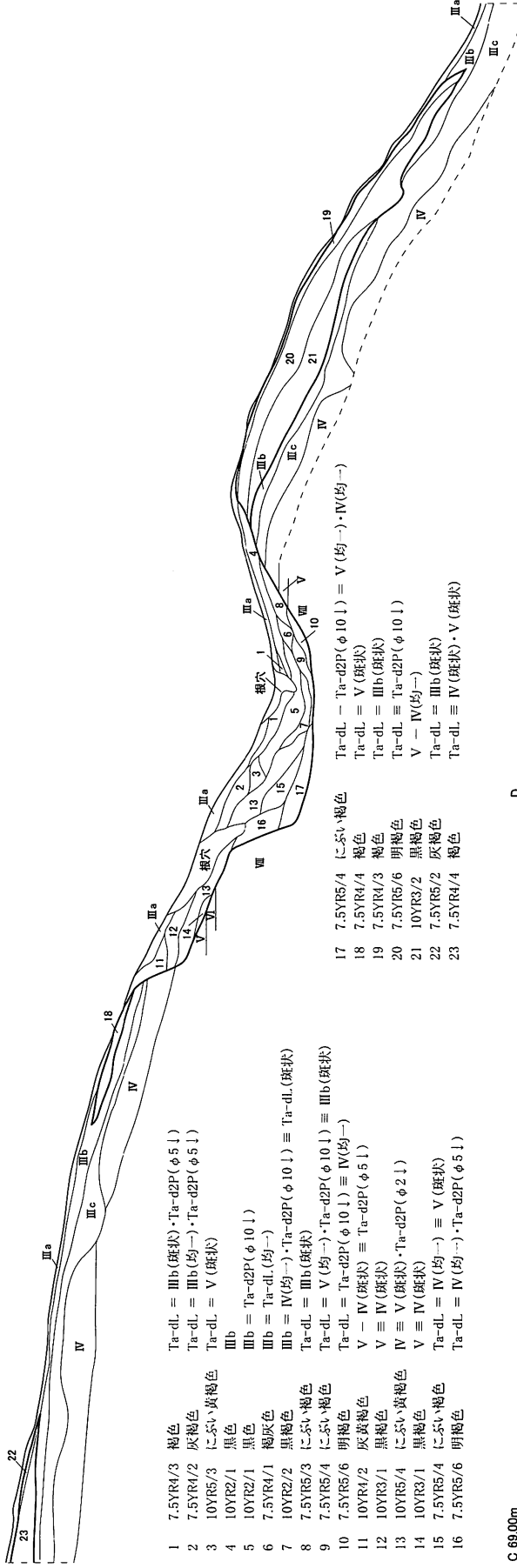
土塁の調査が終了したチャシ構築直前時の面で、複数の付属遺構の落ち込み等を検出している。

これらの遺構はベルトを数ヵ所に設定して調査を行っている。この際、重複するものや、密接関連すると考えられる遺構については、新旧関係や関連性を把握できるように努めて設定している。基本的には、このベルトを残して調査を進め、土層断面の記録後に完掘し、平面の記録を行っている。最後に、これらの付属遺構の調査が終了した時点で全体の撮影を行っている。

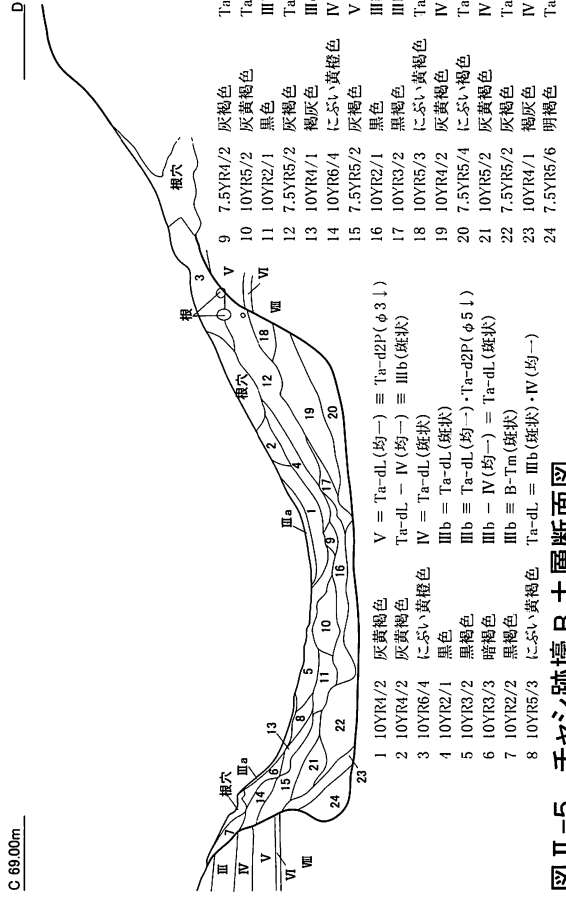
壕A(図Ⅱ-1~4)：平面形はU字状を呈する。総延長は両端部が攪乱によって壊されているが、残存部で58.5mである。上幅は3.0~3.6m、底の幅は0.7~2.0mと場所により幅が大きく異なる。上幅は崩落の影響により当時の形を残していないので、底の幅で見ると壕の北端から西側のコーナー付近までは比較的狭く、このコーナーから南端にかけて幅は広くなる。断面形状は先にもふれたが崩落の影響を受けて当時の形状を残していないが、壕に堆積する崩落土を見ると、当時は箱堀であったと考えられる。底は平坦である。最も標高が高いのは北西のコーナー付近である。これ

B

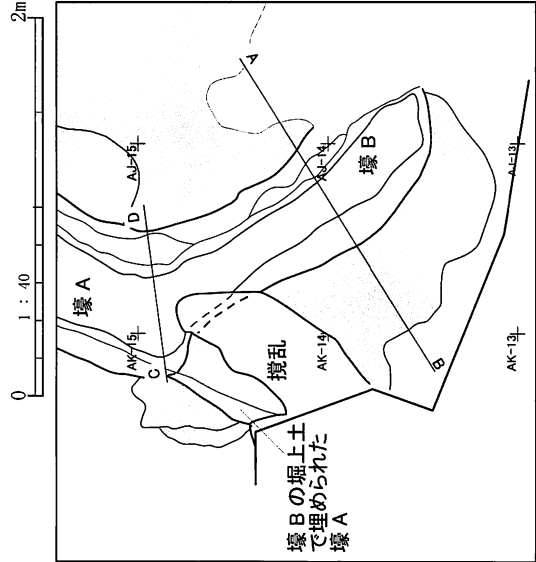
A 69.50m



C 69.00m



図II-5 チャシ跡壕B土層断面図



は周辺の自然地形と同様の傾向である。土塁下の黒色土上面（チャシ跡構築直前時の面）からの深さは約1.3m程である。覆土は基本的に壁面・土塁から崩落土・流入土、崩落等が休止し安定した後の自然堆積の黒色土で構成される。場所により崩落の規模・回数は異なるようである。壕A部分の土層断面は7ヵ所図化しているが、代表的と思われる3ヵ所の土層断面について以下に記載する。

図Ⅱ-3. A-B 北側の壕：31～33は底にほぼ水平に堆積し、各基本層が混入していることから、小規模な崩落もしくは流入によって堆積したと考えられる。21～30は壁面の崩落土と思われる。28はIV層・29はV層・30はⅢ層を主体とする土層で、基本層序と同様の順序で堆積し、壁面に沿って急傾斜で堆積することから、崩落の1単位と考えられる。21～25も同様の解釈がなされる。20はこれらの崩落が休止して安定し、周囲からの流入土等で緩やかに堆積したと思われる。14～19は壁面崩落土、もしくは流入により堆積したと考えられる。13は混入が殆ど見られないⅢb層なので、崩落等が安定し腐植土の堆積が発達したと考えられる。4～7は流入土と考えられる。

図Ⅱ-4. E-F：29・30、26・27、24、18～20、11、8・9はTa-d主体の土層で、それぞれIV層もしくはV層主体の土層と交互に堆積することから、小規模な崩落が繰り返された結果と考えられる。4はⅢb層主体で混入土が殆ど見られないことから、崩落等が休止して安定し、腐植土が発達したと考えられる。これより上位の3はIV層主体の土層で周囲から流入したと考えられる。

図Ⅱ-5. G-H：13～17は壁面崩落によるものと考えられる。11はV層、10はIV層、8・9はⅢ層、7はIV層、6はV層、4・5はTa-d主体の土層で、この層序は土塁を含む、土塁側壁面の層序と一致する。また、4・5の土層が硬くしめることから、4～11は土塁の壁面が短期間に崩落したと考えられる。この4・5は平面図で土塁崩落土として範囲を記録している。また、この供給源となったと考えられる部分を土塁崩落部として図示している。

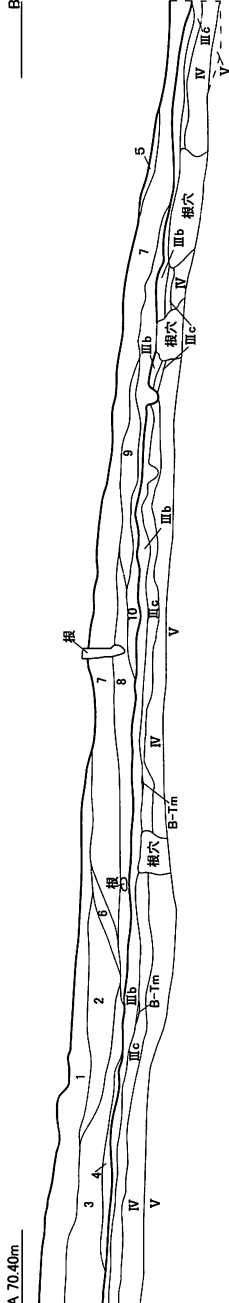
壕B（図Ⅱ-1～2・5）：平面形はC字状を呈する。壕Aの北端部からの総延長は62.9mで、追加延長された部分は8.9mである。追加部はT₃-T₁段丘崖の斜面中に構築されており、斜面のコンターラインに並行している。追加部の上幅は2.5～3.1mで、底の幅は0.9～1.5mである。追加部分の先端は幅が緩やかに狭くなってゆき、立ち上がりも緩やかである。底面は平坦で、追加部先端から壕Aの南端部に向かって僅かに低く傾斜している。土塁の項で詳細について触れるが、この壕の掘り上げ土で壕Aの南端部を埋めている。深さは上り斜面側の土塁下の黒色土上面から1.1mである。追加部の土層堆積状態は基本的に壕Aと同様なので、図Ⅱ-5. A-Bの記載は省き、壕A・壕Bの切り替え部付近の土層断面図Ⅱ-5. C-Dについてのみ記載する。

図Ⅱ-5. C-D：24はTa-d主体の土層で掘り上げ土Aの一部である。この部分が壕A埋め戻し部の端部付近である。21～23はTa-d主体の土層で、壁面もしくは土塁D・掘り上げ土Aの崩落土である。4～6は比較的混入の少ないⅢb層で、崩落等が休止し、黒色の腐植土が発達したと考えられる。

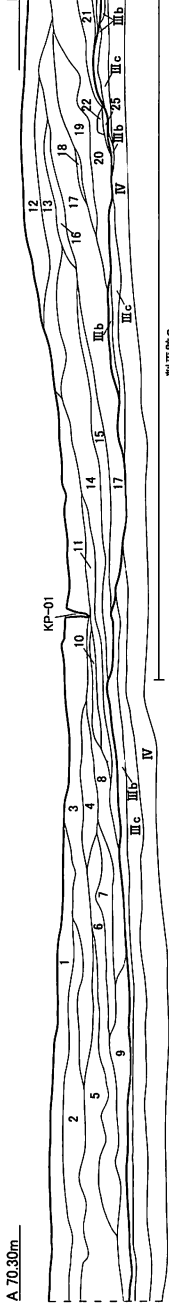
表Ⅱ-1 チャシ属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸 方向	規模(m)		内郭(m)		備考
						長軸	短軸	長軸	短軸	
Ⅱ-1～7	カラー 2・3	CHASI	AE-14～16,AF-12～17 ,AG～AI-13～18,AJ-13～17,AK-13～15	ⅢbM	N-24°W	25.7	24.2	20.3	18.6	

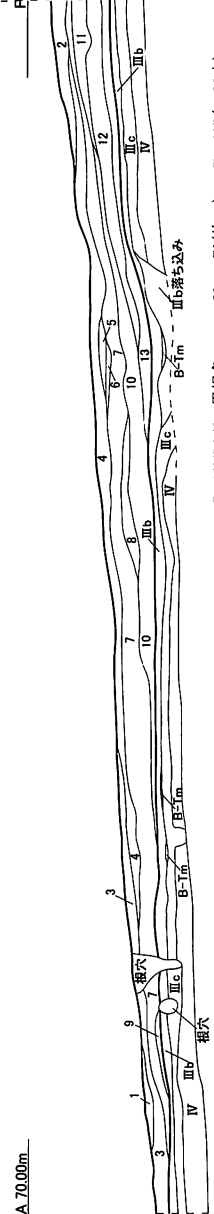
- 1 7.5YR4/6 褐色
- 2 7.5YR4/2 灰褐色
- 3 10YR3/2 黒褐色
- 4 10YR4/2 灰黄褐色
- 5 7.5YR4/2 灰褐色
- 6 7.5YR4/3 褐色
- 7 7.5YR4/6 褐色
- 8 7.5YR4/2 灰褐色
- 9 10YR3/2 黒褐色
- 10 10YR5/3 にぶい黄褐色



- 15 10YR4/1 褐灰色
- 16 7.5YR5/2 灰褐色
- 17 7.5YR4/3 褐色
- 18 7.5YR4/1 褐灰色
- 19 7.5YR3/2 黒褐色
- 20 10YR3/2 黒褐色
- 21 10YR4/2 灰黄褐色
- 22 10YR2/1 黒色
- 23 10YR2/1 黒色
- 24 10YR4/2 灰黄褐色
- 25 10YR5/3 にぶい黄褐色



- 1 7.5YR5/6 明褐色
- 2 10YR3/1 黒褐色
- 3 7.5YR5/4 にぶい褐色
- 4 7.5YR4/4 褐色
- 5 10YR3/2 黒褐色
- 6 10YR3/2 黒褐色
- 7 10YR3/1 黒褐色
- 8 10YR4/1 褐灰色
- 9 10YR4/1 褐灰色
- 10 7.5YR5/6 明褐色
- 11 10YR4/1 褐灰色
- 12 10YR4/3 にぶい黄褐色
- 13 7.5YR5/3 にぶい褐色
- 14 7.5YR4/3 褐色



- 1 7.5YR4/2 灰褐色
- 2 7.5YR4/2 灰褐色
- 3 7.5YR5/6 明褐色
- 4 7.5YR5/4 にぶい褐色
- 5 7.5YR3/1 黒褐色
- 6 7.5YR5/3 にぶい褐色
- 7 10YR3/2 黒褐色
- 8 10YR4/2 灰黄褐色
- 9 10YR4/2 灰黄褐色
- 10 10YR5/2 灰黄褐色
- 11 7.5YR4/2 灰褐色
- 12 10YR3/1 黒褐色
- 13 10YR6/3 にぶい黄褐色

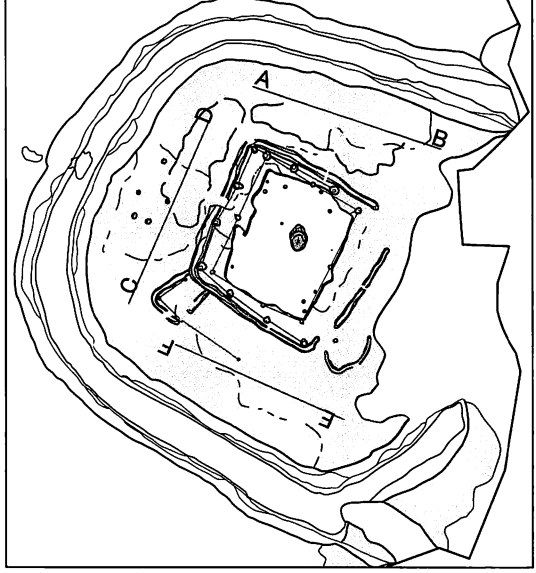


図 II-6 チャシ跡内郭土層断面図

表Ⅱ-2 壕属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(m)				備考
						全長	上幅	下幅	深さ	
Ⅱ-1~4	5-1~ 6	壕A	AE-14~16,AF-12~17, AG-16~18,AH-17・18, AI-15~18,AJ-14~17, AK-14・15	ⅢbM	U字状	58.5	3.0~3.6	0.7~2.0	1.3 (土塁高 さ除く)	
Ⅱ-1・2・5	5-7、 6-1・2	壕B	AE-14~16,AF-12~17, AG-16~18,AH-17・18, AI-13~18,AJ-13~17, AK-14・16	ⅢbM	C字状	62.9	2.5~3.1	0.9~1.5	1.1 (土塁高 さ除く)	

内郭(図Ⅱ-1・2・6)：壕と斜面によって区画された内部の平坦な面と定義しており、斜面側は標高68.5m付近を境界として捉えたい。その際、規模は20.3×18.6mで、平面形は隅丸形状を呈する。内郭からは内郭平地式建物跡、土塁A~C、西側土塁平坦面、溝跡1~5、柱穴列A・B、削平跡1・2等の遺構が検出している。ここでは、土塁A~Cについて記載する。

土塁A~C(図Ⅱ-3・6)：各土塁は、基本的に壕Aの掘り上げ土で構成されている。土塁Aは最も高いものであり、北西と南西の両コーナー付近が最も高くなる。チャシ構築直前のⅢb層上面から土塁の上面まで、厚い部分で90cmある。平面形は壕に沿う形状で三日月状である。但し、その形状は左右対称とはなっておらず、南側の土塁の幅は、北側のものに比べ狭くなっている。これは柱穴列B及び溝跡2で詳細について後述するが、土塁Aと内郭平地式建物跡の間に付属する施設があるためと考えている。土塁Bは内郭のほぼ全面に広がっており、厚さは約5cm程である。土塁Cは内郭平地式建物跡の東側壁面に沿って堤防状に一段高くなっているもので、最も厚い部分で15cm程である。

土塁は壕Aを掘削した順序に下から堆積している。つまり、下からⅢ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ層の順に堆積しており、土塁の表面はⅦ層のTa-d2で覆われており、赤色を呈する。土塁の土層堆積状態は図Ⅱ-6のA-B、C-D、E-Fから記載する。A-Bでは5~10と1~4で、それぞれⅢ~Ⅶ層の一つの単位と考えられる。この層の重なり方から、東方向から土塁を構築したことが明らかである。C-Dでは17~25、12~16、10~11、3~9、1~2がそれぞれ掘削単位と考えられ、北側から土塁を構築したことが判る。E-Fでは11~13、6~10、3~5がそれぞれ掘削単位と考えられ、西側から土塁を構築したことが判る。これより、壕の掘削は土塁の堆積順序と同様に、壕北端から掘削が開始され、壕の南端に向かって順次進められたものと考えられる。

郭外(図Ⅱ-1・2・5)：内郭の外側でチャシ跡に付属および関連すると考えられる遺構は土塁D・E、掘り上げ土A、不明二次堆積土である。

土塁D・E(Ⅱ-5)：土塁D・Eは壕Bの郭外に位置し、いずれも壕B構築時の掘り上げ土と考えられる。攪乱等で、これらの連続性は確認できなかったが、切り替え時に壕Aを埋めた掘り上げ土Aを含めて一連のものであったと考えられる。土塁Eの土層堆積状態は、図Ⅱ-5.A-Bの土層19・20がⅦ層、21がⅤ層主体の土層で、内郭の土塁と同様に壕を掘上げた順に下から堆積したと考えられる。

掘り上げ土A(Ⅱ-5)：掘り上げ土Aは第1期の壕Aの端部を埋めている。前述したように壕の切り替え時に壕Bを構築した際の排土である。壕の新旧関係を確認しており、壕Bで前述している。

不明二次堆積土(Ⅱ-4)：チャシ跡の西側の郭外に位置する。Ⅲb層の上に堆積するⅣ層主体の土

層であり、周囲にはチャシ跡以外に、この土層の供給源が見られないことから、チャシ跡に関連するものではないかと考えている。規模は1.3×0.6mで厚さは6cm程である。性格等は不明である。

内郭出土遺物 (II-7) : 1~3はいずれも土塁の直上から出土したものである。1は有茎鉄鏃で、柳葉形の鏃身部と、台状の区が形成されている。2・3は鉄斧で、内郭平地式建物跡の南東角から近接した位置で、土塁Bの直上から出土している。鉄斧はこれまでの厚幌ダム関係の遺跡発掘調査で、アイヌ文化期の平地式住居跡の角から出土する例があることから、内郭平地式建物跡に関連するものかもしれない。2は鉄斧の刃部、3は鉄斧の基部である。3は刃部が抜け落ち、人為的変形を受けているが、本来は断面「コ」字形を呈するものと考えられる。2・3は同一個体で、刃部と基部は製作時の接合部分で折損したのと考えられる。

出土獣骨 (II-2) : 内郭で4点のシカの歯列が出土している。保存状態は不良であったため、現場で記録写真を撮り、回収していない。出土層位は土塁の直上から出土したものである。

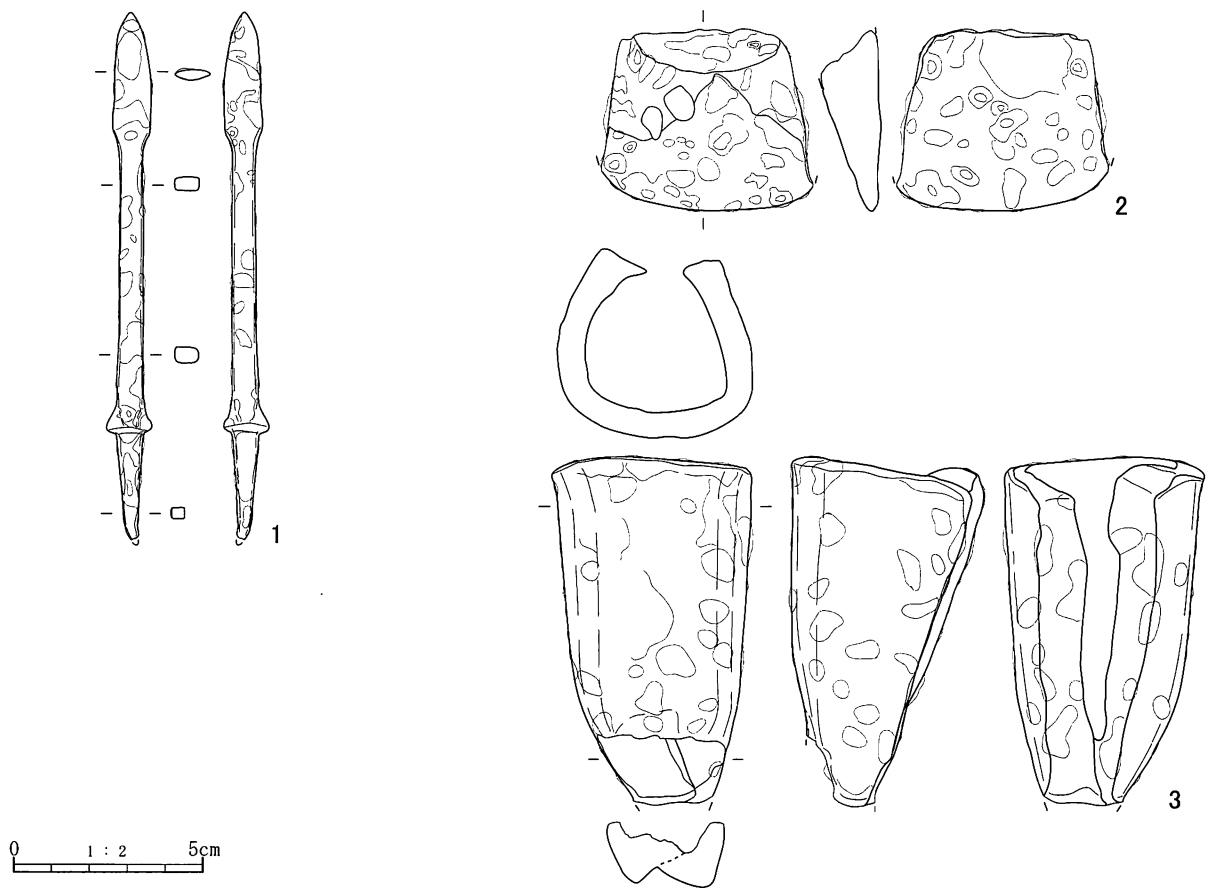
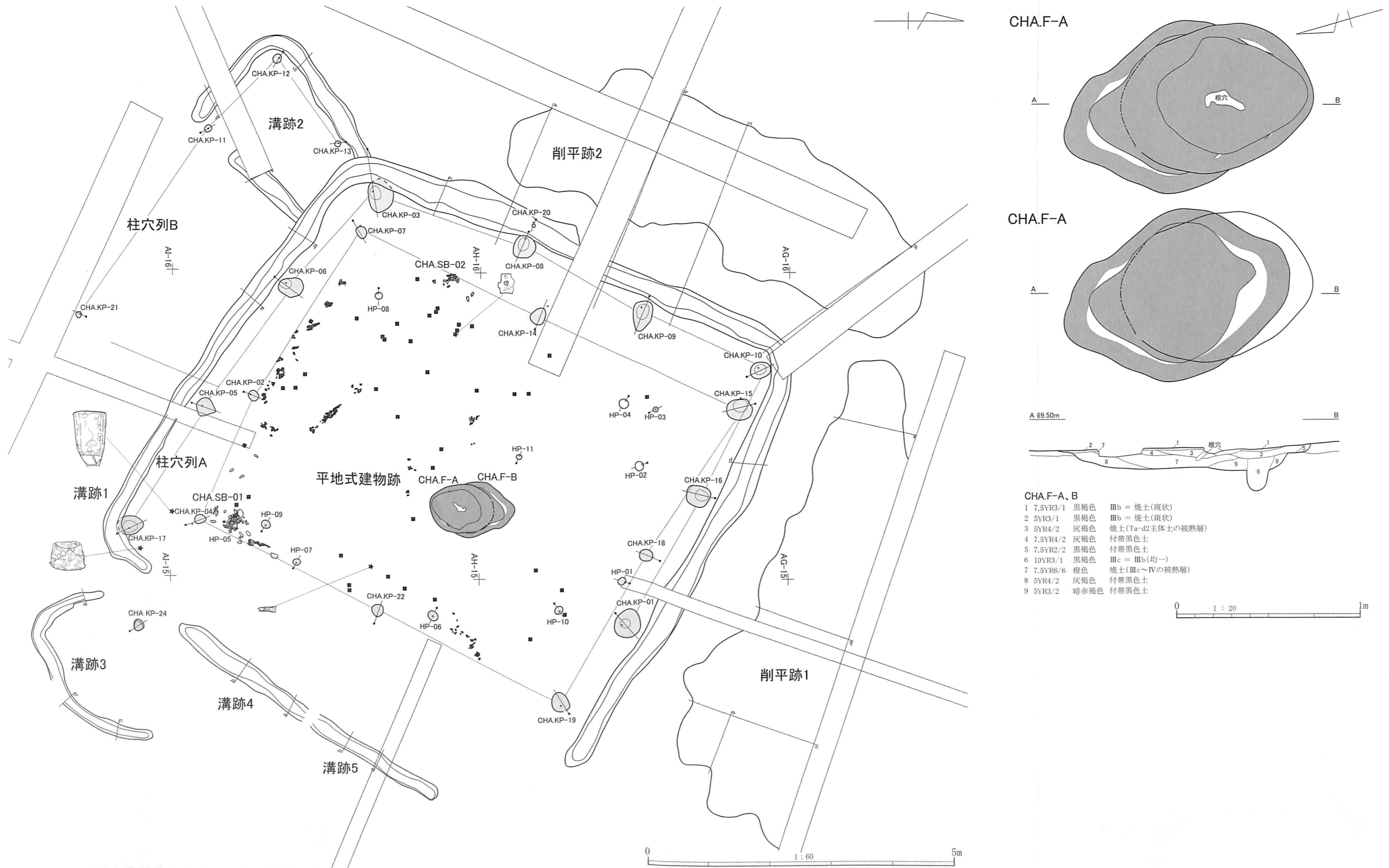


図 II-7 チャシ跡内郭出土遺物

表 II-3 チャシ内郭出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-7-1	101-1-1	-	3214	鉄鏃	-	MO2	CHASI	AI-14	(139.5)	11.9	8.4	15.0	Iron.	
II-7-2	101-1-2	IP001	2204	袋状鉄斧	-	MO2	CHASI	AI-15	(47.7)	(56.2)	15.8	127.8	Iron.	
II-7-3	101-1-3	IP001	2203	袋状鉄斧	-	MO2	CHASI	AH-14	(92.2)	53.7	50.8	365.0	Iron.	



図II-8 内郭検出遺構平面図及び平地式建物跡炉跡

第2節 内郭平地式建物跡

内郭平地式建物跡〔CHASI.H〕(Ⅱ-8・9 図版6～8)

位置:AG-14・15、AH-14～16 長軸方向:N-24° W 規模:687×551 cm

付属遺構:炉跡 CHA.F-A・B 礫集中 CHA.SB01、CHA.SB02

周囲の土塁Bよりも一段低い面で床面を検出しているが、周囲の土塁Bの基底面と炉跡の面がほぼ一致する。

炭化材:炭化材を床面から検出している。分布は南壁際沿いに列となって検出したものが殆どで、他に建物跡中央部の炉跡付近、東壁際から僅かに検出している。出土位置から考えると柱材よりも上屋や壁等の構造材と思われる。炭化材は基本的に細かく崩れた状態で検出したものが殆どであり、径のわかるものはない。これらの出土状態から焼失建物跡と考えられる。炭化材が残った要因として、火災後比較的短期間の内に周囲の土塁が崩れて、炭化材を覆って保護されたためと考えられる。この火災の原因であるが、失火等による偶発的なものなのか、アイヌ民俗例による家送りの儀礼によるものなのか重要な問題であるが、今回の調査では明らかにしえなかった。

これら炭化材の樹種同定を委託しており、同定を行ったものはすべてトネリコ属である。また、この炭化材の2点についてAMS年代測定を委託しており、暦年較正年代(1 σ)で13世紀前半から後半の年代幅得られている。また、炭化材回収時の土壌サンプルをフローテーションした結果、イネの炭化種子が1片が得られている。床面に相当する位置の土壌を回収したものだが、床面は擦文文化期の包含層Ⅲb 黒色土と接しており、明確に伴うものかは判断できない。1片しか得られていないので、この種子自体を年代測定すると、資料がなくなってしまうので、十分検討しなければならないが、年代測定を行うこともひとつの手段と思われる。

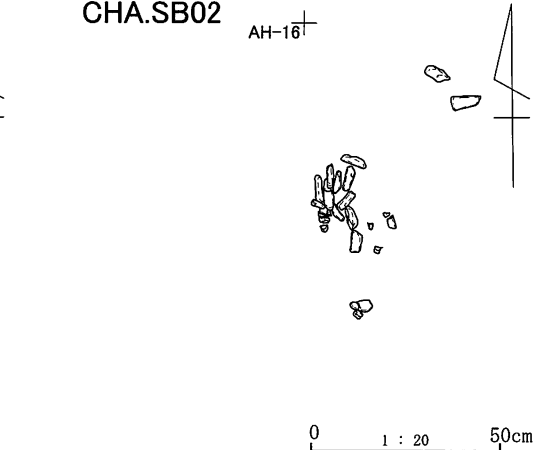
付属炉(Ⅱ-8):本住居跡に付属する炉跡はCHA.F-AとBの2ヵ所である。2つは重複しており、新旧2期ある。7～9層がCHASI.F-Bで1期目の炉跡である。1～5層がCHA.F-Aで2期目の炉跡である。6層は不明の落ち込みで根によるものであろうか。1期の炉の上に3のTa-d2主体の土層を敷き、そこを火床として2期目の炉が形成されたと考えられる。フローテーションの結果、ムギ、ブドウ科、ウルシ属、コナラ属の炭化種子が得られている。焼骨片等は全く出土していない。これまでのアイヌ文化期の調査では、平地式住居跡の炉跡からは通常焼骨片等が確認されており、それらの炉とは性格が異なると思われる。炉跡出土のコナラ属子葉の炭化種子と炭化材のAMS年代測定の結果、暦年較正年代(1 σ)で13世紀前半から後半にかけての年代を得ている。

柱穴(Ⅱ-9):柱穴はCHA.KP-2・4・7・15・18・19・22、HP-1～11の19本を調査している。名称は年度によって異なっており、本来統一すべきだが時間の都合により、そのまま掲載している。このうち配置等から主柱穴と考えられるのはCHA.KP-2・4・7・15・18・19・22の8本である。これらの調査時の特徴として、半截時に柱穴内が空洞となっているものが見られたことが挙げられる。そのために、土塁調査中に柱穴に足のつま先が落ちて発見されたものもある。火災時に地上の柱は焼け落ちたが、土中の柱は残り、その上から土塁の流れ込み等で覆われて、その後柱が腐ってしまい空洞になったと考えられる。柱穴はCHA.KP-4の土層断面の観察から、上部は掘り方があったものと思われる。他のものも、開口部の径が大きいことから、同様であったと思われる。これら主柱穴は大半のものが「外踏ん張り」構造である。建物跡内部の柱穴は建物内の施設等に関わるものと思われるが、配置等からはどのようなものであったかは明らかではない。

CHA.SB01

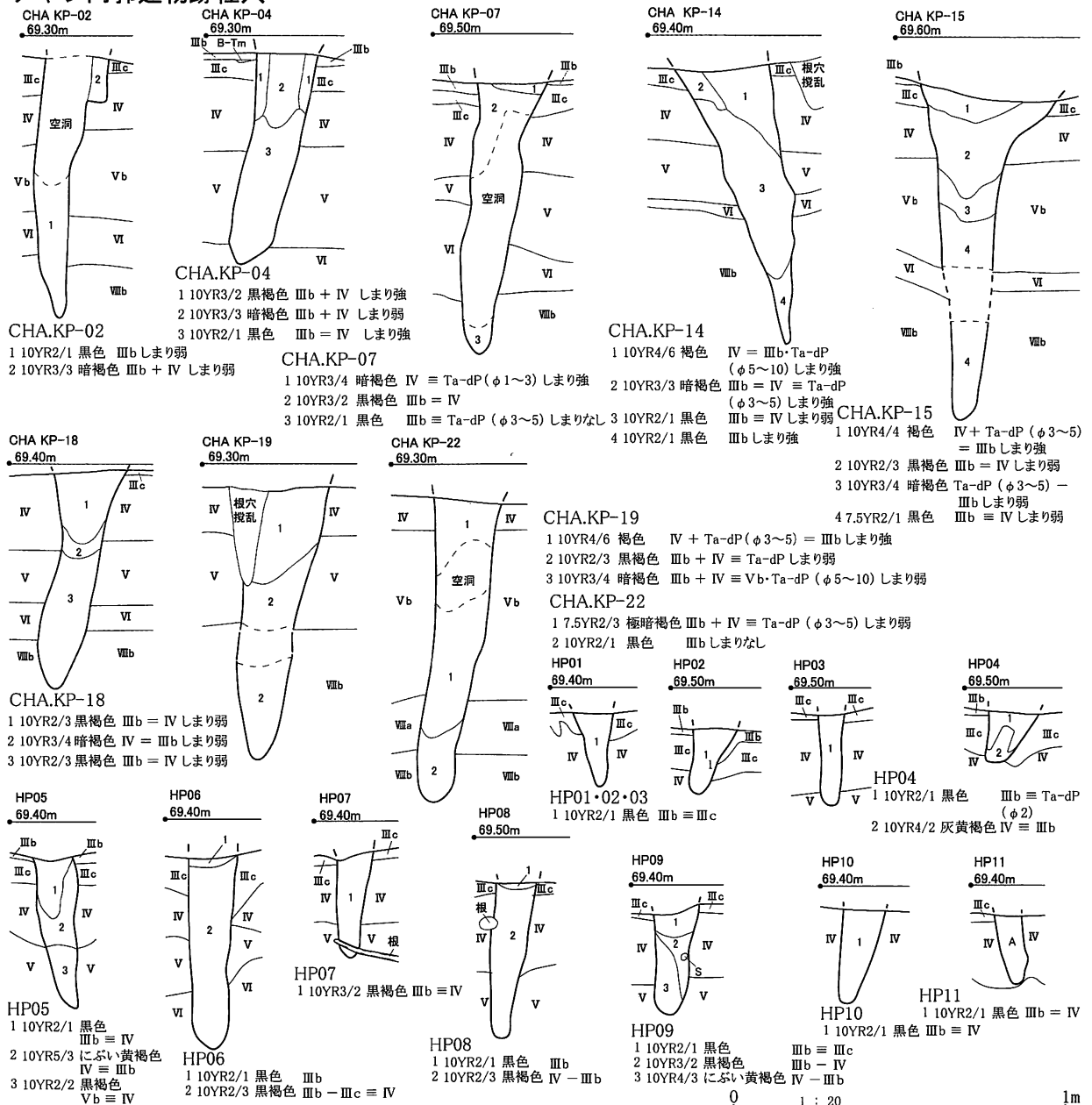
CHA.SB02

AH-16†



0 1 : 20 50cm

チャン内郭建物跡柱穴



0 1 : 20 1m

図 II-9 チャン内郭建物跡付属遺構

礫集中 (II-9) : CHA. SB01・02 の2カ所を検出している。CHA. SB01 は建物跡の南東隅で検出したものである。礫はまとまりからやや散っているものもあるが、それらは柱穴列上の壁面に沿って出土している。周囲の炭化材の検出状況を見ると、焼失後は比較的短期間に土塁の崩落・流入土に覆われて保護された状態と言え、礫集中の状態も火災直前及び火災中の位置を保っていると思われる。一部やや散った状態が確認できることから、ある程度の高さから落下した状態ではないのかと想定できる。CHA. SB02 は土塁調査中に礫集中の頭を確認しており、礫間も土塁起源の土層で埋められていたが、基底面は黒色土であり、床面と考えられる。これも西壁付近で出土している。

表II-4 チャシ内郭平地式建物跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模 (cm)				柱穴本数			付属遺構
						主体部		付属部		主体	付属	他	
						長軸	短軸	長軸	短軸				
II-8・9	6~8	チャシ内郭平地式建物	AG-14・15 AH-14~16	IIIbM	N-24°W	687	551	-	-	8	-	11	焼土2・礫集中2

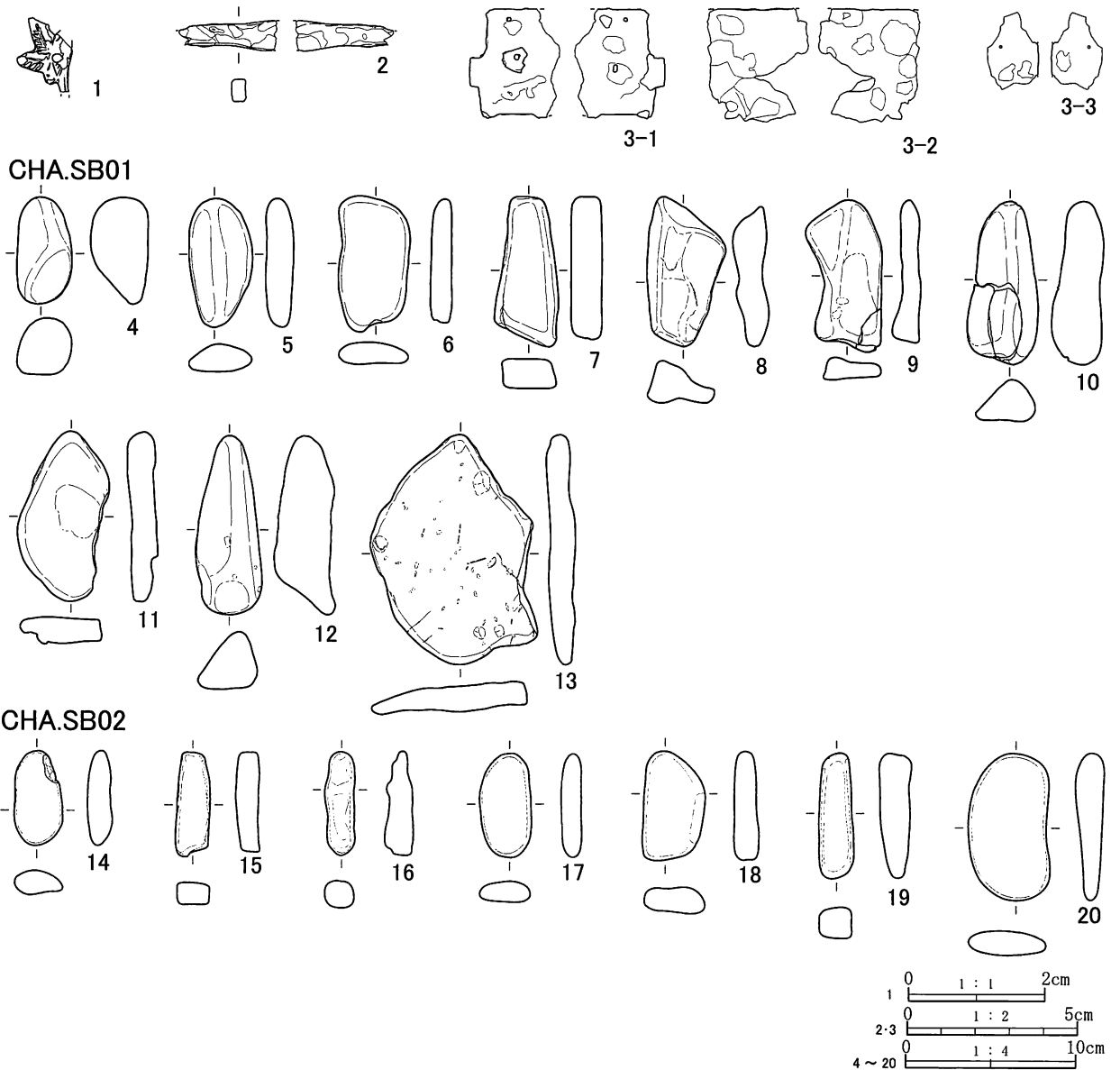
表II-5 内郭平地式建物跡付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-8	8-1	CHA.F-A	AG・AH-15	IIIbM	楕円形	104	77	5	-	
II-8	8-1	CHA.F-B	AG・AH-15	IIIbM	不整形	126	88	7	-	

表II-6 チャシ内郭平地式建物跡柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-9	8-2	CHA.KP-02	19	2	79	2	打込み	途中まで掘り方
II-9	-	CHA.KP-04	19	2	64	13	打込み	
II-9	8-3	CHA.KP-07	21	3	82	8	打込み	
II-9	8-4	CHA.KP-14	28	1	84	13	打込み	
II-9	8-5	CHA.KP-15	40	2	98	3	打込み	
II-9	8-6	CHA.KP-18	22	4	65	9	打込み	
II-9	8-7	CHA.KP-19	(18)	3	81	5	打込み	
II-9	8-8	CHA.KP-22	20	5	91	7	打込み	
II-9	-	HP-01	14	2	22	7	打込み	
II-9	-	HP-02	15	2	19	15	打込み	
II-9	-	HP-03	9	2	27	1	打込み	
II-9	-	HP-04	16	5	15	16	打込み	
II-9	-	HP-05	15	1	46	10	打込み	
II-9	-	HP-06	18	2	59	1	打込み	
II-9	-	HP-07	12	2	31	0	打込み	
II-9	-	HP-08	12	3	47	4	打込み	
II-9	-	HP-09	15	3	33	2	打込み	
II-9	-	HP-10	13	3	29	9	打込み	
II-9	-	HP-11	9	2	20	9	打込み	

出土遺物 (II-10) : 1 は炉跡のフローテーションから回収されたもので、何らかの金具の一部と思われる。両端は欠損している。葉をモチーフにしたものと思われる。表面のトーン部は金色を呈し、それ以外の部分は剥落している。中央に径1mmの孔があげられている。表面の金色のものを含め材質の分析は行っていない。2 は床面よりも低い位置で、根穴から出土している。建物跡に伴うものか不明であるが、上部から根で押し込まれた可能性があることから、ここで掲載する。両端は欠損しており刀子茎と思われる。3-1~3 は同一個体である。3-2 は3点が接合したものである。3-1・3 にはそれぞれ1~2mmの孔がある。また、3-1 には銅製と思われる金具が留められている。4~13 はCHA. SB01 の構成礫である。HP-05 の上面で特に密集して検出された。完形の24点中14点に、黒色もしくは赤色化したと考えられる被熱痕が認められる。火災時に被熱したのと考えられる。大



図Ⅱ-10 チャシ内郭建物跡出土遺物

半は棒状であるが、扁平なものも見られる。14～20はCHA.SB02の構成礫である。CHA.SB01の構成礫に比べて、全体的に小形である。

時期:現場の所見では、炉跡上面の黒色土の厚さから中世段階のアイヌ文化期と想定していた。現段階では出土遺物で年代が明らかなものはないが、出土遺物1は形態等が特徴的なものであり、今後の資料調査で時期が特定されるかもしれない。前述したように炭化材及び種子の年代測定結果からは13世紀前半から後半にかけての年代が得られており、現場段階での所見と矛盾しない結果である。但し従来のチャシ跡研究の年代観よりも1世紀以上古いものである。

表Ⅱ-7 内郭建物跡出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-10-1	101-3	-	8534	金具?	-	2	CHA.F-B	AI-14	(12.0)	(7.9)	1.0	0.2	-	
Ⅱ-10-2	101-3	-	7080	刀子茎	-	攪乱	CHA	AI-15	(29.0)	8.8	4.0	3.2	Irn.	
Ⅱ-10-3-1	101-3	-	2199	金具片?	-	2	CHA	AH-14	(26.1)	32.0	4.0	3.0	Irn.	
Ⅱ-10-3-2	101-3	-	2199	金具片?	-	2	CHA	AH-15	(29.3)	(32.4)	1.9	3.5	Irn.	
Ⅱ-10-3-3	101-3	-	2199	金具片?	-	2	CHA	AH-16	(14.9)	(22.4)	1.6	0.8	Irn.	

表Ⅱ-8 CHA.SB01属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	101-3	-	2249	2	完形	55.8	-31.4	29.6	-13.4	31.9	7.6	1.9	-0.2	72.3	○	Sa.	
Ⅱ-10-4	101-3	-	2213	2	完形	63.2	-24.0	30.7	-12.4	37.4	13.1	2.1	0.0	85.8	○	Sa.	
-	101-3	-	2211	2	完形	63.7	-23.6	25.1	-18.0	24.2	-0.1	2.5	0.4	47.0	-	Sa.	
-	101-3	-	2206	2	完形	70.6	-16.6	38.9	-4.1	31.4	7.1	1.8	-0.3	99.4	○	Sa.	
-	101-3	-	2225	2	完形	71.4	-15.9	43.7	0.7	17.1	-7.2	1.6	-0.5	69.8	-	Sa.	
Ⅱ-10-5	101-3	-	2250	2	完形	75.1	-12.1	36.3	-6.7	16.7	-7.6	2.1	0.0	52.7	○	Sa.	
Ⅱ-10-6	101-3	-	2251	2	完形	78.5	-8.7	39.8	-3.2	12.7	-11.6	2.0	-0.1	63.5	-	Sa.	
-	101-3	-	2208	2	完形	78.7	-8.5	40.5	-2.5	24.5	0.2	1.9	-0.2	75.7	○	Sa.	
-	101-3	-	2248	2	完形	82.6	-4.6	36.8	-6.2	27.4	3.1	2.2	0.1	103.6	-	Sa.	
Ⅱ-10-7	101-3	-	2207	2	完形	86.6	-0.6	35.7	-7.3	17.8	-6.6	2.4	0.3	88.0	○	Sa.	
-	101-3	-	2236	2	完形	87.0	-0.2	35.5	-7.6	27.4	3.1	2.5	0.4	98.2	-	Sa.	
-	101-3	-	2234	2	完形	87.7	0.5	40.2	-2.8	23.8	-0.5	2.2	0.1	75.1	-	Sa.	
Ⅱ-10-8	101-3	-	2218	2	完形	88.1	0.9	44.1	1.1	24.0	-0.3	2.0	-0.1	97.2	○	Sa.	
-	101-3	-	2212	2	完形	88.4	1.2	36.2	-6.8	30.6	6.3	2.4	0.3	115.0	○	Sa.	
-	101-3	-	2214	2	完形	88.7	1.5	43.7	0.7	29.4	5.1	2.0	-0.1	133.1	-	Sa.	
-	101-3	-	2238	2	完形	89.1	1.9	44.6	1.6	22.3	-2.1	2.0	-0.1	94.6	○	Sa.	
Ⅱ-10-9	101-3	ⅢS173	2244 2279	2 2	完形	89.7	2.5	38.7	-4.3	16.4	-7.9	2.3	0.2	60.0	-	Sa.	
-	101-3	-	2226	2	完形	91.9	4.7	51.4	8.4	20.1	-4.2	1.8	-0.3	120.1	-	Sa.	
-	101-3	ⅢS174	2227 2281	2 2	完形	92.2	5.0	46.5	3.5	27.2	2.9	2.0	-0.1	114.8	-	Sa.	
Ⅱ-10-10	101-3	-	2221	2	完形	95.3	8.1	40.6	-2.4	32.1	7.8	2.3	0.2	121.1	○	Sa.	
Ⅱ-10-11	101-3	-	2239	2	完形	98.2	11.0	46.6	3.6	16.8	-7.5	2.1	0.0	101.0	○	Sa.	
Ⅱ-10-12	101-3	-	2223	2	完形	104.8	17.6	37.5	-5.5	34.3	10.0	2.8	0.7	135.8	○	Sa.	
-	101-3	-	2228	2	完形	130.1	42.9	75.7	32.7	19.8	-4.5	1.7	-0.4	282.0	○	Sa.	
Ⅱ-10-13	101-3	-	2233	2	完形	134.8	47.6	93.7	50.7	17.8	-6.5	1.4	-0.7	252.0	○	Sa.	
						87.2		43.0		24.3		2.1		106.6			
						完形24点											

表Ⅱ-9 CHA.SB02属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
Ⅱ-10-14	101-3	-	19572	ⅢbM	略完形	53.9	-11.3	26.2	0.0	13.5	-1.9	2.1	-0.6	26.4	○	Sa.	
-	101-3	-	19577	ⅢbM	略完形	58.3	-6.9	18.2	-8.0	17.5	2.1	3.2	0.5	22.5	○	Mud.	
Ⅱ-10-15	101-3	-	19578	ⅢbM	略完形	59.1	-6.1	16.7	-9.5	15.3	-0.1	3.5	0.8	22.9	○	Sa.	
Ⅱ-10-16	101-3	-	19573	ⅢbM	完形	59.9	-5.3	17.7	-8.5	13.5	-1.9	3.4	0.7	25.8	○	Sa.	
Ⅱ-10-17	101-3	-	19576	ⅢbM	完形	60.4	-4.8	28.8	2.6	13.2	-2.2	2.1	-0.6	32.0	○	Sa.	
Ⅱ-10-18	101-3	-	19568	ⅢbM	完形	63.4	-1.8	34.8	8.6	16.2	0.8	1.8	-0.9	51.9	○	Sa.	
-	101-3	-	19571	ⅢbM	完形	66.9	1.7	24.8	-1.4	10.3	-5.1	2.7	0.0	20.7	○	Sa.	
-	101-3	-	19570	ⅢbM	完形	71.7	6.5	27.9	1.7	18.7	3.3	2.6	-0.1	56.1	○	Sa.	
Ⅱ-10-19	101-3	-	19574	ⅢbM	完形	73.1	7.9	19.5	-6.7	19.5	4.1	3.7	1.0	46.1	○	Sa.	
Ⅱ-10-20	101-3	-	19387	Ⅲc	完形	85.2	20.0	47.1	20.9	16.7	1.3	1.8	-0.9	92.0	○	Sa.	
						65.2		26.2		15.4		2.7		39.6			
						完形10点											

第3節 内郭付属遺構

内郭からは平地式住居跡の他にもチャシに付属する遺構が検出しており、ここで記載する。

付属遺構は溝跡1~5、柱穴列A・B、土塁西側平坦面柱穴、削平跡1・2がある。柱穴列Aと溝跡1、柱穴列Bと溝跡2は配置等から、それぞれ密接に関連するものだと考えられることから、合わせて記載する。

柱穴列A及び溝跡1(Ⅱ-8・11・12 図版9・10)

溝跡1の内側に沿って柱穴列Aが配置されていることから、関連するものと思われる。

柱穴列A(Ⅱ-11):柱穴列は溝跡1と同様にコの字状に配置しており、9本の柱で構成されている。深さは1mを越すものが4本あり、その他のものも80cm以上と非常に深いものである。殆どのものが垂直に近い角度で建てられており、平地式住居跡や内郭平地式建物跡のような外踏ん張りの構造にはなっていない。いずれも掘り方が明瞭に確認でき、CHA. KP-01は4~9層、KP-03は5層、KP-06は3層、KP-08は6層、KP-10は2層、KP-16は2層、KP-17は2層が掘り方の埋土である。また、内郭建物跡の支柱穴と同様に、柱穴内が空洞になっているものが見られることから、柱が腐った痕に掘り方埋土が崩落してしまったものもあると思われる。

CHA. KP-09・10からは柱材が出土している。KP-09は土層断面の記録後、今後の普及活用を見据えて、土層の剥ぎ取りを行った際、柱材が一緒にくっついてきた。この材の表面は炭化しているが、中心側は生木の状態であった。これについては樹種同定を行っておりコナラ節という結果だった。KP-10は土層断面でも明らかなように、柱の表面が炭化した部分のみが出土している。ちなみに柱材の太さは少なくとも径12cm以上であったことを確認している。他にも炭化した材の一部を2例確認している。このように柱の表面を炭化させているのは、柱が腐らないために行った防腐処理と考えられる。また、CHA. KP-09・10の2点のAMS年代測定を行っており、共に12世紀後半~13世紀前半の年代が得られている。

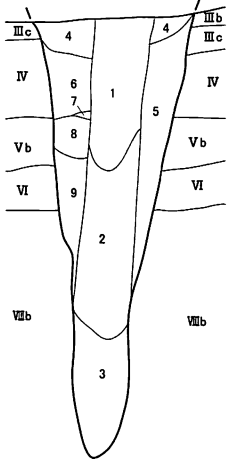
この柱穴列Aの構造は、柱穴の配置より建物跡のような上屋はなかったと考えられる。また、この柱穴の柱材だけ防腐処理を行っていることから、建物跡のように屋根がなく、雨風にさらされることから行ったとも考えられる。

溝跡1(Ⅱ-12):溝跡1の平面形は基本的にコの字状を呈するものであるが、南側の端部は僅かであるが北側に直角に曲がる。この形状は2期目の壕と似た形状であり、壕の縮小版のようである。溝跡の検出時に溝の内側の土層が異なることを確認していた。各土層断面においても内側に異なる土層を確認している。土層断面a・b・cの1・2層、dの1~3層が相当し、特徴として締りが全くなく、土塁と同じTa-d火山灰を主体としている点が挙げられる。これらの特徴や土層の平面・断面形状等から、この部分に板材を埋設していたのではないかと考えられる。土層の特徴も、板が腐るか抜かれるなどした際に、土塁の土が崩れ落ち流れ込んだためと考えられる。板を配したのは土塁の土留めのためであったろうと思われる。また、周囲を土塁に囲まれていることから、土留め以外にも雨水が平地式建物跡に流れ込むのを防ぐ役割を担っていたと考えられる。図Ⅱ-1の地形図でも、この溝跡を境に等高線が変化していることから、土塁の土留め板であった可能性は高い。また、この板を抑えるための土層はⅢb・Ⅲc・Ⅳ層からなっており、溝の掘削もⅣ層までであることから、溝を掘った際の土で埋め戻していると考えられる。但し、一部においては削平跡との関連がある部分も見られるが、これについては削平跡の項で記載する。

柱穴列A溝跡1の性格:溝跡1は土塁の土留めの板を埋めるための溝、柱穴列Aは上屋のない構造であったと考えられる。柱穴列Aはこの板をさらに内側から支えるものであった可能性もあるが、場所によってはやや離れている所があり、気になる。また、柱の太さや柱穴の深さから考えると、地上に見えている柱は土塁よりも明らかに高かったとも思われる。配置から関連性があるものと考えているが、構造や用途については類例の増加等を待って再検討を行いたい。

柱穴列 A

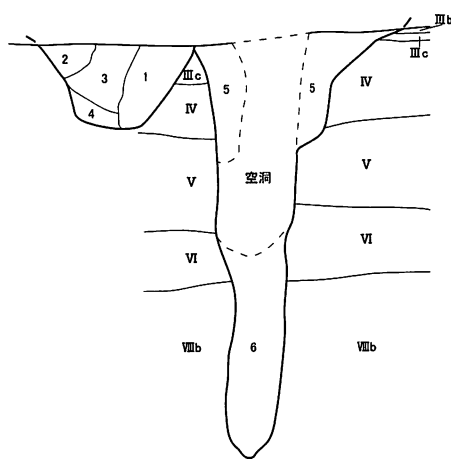
CHA.KP-01
69.40m



CHA.KP-01

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色 IV ≡ IIIb・Ta-dP (φ3~5) しまり弱
- 2 10YR2/2 黒褐色 IIIb = IV しまりなし
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 IIIb + IV ≡ Ta-dP (φ3~5) しまり弱
- 4 10YR2/2 黒褐色 IIIb = IV
- 5 7.5YR3/3 暗褐色 IIIb + IV ≡ Ta-dP (φ3~5)
- 6 7.5YR3/3 暗褐色 IIIb + IV = Ta-dP (φ3~5)
- 7 10YR2/2 黒褐色 IIIb = IV
- 8 7.5YR2/3 極暗褐色 IV + IIIb・Ta-dP (φ3~5) しまり弱
- 9 7.5YR3/3 暗褐色 IIIb + IV ≡ Ta-dP (φ3~5)

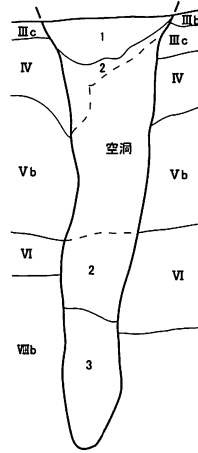
CHA.KP-03
69.50m



CHA.KP-03

- 1 7.5YR2/1 黒色 IIIb ≡ Ta-dP (φ3~5) しまり弱
- 2 7.5YR4/6 褐色 IIIb - IV
- 3 10YR2/3 黒褐色 IIIb ≡ IV
- 4 7.5YR4/4 褐色 IIIb・IV
- 5 10YR4/4 褐色 IIIb + IV ≡ B-Tm
- 6 10YR2/1 黒色 IIIb しまり弱

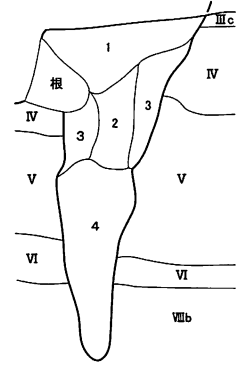
CHA.KP-05
69.30m



CHA.KP-05

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色 IV ≡ IIIb・Ta-dP (φ3~5) しまり弱
- 2 7.5YR5/8 明褐色 Ta-dP (φ3~5) = IV ≡ IIIb
- 3 10YR2/2 黒褐色 IIIb = IV しまりなし

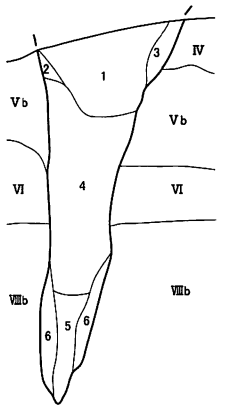
CHA.KP-06
69.40m



CHA.KP-06

- 1 7.5YR4/4 褐色 Ta-dP = IV ≡ IIIc しまり弱
- 2 7.5YR4/4 褐色 Ta-dP = IV ≡ IIIc しまり弱
- 3 10YR2/1 黒色 IIIb = IV しまり強
- 4 10YR2/1 黒色 IIIb しまり弱

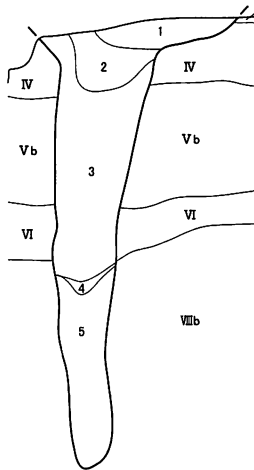
CHA.KP-08
69.50m



CHA.KP-08

- 1 10YR2/3 黒褐色 IIIb - IV ≡ Ta-dP (φ5~10) しまり弱
- 2 10YR4/6 褐色 IV しまり弱
- 3 10YR2/2 黒褐色 IIIb = IV
- 4 10YR2/2 黒褐色 IIIb - IV ≡ Ta-dP (φ3~5) しまり弱
- 5 7.5YR2/1 黒色 IIIb - IV しまり弱
- 6 7.5YR4/6 褐色 Ta-dP = Vb しまり強

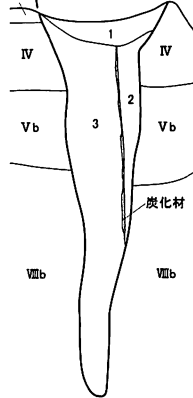
CHA.KP-09
69.60m



CHA.KP-09

- 1 7.5YR3/3 暗褐色 IV = IIIc・Ta-dP (φ5~10) しまり強
- 2 7.5YR3/3 暗褐色 IV - IIIc ≡ Ta-dP (φ3~5) しまり弱
- 3 7.5YR2/2 黒褐色 IIIb = IV
- 4 7.5YR4/6 褐色 Ta-dP (φ3~5) しまり弱
- 5 10YR2/2 黒褐色 IIIb = IV しまり弱

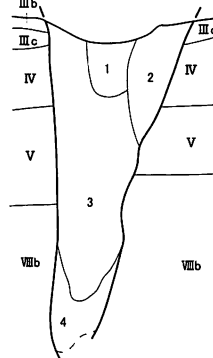
CHA.KP-10
69.60m



CHA.KP-10

- 1 10YR4/6 褐色 IV + Ta-dP (φ5~10) しまり強
- 2 10YR2/3 黒褐色 IIIb + IV ≡ Ta-dP (φ3~5) しまり弱
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 IIIb + IV ≡ Ta-dP (φ3~5) しまり弱

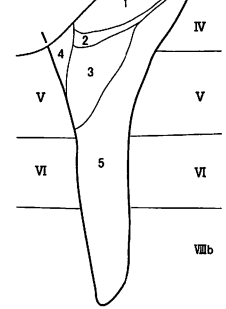
CHA.KP-16
69.50m



CHA.KP-16

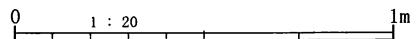
- 1 10YR4/4 褐色 IV ≡ IIIb しまり弱
- 2 10YR3/4 暗褐色 IV + IIIb = Ta-dP (φ3~5) しまり強
- 3 10YR2/1 黒色 IIIb = IV しまり弱
- 4 7.5YR4/6 褐色 Ta-dL = Vb

CHA.KP-17
69.20m



CHA.KP-17

- 1 7.5YR3/2 黒褐色 IIIb = IV しまり弱
- 2 10YR3/4 暗褐色 IIIb + IV しまり弱
- 3 10YR2/3 黒褐色 IIIb = IV ≡ Ta-dP (φ3~5) しまり弱
- 4 10YR4/6 褐色 IV
- 5 7.5YR2/1 黒色 IIIb = IV しまり弱



図II-11 柱穴列 A 柱穴断面

CHA MZ-01

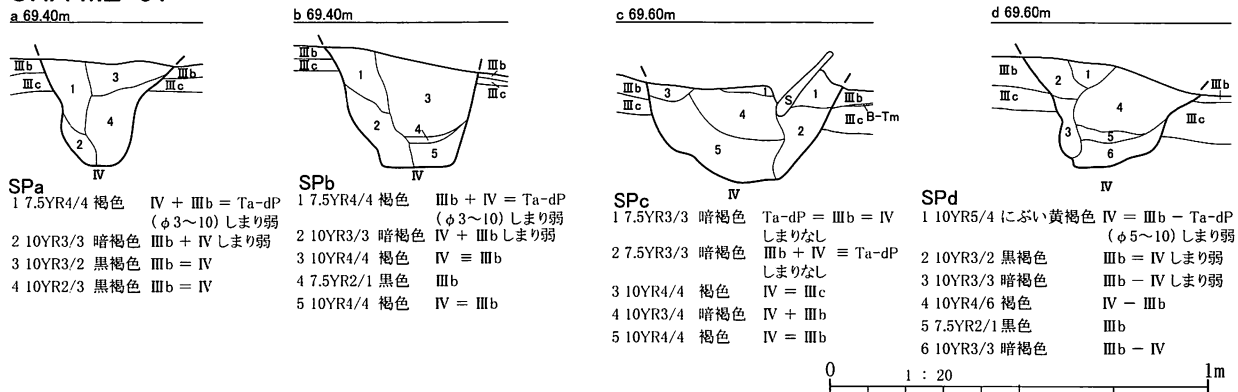


図 II-12 溝跡 1 断面図

表 II-10 柱穴列A柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-11	10-5	CHA.KP-01	43	2	115	3	打込み	途中まで掘り方
II-11	-	CHA.KP-03	(54)	3	111	2	打込み	途中まで掘り方
II-11	10-6	CHA.KP-05	35	4	114	2	打込み	
II-11	-	CHA.KP-06	(42)	2	88	3	打込み	途中まで掘り方
II-11	10-7	CHA.KP-08	39	1	90	15	打込み	途中まで掘り方
II-11	10-8・9	CHA.KP-09	54	3	116	2	打込み	途中まで掘り方
II-11	10-10・11	CHA.KP-10	34	2	99	2	打込み	途中まで掘り方
II-11	10-12	CHA.KP-16	38	-	(82)	6	打込み	途中まで掘り方
II-11	-	CHA.KP-17	37	2	83	1	打込み	途中まで掘り方

表 II-11 溝跡1属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)				備考
						全長	上幅	下幅	深さ	
II-8・12	9・10	溝跡1	AG-14~16,AH-15・16, AI-15	IIIbM	コの 字状	2334.0	63.5~ 23.4	34.7~ 11.0	31.2	

溝跡 2 は溝跡 1 に接しており、コの字状であるが、一部南東側の角付近で途切れる。この溝跡 2 の北東側を除く 3 ヲ所の角の内側に柱穴列 B を構成する 3 本の柱穴が配置している。また、溝が途切れる北東側の角より柱穴列が溝の外側へ延びる。このような配置関係から、密接に関連するものと思われる。

柱穴列 B (II-13) : 柱穴列 B は 4 本で構成され、鉤の手状に配置している。各柱穴は 50 cm 程の深さがあり、柱穴列 A や内郭平地式建物跡の支柱穴に比べて細いものである。いずれも、ほぼ直角に打ち込まれている。覆土の上には土塁が起源と見られる流入土が見られる。

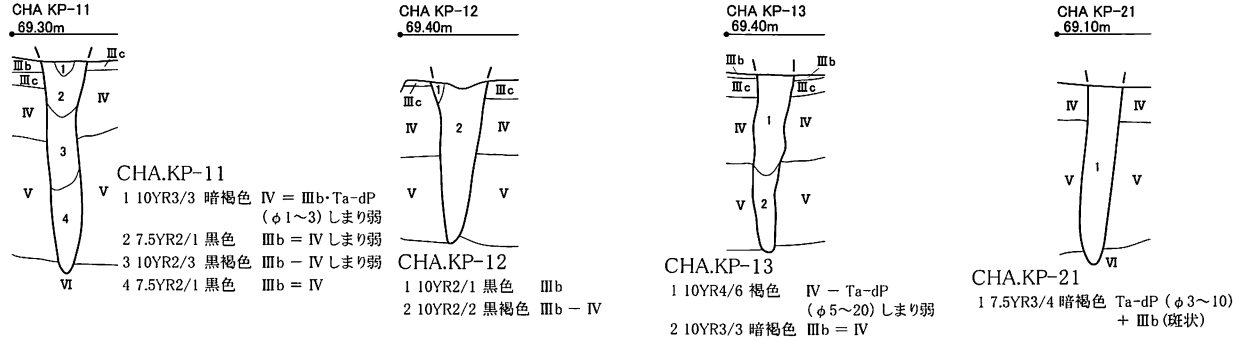
溝跡 2 (II-13) : 平面形は前述した通りである。溝跡 1 と同様の特徴をもつもので、土層断面の a・b・c の 1・2 層、d の 1 は土留め板の痕と思われる。

柱穴列 B 溝跡 2 の性格 : 溝跡 2 は土塁土留めの板を埋めるための溝と考えられることから、これに囲まれた内部は周囲の土塁よりも一段低かったと思われる。そして、柱穴列 B はこの内部から、溝の外側へ延びるものである。図 II-1 の地形図でも、溝の外側ではこの柱穴列をほぼ境に等高線が変化していることから、板塀等を設置していたのではないかと考えられる。

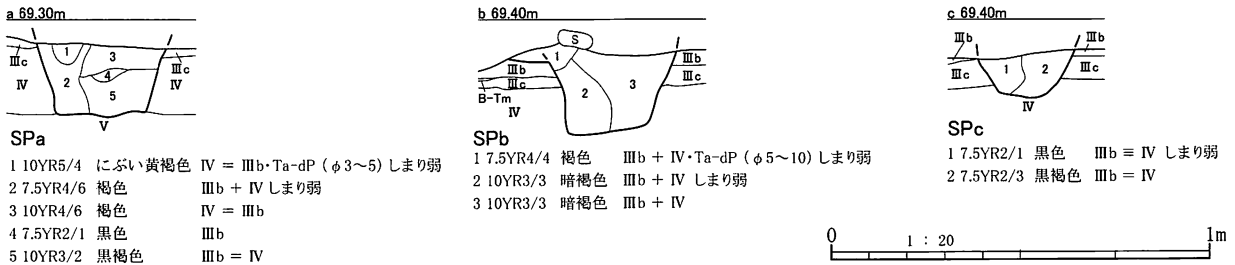
これらに囲まれた内部は、何らかの施設であった可能性が考えられる。内郭平地式建物内に入りする施設化とも想定したが、平地式建物跡の柱の位置などから、その可能性は低そうである。

溝跡 3~5 (II-8・14 図版 11)

柱穴列 B



CHA MZ-02



図II-13 柱穴列B及び溝跡2断面図

表II-12 柱穴列B柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-13	11-4	CHA.KP-11	12	1	56	1	打込み	
II-13	-	CHA.KP-12	15	1	41	3	打込み	
II-13	11-5	CHA.KP-13	12	2	47	6	打込み	
II-13	-	CHA.KP-21	9	1	47	3	打込み	

表II-13 溝跡2属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)				備考
						全長	上幅	下幅	深さ	
II-13	11-1~3	溝跡2	AH-16	IIIbM	コの字状	420.0+ 150.6	35.2~ 22.4	25.7~ 10.4	23.2	一部途切れる

溝跡3~5 (II-8・14 図版11)

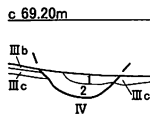
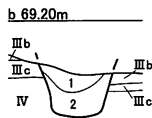
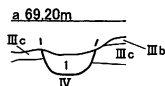
溝跡3~5は内郭平地式建物跡の西側で検出している。溝跡3は弧状を呈するものである。深さは10cm程と浅く、断面形状等は場所によって異なる。覆土上部には土塁起源の土層がわずかに流入している場所も見られる。溝跡1・2のような板を埋めていたような痕跡は見られない。

溝跡4・5は直線状に並ぶものである。平面の検出時に、この間付近に根穴のような不整形な落ち込みがあり、この4と5が1つのものであるのか、それぞれ別のものであるのか不明であった。調査時にもこの間に溝と並行するトレンチを設けて確認したが、落ち込みによって壊れていることしか確認できなかった。断面形状や幅なども類似することから、1つの溝である可能性もある。

共に覆土には他の溝跡に見られる土塁起源の土は見られない。図II-3の土層断面C-Dでは、土塁の上から掘り込まれていることが確認できる。

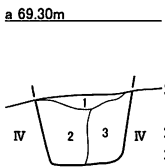
これら溝跡についてはどのような機能があったのかは不明である。

CHA MZ-03

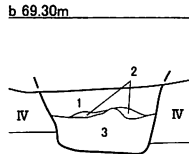


SPa
1 10YR4/4 褐色 IV = IIIb
SPb
1 10YR4/6 褐色 IV + IIIb - Ta-dP (φ3~5)
2 10YR2/2 黒褐色 IIIb ≡ IV
SPc
1 10YR4/6 褐色 IV + IIIb - Ta-dP (φ3~5)
2 10YR2/2 黒褐色 IIIb ≡ IV

CHA MZ-04

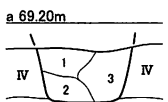


SPa
1 7.5YR2/2 黒褐色 IIIb = IV しまり弱
2 7.5YR3/3 暗褐色 IIIb + IV しまり弱
3 7.5YR3/2 黒褐色 IIIb ≡ IV しまり弱

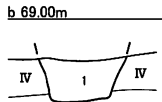


SPb
1 10YR3/3 暗褐色 IV + IIIb (斑状)
2 10YR2/1 黒色 IIIb ブロック
3 10YR3/3 暗褐色 IV + IIIb (斑状)

CHA MZ-05



SPa
1 7.5YR2/2 黒褐色 IIIb = IV ≡ 炭化物しまり強
2 10YR3/4 暗褐色 IV = IIIb・炭化物しまり強
3 7.5YR2/2 黒褐色 IIIb = IV ≡ 炭化物しまり強



SPb
1 10YR2/2 黒褐色 IIIb ≡ IV・炭

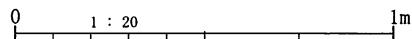


図 II-14 溝跡 3 ~ 5 断面図

表 II-14 溝跡3~5属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)				備考
						全長	上幅	下幅	深さ	
II-14	11-6・7	溝跡3	AI-14	IIIbM	弧状	438.0	22.2	138.0	12.4	
II-14	11-8	溝跡4	AH-14	IIIbM	直線状	(249.0)	33.6	19.6	17.1	一部途切れ
II-14	11-8・9	溝跡5	AH-14	IIIbM	直線状	(232.8)	25.2	16.8	13.8	一部途切れ

西側土塁平坦面柱穴 (II-15)

土塁 A の中央部付近は、両側に比べて土塁は一段低く、平坦になっている。この部分の土塁上面で5本の柱穴を確認している。これらは掘り方の埋土は明瞭ではないが、底がほぼ平坦であることから、掘立柱であったと思われる。これらはほぼ垂直に立つものである。配置には KP-03・04、KP-01・05 等列になっており、規則的な部分も見られるが、これらの配置からは上屋の構造等は推定できない。但し、チャシ跡に伴う何らかの施設があったものと思われる。现阶段では、本チャシへの入り口は明確ではないが、これらがそれに関わる施設であった可能性も考えられる。

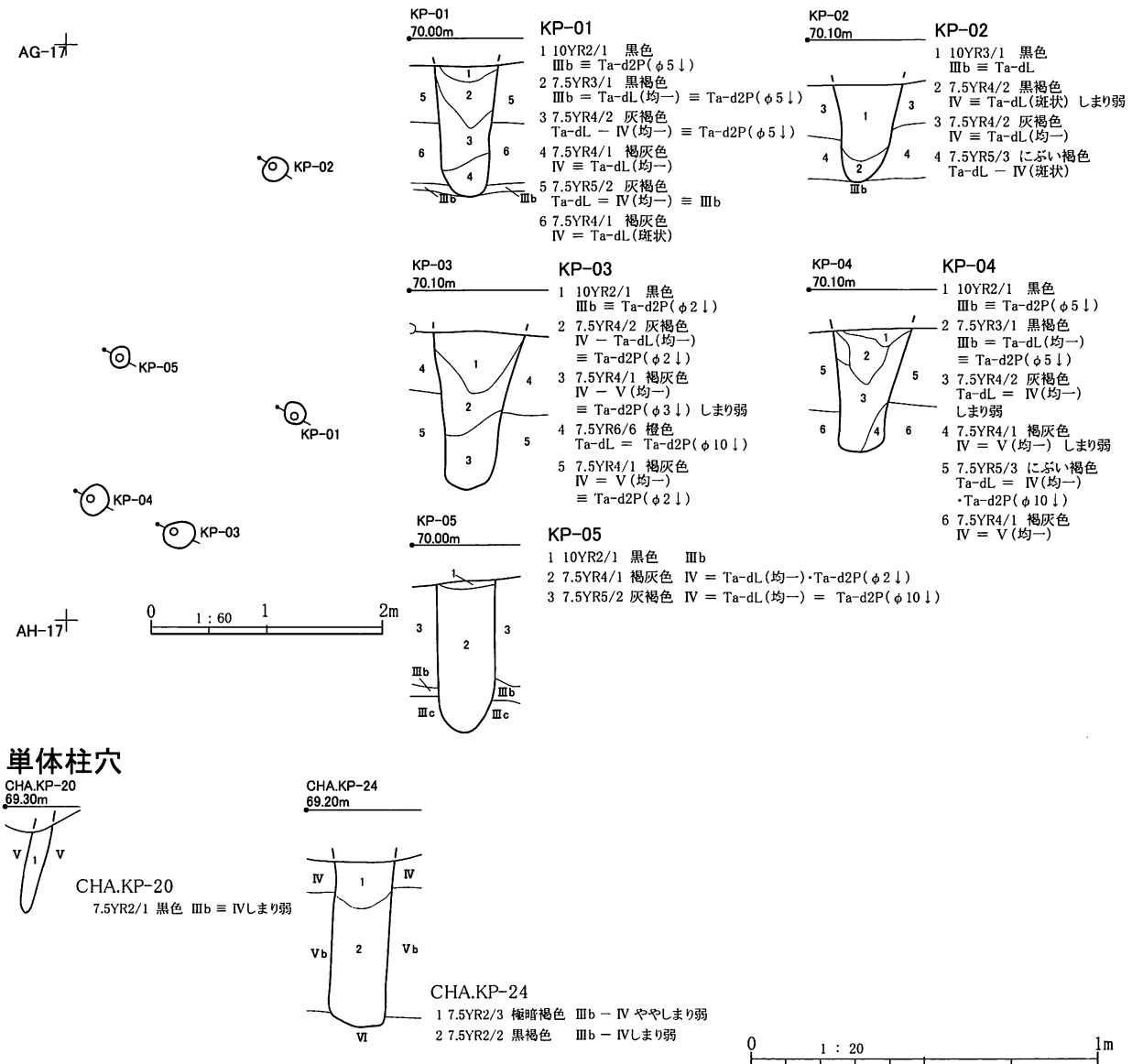
表 II-15 西側土塁平坦面柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-15	-	IIIKP-01	20	5	38	4	掘立?	
II-15	-	IIIKP-02	22	3	28	5	掘立?	
II-15	-	IIIKP-03	27	9	45	3	掘立?	
II-15	-	IIIKP-04	27	11	35	5	掘立?	
II-15	-	IIIKP-05	21	6	44	0	掘立?	

単体柱穴 (II-15)

CHA. KP-20 及び CHA. KP-24 は単体で見つかったものである。CHA. KP-20 は溝跡 1 の中より見つかったものであるが、これとの関係は不明であり、ここで掲載している。CHA. KP-24 は西側土塁平坦面柱穴と同様に、掘り方の埋土は不明瞭だが掘立柱と思われる。単体での出土であり、機能や用途は不明である。

西側土塁平坦面柱穴



図II-15 西側土塁平坦面柱穴及び単体柱穴断面図

表II-16 単体柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-15	-	CHA.KP-20	6	1	24	10	打込み	
II-15	-	CHA.KP-24	18	16	47	2	掘立?	

削平跡[XMZ] (II-16 図版12)

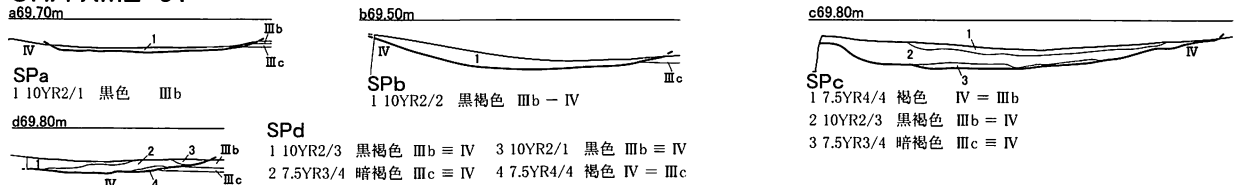
土塁下より削平跡は2ヵ所検出している。これらの平面形は不整形で、断面形は緩やかに擦り窪むものである。共に、深い場所でもIV層中までしか掘られていない。また、削平跡1では図II-3のa-bの68、削平跡2では図II-3のc-dの35のように、削平跡の底面に直接壕の掘り上げ土である土塁が堆積していることから、チャシ跡の壕掘削直前に掘られたものと考えられる。

削平跡2では削平した際の排土の移動を確認でき、東側に位置する溝跡1に関わるものであると

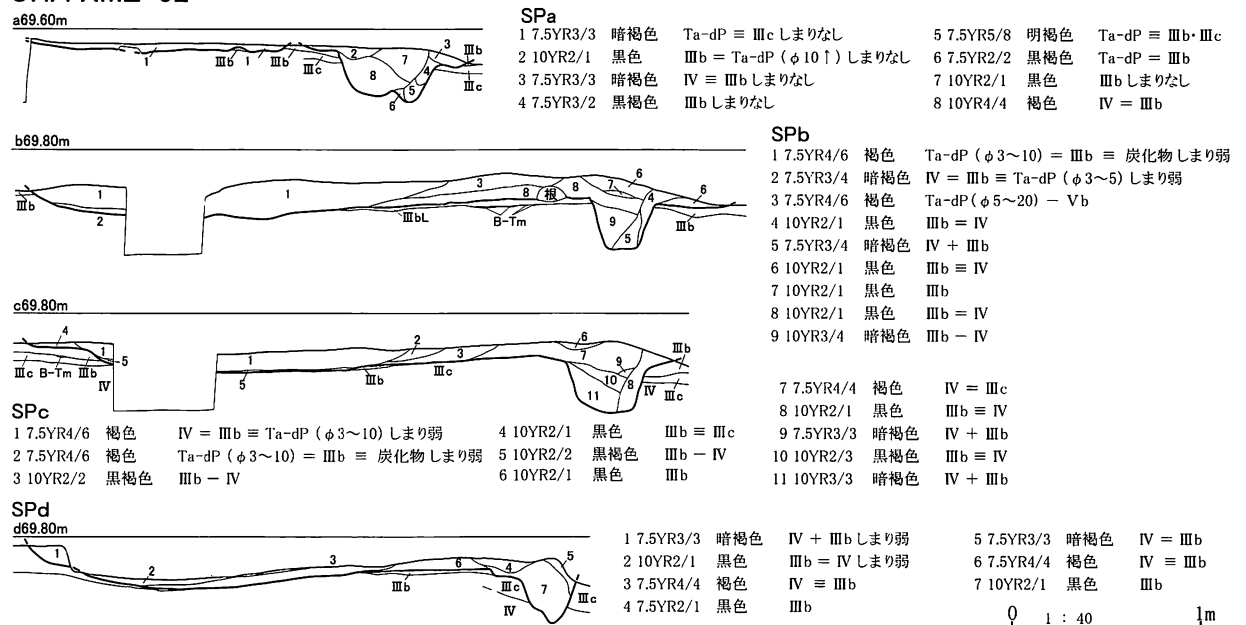
土層断面等から判断できた。土層断面図 b で見てみると、土層 1~3 層は Ta-d を含むことから壕の掘り上げ土で、4・5 層は溝跡 1 で前述したように、土留め板を配していた痕である。6~9 層は IIIb~IV 層起源の土である。これらは溝跡を掘った際の土層であると考えられるが、明らかにそれ以上の土量があると見られ、この中には削平跡の排土が含まれていると思われる。削平跡が IV 層までの掘削であったこととも 6~9 層の土層と一致する。他の土層断面については、個別に記載は行わないが、基本的には同じ状態である。

これらのことから削平跡の機能を推察すると、削平跡はチャシの土塁直前に造られたのものに関わらず、すぐに土塁に埋まってしまったことから、この削平跡自体には意味がなかったものと思われる。この削平によって得られる排土が目的であったと考えられる。溝跡 1 を構築し、板を埋設した後に、削平によって得られる排土で板の補強を行ったのではないかと考えられる。そのように考えると、削平跡 1・2 の位置は、溝跡 1 と壕の中間に位置しており、これらに長軸を並行にしていることから、矛盾がないように考えられる。

CHA XMZ-01



CHA XMZ-02



図Ⅱ-16 チャシ土塁下削平跡断面

表Ⅱ-17 削平跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
Ⅱ-16	12-1・2	削平跡1	AF・AG-14・15	IIIbM	不整形	808	214	20	
Ⅱ-16	12-3・4	削平跡2	AF・AG-15・16	IIIbM	不整形	722	226	10	

第三章 アイヌ文化期の調査

ヲチャラセナイ遺跡におけるアイヌ文化期の調査では、主な遺構として平地式住居跡6軒、建物跡4軒、土坑墓1基、集中区4カ所、灰集中1カ所、シカの獣骨集中3カ所等を検出している。これらの遺構はT₁・T₃面の両段丘面で検出している。T₁面では平地式住居跡1軒とこれに関連する遺構等が検出しているが、この面は近・現代の攪乱によりⅢ～Ⅳ層が削平されてしまっている範囲が広く、他に遺構があった可能性がある。T₃面は段丘先端部にヲチャラセナイチャシ跡が位置し、この背後の平坦面で遺構が検出している。遺構の分布は偏っており、平地式住居跡等の遺構は段丘平坦面北東側の縁辺に広がっている。これは厚真川の上流側に面している。このような分布は、対岸に位置する上幌内モイ遺跡（厚真町教育委員会 2009a）も同様であり、本地域のアイヌ文化期について考えていく上で重要なことと思われる。

調査にあたっては遺構・遺物の検出層位確認を重視し、アイヌ文化期における時期差把握に努めた。その結果、これらは樽前bテフラ降下以前に堆積したⅢb層中で検出した遺構群であるが、いずれもⅢb層を数cm掘削した時点で確認しているため、アイヌ文化期の中でも比較的古い時期に属すると考えている。

表Ⅲ-1 アイヌ文化期遺構群一覧表

遺構名	主体部規模		グリッド	層位	長軸方向	付属遺構			関連遺構	備考
	長軸	短軸				焼土等	礫集中	獣骨集中		
ⅢH-01	611	556	AK-8・9, AL-7～9, AM-8・9	ⅢbM	N-22°E	ⅢF-04・05A	ⅢSB-01・02	-	ⅢAS-01、 ⅢBB-01・02、 杭穴群1・2	
ⅢH-02	558	485	AD・AE-18・19	ⅢbM	N-52°E	ⅢF-11・13	-	-	-	
ⅢH-03	678	529	AA・AB-19～21 Z-21～	ⅢbM	N-50°E	ⅢF-18・21・24	-	-	ⅢBB-03	
ⅢH-04	(565)	637	23,AA-21・22	ⅢbM	N-48°E	ⅢF-25・26	-	-	ⅢBB-03	
ⅢH-05	617	519	AD・AE-18～20, AF-19・20	ⅢbM	N-54°E	ⅢF-12・14	-	-	-	
ⅢH-06	(446)	380	Z-24・25 AA-25	ⅢbM	N-47°E	ⅢF-46～49	-	-	-	
集中区1	831	603	Q～S 20・21	ⅢbM	N-36°E	-	-	-	-	
集中区2	1080	600	P～R-21～23	ⅢbM	N-12°E	ⅢF-37～39・44	-	-	柱穴	
集中区3	1306	1194	W～Y-20～23	ⅢbM	N-51°E	ⅢF-33・34	ⅢSB-16	-	-	
集中区4	1416	1366	T～V-22～24	ⅢbM	N-59°E	ⅢF-32・43	ⅢSB-13～15	-	-	

第1節 平地式住居跡と関連遺構

1号平地式住居跡周辺概況（図Ⅲ-2）

1号平地式住居跡はT₁面の微高地に立地する。住居跡の北東側には灰集中（ⅢAS-01）があり、その間に杭穴群2が位置する。北側には獣骨集中（ⅢBB-01・02）があり、その間に杭穴群1が位置

する。住居の炉跡、灰集中、獣骨集中は検出層位がⅢb 層中位と同じであり、位置関係から関連するものと捉えた。杭跡群としたものは、検出層位等からは住居跡に伴うものかは判断が難しいが、位置関係から関連するものとしてここで掲載する。

1号平地式住居跡〔ⅢH-01〕（図Ⅲ-2～7、図版 13・14）

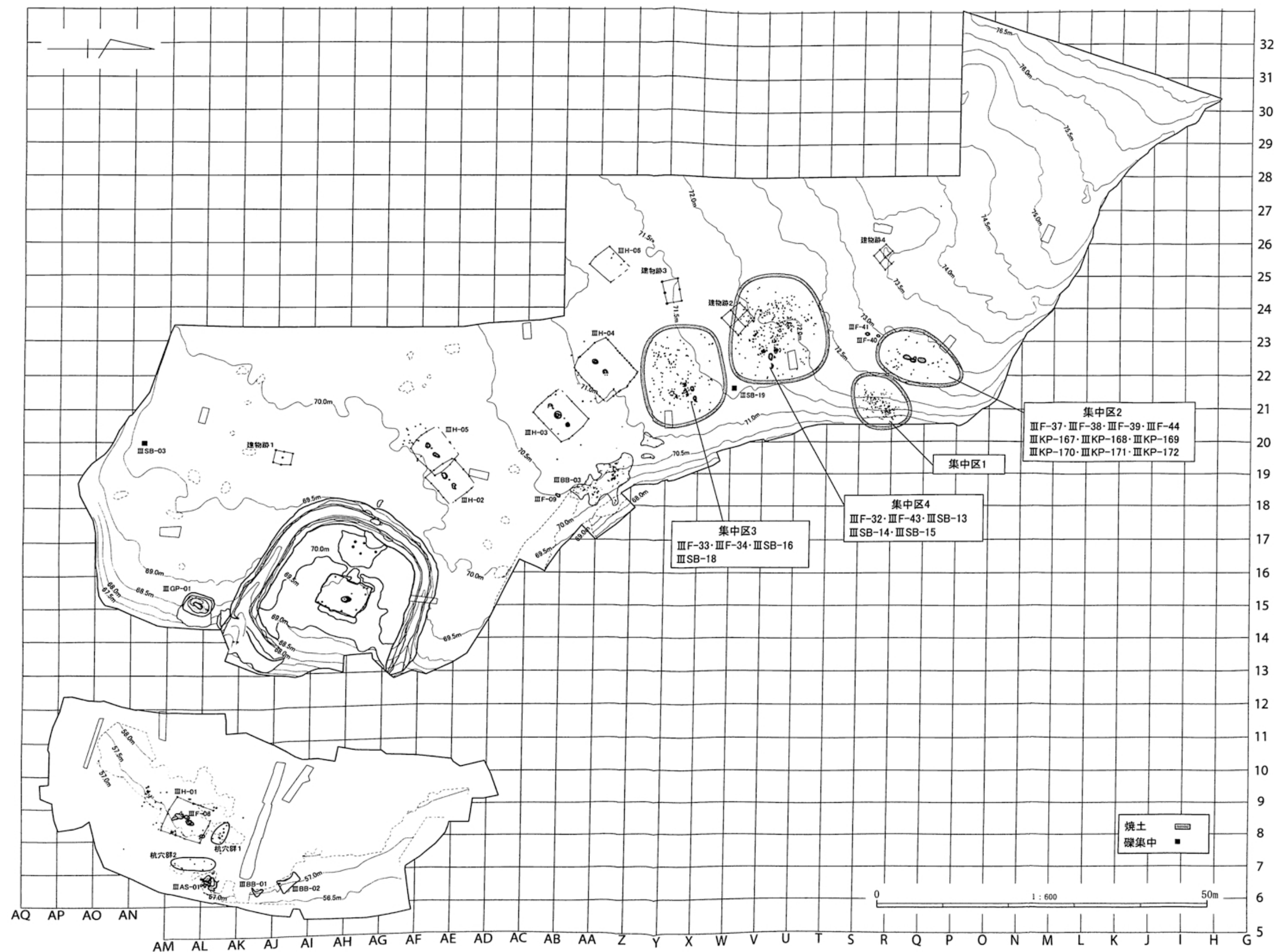
位置：AK-8・9、AL-7～9、AM-8・9

規模：611×556 cm 長軸方向：N-22° E

付属遺構：炉跡 ⅢF-04・05A 礫集中 ⅢSB-01・02

確認・調査（図Ⅲ-3）：近現代の攪乱で樽前 b テフラが削平された範囲でⅢSB-01 を検出した。これ以外の攪乱が及んでいない範囲のⅢ層の調査を進めた。AL-9 区で南北に直線状にまとまって礫が出土した。この時点で住居跡の壁面に沿って礫が出土している可能性が考えられたので、出土状況の平面図を作成して遺物の取り上げを行い、併行して調査を慎重に進めた。この礫の東側で黒色土を 3 cm 程掘り下げた段階でⅢF-04、05A が長軸をほぼ同じくして検出されたので、住居跡と認定してⅢH-01 と付番した。ⅢSB-02 は炉跡からやや離れていたため、この時点では住居に関わるものか判断できず図化等の記録後、取り上げを行っている。ⅢF-04 の調査は平面の写真撮影・実測後に半截し、土層断面の図化を行っている。また、併せて炉跡上面の土壌をフローテーションによる微細遺物回収の目的で採取している。ⅢF-05 は平面形から重複していることが想定されたので、重複関係が捉えられる位置にセクションを設け、土層断面確認後に新しものを A、古いものを B と付番した。長軸の向きと層位からⅢF-05A が住居の炉跡と考えられる。柱穴はⅢc～Ⅳ層をジョレンで面的に下げながら検出した。この際、炉を中心として多数の柱穴もしくは杭穴を検出しており、この段階で検出したものはすべて HP 番号を付番している。その後のⅤ層調査中に確認されたものはⅢKP 番号を付している。Ⅲc～Ⅳ層で柱穴検出後、それぞれ炉の方向に向くセクションラインを設定し、断面の記録を行った。多数の柱穴が確認されていたので、現場段階では支柱穴等の判断を保留としていた。最後に完掘写真を撮影し調査を終了とした。ⅢSB-01・02 は室内整理作業の段階で出土位置から付属遺構と捉え掲載を行っている。

付属炉（図Ⅲ-4）：本住居跡に付属する炉跡はⅢF-04・05A の 2 基である。ⅢF-04 は土層 5 の被熱層の上に 3 の付帯黒色土が形成されていることから、2～4 と 5・6 の 2 期に分かれそうである。上幌内モイ遺跡のⅢH-03 の炉跡ⅢF-58 等（厚真町教育委員会 2007）で灰層の掻きだしを行いながら焼土が形成された例があることから、灰層は確認されなかったが同様のものかと思われる。ⅢF-05A は A-B ラインでⅢF-05B との切りあい関係が確認された。また、ⅢF-05B の燃焼面はⅢF-05A の燃焼面より約 1 cm 低いことから擦文文化期のものと考えられる。ⅢF-05A の被熱層 2 がⅢF-05B の付帯黒色土層を切って形成されている。フローテーションの結果、ⅢF-04 からは哺乳綱の骨とキビ、ブドウ科、スモモ属、コナラ属、クルミ属の炭化種子が得られている。ⅢF-05A はⅢF-05B と重複しており、土壌サンプルの帰属を明らかにすることが難しく、時期は異なるが一括してここで扱う。哺乳綱の骨が得られている。ⅢF-04 の炭化材の AMS 年代測定を委託し、暦年較正年代（2σ）で 11 世紀中頃から 13 世紀初頭の年代幅得られている。調査時の所見では、付属炉の上面を覆う黒色土の厚さから中世段階のアイヌ文化期と考えてはいたが、想定よりも若干古い年代である。年代測定の試料に炭化材を利用したためかと思われる。

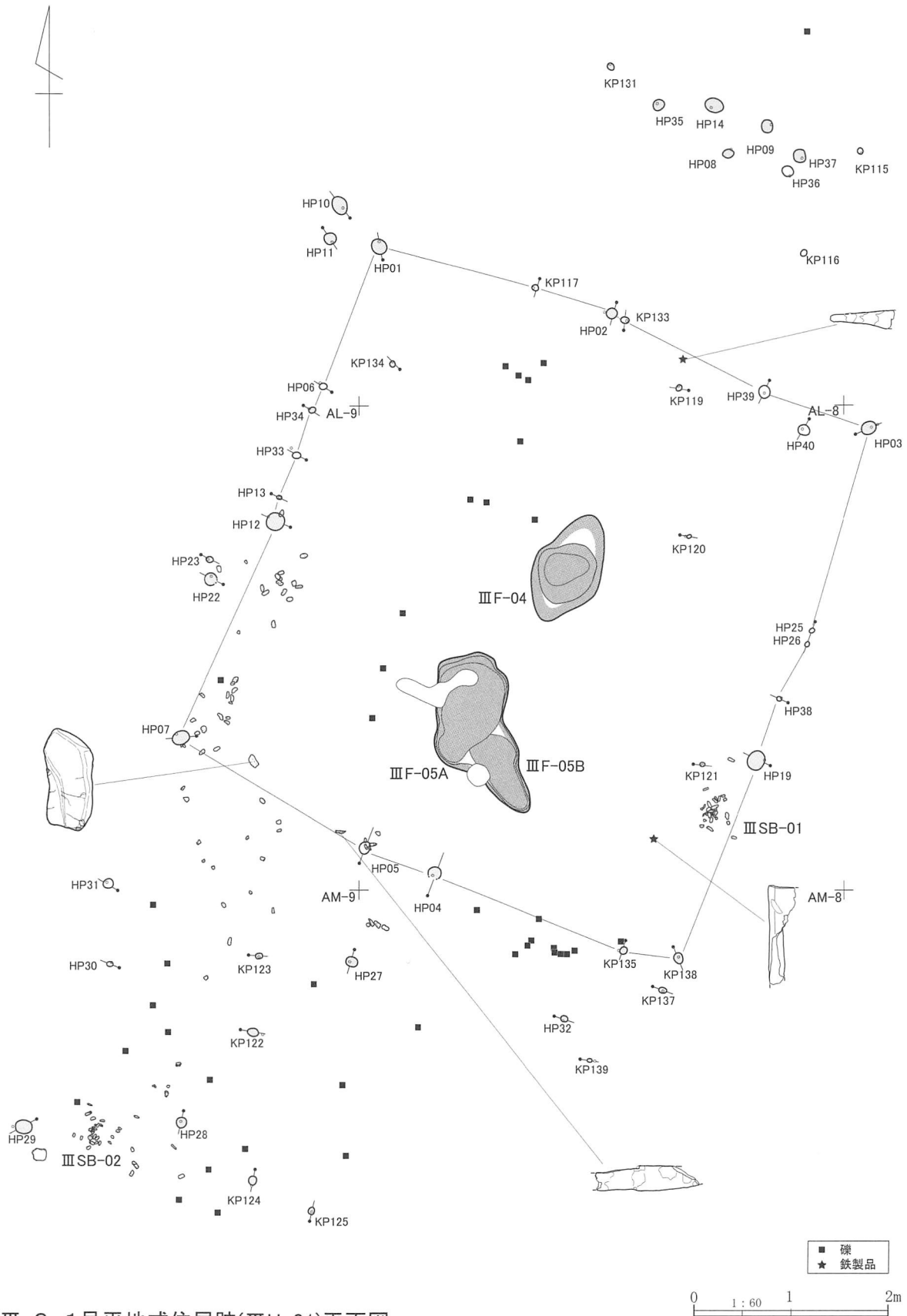


図Ⅲ-1 アイヌ文化期遺構配置図



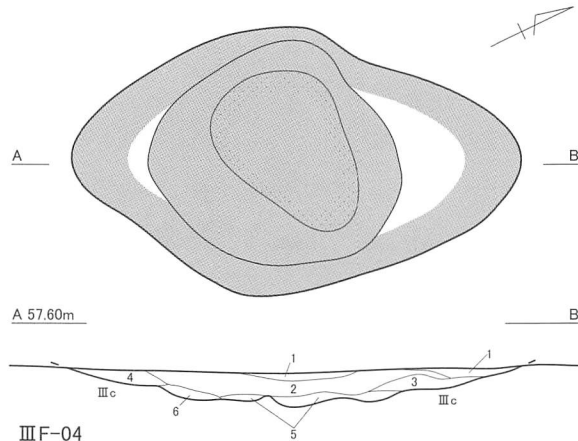
図Ⅲ-2 1号平地式住居跡周辺平面図

ⅢH-01



図Ⅲ-3 1号平地式住居跡(ⅢH-01)平面図

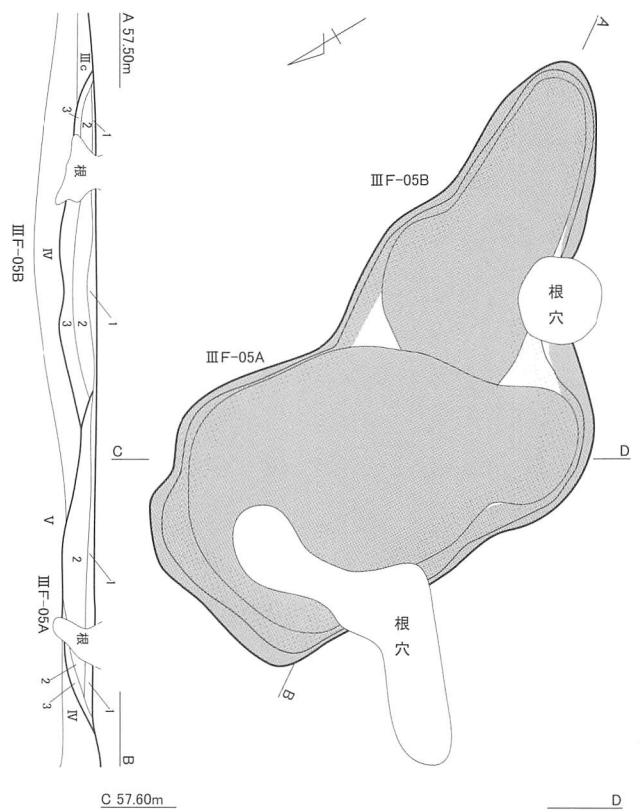
ⅢF-04



ⅢF-04

- | | |
|------------------|-------------|
| 1 7.5YR3/1 黒褐色 | Ⅲb = 焼土(斑状) |
| 2 7.5YR6/6 橙色 | Ⅲc被熱層 |
| 3 7.5YR4/1 褐灰色 | 付帯黒色層 |
| 4 7.5YR4/2 灰褐色 | 付帯黒色層 |
| 5 5YR5/3 にぶい赤褐色 | Ⅲc被熱層 |
| 6 7.5YR5/3 にぶい褐色 | 付帯黒色層 |

ⅢF-05A・B



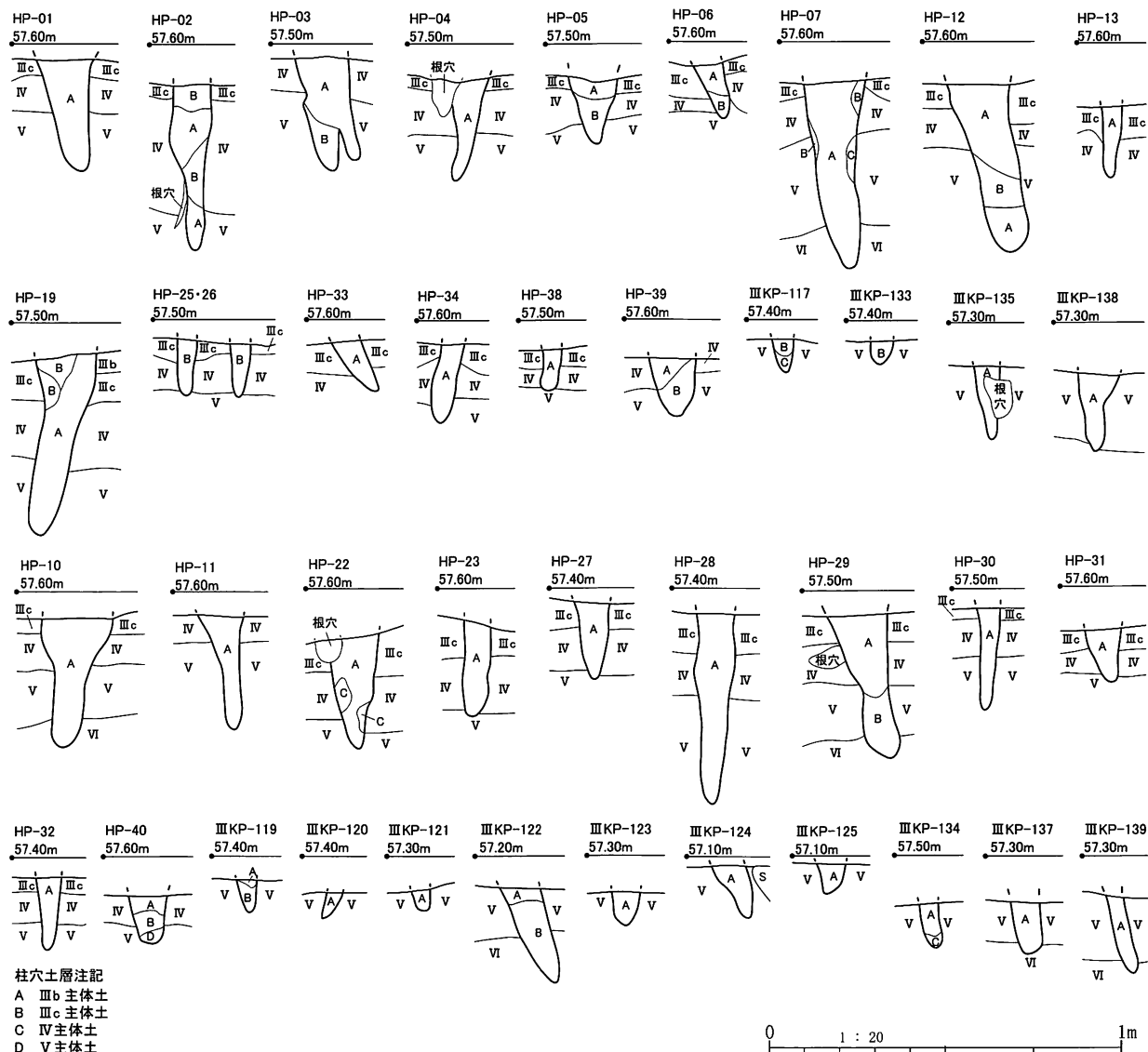
ⅢF-05

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1 5YR3/1 黒褐色 | Ⅲb = 焼土(斑状) ≡ 焼骨片(φ2↓) |
| 2 5YR5/6 明赤褐色 | Ⅲc被熱層 |
| 3 7.5YR3/1 黒褐色 | 付帯黒色層 |

図Ⅲ-4 1号平地式住居跡付属遺構(1)

柱 穴 (図Ⅲ-5) : 本住居跡では炉を中心に多数の柱穴が検出されている。すべて打ち込み式である。列を構成する柱穴は 20 本 (HP-01~07・12・13・19・25・26・33・34・38・39、ⅢKP-117・133・135・138) が考えられる。主体部の内部からは 5 本 (HP-40、ⅢKP-119~121・134) を検出している。主体部南側からは 12 本が検出されている。これらは付属部(前小屋)を構成するものと考えられるが、どのような列を構成するのかいくつかの可能性が考えられるため図示していない。HP-29~31 は付属部西側の列を成すと考えられ、HP-29、ⅢKP-124・125 は付属部南側の列を成すと考えられる。これらは、HP-30 を除き柱穴上方が住居跡内側に傾く「外踏ん張り」の構造であることと、付属部内部の礫の出土状態から考えても問題なさそうである。但し東側の列は①ⅢKP-125 から HP-27・04 もしくは HP-05、②KP-125 から HP-32、ⅢKP-05、③KP-125 からⅢKP-139・137・138 の大きく 3 通りの可能性が柱穴の配置から考えられる。遺物の出土状態からは②の可能性が高いように思われるが、判断するには至らない。①~③のいずれの場合でも HP-28、ⅢKP-122・123 は付属部の内部に位置するので、住居跡の長軸方向に列を構成するものである。HP-10・11・22・23 は主体部西側列の外側に位置している。主体部西側列に並行して列を成すものかもしれない。

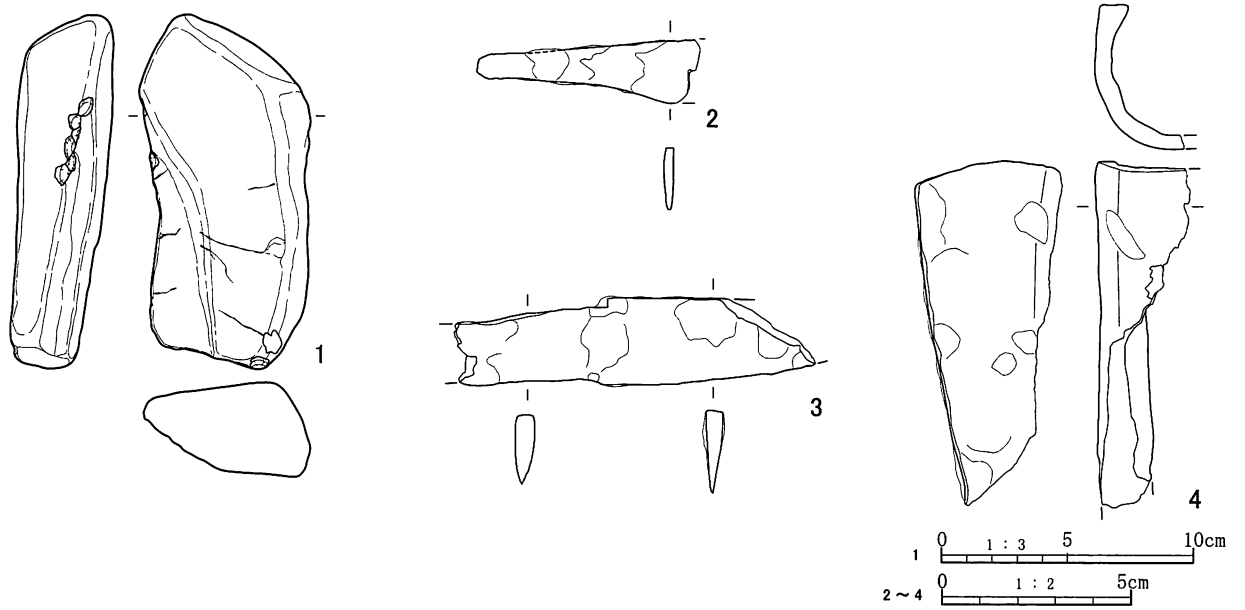
遺物出土状態 (図Ⅲ-3) : 付属炉周辺から遺物は殆ど出土しておらず、主体部西壁際から付属部西半にかけて礫が列状に出土している。付属部では主体部に比べやや散らばった状態である。主体部南東コーナーより東側列に沿ったやや北側と、付属部南西コーナー付近からⅢSB-01・02 がそれ



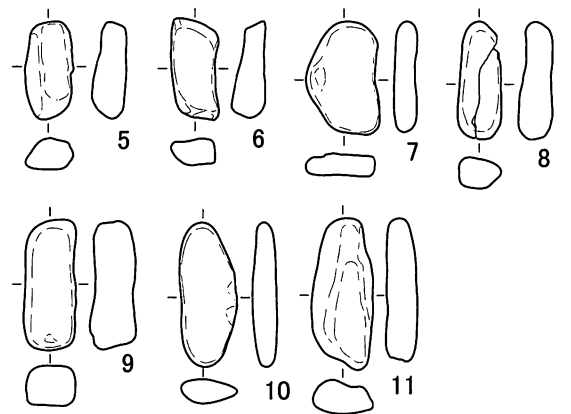
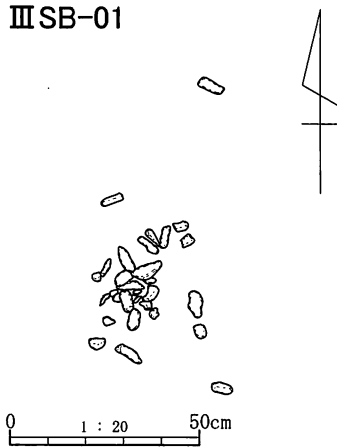
図Ⅲ-5 1号平地式住居跡付属遺構(2)

ぞれ出土している。III SB-01 は径 50 cm 以内と非常にまとまって出土している。この直下には擦文期の III F-01 を検出しており、III SB-01 の構成礫も大半が被熱しているので、擦文期のものである可能性も考えたが、住居跡の内部に位置すること、非常によくまとまっており、後世の人の活動による影響が見られないことから、住居跡に伴うものと考えた。この南西側に近接して鉄斧の基部片が出土している。III SB-02 は径 50 cm 以内にまとまった部分と、東側にややまばらに広がる部分とがある。このややまばらに広がる部分は、付属部の西半に広がる礫の一部かもしれない。この礫集中の基底面を 3 cm 掘り下げたところで B-Tm が斑状に検出している。

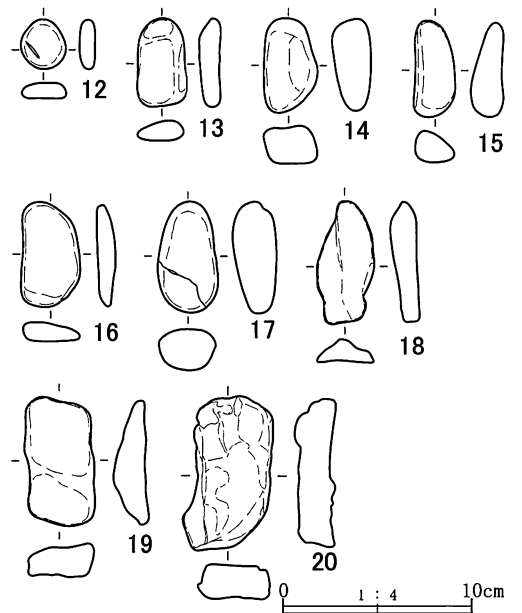
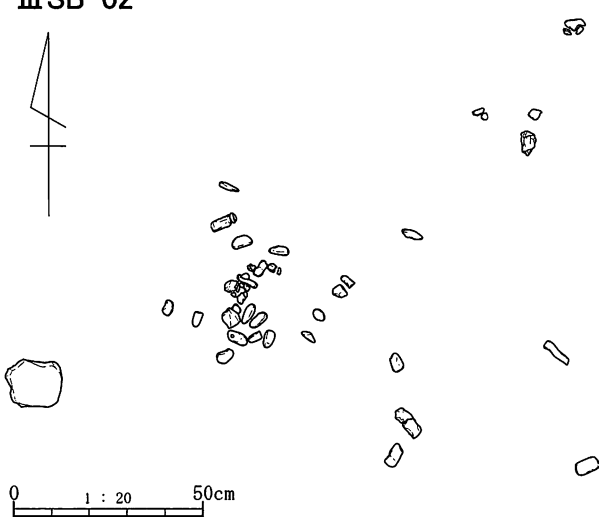
出土遺物(図Ⅲ-6) : 1 は礫の側縁に打ち欠きが見られることから加工痕のある礫とした。5 面の剥離面が連続することから、偶発的なものではないと判断したものである。2 は刀子の茎片である。3 は刀子で、刃身と茎が一部欠損している。平棟平造りの両区で、茎の断面形は刃身同様に刃部側が薄くなり鋭角である。4 は鉄斧の基部片である。断面「コ」の字形のものと考えられる。5 ~ 11 は III SB-01 の構成礫である。5・6・8 ~ 11 のような棒状礫が大半である。計測値の平均は長軸 64.0 mm、短軸 27.7 mm、厚さ 17.2 mm である。長軸の標準偏差も最大で 16 mm と差は少なく、大きさにもま



ⅢSB-01



ⅢSB-02



図Ⅲ-6 1号平地式住居跡出土遺物

表Ⅲ-2 ⅢH-01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴			付属遺構
						主体部		付属部		本数			
						長軸	短軸	長軸	短軸	主体	付属	他	
Ⅲ-3	13-1	ⅢH-01	AK-8・9, AL-7~9, AM-8・9	ⅢbM	N-22°E	611	556	-	-	20	-	21	焼土2・礫集中2

表Ⅲ-3 ⅢH-01付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-4	13-2・3	ⅢF-04	AL-8	ⅢbM	楕円形	119	72	10	-	
Ⅲ-4	13-4・5	ⅢF-05A	AL-8	ⅢbM	不整形	118	71	9	焼骨片	

表Ⅲ-4 ⅢH-01柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-15	14-3	HP-01	17	3	32	10	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-02	11	1	47	2	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-03	16	2	32	7	打込み	主体部
Ⅲ-15	14-4	HP-04	(8)	1	28	8	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-05	13	2	17	5	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-06	8	1	16	18	打込み	主体部
Ⅲ-15	14-5	HP-07	17	3	53	5	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-12	17	5	47	10	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-13	6	1	21	2	打込み	主体部
Ⅲ-15	14-6	HP-19	17	3	51	8	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-25	5	1	16	1	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-26	5	1	16	3	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-33	9	1	16	35	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-34	6	2	22	5	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-38	6	3	11	5	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-39	13	3	16	8	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-117	6	1	10	6	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-133	7	2	6	4	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-135	8	1	21	3	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-138	12	1	22	0	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	HP-10	20	4	37	7	打込み	
Ⅲ-15	-	HP-11	12	1	32	5	打込み	
Ⅲ-15	-	HP-22	(10)	1	32	2	打込み	
Ⅲ-15	-	HP-23	8	3	27	4	打込み	
Ⅲ-15	-	HP-27	10	2	21	6	打込み	
Ⅲ-15	-	HP-28	10	2	54	1	打込み	
Ⅲ-15	-	HP-29	17	2	41	14	打込み	
Ⅲ-15	-	HP-30	7	2	28	1	打込み	
Ⅲ-15	-	HP-31	10	3	15	10	打込み	
Ⅲ-15	-	HP-32	7	2	21	0	打込み	
Ⅲ-15	-	HP-40	10	5	13	5	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-119	6	1	9	9	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-120	4	1	7	22	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-121	6	3	6	4	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-122	12	1	28	24	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-123	8	1	10	5	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-124	9	1	16	22	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-125	7	2	8	6	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-134	5	1	12	12	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-137	9	3	15	5	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-139	5	1	22	15	打込み	

表Ⅲ-5 ⅢH-01出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-6-1	102-1-1	-	364	加工痕のある礫	-	ⅢbM	ⅢH-01	AL-9	141.1	69.1	36.4	405.0	Sa.	
Ⅲ-6-2	102-1-2	-	531	刀子	-	ⅢbL	ⅢH-01	AK-8	(58.5)	16.6	2.7	6.8	Irn.	
Ⅲ-6-3	102-1-3	-	408	刀子	-	ⅢbM	ⅢH-01	AL-9	(95.9)	23.5	5.1	28.8	Irn.	
Ⅲ-6-4	102-1-4	-	251	鉄斧	-	ⅢbL	ⅢH-01	AL-8	(91.1)	(24.2)	39.5	122.2	Irn.	

表Ⅲ-6 ⅢSB-01属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
Ⅲ-6-5	-	-	2	ⅢbL	完形	51.3	-12.7	25.4	-2.4	18.2	0.9	2.0	-0.4	27.3	○	Sa.	
-	-	-	28	ⅢbL	完形	53.7	-10.4	19.1	-8.6	16.3	-0.9	2.8	0.4	26.4	-	Mud.	
-	-	ⅢS111	21	ⅢbL	完形	54.4	-9.6	18.5	-9.2	13.6	-3.6	2.9	0.5	12.3	○	Sa.	
-	-	22	ⅢbL	完形	○												
Ⅲ-6-6	-	-	27	ⅢbL	完形	55.1	-8.9	22.3	-5.4	17.1	-0.1	2.5	0.1	28.6	-	Sa.	
-	-	-	14	ⅢbL	完形	56.8	-7.2	30.1	2.4	15.2	-2.0	1.9	-0.5	29.8	-	Sa.	
-	-	-	19	ⅢbL	完形	57.1	-6.9	30.0	2.3	16.1	-1.1	1.9	-0.5	28.9	-	Sa.	
-	-	-	20	ⅢbL	完形	58.7	-5.3	30.5	2.8	14.4	-2.8	1.9	-0.5	33.7	○	Sa.	
Ⅲ-6-7	-	-	29	ⅢbL	完形	59.8	-4.2	36.4	8.7	11.8	-5.4	1.6	-0.7	39.2	-	Sa.	
-	-	-	7	ⅢbL	完形	60.9	-3.1	25.4	-2.3	20.7	3.5	2.4	0.0	46.1	○	Mud.	
-	-	-	8	ⅢbL	完形	61.2	-2.8	23.0	-4.7	13.0	-4.2	2.7	0.3	23.2	○	Mud.	
Ⅲ-6-8	102-2	ⅢS175	9	ⅢbL	完形	62.2	-1.8	22.9	-4.8	17.4	0.2	2.7	0.3	33.0	○	Mud.	
-	-	37	ⅢbL	○													
-	-	-	40	ⅢbL	完形	63.4	-0.6	25.4	-2.3	22.9	5.7	2.5	0.1	48.0	○	Sa.	
-	-	-	16	ⅢbL	完形	65.4	1.4	31.8	4.1	12.3	-4.9	2.1	-0.3	30.7	○	Sa.	
Ⅲ-6-9	-	-	30	ⅢbL	完形	67.9	3.9	25.3	-2.4	22.6	5.4	2.7	0.3	72.0	○	Sa.	
-	-	-	13	ⅢbL	完形	71.2	7.2	22.0	-5.8	21.1	3.9	3.2	0.9	33.6	○	Sa.	
-	-	-	24	ⅢbL	完形	72.3	8.3	43.6	15.9	13.0	-4.2	1.7	-0.7	47.2	○	Sa.	
-	-	ⅢS105	5	ⅢbL	完形	75.6	11.6	30.0	2.3	25.4	8.2	2.5	0.1	69.8	○	Sa.	
-	-	6	ⅢbL	○													
-	-	36	ⅢbL	○													
Ⅲ-6-10	-	-	11	ⅢbL	完形	76.6	12.6	29.7	2.0	12.9	-4.4	2.6	0.2	32.6	○	Sa.	
-	-	-	26	ⅢbL	完形	76.7	12.7	29.1	1.4	22.3	5.1	2.6	0.2	68.8	○	Sa.	
Ⅲ-6-11	-	-	12	ⅢbL	完形	80.6	16.6	32.8	5.1	17.5	0.3	2.5	0.1	59.6	○	Sa.	
						64.0		27.7		17.2		2.4		39.5	完形20点		

表Ⅲ-7 ⅢSB-02属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
Ⅲ-6-12	-	-	332	ⅢbM	完形	26.0	-31.6	23.9	-10.1	18.0	1.2	1.1	-0.7	6.2	-	Sa.	
-	-	-	331	ⅢbM	完形	34.2	-23.4	26.3	-7.7	6.7	-10.1	1.3	-0.5	7.5	-	Sa.	
-	-	-	321	ⅢbM	完形	35.6	-22.0	27.9	-6.1	9.2	-7.6	1.3	-0.5	9.9	-	Sa.	
-	-	-	299	ⅢbM	完形	42.4	-15.2	28.2	-5.8	12.2	-4.6	1.5	-0.3	20.3	-	Sa.	
-	-	-	314	ⅢbM	完形	51.2	-6.4	21.7	-12.3	11.6	-5.2	2.4	0.6	13.3	-	Mud.	
Ⅲ-6-13	-	-	304	ⅢbM	完形	46.5	-11.2	25.7	-8.3	11.3	-5.5	1.8	0.0	17.4	-	Sa.	
-	-	-	301	ⅢbM	完形	48.4	-9.2	32.0	-2.0	15.1	-1.7	1.5	-0.3	33.4	-	Sa.	
Ⅲ-6-15	-	-	335	ⅢbM	完形	51.4	-6.2	22.2	-11.8	17.3	0.5	2.3	0.5	22.4	-	Sa.	
-	-	-	306	ⅢbM	完形	55.9	-1.7	23.8	-10.2	17.5	0.7	2.3	0.5	22.5	-	Sa.	
Ⅲ-6-14	-	-	316	ⅢbM	完形	50.2	-7.4	27.3	-6.7	19.3	2.5	1.8	0.0	38.1	-	Sa.	
-	-	-	312	ⅢbM	完形	52.1	-5.5	23.4	-10.7	17.1	0.3	2.2	0.4	28.2	-	Sa.	
-	-	-	326	ⅢbM	完形	50.7	-6.9	34.4	0.4	9.2	-7.6	1.5	-0.3	19.3	-	Sa.	
-	-	-	305	ⅢbM	完形	53.7	-4.0	24.3	-9.7	16.1	-0.7	2.2	0.4	26.9	-	Sa.	
-	-	-	319	ⅢbM	完形	56.0	-1.6	21.8	-12.2	22.4	5.6	2.6	0.8	30.6	-	Sa.	
-	-	-	329	ⅢbM	完形	55.7	-1.9	28.8	-5.2	19.3	2.5	1.9	0.1	36.2	-	Sa.	
-	-	-	443	ⅢbM	完形	54.8	-2.8	27.4	-6.6	19.0	2.2	2.0	0.2	34.6	-	Sa.	
Ⅲ-6-16	-	-	317	ⅢbM	完形	55.0	-2.6	30.1	-3.9	10.0	-6.8	1.8	0.0	22.8	○	Sa.	
-	-	-	342	ⅢbM	完形	54.5	-3.1	40.1	6.1	23.1	6.3	1.4	-0.5	62.0	-	Sa.	
-	-	-	302	ⅢbM	完形	59.0	1.4	30.1	-3.9	17.5	0.7	2.0	0.1	37.6	-	Sa.	
Ⅲ-6-17	-	-	334	ⅢbM	完形	58.6	1.0	29.0	-5.0	22.4	5.6	2.0	0.2	51.6	○	Sa.	
Ⅲ-6-18	-	-	345	ⅢbM	完形	64.4	6.7	29.2	-4.8	13.0	-3.8	2.2	0.4	25.6	-	Mud.	
-	-	-	327	ⅢbM	完形	66.6	9.0	34.3	0.3	14.9	-1.9	1.9	0.1	59.8	-	Sa.	
-	-	-	340	ⅢbM	完形	73.7	16.1	73.4	39.4	13.2	-3.6	1.0	-0.8	109.7	-	Sa.	
Ⅲ-6-19	-	-	324	ⅢbM	完形	66.6	9.0	36.2	2.2	18.3	1.5	1.8	0.0	60.5	○	Sa.	
Ⅲ-6-20	-	-	325	ⅢbM	完形	82.6	25.0	41.1	7.1	19.2	2.4	2.0	0.2	84.6	-	Mud.	
-	-	-	298	ⅢbM	完形	152.7	95.1	122.4	88.4	43.7	26.9	1.2	-0.6	1105.0	○	Sa.	
						57.6		34.0		16.8		1.81		76.4	完形26点		

とまりが見られる。12～20はⅢSB-02の構成礫である。12は小形の扁平な円形、13・16・18～20は扁平な楕円形、14・15・17は棒状の礫である。計測値を見ると長軸長はまばらである。

灰集中1〔ⅢAS-01〕 (図Ⅲ-7 図版14-6、15-1・2)

位置：AK-6・7、AL-6 規模：150×138×5 cm

立地：T₁面の段丘平坦面の東側の縁辺部。

確認・調査：Ⅲb層調査中、灰層を検出した。灰層を含む周囲の黒色土中に未被熱の獣骨の一部を検出した。この黒色土は粘性が高く、色調も周囲の包含層に比してやや明るい色調であり、焼土も含むことから、灰層が土壌化したものと考えた。この時点で土壌化した灰層の平面図を作成し、写真撮影を行っている。また、長軸とこれに直交する位置に十字のベルトを設定した。このベルトを残し、土壌化した灰層の土壌サンプルを採取しながら、灰層の検出を行った。この際、未被熱の獣骨は基本的に残しながら調査を進めた。灰層全面を検出したところで、写真撮影、平面図の作成、遺物等の取り上げを行い、ベルトに沿ってトレンチを掘削して土層断面の記録を行った。最後に灰層の土壌サンプルを採取して調査を終了した。

堆積状態(図Ⅲ-7)：1～2は土壌化した灰層と考えられる。3～6は灰層とともに掻き出された焼土と土壌化した灰層と考えられる。7～14は灰層である。11・13はⅢb層に落ち込むが、人為的なものではなく木の根等による押し込みと考えられる。

出土遺物(図Ⅲ-7)：1はたたき石で、稜に敲打痕が見られる。2は骨鏟で、ハンドピックで取り上げた基部片にフローテーションで回収した3点の破片が接合したものである。やや黒色化している部分が見られ、破断面はすべて黒色化していることから被熱していると考えられる。シカの中手・中足骨を素材としており、溝以外は全面が加工整形されている。遺存状態は非常に良好である。3はフローテーションで回収したものである。表面は全面が加工整形されているもので、骨角器の一部である。裏面も剥離等ではなく、刃物でカットされたとみられることから、製作時の破片と考えられる。

土壌サンプル：回収した土壌は131.30である。多種の炭化種子が回収されており、栽培植物としては、イネ、キビ、ヒエ、コムギ、ムギ類、シソ属が回収されている。動物遺存体はシカの被熱・未被熱の骨やネズミ科の骨、ウグイ・サケ科・コイ科等の魚骨が回収されている。

性格：規模や土層断面の観察から複数回にわたり灰等を集積した結果、形成されたものだと考えられる。検出層位や住居跡との位置関係から、1号平地式住居跡に関連するものだと考えられる。また、住居の炉跡(ⅢF-04)で灰の掻き出しを行っていたと考えられることとも矛盾しない。

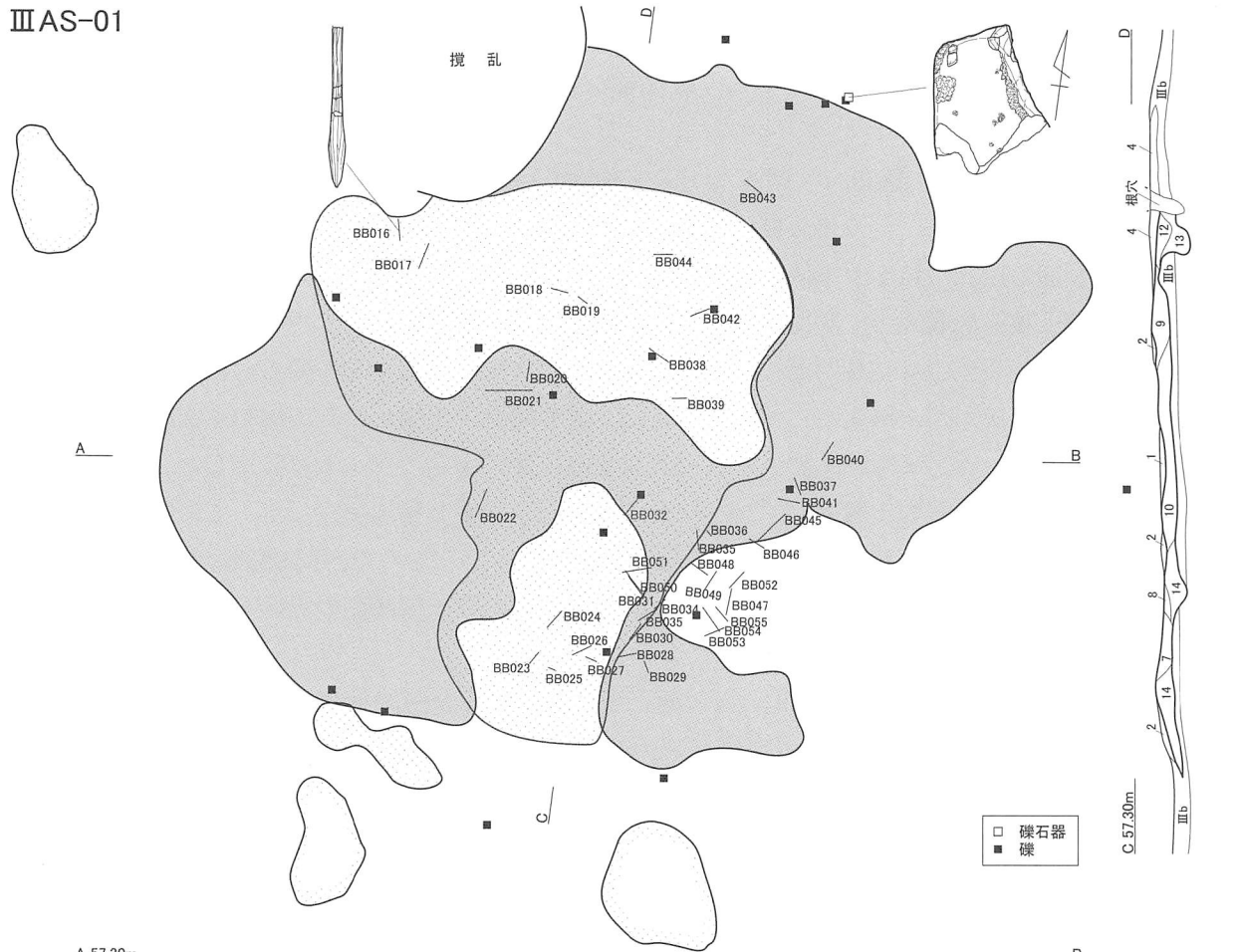
表Ⅲ-8 ⅢH-01周辺灰集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-17	14-6, 15-1・2	ⅢAS-01	AK-6・7 ,AL-6	ⅢbM	不整形	150	138	5	灰・骨	

表Ⅲ-9 ⅢAS-01出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-7-1	102-3-5	-	477	台石	-	ⅢbM	ⅢAS-01	AK-6	(160.0)	121.0	68.0	1380.0	Sa.	
Ⅲ-7-2	102-3-6	-	8536	骨鏟	-	ⅢbM	ⅢAS-01	AK-6	(113.3)	12.0	6.5	5.0	B.	BB016
Ⅲ-7-3	102-3-8	-	8535	骨角器	-	-	ⅢAS-01	-	(44.2)	(12.6)	3.1	0.7	B.	FLT

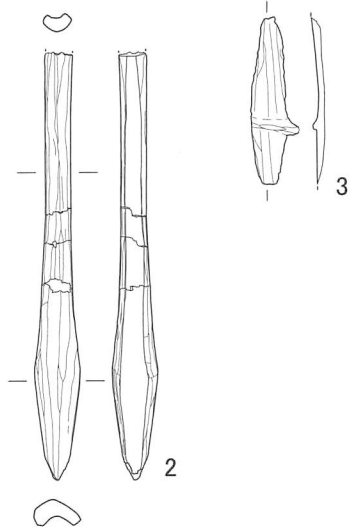
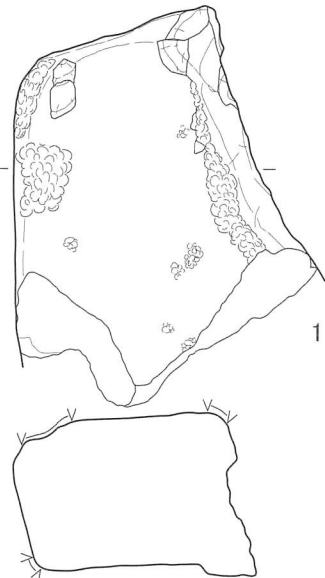
ⅢAS-01



ⅢAS-01

- | | | | |
|------------------|----------------------|-------------------|------------------------------|
| 1 7.5YR5/1 褐灰色 | Ⅲb = 灰(均一)・焼骨片(φ1↓) | 8 10YR5/1 褐灰色 | Ⅲb = 灰(斑状) |
| 2 10YR5/1 褐灰色 | Ⅲb = 灰(均一)・焼骨片(φ1↓) | 9 10YR8/1 灰白色 | 灰 ≡ Ⅲb(斑状)・焼骨片(φ1↓) |
| 3 7.5YR3/1 黒褐色 | Ⅲc = 焼土(斑状)・炭化物(φ4↓) | 10 10YR7/2 にぶい黄褐色 | 灰 = 焼土(均一) ≡ Ⅲb(斑状)・焼骨片(φ1↓) |
| 4 7.5YR5/3 にぶい褐色 | 焼土 = Ⅲc | 11 10YR6/1 褐灰色 | 灰 ≡ Ⅲc(根による押し込み) |
| 5 7.5YR6/3 にぶい褐色 | 焼土 = 灰(均一) | 12 10YR8/1 灰白色 | 灰 ≡ Ⅲb(斑状) |
| 6 7.5YR5/2 灰褐色 | 焼土 - Ⅲb(均一) = 灰(均一) | 13 10YR5/1 褐灰色 | Ⅲb ≡ 灰(根による押し込み) |
| 7 7.5YR7/2 明褐色 | 灰 = 焼土(均一)・焼骨片(φ1↓) | 14 10YR8/2 褐灰色 | 灰 = Ⅲb(均一) ≡ (焼土斑状) |

0 1 : 20 1m



0 1 : 3 5 10cm
1
0 1 : 2 5cm
2・3

図Ⅲ-7 灰集中1(ⅢAS-01)及び出土遺物

獣骨集中1〔ⅢBB-01〕 (図Ⅲ-8 図版 15-3)

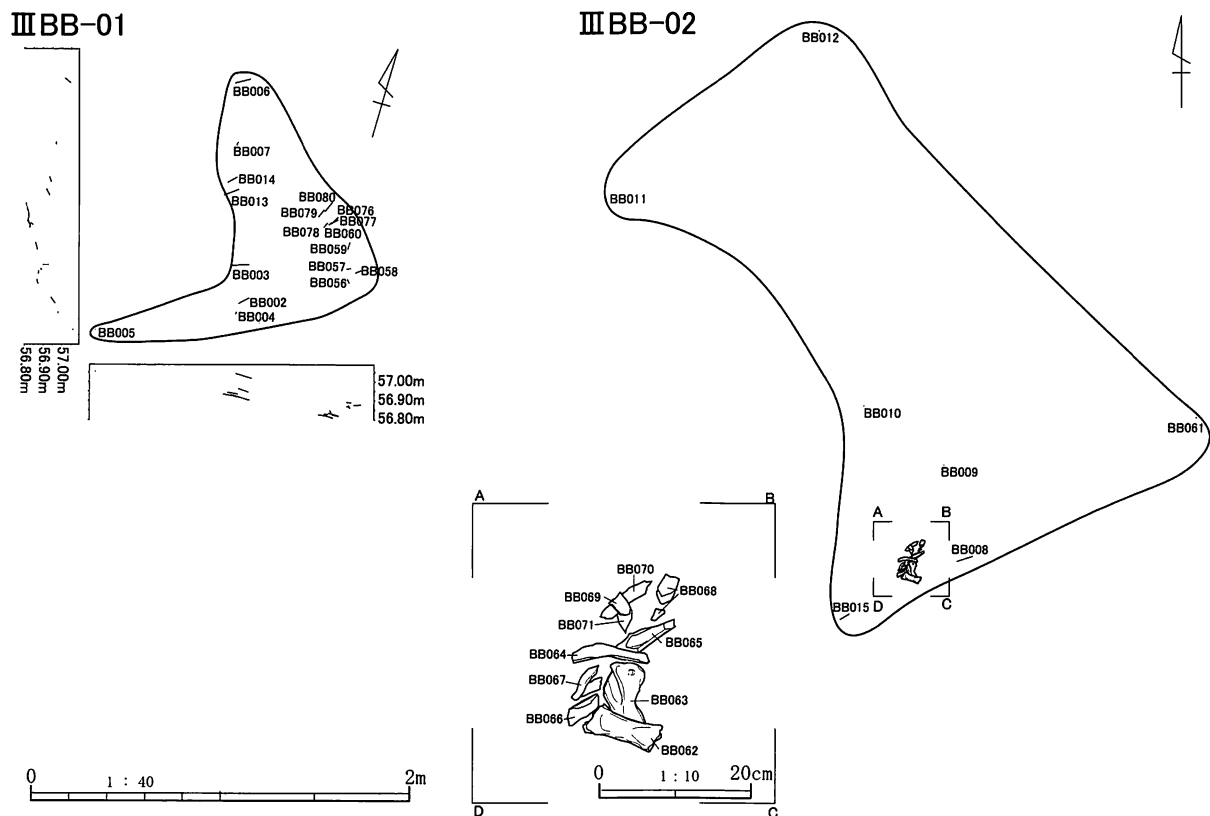
位置：AJ-6 検出層位：Ⅲb層中位
 規模：155×136 cm 主要動物・部位：シカ・歯
 立地：灰集中1と同様にT₁面の段丘平坦面の東側の縁辺部。

確認調査：Ⅲb層調査中にシカの歯がややまとまって出土した。シカの歯を残しながら更に調査を進めたところ、下位からもシカの歯が出土することから、土坑の可能性も考えベルトを設定し、トレンチを掘削した。土層断面からは明瞭な掘り込み等は確認できなかったが、シカの歯は皿状に窪んだ部分にまとまっている。これは図Ⅲ-8に図示した出土位置の断面図からも判る。これまでの厚幌ダム遺跡に関連する調査でも、上幌内モイ遺跡獣骨集中52(厚真町教育委員会2009)やオニキシベ2遺跡獣骨集中1(厚真町教育委員会2011)等の住居跡に関連する獣骨集中では断面図等を図示していなかったが、同じように窪地にまとまっている出土状態であった。シカの歯をすべて検出したところで、写真撮影を行い、出土位置の記録を行いながら取り上げた。また、取り上げに当たっては、酢酸ビニル系樹脂(木工用ボンド)を希釈して塗布して補強を行っている。遺存状態が不良であった2点は所見を記録し、破棄している。

獣骨の特徴：大半は下顎歯で、わずかに上顎歯が見られる。

獣骨集中2〔ⅢBB-02〕 (図Ⅲ-8 図版 15-4)

位置：AI-7 検出層位：Ⅲb層中位
 規模：325×194 cm 主要動物・部位：シカ・四肢骨
 立地：灰集中1、獣骨集中1と同様にT₁面の段丘平坦面の東側の縁辺部。



図Ⅲ-8 獣骨集中1・2(ⅢBB-01・02)平面図

確認調査：Ⅲb層調査中に、獣骨を検出した。四肢骨が径30cm未満の範囲にまとまって出土しており、この周囲にもやや散らばって獣骨が見られた。この全体にⅢBB-02を付した。

獣骨の特徴：遺存状態が不良のため同定に至らなかったものが多い。同定されたものの中で、肩甲骨(BB062)、上腕骨(BB063)は、それぞれに解体痕が残るということであった。

表Ⅲ-10 ⅢH-01周辺獣骨集中属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備 考
						長軸	短軸				
Ⅲ-8	15-3	ⅢBB-01	AJ-6	ⅢbM	不整形	155	136	シカ歯	-	ⅢH-01	
Ⅲ-8	15-4	ⅢBB-02	AI-6・7	ⅢbM	不整形	325	194	シカ四肢骨	-	ⅢH-01	

杭穴群1 (図Ⅲ-9 図版15-5・6)

位置：AK-8 検出層位：Ⅲc～V層

規模：450×150cm 本数：10本

立地：1号平地式住居跡北側の平坦面。

確認調査：検出はⅢc層で行ったものと、V層上面で行ったものがある。

整理作業：整理作業段階で設定した。これらが明確に関連するものであるかの判断は困難であるが、1号平地式住居跡北側の限られた空間に分布することから、出土位置を優先し設定した。

杭跡：すべて打ち込み式である。Ⅲc層で検出した6本(HP-08・09・14・35～37)の内、ⅢHP-36以外は確認面から20cm以上の深さである。V層で検出した4本(ⅢKP-115・116・118・131)についても、Ⅲc～IV層の厚さを考慮すると同様の深さと考えられる。

性格：安易に民俗例を援用するわけにはいかないが、神窓側の屋外にヌササンを設けることが知られており、今回の出土状況はその可能性を連想させる。ただし、ヌササンの設置にこれほど深く杭を打つ必要がないようにも思われる。また、厚幌ダム関係の発掘調査成果では初出であり、検出例の増加を待って検討したい。

杭穴群2 (図Ⅲ-9 図版15-7・8)

位置：AK・AL-7 検出層位：V層

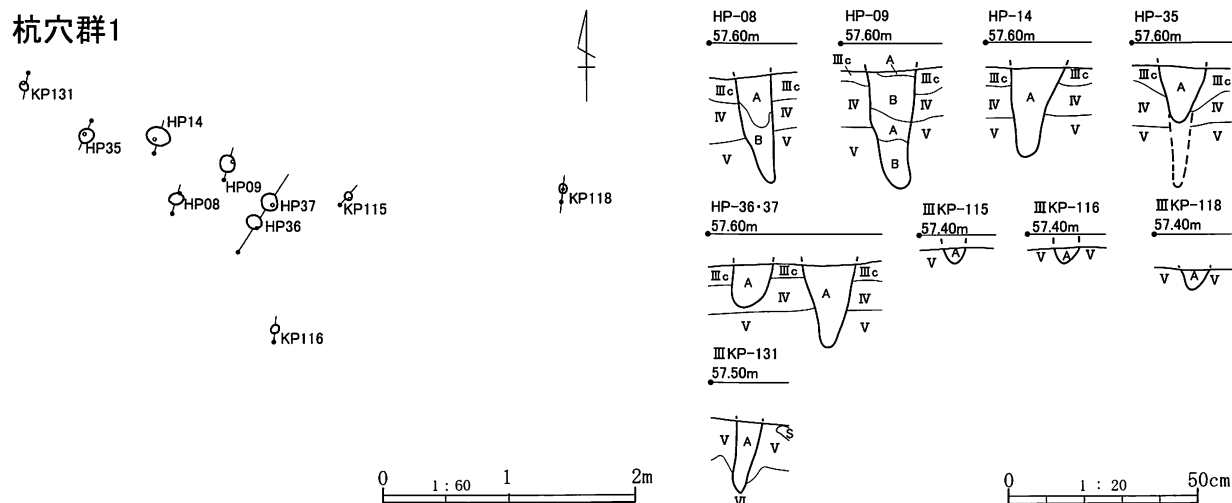
規模：155×50cm 本数：7本

確認調査：IV層中まで近現代の削平によって攪乱されており、検出はすべてV層上面である。

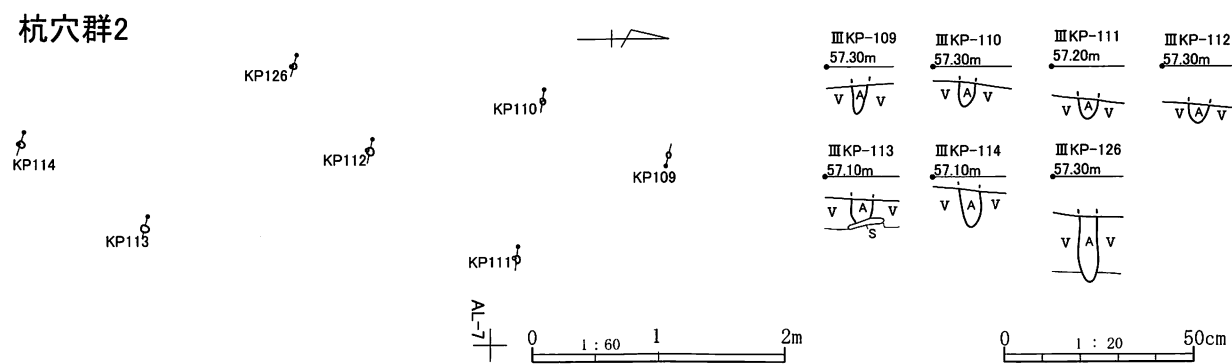
整理作業：整理作業段階で設定したものである。これらが明確に関連するかの判断は困難であるが、1号平地式住居跡東側に近接して検出されていることから、位置関係を優先し設定した。

杭跡：すべて打ち込み式のもので、V層で検出したので、Ⅲc～IV層の厚さを考慮すると深さは20cm以上と考えられる。規則的な配置と思われ、北東軸で見るとⅢKP-113・114、ⅢKP-111・112・126、ⅢKP-109・110が直線上であり列を構成する可能性がある。北西軸ではⅢKP-114・126、ⅢKP-110・112・113、ⅢKP-109・111が線上であり列を構成する可能性がある。実際にこれらがどのように列を構成していたのかは判断することができなかった。

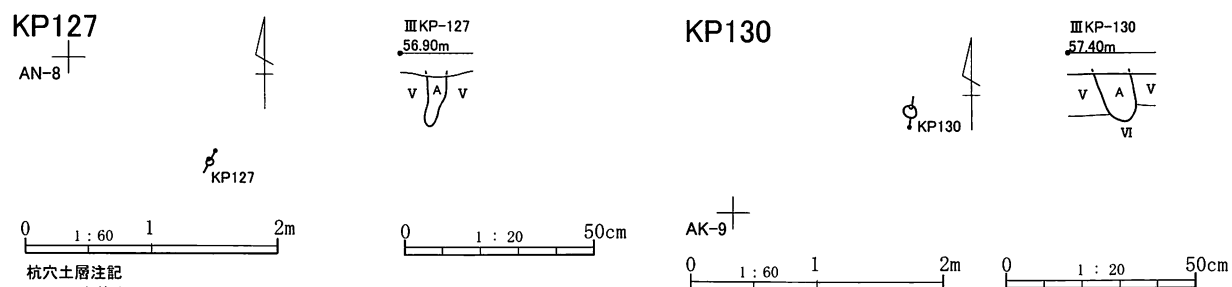
杭穴群1



杭穴群2



KP127



杭穴土層注記
A IIIb 主体土
B IIIc 主体土

図Ⅲ-9 杭穴群1・2及び杭穴

表Ⅲ-11 ⅢH-01周辺杭穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-9	15-5	HP-08	9	1	29	10	打込み	
Ⅲ-9	15-6	HP-09	13	3	31	5	打込み	
Ⅲ-9	-	HP-14	14	3	24	3	打込み	
Ⅲ-9	-	HP-35	11	-	(32)	0	打込み	
Ⅲ-9	-	HP-36	10	4	11	7	打込み	
Ⅲ-9	-	HP-37	14	3	22	0	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-115	6	2	4	0	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-116	7	1	4	0	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-118	7	2	5	10	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-131	7	1	19	6	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-109	4	1	7	3	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-110	4	1	6	5	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-111	5	1	5	0	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-112	6	1	5	0	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-113	6	-	(6)	2	打込み	
Ⅲ-9	15-7	ⅢKP-114	5	1	10	3	打込み	
Ⅲ-9	15-8	ⅢKP-126	5	1	17	0	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-127	5	1	13	7	打込み	
Ⅲ-9	-	ⅢKP-130	10	3	12	20	打込み	

杭 穴 (図Ⅲ-9) : 単独で出土したⅢKP-127・130 は図示に留める。

2・5号平地式住居跡周辺概況 (図Ⅲ-10)

2・5号平地式住居跡は段丘中央より北側で、チャシ跡の西側に位置する。2つの住居跡は重複している。平成20年度の調査では、それぞれ並んで2カ所の焼土を確認したことから住居跡の可能性を考えていた。ⅢF-11・13の周囲で柱穴が列を成すことからⅢH-02を付したが、ⅢF-12・14の周辺では切り株や、根穴による攪乱の影響もあり柱穴の配置がまばらであり、判断を保留していた。平成21年度の調査で、V層調査中に新たな柱穴が確認され、列を成すことからⅢH-05を付番した。そのため現場段階では新旧関係を想定するに至らなかった。

2号平地式住居跡〔ⅢH-02〕 (図Ⅲ-10～12、図版16、17-1～3)

位 置 : AD・AE-18・19

規 模 : 558×485 cm 長軸方向 : N-52° E

付属遺構 : 炉跡 ⅢF-11・13

確認・調査 (図Ⅲ-10) : Ⅲb層調査中に長軸が並ぶ2基の焼土を確認したため、住居跡の可能性が考えられた。この時点では、すでに周囲の遺物取り上げを終了していたため、整理作業段階で遺物の出土層位・レベル・位置を考慮し、伴うと考えられる遺物を抽出している。ⅢF-13はメインセクションで一部検出している。土層断面の観察から、樽前bテフラと燃焼面の間に黒色土を3～4cm挟むことを確認している。炉跡の平面・土層断面の記録を行った後で、周囲をⅢc上面、IV層上面と段階的に掘り下げ柱穴の確認に努めた。

付属炉 (図Ⅲ-10) : 2カ所の炉跡は長軸方向をほぼ同じくする。いずれも明瞭な灰層は検出されていない。規模はほぼ同じだが、被熱層の厚さはⅢF-11が9cm、ⅢF-13は6cmとⅢF-11の方が厚く形成されている。土壌サンプルからは栽培植物の炭化種子が得られていないが、キハダ属、ブドウ科、スモモ属、コナラ属、クルミ属が出土している。動物遺存体はⅢF-11からシカ・カワシンジユガイの殻皮・サケ科・哺乳綱が、ⅢF-13からはサケ属・哺乳綱が出土している。ⅢF-11から得られたキハダ果実のAMS年代測定を委託しており、暦年較正年代(1σ)で12世紀中頃から13世紀前半の年代幅が得られている。現場では中世段階のアイヌ文化期と捉えており矛盾しない結果である。

柱 穴 (図Ⅲ-11) : 主体部を構成する柱穴は13本(ⅢKP-03・04・24～26・29・31・32・34～36・46・90)で、2カ所の炉跡の間に1本(ⅢKP-47)を検出している。この炉跡間の柱穴はⅢH-03・05でも確認しており、いずれも深く打ち込まれていることから住居の構造上重要なものと考えられる。いずれも20cmの深さを超えるものである。50cmを超える深いものは4本(ⅢKP-03・04・25・29)で、北側両コーナーの柱穴は確認できなかったが、南側の両コーナーは深くなっている。ⅢKP-03・46は柱穴上方が住居跡内側に傾く「外踏ん張り」の構造であるが、それ以外はほぼ垂直である。

遺物出土状態 (図Ⅲ-10) : 住居内部南西半に礫がまばらに分布する。炉跡のⅢF-11の上に未被熱の棒状礫が分布しⅢF-13の上には刀が出土している。また、同一個体の破片と考えられる鉄鍋が住居内部南西半に分布する礫と同様の分布を示す。これらの状況から、遺物は後世の人の活動による影響で動いた状態と読み取れる。

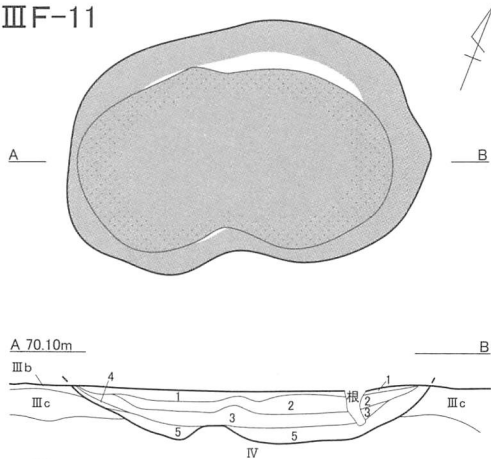
出土遺物 (図Ⅲ-12) : 1はたたき石で、表面の中央と下端部から裏面にかけて敲打痕が残る。2

ⅢH-02・05



図Ⅲ-10 2・5号平地式住居跡(ⅢH-02・05)平面図

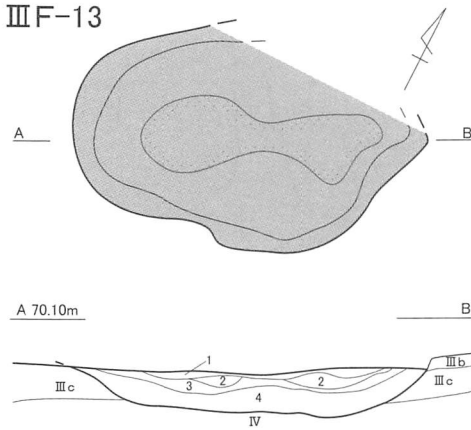
ⅢF-11



ⅢF-11

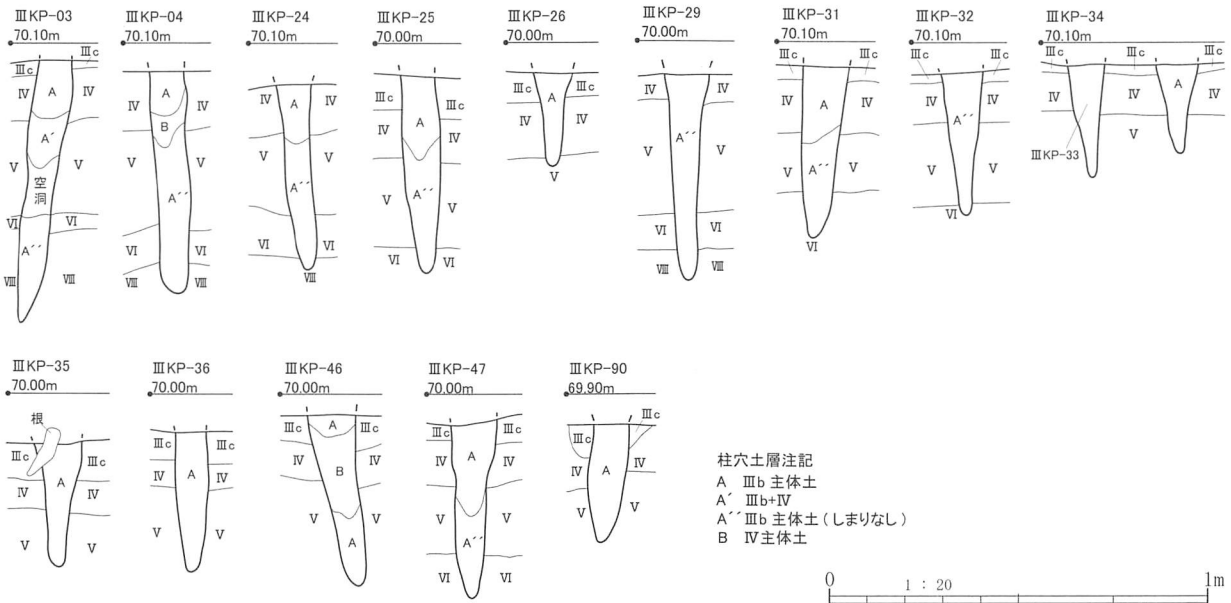
- 1 10YR3/4 暗褐色 Ⅲb-炭化物・魚骨
- 2 7.5YR5/8 明褐色 Ⅲc被熱層
- 3 7.5YR6/8 橙色 弱いⅢc被熱層
- 4 7.5YR2/2 黒褐色 付帯黒色層
- 5 7.5YR3/4 暗褐色 付帯黒色層

ⅢF-13



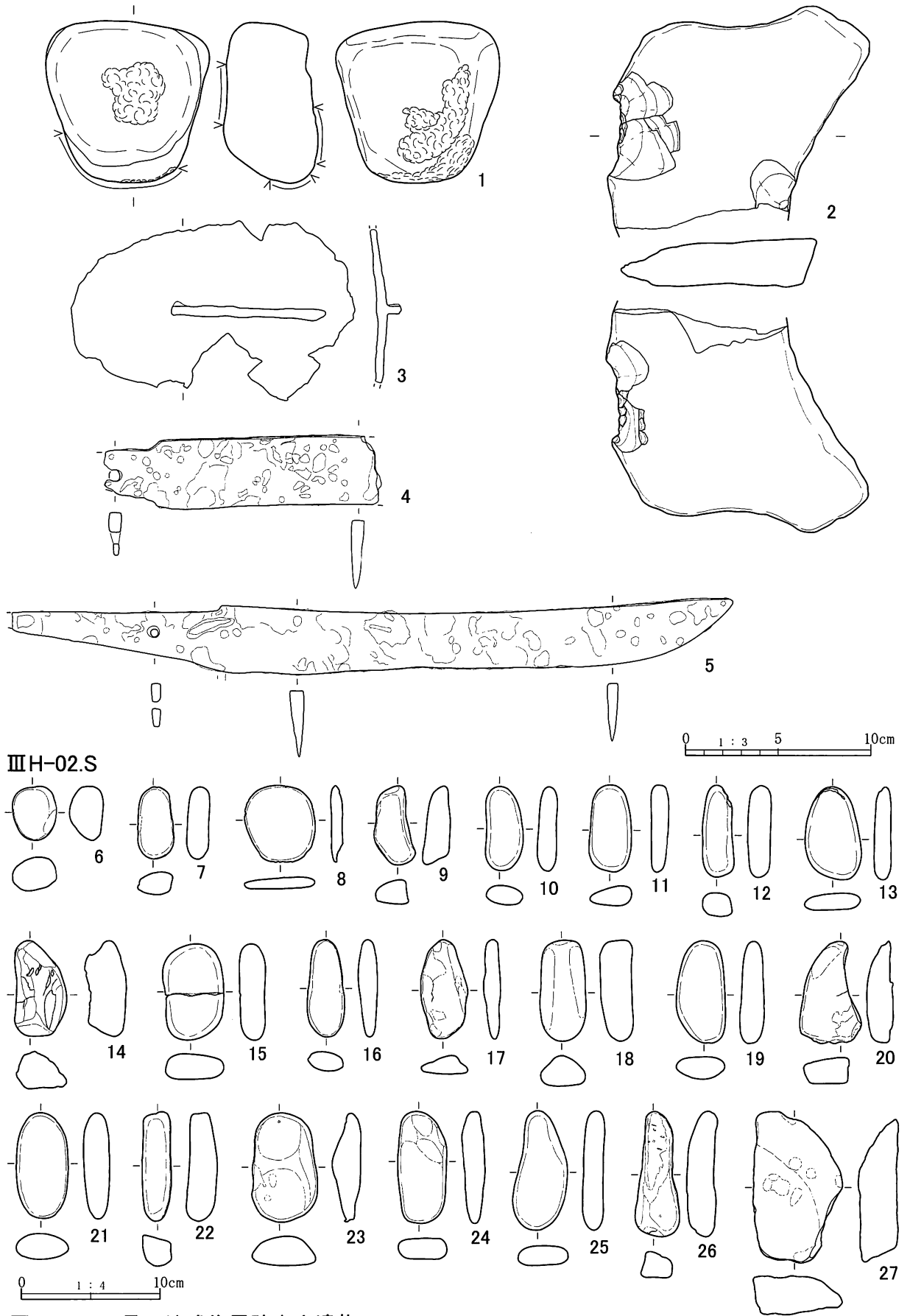
ⅢF-13

- 1 10YR3/4 暗褐色 Ⅲb-炭化物・魚骨
- 2 7.5YR6/8 橙色 Ⅲc被熱層=魚骨
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 弱いⅢc被熱層
- 4 10YR4/4 褐色 付帯黒色層



図Ⅲ-11 2号平地式住居跡付属遺構

は加工痕が残る礫で左側面は両面に打ち欠いている。3は一文字湯口の鉄鍋底部片である。4は刀身と茎の一端を欠損する刀片である。平棟平造りの両区である。茎の断面形は棟側の幅が広い台形状となっており、目釘穴が1つある。5は小刀で基部は僅かに欠損している。平棟平造りで、棟側には明瞭な区がある。茎の断面形は棟側の幅が僅かに広い台形状となっており、目釘穴が1つある。刀身基部から上部近くまで刃縁は緩く内湾していることから、研ぎ直しが繰り返された結果と考えられる。6~27は住居内部から出土した、完形の礫である。7・9~12・14・16~22・24~26は棒状の礫で、この形状のものが住居内部から出土したものの大部分を占める。住居跡内部の礫の測定値の平均は完形66点で、長軸68.8mm、短軸33.9mm、厚さ18.8mmである。ⅢH-01の主体部内の礫集中を構成する礫の計測値と似ていることから、礫は住居内で礫集中としてまとまっていたものが、前述したように後世の人の活動による影響で動いた可能性が考えられる。



图Ⅲ-12 2号平地式住居跡出土遺物

重複関係：遺物の出土状態からⅢH-05より古いと考えられる。詳細はⅢH-05に記載する。

時期：炉跡の検出層位から中世段階と考えられる。

表Ⅲ-12 ⅢH-02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴			付属遺構
						主体部		付属部		本数			
						長軸	短軸	長軸	短軸	主体	付属	他	
Ⅲ-10	16-1	ⅢH-02	AD・AE-18・19	ⅢbM	N-52°E	558	485	-	-	13	-	1	焼土2

表Ⅲ-13 ⅢH-02 付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-11	16-2・3	ⅢF-11	AE-18	ⅢbM	楕円形	96	66	15	焼骨片	
Ⅲ-11	16-4・5	ⅢF-13	AE-18	ⅢbM	楕円形?	94	(59)	12	焼骨片	

表Ⅲ-14 ⅢH-02柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-11	17-2	ⅢKP-03	9	1	69	7	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-04	10	3	59	3	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-24	9	1	49	4	打込み	主体部
Ⅲ-11	17-3	ⅢKP-25	9	1	52	3	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-26	10	1	24	0	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-29	12	1	54	0	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-31	12	1	45	5	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-32	11	1	38	2	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-34	11	1	23	1	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-35	13	1	32	1	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-36	8	1	37	0	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-46	12	1	46	10	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-47	12	1	46	0	打込み	主体部
Ⅲ-11	-	ⅢKP-90	9	1	31	5	打込み	主体部

表Ⅲ-15 ⅢH-02出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-12-1	103-1-1	-	2602	たたき石	ⅢA2	ⅢbM	ⅢH-02	AE-18	88.8	86.5	50.8	555.0	Sa.	
Ⅲ-12-2	103-1-2	-	2670	加工痕のある礫	-	ⅢbM	ⅢH-02	AE-19	(119.9)	137.7	25.4	475.0	Sa.	
Ⅲ-12-3	103-1-3	IP001	1423	鉄鍋	-	ⅢbM	ⅢH-02	AE-19	(151.0)	(93.2)	4.4	210.0	Irn.	
Ⅲ-12-4	103-1-4	-	1429	刀	-	ⅢbM	ⅢH-02	AE-18	(148.8)	37.7	6.7	136.0	Irn.	
Ⅲ-12-5	103-1-5	-	1431	小刀	-	ⅢbM	ⅢH-02	AD-19	(388.2)	34.9	7.5	258.0	Irn.	

表Ⅲ-16 ⅢH-02. S属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ							標準偏差
-	-	-	4417	ⅢbL	完形	10.2	-58.3	11.9	-21.8	29.0	10.4	0.9	-1.2	15.5	○	Mud.	
Ⅲ-12-6	-	-	2750	ⅢbM	完形	38.0	-30.5	32.0	-1.7	24.1	5.5	1.2	-0.9	43.1	-	Che.	
-	-	-	3895	ⅢbL	完形	39.9	-28.6	38.6	4.9	6.8	-11.8	1.0	-1.1	14.1	-	Sa.	
-	-	-	2601	ⅢbM	完形	47.5	-21.0	30.4	-3.3	12.7	-5.9	1.6	-0.5	24.7	-	Sa.	
-	-	-	2671	ⅢbM	完形	51.0	-17.5	28.3	-5.4	23.3	4.7	1.8	-0.3	45.4	-	Sa.	
-	-	-	2649	ⅢbM	完形	51.7	-16.8	33.7	0.0	15.3	-3.3	1.5	-0.6	22.9	-	Mud.	
Ⅲ-12-7	-	-	2615	ⅢbM	完形	52.0	-16.5	26.0	-7.7	17.0	-1.6	2.0	-0.1	30.3	-	Sa.	
-	-	-	2662	ⅢbM	完形	54.5	-14.0	24.2	-9.5	19.8	1.2	2.3	0.2	34.4	-	Sa.	
Ⅲ-12-8	103-2	-	2659	ⅢbM	完形	57.2	-11.3	49.7	16.0	8.2	-10.4	1.2	-0.9	30.9	-	Sa.	
-	-	-	4418	ⅢbL	完形	57.2	-11.3	31.4	-2.3	22.2	3.6	1.8	-0.3	51.5	-	Sa.	
-	-	-	2632	ⅢbM	略完形	57.4	-11.1	39.9	6.2	21.3	2.7	1.4	-0.7	49.9	-	Sa.	
Ⅲ-12-9	-	-	2765	ⅢbM	完形	57.5	-11.0	25.0	-8.8	17.6	-1.0	2.3	0.2	34.3	-	Sa.	
-	-	-	3894	ⅢbL	完形	58.1	-10.4	34.5	0.8	18.5	-0.1	1.7	-0.4	53.7	-	Sa.	
-	-	-	2608	ⅢbM	完形	58.8	-9.7	31.8	-1.9	14.2	-4.4	1.9	-0.2	38.1	-	Sa.	
-	-	-	2761	ⅢbM	完形	58.9	-9.6	27.7	-6.0	18.0	-0.6	2.1	0.0	39.9	-	Sa.	
Ⅲ-12-10	-	-	2747	ⅢbM	完形	60.1	-8.4	25.9	-7.8	14.3	-4.4	2.3	0.2	29.9	-	Sa.	
-	-	-	2622	ⅢbM	完形	61.1	-7.4	33.0	-0.7	12.0	-6.6	1.9	-0.2	32.7	-	Sa.	

表Ⅲ-16 ⅢH-02. S属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	2646	ⅢbM	完形	63.8	-4.7	31.8	-1.9	19.2	0.6	2.0	-0.1	50.3	-	Sa.	
-	-	-	2653	ⅢbM	完形	64.5	-4.0	31.7	-2.0	13.7	-4.9	2.0	-0.1	35.5	-	Sa.	
-	-	-	4425	ⅢbL	完形	65.1	-3.4	31.4	-2.3	35.0	16.4	2.1	0.0	98.7	-	Sa.	
Ⅲ-12-12	-	-	2651	ⅢbM	完形	65.5	-3.0	22.0	-11.7	16.4	-2.2	3.0	0.9	35.8	○	Sa.	
-	-	-	2657	ⅢbM	完形	65.9	-2.6	31.7	-2.0	14.2	-4.5	2.1	0.0	39.0	-	Sa.	
-	-	-	2629	ⅢbM	完形	66.8	-1.7	29.2	-4.5	13.5	-5.1	2.3	0.2	37.8	-	Sa.	
Ⅲ-12-13	-	-	3888	ⅢbL	完形	67.0	-1.5	39.1	5.4	11.8	-6.8	1.7	-0.4	42.7	-	Sa.	
-	-	-	4424	ⅢbL	完形	67.2	-1.3	28.3	-5.4	13.1	-5.5	2.4	0.3	37.1	-	Sa.	
-	-	-	2611	ⅢbM	完形	67.7	-0.8	27.5	-6.2	16.1	-2.5	2.5	0.4	32.0	-	Mud.	
-	-	-	4430	ⅢbL	完形	68.6	0.1	34.4	0.7	19.5	0.9	2.0	-0.1	59.3	-	Sa.	
Ⅲ-12-14	-	-	2763	ⅢbM	完形	69.2	0.7	36.7	3.0	25.7	7.1	1.9	-0.2	80.9	-	Sa.	
-	-	-	2610	ⅢbM	完形	69.3	0.8	20.1	-13.6	23.5	4.9	3.4	1.3	41.5	-	Sa.	
Ⅲ-12-15	-	-	2764	ⅢbM	完形	69.6	1.1	62.7	29.0	19.8	1.2	1.1	-1.0	82.4	-	Sa.	
-	-	-	2631	ⅢbM	完形	69.7	1.2	31.2	-2.5	21.7	3.1	2.2	0.1	68.6	-	Sa.	
Ⅲ-12-16	-	-	4420	ⅢbL	完形	69.8	1.3	26.7	-7.0	13.8	-4.8	2.6	0.5	28.0	-	Sa.	
-	-	-	2663	ⅢbM	完形	69.8	1.3	42.3	8.6	14.7	-4.0	1.7	-0.4	48.9	-	Sa.	
-	-	-	2645	ⅢbM	完形	69.9	1.4	37.3	3.6	11.4	-7.2	1.9	-0.2	43.3	-	Sa.	
-	-	-	2609	ⅢbM	完形	70.2	1.7	34.4	0.7	22.3	3.7	2.0	-0.1	55.5	-	Sa.	
Ⅲ-12-17	-	-	2617	ⅢbM	完形	70.9	2.4	33.4	-0.4	13.1	-5.5	2.1	0.0	30.8	-	Mud.	
-	-	-	2660	ⅢbM	完形	71.9	3.4	36.9	3.2	16.6	-2.0	1.9	-0.2	48.6	-	Sa.	
-	-	-	2627	ⅢbM	完形	71.9	3.4	34.3	0.6	11.3	-7.3	2.1	0.0	34.9	-	Sa.	
Ⅲ-12-18	-	-	4768	ⅢbL	完形	72.0	3.5	31.0	-2.7	24.3	5.7	2.3	0.2	74.5	-	Sa.	
-	-	-	4422	ⅢbL	完形	72.7	4.2	38.1	4.4	19.6	1.0	1.9	-0.2	61.6	-	Sa.	
-	-	-	2628	ⅢbM	完形	72.8	4.3	38.1	4.4	17.7	-0.9	1.9	-0.2	51.4	-	Mud.	
Ⅲ-12-19	103-2	-	4419	ⅢbL	完形	72.8	4.3	34.4	0.6	16.9	-1.7	2.1	0.0	57.0	-	Sa.	
-	-	-	2647	ⅢbM	完形	73.1	4.6	36.2	2.5	23.3	4.7	2.0	-0.1	82.1	-	Sa.	
-	-	-	4429	ⅢbL	完形	74.5	6.0	31.4	-2.3	14.2	-4.4	2.4	0.3	45.3	-	Sa.	
-	-	-	2648	ⅢbM	完形	74.6	6.1	35.8	2.1	22.5	3.9	2.1	0.0	77.2	-	Mud.	
-	-	-	4415	ⅢbL	完形	74.8	6.3	36.2	2.5	17.1	-1.6	2.1	0.0	55.3	-	Mud.	
Ⅲ-12-20	-	-	2758	ⅢbM	完形	74.9	6.4	44.2	10.5	19.3	0.7	1.7	-0.4	58.8	-	Mud.	
-	-	-	2665	ⅢbM	完形	74.9	6.4	30.3	-3.4	17.7	-0.9	2.5	0.4	52.9	-	Sa.	
Ⅲ-12-21	-	-	2667	ⅢbM	完形	75.7	7.2	37.3	3.6	18.4	-0.3	2.0	-0.1	68.7	-	Sa.	
-	-	-	2625	ⅢbM	完形	76.0	7.5	40.4	6.7	25.7	7.1	1.9	-0.2	96.4	-	Sa.	
-	-	-	2666	ⅢbM	完形	76.5	8.0	32.7	-1.0	13.0	-5.7	2.3	0.2	73.3	-	Mud.	
Ⅲ-12-22	-	-	4423	ⅢbL	完形	77.0	8.5	26.0	-7.7	19.3	0.7	3.0	0.9	48.3	-	Mud.	
-	-	-	2652	ⅢbM	完形	77.4	8.9	31.4	-2.3	29.2	10.6	2.5	0.4	90.5	-	Sa.	
-	-	-	3892	ⅢbL	完形	77.8	9.3	46.8	13.1	17.8	-0.8	1.7	-0.4	83.3	-	Sa.	
-	-	-	2603	ⅢbM	完形	78.7	10.2	31.7	-2.0	18.6	0.0	2.5	0.4	53.4	-	Sa.	
Ⅲ-12-23	-	-	2655	ⅢbM	完形	78.7	10.2	46.7	13.0	21.6	3.0	1.7	-0.4	86.6	-	Mud.	
-	-	-	2661	ⅢbM	完形	79.3	10.8	32.2	-1.5	25.5	6.9	2.5	0.4	91.9	-	Sa.	
-	-	-	4421	ⅢbL	完形	80.4	11.9	41.4	7.7	23.6	5.0	1.9	-0.2	92.9	○	Sa.	
Ⅲ-12-24	-	-	2607	ⅢbM	完形	80.6	12.1	34.3	0.6	17.7	-0.9	2.4	0.3	66.4	-	Sa.	
-	-	-	2630	ⅢbM	略完形	83.4	14.9	25.0	-8.7	13.5	-5.1	3.3	1.2	25.5	-	Mud.	
-	-	-	3870	ⅢbL	完形	83.4	14.9	35.1	1.4	34.6	16.0	2.4	0.3	54.9	-	Mud.	
Ⅲ-12-25	-	-	2664	ⅢbM	完形	86.0	17.5	35.5	1.8	14.6	-4.0	2.4	0.3	62.4	-	Mud.	
-	-	-	2604	ⅢbM	完形	87.6	19.1	31.5	-2.2	15.0	-3.6	2.8	0.7	58.4	-	Sa.	
Ⅲ-12-26	-	-	3885	ⅢbL	完形	90.4	21.9	31.1	-2.7	20.2	1.6	2.9	0.8	68.7	-	Sa.	
-	-	-	2624	ⅢbM	完形	99.0	30.5	32.8	-0.9	31.0	12.4	3.0	0.9	126.7	-	Sa.	
Ⅲ-12-27	-	-	2605	ⅢbM	完形	112.7	44.2	63.2	29.5	29.2	10.6	1.8	-0.3	264.0	-	Sa.	
						68.8	33.9		18.8		2.1		56.8		完形66点		

5号平地式建物跡〔ⅢH-05〕 (図Ⅲ-10・13、図版17-4~11)

位置：AE-18~20、AF-19・20

規模：617×519 cm 長軸方向：N-54° E

付属遺構：炉跡 ⅢF-12・14

確認・調査(図Ⅲ-10)：概況で前述したように、平成20年度の調査で炉跡を検出し、平成21年度の調査で柱穴の配列をすべて確認してから住居跡と認定した。遺物の取り上げ状況は2号平地式住

居跡と同様である。焼土は長軸方向を異にして検出しているが、焼土の間隔から住居の炉跡と想定した。炉跡の平面・土層断面の記録を行った後で、周囲をⅢc層上面、Ⅳ層上面と段階的に掘り下げ柱穴の確認に努めたが、柱穴の全てをこの時点で把握することはできず、翌年度の調査でⅤ層調査中に検出している。

付属炉(図Ⅲ-13)：ⅢF-14は燃焼面の平面形はほぼ円形で、ⅢF-12は細長い楕円形である。被熱層の厚さはⅢF-14が8cm、ⅢF-12は13cmとⅢF-12の方が厚く形成されており、小規模であるが灰層が燃焼面上面で検出されている。土壌サンプルからはⅢF-12でオオムギ?、ⅢF-14でキビが出土しており、栽培植物以外のキハダ属、ブドウ科、コナラ属、クルミ、冬芽の炭化種子等は共通して出土している。オオムギ?は同定結果から裸性オオムギの可能性が高いとされている。動物遺存体はⅢF-12からは哺乳綱、ⅢF-14からはシカ、哺乳綱、サケ科が出土している。

Ⅲ F-12、ⅢF-14のコナラ属子葉のAMS年代測定をそれぞれ委託しており、暦年較正年代(1σ)とともに13世紀後半から14世紀後半の年代幅が得られている。現場では中世段階のアイヌ文化期と考えており矛盾しない結果である。

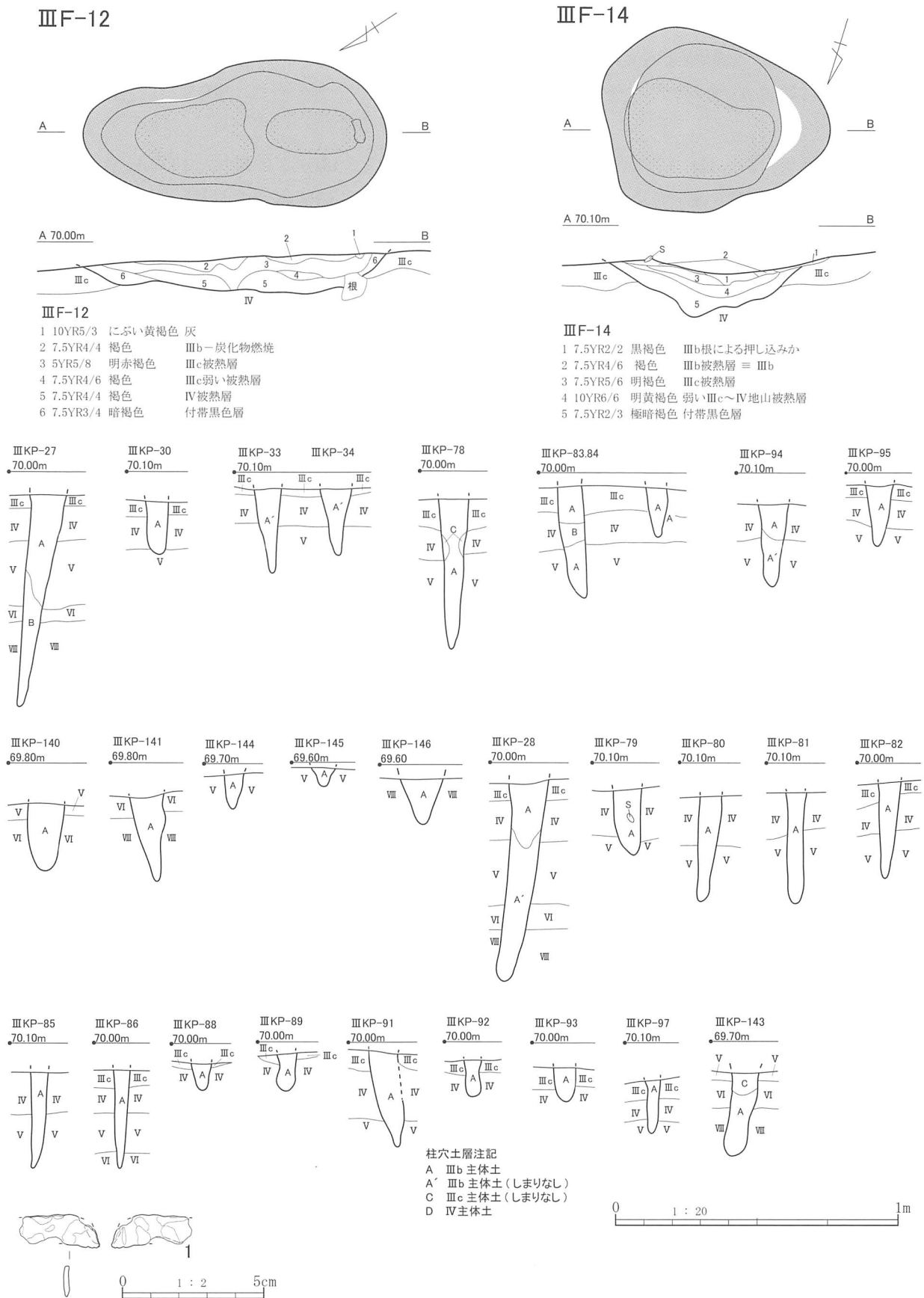
柱 穴(図Ⅲ-13)：すべて打ち込み式である。主体部を構成する柱穴は12本(ⅢKP-27・30・33・78・83・94・95・140・141・144~146)で、主体部の内部に3本(ⅢKP-28・86・91)、主体部南西に10本(79~82・84・85・88・89・92・93・97)、主体部の東に1本(ⅢKP-143)を検出している。主体部を構成するもので、Ⅴ層以下で検出したものについてはⅢc・Ⅳ層の厚さを考慮すると、ⅢKP-30を除くすべてが20cm以上である。ⅢKP-27・83・141は柱穴上方が住居跡内側に傾く「外踏ん張り」の構造である。主体部内部のⅢKP-28は炉跡間に位置しており、検出面から深さ70cmと深く打ち込まれている。主体部南西に位置する10本は付属部(前小屋)を構成する可能性がある。どのような列を構成するのはいくつかの可能性が考えられるため図示していない。①ⅢKP-94・85・79が北西側の列、ⅢKP-79・97・81もしくは80が南西側の列、ⅢKP-81もしくは80・82・93・84・83もしくは93から92・141で南東の列を構成する。②北西側の列、南東側の列が南西側に延長し、ⅢKP-97が付属部内部の柱穴である。大きく①、②の可能性があり、明確にすることができなかった。

遺物出土状態(Ⅲ-10)：住居内部には遺物の分布は非常に希薄である。ⅢH-02との重複部には遺物が多く出土しているが、遺物の分布と鉄鍋片の分布からⅢH-02に伴うものと考えられる。

出土遺物(Ⅲ-13)：1は刀子茎片であろうか。断面形は棟側がやや幅広く、刃側が狭くなる台形状である。出土時は片面に木質が付着していた。

重複関係：平地式住居跡の重複であり、竪穴等と異なり土層断面等から判断することはできず、遺物の出土状態等の状況から判断するしかないが、解釈の仕方次第で新旧が入れ替わってしまうような状況であり、調査時のデータからは明らかにすることができなかった。AMS年代測定の結果からはⅢH-05が新しく、ⅢH-02が古いという年代が得られている。

時 期：炉跡の検出層位から中世段階と考えられる。



図Ⅲ-13 5号平地式住居跡付属遺構及び出土遺物

表Ⅲ-17 ⅢH-05属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模 (cm)				柱穴 本数			付属遺構
						主体部		付属部		主体	付属	他	
						長軸	短軸	長軸	短軸				
Ⅲ-10	13	ⅢH-05	AD・AE- 18~20, AF-19 ・20	ⅢbM	N-54° E	617	519	-	-	12	-	15	焼土2

表Ⅲ-18 ⅢH-05 付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・ 骨片	備 考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-13	17-4・5	ⅢF-12	AE-19	ⅢbM	楕円形	107	51	12	灰	
Ⅲ-13	17-6・7	ⅢF-14	AE-19	ⅢbM	不整形	82	66	17	-	

表Ⅲ-19 ⅢH-05柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-13	-	ⅢKP-27	14	1	75	7	打込み	主体部
Ⅲ-13	17-9	ⅢKP-30	9	2	18	3	打込み	主体部
Ⅲ-13	-	ⅢKP-33	10	1	30	3	打込み	主体部
Ⅲ-13	-	ⅢKP-78	10	1	53	1	打込み	主体部
Ⅲ-13	-	ⅢKP-94	12	1	29	2	打込み	主体部
Ⅲ-13	-	ⅢKP-95	10	1	21	1	打込み	主体部
Ⅲ-13	17-10	ⅢKP-83	9	1	39	7	打込み	主体部
Ⅲ-13	-	ⅢKP-140	13	3	24	0	打込み	主体部
Ⅲ-13	-	ⅢKP-141	12	1	29	7	打込み	主体部
Ⅲ-13	-	ⅢKP-144	9	1	12	1	打込み	主体部
Ⅲ-13	-	ⅢKP-145	6	1	6	1	打込み	主体部
Ⅲ-13	17-11	ⅢKP-146	15	1	16	1	打込み	主体部
Ⅲ-13	17-8	ⅢKP-28	14	3	70	7	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-79	10	1	23	6	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-80	9	1	36	6	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-81	6	2	40	1	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-82	8	1	34	2	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-84	8	1	17	3	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-85	6	1	34	5	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-86	6	1	35	2	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-88	7	2	9	3	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-89	9	2	13	3	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-91	11	1	34	9	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-92	6	4	13	2	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-93	8	3	12	4	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-97	6	1	18	1	打込み	
Ⅲ-13	-	ⅢKP-143	10	2	30	10	打込み	

表Ⅲ-20 ⅢH-05出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-13-1	103-3-6	-	2701	刀子?	-	ⅢbM	ⅢH-05	AE-19	(28.0)	11.8	1.9	1.0	Iron.	

3・4号平地式住居跡周辺概況 (図Ⅲ-14)

3・4号平地式住居跡は段丘北東側の縁辺に立地し、長軸方向をほぼ同じくし、東西に並んで検出した。最も距離の近い柱穴間で約3.5m離れている。4号平地式住居跡は平成20年度の調査で炉2ヵ所と柱穴の一部の調査を行っており、平成22年度に北西コーナー周辺の柱穴調査を行っている。3・4号平地式住居跡の北側に獣骨集中3を検出している。これも平成20・22年度と調査がまたがったものである。段丘平坦面の縁辺からT₃-T₁段丘崖の上位に分布している。住居跡の北東側に立地しており、配置から住居跡に関連するものとして捉えている。1号平地式住居跡も住居跡と獣骨集

中の配置関係等が似ている。また、同町内の類例でオニキシベ2遺跡1号平地式住居跡（厚真町教育委員会2011）や上幌内モイ遺跡9号平地式住居跡（厚真町教育委員会2009a）等もあげられる。

3号平地式住居跡〔ⅢH-03〕（図Ⅲ-15、図版18・19-1～6）

位置：AA・AB-19・21

規模：678×529 cm 長軸方向：N-50° E

付属遺構：炉跡 ⅢF-18・21・24

確認・調査（図Ⅲ-15）：3カ所の焼土が並んで検出されたことから、住居跡の可能性を考え調査を行った。この時点では、2・5号平地式住居跡と同じく遺物の取り上げを終了しており、整理作業段階で同様の方法で抽出を行っている。ⅢF-21は焼面が窪んで検出されている。写真撮影、平面図の実測を行い、長軸に合わせトレンチを設定した。土壌サンプルを回収しながら、トレンチ調査を進めると、明瞭な灰層が確認されたが、そのまま調査を進め土層断面の図化を行った。図化後、灰層の輪郭を検出するために、トレンチ調査と同様に土壌サンプルの回収を行っている。明瞭な灰層の上面から、比較的大きな獣骨が3点と耳飾り（ニンカリ）の破片が出土したので、位置を記録し取り上げている。灰層全面を検出したところで、平面の実測を行った。ⅢF-18・24は炉跡の平面・土層断面の記録、土壌サンプルの回収を行っている。炉跡の調査を終了したところで周囲をⅢc・Ⅳ層上面と段階的に掘り下げ柱穴の検出を行っている。検出した柱穴は炉を向く方向にセクションラインを設定し、土層断面の記録を行っている。最後に完掘写真を撮影している。

付属炉（図Ⅲ-15）：炉跡の焼面は平面形はいずれも楕円形である。ⅢF-18・21の長軸はほぼ同一方向であるが、ⅢF-24の長軸は異なる。ⅢF-21には明瞭な灰層を残す。ⅢF-18・24は被熱層上面に骨片を含む暗褐色～明褐色の土層が堆積しており、やや不明瞭だが土壌化した灰層であると考えられる。ⅢF-21は明瞭に焼面が窪む。2は土壌化した灰層、3は明瞭な灰層である。被熱層の4～6は焼骨片が混入しており、焼面が窪んでいたことから灰等の掻きだしが行われたと考えられる。ⅢF-18・24もⅢF-21程ではないが焼面が僅かに窪む。土壌サンプルのフローテーションを行った結果、ⅢF-18・21からキビ、ⅢF-21は他にもブドウ科、コナラ属、クルミ属の種子等が出土している。動物遺存体はⅢF-18からシカ、哺乳綱、ⅢF-21・24から哺乳綱、サケ属が出土している。ⅢF-21のコナラ属子葉のAMS年代測定を委託しており、暦年較正年代（1σ）で13世紀前半から13世紀後半の年代幅が得られている。現場でも中世段階のアイヌ文化期として捉えており矛盾しない結果である。

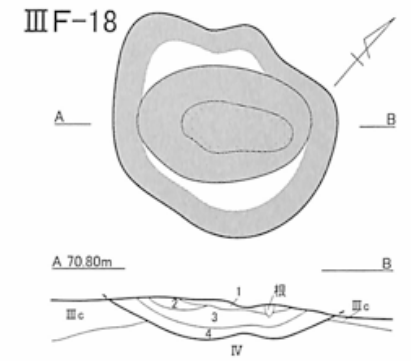
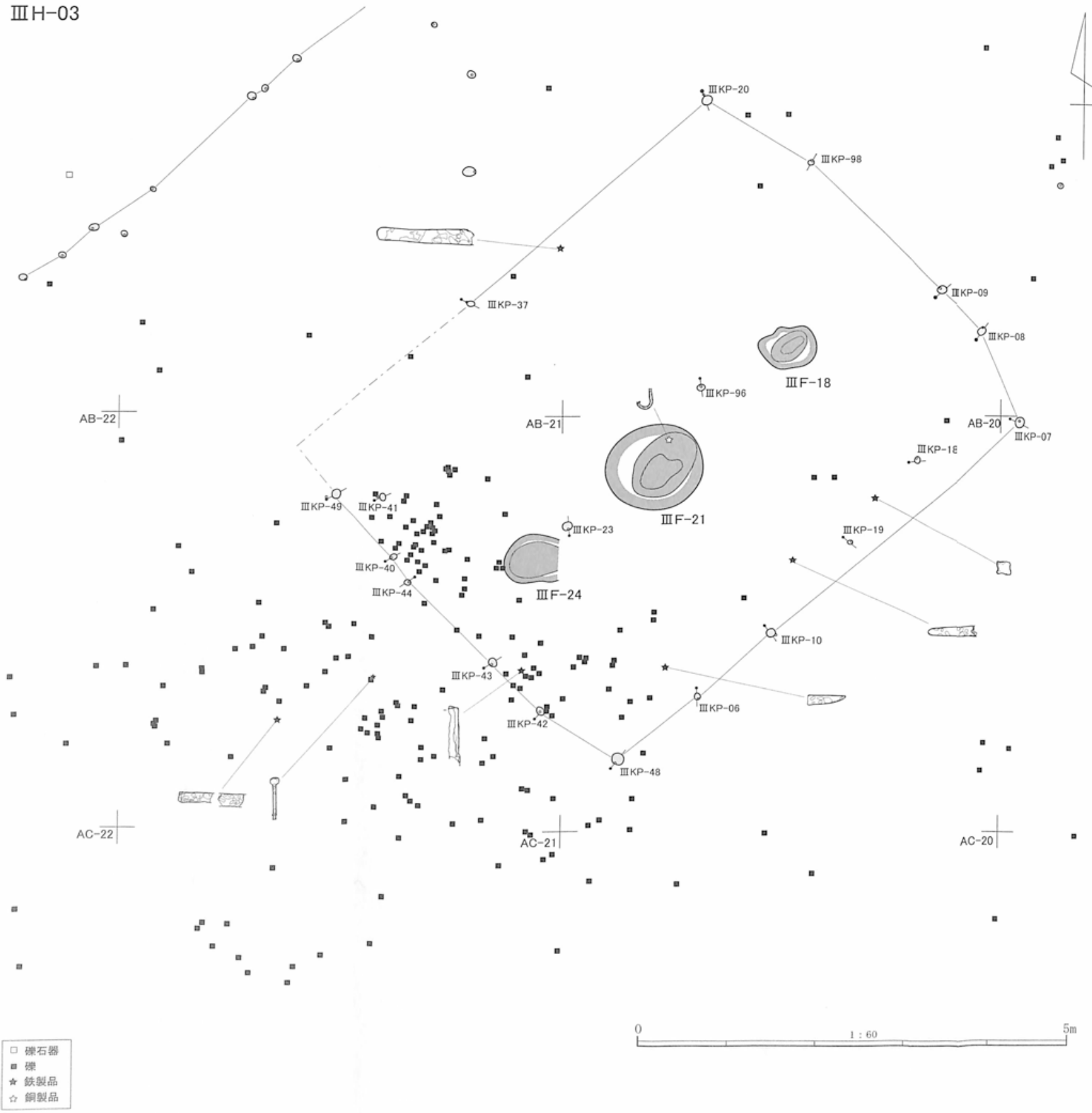
柱穴（図Ⅲ-15）：すべて打ち込み式である。主体部を構成する柱穴は14本で（ⅢKP-6～10・20・37・40・42～44・48・49・98）、主体部の中に5本（ⅢKP-18・19・23・41・96）を検出している。主体部を構成するものはⅢKP-98を除きすべて20cm以上深く打ち込まれている。特に、検出された3カ所のコーナーの柱穴は全て50cmを超える。ⅢKP-06・08・10・20・37・48・49・98は柱穴上方が住居跡内側に傾く「外踏ん張り」の構造である。主体部内部のⅢKP-23・96は各炉跡間にそれぞれ位置しており、ⅢKP-23は66cmと深く打ち込まれている。

遺物出土状態（図Ⅲ-15）：主体部内側の南西側柱穴列に沿って礫が多く分布している。ⅢF-21・18周辺に遺物は殆ど出土していない。ⅢF-24の南西側の礫のまとまりは、現場段階では礫集中として扱わなかったが、住居内での出土であることや、周囲の遺物分布とは明らかに異なることから整理

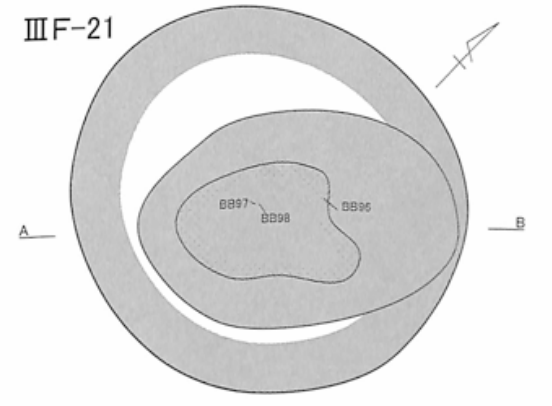


図III-14 3・4号平地式住居跡周辺平面図

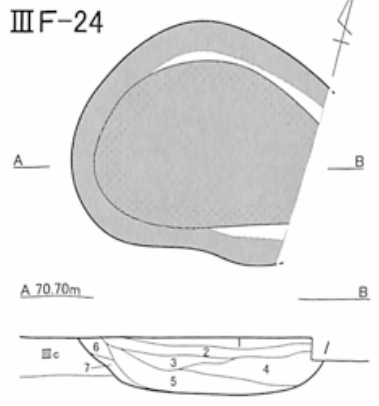
ⅢH-03



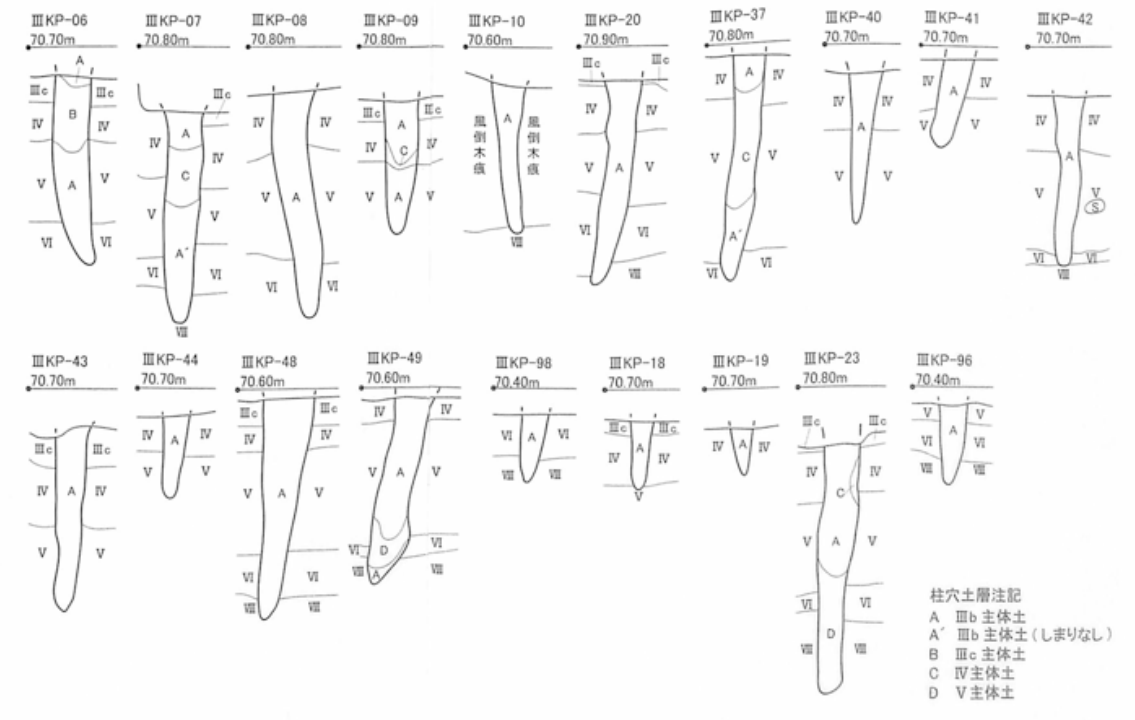
ⅢF-18
 1 10YR3/4 暗褐色 Ⅲb-炭化物 = 焼骨片・灰
 2 7.5YR6/8 橙色 Ⅲc地山被熱層
 3 7.5YR5/8 明褐色 Ⅲc・IV弱い被熱層
 4 10YR4/4 褐色 付帯黒色層



ⅢF-21
 1 10YR2/2 黒褐色 Ⅲb = 焼骨片
 2 10YR4/4 褐色 土壌化した灰層=焼骨片
 3 10YR5/3 にぶい、黄褐色 灰層 = 焼骨片
 4 10YR4/6 褐色 Ⅲb?被熱層 = 焼骨片
 5 10YR6/6 明黄褐色 Ⅲc被熱層 = 灰・焼骨片
 6 10YR5/8 黄褐色 Ⅲc被熱層 = 灰・焼骨片
 7 10YR5/8 黄褐色 Ⅲc被熱層
 8 10YR8/3 浅黄橙色 IV被熱層
 9 10YR2/1 黒色 付帯黒色層

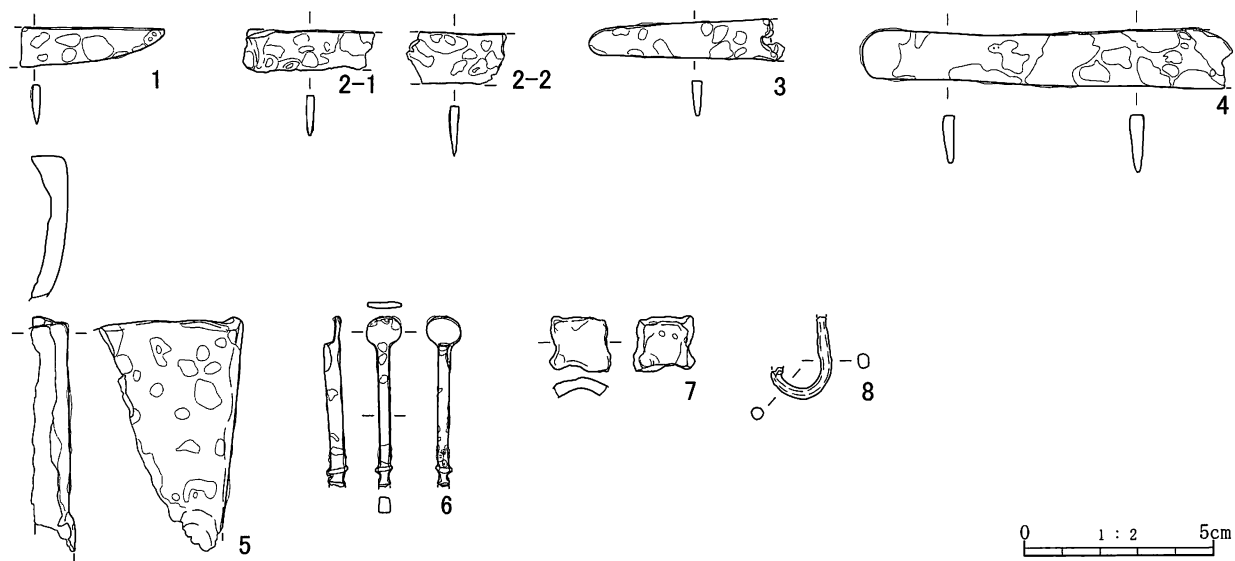


ⅢF-24
 1 7.5YR5/6 明褐色 土壌化した灰層=焼骨片
 2 7.5YR 6/8 橙色 土壌化した灰層=焼骨片
 3 7.5YR7/8 黄褐色 Ⅲc被熱層
 4 7.5YR4/6 褐色 Ⅲc弱い被熱層
 5 7.5YR4/4 褐色 IV地山被熱層
 6 7.5YR2/3 極暗褐色 付帯黒色層
 7 7.5YR4/4 褐色 付帯黒色層

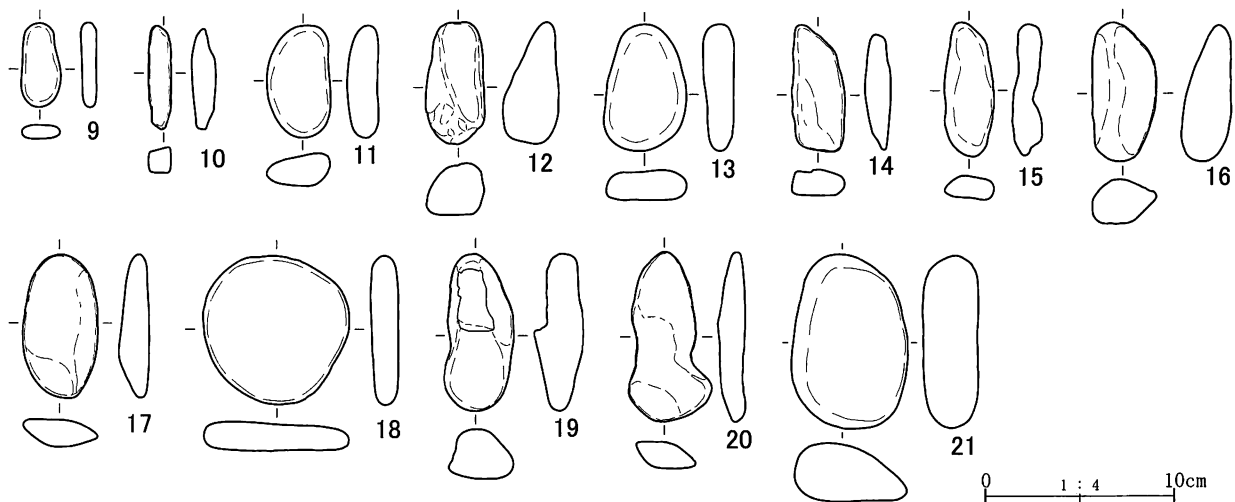


柱穴土層注記
 A Ⅲb主体土
 A' Ⅲb主体土(しまりなし)
 B Ⅲc主体土
 C IV主体土
 D V主体土

図Ⅲ-15 3号平地式住居跡及び付属遺構



ⅢH-03.S



図Ⅲ-16 3号平地式住居跡出土遺物

作業の段階で礫集中として捉えた。本住居跡では柱穴は見つかっていないが、主体部南側の遺物の出土状態から付属部（前小屋）があった可能性が考えられる。鉄製品及び金属製品は8点出土しており、前述したようにⅢF-21の灰層中から8の耳飾り（ニンカリ）が出土している。主体部内側の南西側柱穴列のⅢKP42・43の中間から5の鉄斧の破片が出土し、南東側の柱穴列に沿って1・3・7が出土している。主体部南西側で2・6が出土している。

出土遺物（図Ⅲ-16）：1は刀子の切先先端部片である。2-1と2-2は同じ位置で出土したもので、接合はしないが同一個体の刀子である。2-1は茎片、2-2は刀身部片である。3は目釘穴を有する小刀の、4は刀子の茎片である。ともに、断面形は棟側の幅がやや広く、茎尻は栗尻である。5は鉄斧の基部片である。断面形状等から「コ」の字形の袋状鉄斧と考えられる。6は棒状鉄製品である。角柱状のもので、上端は扁平な円形でつまみ状となっている。下端部の面は錆び膨れでやや変形しているが隅丸方形の差し込み口様になっており、奥行きは少なくとも1.5mm程ある。また、下端付近に2カ所の段をもつ。7は鉄片である。8はニンカリの破片と思われる。金属保存処理を行う前

は、白色を呈していた。破断面は細かく剥がれたように凸凹がある。これらの特徴から材質は錫鉛合金と思われるが、分析等を行っていない。9~21 は主体部内から出土した礫である。棒状~扁平で細長い礫が殆どである。礫の測定値の平均は完形 42 点で、長軸 66.6mm、短軸 33.0mm、厚さ 18.0mm である。ⅢH-01 の主体部内の礫集中 (ⅢSB-01) を構成する礫の計測値と似ている。

時 期: 炉跡の検出層位から中世段階と考えられる。

表Ⅲ-21 ⅢH-03属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模 (cm)				柱穴 本数			付属遺構
						主体部		付属部		主体	付属	他	
						長軸	短軸	長軸	短軸				
Ⅲ-15	18-1	ⅢH-03	AA・AB- 19~21	ⅢbM	N-50°E	678	529	-	-	14	-	4	焼土3

表Ⅲ-22 ⅢH-03 付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・ 骨片	備 考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-15	18-2・3	ⅢF-18	AA-20	ⅢbM	不整形	66	52	11	焼骨片	
Ⅲ-15	18-4・5	ⅢF-21	AB-20	ⅢbM	楕円形	110	101	18	灰・骨片	
Ⅲ-15	19-1・2	ⅢF-24	AB-21	ⅢbM	楕円形?	(62)	60	15	灰・骨片	

表Ⅲ-23 ⅢH-03柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-15	-	ⅢKP-06	10	2	50	6	打込み	主体部
Ⅲ-15	19-3	ⅢKP-07	10	3	56	1	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-08	11	2	60	6	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-09	9	3	36	1	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-10	9	2	40	5	打込み	主体部
Ⅲ-15	19-4	ⅢKP-20	10	2	54	9	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-37	8	2	60	5	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-40	9	1	40	4	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-42	8	2	45	12	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-43	9	1	50	2	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-44	7	2	22	6	打込み	主体部
Ⅲ-15	19-6	ⅢKP-48	14	2	60	5	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-49	11	2	51	13	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-98	7	1	18	7	打込み	主体部
Ⅲ-15	-	ⅢKP-18	6	1	18	3	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-19	6	1	12	7	打込み	
Ⅲ-15	19-5	ⅢKP-23	10	3	66	2	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-41	8	2	23	12	打込み	
Ⅲ-15	-	ⅢKP-96	8	2	21	2	打込み	

表Ⅲ-24 ⅢH-03出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-16-1	103-4-7	-	4676	刀子	-	ⅢbM	ⅢH-03	AB-20	(37.3)	10.0	2.4	2.5	Irn.	
Ⅲ-16-2-1	103-4-8-1	-	3215	刀子	-	ⅢbM	ⅢH-03	AB-21	(34.7)	11.0	2.1	2.3	Irn.	
Ⅲ-16-2-2	103-4-8-2	-	3215	刀子	-	ⅢbM	ⅢH-03	AB-21	(25.6)	12.8	2.2	2.5	Irn.	
Ⅲ-16-3	103-4-3	-	2201	刀子	-	ⅢbM	ⅢH-03	AB-22	(51.8)	10.6	2.4	4.4	Irn.	
Ⅲ-16-4	103-4-4	-	6239	刀子	-	ⅢbM	ⅢH-03	AA-20	(98.3)	15.7	4.0	12.5	Irn.	
Ⅲ-16-5	103-4-5	-	5079	鉄斧	-	ⅢbM	ⅢH-03	AB-21	(62.4)	(9.6)	(38.5)	47.3	Irn.	
Ⅲ-16-6	103-4-6	-	3418	棒状鉄製品	-	ⅢbM	ⅢH-03	AB-21	(44.8)	9.1	4.1	2.5	Irn.	
Ⅲ-16-7	103-4-7	-	2202	鉄片	-	ⅢbM	ⅢH-03	AA-19	(15.3)	(14.6)	2.7	1.9	Irn.	
Ⅲ-16-8	103-4-8	-	4675	ニンカリ	-	ⅢbM	ⅢF-21	AB-20	(21.6)	(16.0)	3.7	1.5	Sn.	

表Ⅲ-25 ⅢH-03. S属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
-	-	-	5265	ⅢbM	完形	36.3	-30.3	26.1	-6.9	24.4	6.4	1.4	-0.8	33.5	-	Sa.		
-	-	-	2887	ⅢbM	完形	36.4	-30.3	28.0	-5.0	23.1	5.1	1.3	-0.9	29.4	-	Sa.		
-	-	-	5012	ⅢbM	完形	43.4	-23.2	21.5	-11.5	8.4	-9.6	2.0	-0.2	10.6	-	Sa.		
Ⅲ-16-9	-	-	5000	ⅢbM	完形	44.5	-22.1	20.9	-12.1	7.9	-10.2	2.1	-0.1	10.9	-	Sa.		
-	-	-	5263	ⅢbM	完形	49.8	-16.8	28.1	-4.9	14.5	-3.5	1.8	-0.4	27.7	-	Sa.		
-	-	-	4996	ⅢbM	完形	51.4	-15.2	17.2	-15.8	9.7	-8.3	3.0	0.8	11.1	-	Sa.		
-	-	-	4647	ⅢbL	完形	53.5	-13.1	25.7	-7.4	17.4	-0.6	2.1	-0.1	28.4	-	Sa.		
-	-	-	5013	ⅢbM	完形	54.1	-12.5	17.2	-15.8	11.2	-6.8	3.1	0.9	13.3	-	Sa.		
Ⅲ-16-10	-	-	5017	ⅢbM	完形	55.1	-11.5	11.8	-21.2	12.8	-5.3	4.7	2.5	10.4	-	Sa.		
-	-	-	4649	ⅢbL	略完形	55.2	-11.4	23.3	-9.7	17.5	-0.5	2.4	0.2	32.6	-	Sa.		
-	-	-	4987	ⅢbM	完形	57.9	-8.7	26.9	-6.1	16.5	-1.5	2.2	0.0	31.7	-	Sa.		
-	-	-	4999	ⅢbM	完形	58.4	-8.2	22.4	-10.6	22.4	4.4	2.6	0.4	10.2	-	Sa.		
-	-	-	5001	ⅢbM	完形	59.0	-7.6	36.2	3.2	12.0	-6.0	1.6	-0.6	37.7	-	Sa.		
Ⅲ-16-11	-	-	4650	ⅢbL	完形	59.1	-7.5	33.5	0.5	16.4	-1.6	1.8	-0.4	45.4	-	Sa.		
-	-	-	5019	ⅢbM	略完形	60.1	-6.5	32.4	-0.6	16.4	-1.6	1.9	-0.3	39.9	-	Sa.		
-	-	-	5254	ⅢbM	完形	62.3	-4.3	30.7	-2.3	14.5	-3.5	2.0	-0.2	35.0	-	Sa.		
-	-	-	5002	ⅢbM	完形	63.6	-3.1	35.7	2.7	17.5	-0.5	1.8	-0.4	50.3	-	Sa.		
Ⅲ-16-12	-	-	5021	ⅢbM	完形	65.7	-0.9	35.9	2.9	30.5	12.5	1.8	-0.4	77.6	-	Sa.		
-	-	-	4657	ⅢbL	完形	66.1	-0.5	38.5	5.5	15.7	-2.3	1.7	-0.5	57.5	-	Sa.		
Ⅲ-16-13	-	-	5018	ⅢbM	完形	67.1	0.5	41.2	8.2	14.5	-3.5	1.6	-0.6	64.0	-	Sa.		
-	-	-	5008	ⅢbM	完形	68.2	1.6	30.8	-2.2	13.8	-4.2	2.2	0.0	43.5	-	Sa.		
-	104-1	-	4660	ⅢbL	完形	68.9	2.3	29.5	-3.5	20.7	2.7	2.3	0.1	56.2	-	Sa.		
Ⅲ-16-14	-	-	5015	ⅢbM	完形	69.1	2.5	28.0	-5.0	14.2	-3.9	2.5	0.3	33.1	-	Sa.		
-	-	-	3450	ⅢbM	完形	69.3	2.7	25.2	-7.8	20.5	2.5	2.7	0.5	37.3	-	Sa.		
-	-	-	4656	ⅢbL	完形	70.4	3.8	43.3	10.3	19.8	1.8	1.6	-0.6	52.2	-	Sa.		
Ⅲ-16-15	-	-	5054	ⅢbM	完形	70.9	4.3	26.6	-6.5	16.4	-1.6	2.7	0.5	34.6	-	Sa.		
-	-	-	2891	ⅢbM	完形	71.1	4.5	38.7	5.7	14.7	-3.3	1.8	-0.4	54.6	-	Sa.		
-	-	-	4990	ⅢbM	完形	72.8	6.2	32.1	-0.9	13.8	-4.3	2.3	0.1	39.8	-	Sa.		
Ⅲ-16-16	-	-	4655	ⅢbL	完形	73.5	6.9	34.9	1.9	24.8	6.8	2.1	-0.1	68.1	-	Sa.		
-	-	-	4658	ⅢbL	完形	74.3	7.7	37.3	4.3	15.4	-2.6	2.0	-0.2	53.9	-	Sa.		
-	-	-	3403	ⅢbM	完形	76.0	9.4	32.3	-0.7	23.4	5.4	2.4	0.2	87.5	-	Sa.		
Ⅲ-16-17	-	-	4991	ⅢbM	完形	76.5	9.9	40.0	7.0	14.8	-3.2	1.9	-0.3	51.1	-	Sa.		
-	-	-	5022	ⅢbM	完形	77.3	10.7	31.8	-1.2	25.2	7.2	2.4	0.2	62.8	-	Sa.		
Ⅲ-16-18	-	-	5253	ⅢbM	完形	77.6	11.0	76.5	43.5	14.2	-3.8	1.0	-1.2	129.9	-	Sa.		
-	-	-	2762	ⅢbM	略完形	80.2	13.6	34.1	1.1	25.0	7.0	2.3	0.1	78.2	-	Sa.		
-	-	-	5053	ⅢbM	完形	82.0	15.4	47.3	14.3	20.7	2.7	1.7	-0.5	107.8	-	Sa.		
-	-	-	3404	ⅢbM	完形	82.0	15.4	43.6	10.6	22.2	4.2	1.9	-0.3	87.6	-	Sa.		
Ⅲ-16-19	-	-	2759	ⅢbM	完形	83.0	16.4	33.8	0.8	26.1	8.1	2.5	0.3	81.2	-	Sa.		
-	-	-	5261	ⅢbM	略完形	84.5	17.9	25.6	-7.4	23.9	5.9	3.3	1.1	48.1	-	Sa.		
-	-	-	2888	ⅢbM	完形	86.2	19.6	37.4	4.4	19.4	1.4	2.3	0.1	70.5	-	Sa.		
Ⅲ-16-20	-	-	5262	ⅢbM	完形	90.0	23.4	43.6	10.6	14.6	-3.4	2.1	-0.1	55.8	-	Sa.		
Ⅲ-16-21	-	-	2913	ⅢbM	完形	93.4	26.8	62.0	29.0	31.0	13.0	1.5	-0.7	267.0	-	Sa.		
						66.6		33.0		18.0		2.2		53.8				
																		完形42点

4号平地式建物跡〔ⅢH-04〕 (図Ⅲ-17~19、図版19-5、20)

位置：Y-21・22・Z-21~23・AA-21・22

規模：784×634 cm 長軸方向：N-46° E

付属遺構：炉跡 ⅢF-25・26

確認・調査(Ⅲ-17)：2カ所の焼土が並んで検出されたことから、住居跡の可能性を考え調査を行った。遺物の取り上げ及び取扱いはⅢH-02・03・05と同様である。ⅢF-25・26の平面・断面の記録、土壌サンプルの回収を行った。炉跡の調査を終了したところで周囲をⅢc・Ⅳ層上面と段階的に掘り下げ、柱穴の検出を行っている。炉跡と柱穴の配置から次年度以降の調査範囲に柱穴が続くと考えら

れたが、時間的に調査範囲の拡張が困難であったので、平成 20 年度の調査範囲で住居の調査を進めた。検出した柱穴のセクションラインを設定し、土層断面の記録を行った。最後に完掘写真を撮影し、平成 20 年度の調査を終了している。平成 22 年度の調査では、住居北西側コーナー周辺の柱穴列の調査を行った。平成 22 年度に検出した柱穴はⅢH-04. HP-01~18 を付番し、調査を行っている。

付属炉 (図Ⅲ-17) : ⅢF-25・26 の燃焼面の平面形はともに楕円形で、長軸を異にする。共に灰層はなく、燃焼面が僅かに窪む。土壌サンプルの結果、破片で同定されなかった炭化種子があるのみである。動物遺存体はⅢF-25 から魚類等出土している。ⅢF-26 の炭化材は AMS 年代測定を委託しており、暦年較正年代 (1σ) でともに 13 世紀後半から 14 世紀後半の年代幅が得られている。現場でも中世段階のアイヌ文化期と考えており矛盾しない結果が得られている。

柱 穴 (図Ⅲ-17) : すべて打ち込み式である。主体部を構成する柱穴は 34 本 (ⅢKP-50~55・57・59~62・64・65・67~73、HP-01~07・09~12・14・15・18) である。主体部内に 1 本 (HP-17)、主体部の南西側に 2 本 (ⅢKP-56・58)、主体部南東側に 1 本 (ⅢKP-63) を検出している。主体部を構成するものはすべて 20 cm 以上深く打ち込まれている。ⅢKP-50・51・57・60・61・64・69・71~73、HP-05・07・11・14 は柱穴上方が住居跡内側に傾く「外踏ん張り」の構造である。

遺物出土状態 (図Ⅲ-17) : 主体部内側の遺物の分布は非常に希薄である。炉跡のⅢF-26 の北東側で 1・3・4 の礫石器が近接して出土しており、作業空間であった可能性があるが、1・3 は欠損品なので検討が必要である。主体部南西側の列の中央付近で、主体部の内・外側をまたいで 7~9 の 3 点の古銭が出土している。この他に主体部内側の柱穴列付近から 2・5 が出土している。

出土遺物 (図Ⅲ-18・19) : 1・2 はたたき石で、1 は両面に敲打痕をもつもので、2 は稜に敲打痕をもつものである。3 は滑沢面のある礫で両面に使用面をもつ。4 は台石で両面に敲打痕をもつ。5 は小刀で、平棟平造りの両区である。茎は断面長方形で目釘穴が 1 つある。刀身基部から中央にかけて内湾し、刃先にかけて細くなることから研ぎ直しが繰り返されたためと考えられる。6 は鉤状鉄製品で鉤先は欠損しており、2 面に溝が入る。7~9 は古銭でいずれも北宋銭である。7 は祥符元寶で、初鑄年代は 1008 年である。8 は熙寧元寶で、初鑄年代は 1068 年である。9 は政和通寶で、初鑄年代は 1111 年である。10~16 は主体部内で出土した礫である。棒状のものが殆どである。

時 期: 炉跡の検出層位から中世段階と考えられる。

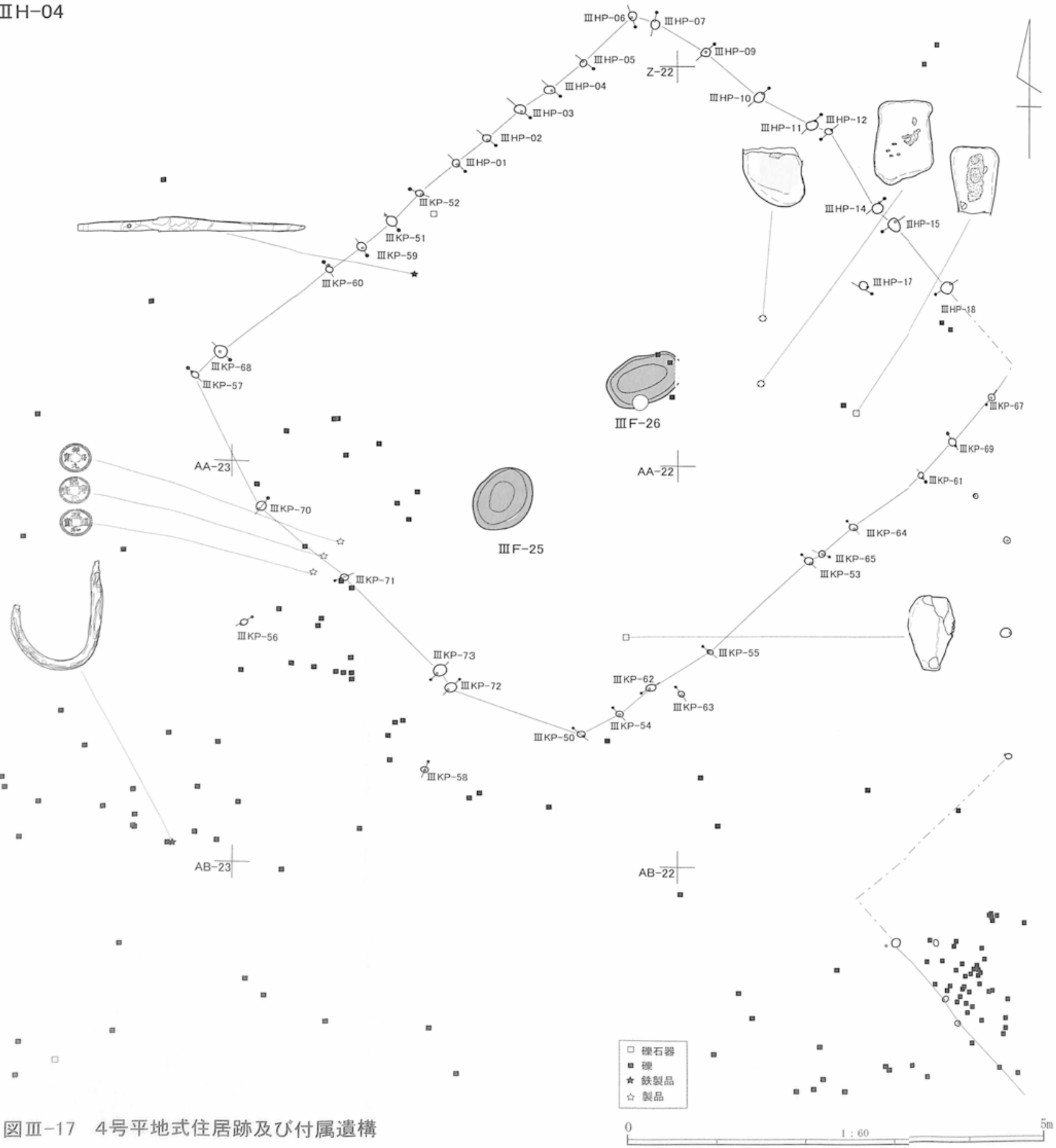
表Ⅲ-26 ⅢH-04属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模 (cm)				柱穴			付属遺構
						主体部		付属部		本数			
						長軸	短軸	長軸	短軸	主体	付属	他	
Ⅲ-17	19-5, 20-9	ⅢH-04	Y-21・22, Z-21~23, AA-21・22	ⅢbM	N-46° E	784	634	-	-	34	-	4	焼土2

表Ⅲ-27 ⅢH-04付属炉属性表

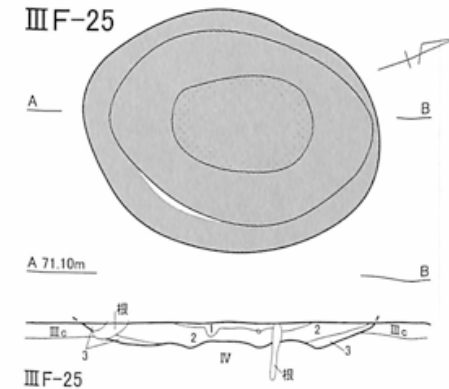
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片	備 考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-17	20-1・2	ⅢF-25	AA-22	ⅢbM	楕円形	84	64	7	焼骨片	
Ⅲ-17	20-3・4	ⅢF-26	Z-22	ⅢbM	楕円形?	(88)	60	10	焼骨片	

ⅢH-04



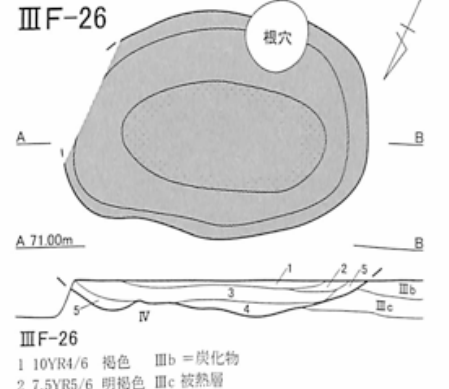
図Ⅲ-17 4号平地式住居跡及び付属遺構

ⅢF-25

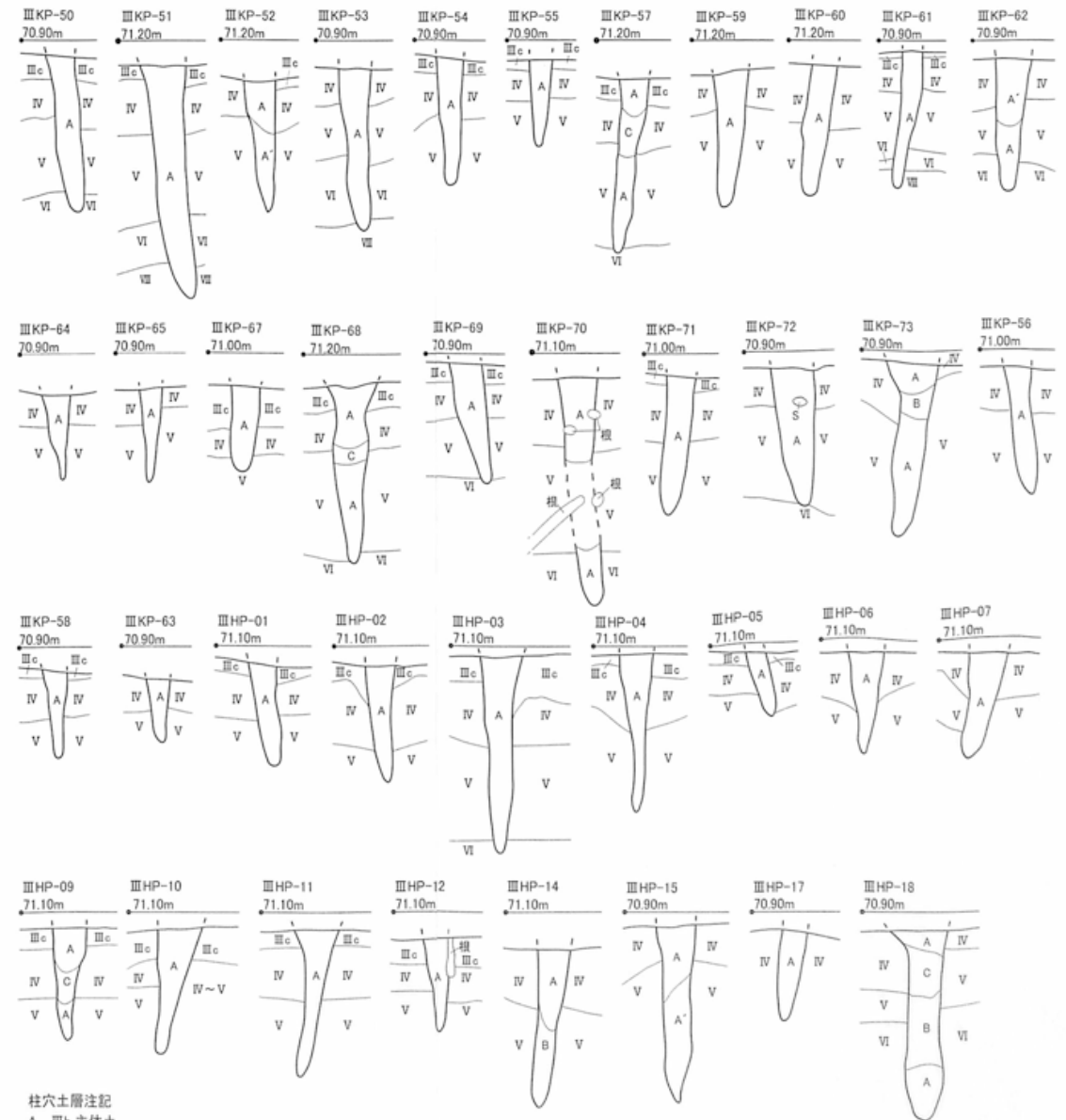


ⅢF-25
 1 7.5YR2/1 黒色 Ⅲb = 炭化物・骨片
 2 7.5YR4/6 褐色 Ⅲc・IV被熱層
 3 7.5YR3/4 暗褐色 付帯黒色層

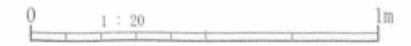
ⅢF-26

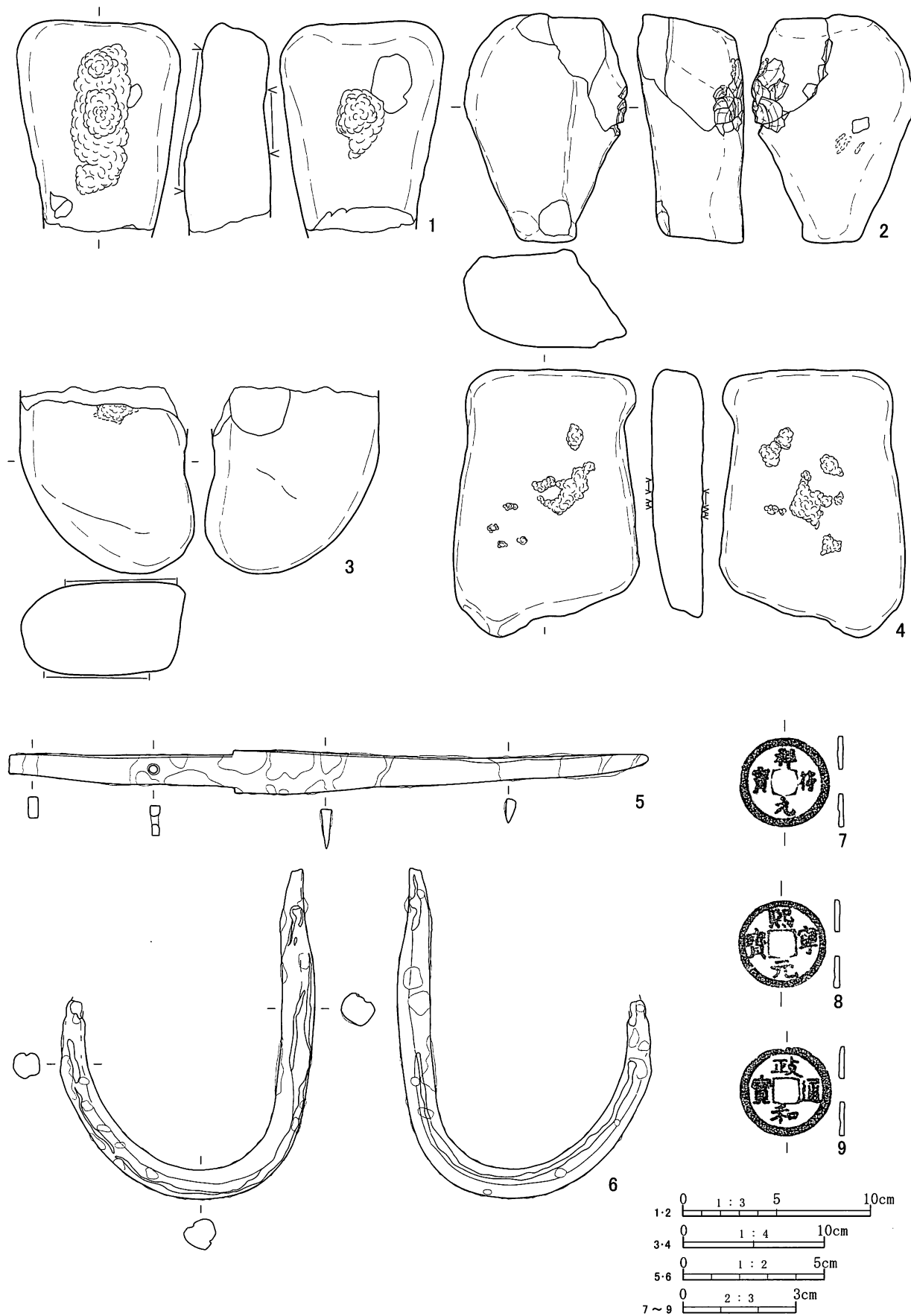


ⅢF-26
 1 10YR4/6 褐色 Ⅲb = 炭化物
 2 7.5YR5/6 明褐色 Ⅲc 被熱層
 3 7.5YR6/8 橙色 Ⅲc弱い被熱層
 4 7.5YR4/4 褐色 IV被熱層
 5 7.5YR3/4 暗褐色 付帯黒色層



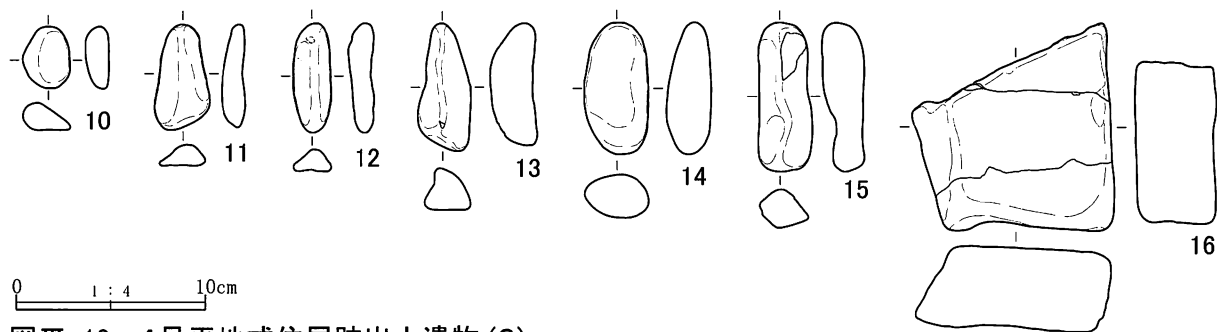
柱穴土層注記
 A Ⅲb 主体土
 A' Ⅲb 主体土(しまりなし)
 B Ⅲc 主体土
 C IV 主体土





図Ⅲ-18 4号平地式住居跡出土遺物(1)

ⅢH-04.S



図Ⅲ-19 4号平地式住居跡出土遺物(2)

表Ⅲ-28 ⅢH-04柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-17	20-5	ⅢKP-50	9	2	43	6	打込み	主体部
Ⅲ-17	20-6	ⅢKP-51	14	2	65	7	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-52	9	1	36	4	打込み	主体部
Ⅲ-17	20-7	ⅢKP-53	10	2	45	4	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-54	8	2	35	1	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-55	7	1	24	2	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-57	9	2	48	6	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-59	11	3	38	3	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-60	9	3	37	7	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-61	6	2	38	7	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-62	11	3	37	2	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-64	10	1	23	5	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-65	6	1	26	1	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-67	8	3	23	2	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-68	16	2	49	0	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-69	10	2	34	11	打込み	主体部
Ⅲ-17	20-8	ⅢKP-70	12	2	64	5	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-71	9	2	38	7	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-72	13	3	39	6	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-73	16	2	49	6	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-01	8	3	29	7	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-02	9	2	32	5	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-03	13	2	55	0	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-04	10	1	44	1	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-05	6	2	18	16	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-06	11	2	27	2	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-07	12	2	29	13	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-09	10	1	32	2	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-10	14	3	37	10	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-11	14	2	42	8	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-12	8	1	26	3	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-14	10	1	45	6	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-15	12	1	49	1	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢHP-18	18	5	53	1	打込み	主体部
Ⅲ-17	-	ⅢKP-56	9	1	36	7	打込み	
Ⅲ-17	-	ⅢKP-58	8	2	24	4	打込み	
Ⅲ-17	-	ⅢKP-63	7	2	18	5	打込み	
Ⅲ-17	-	ⅢHP-17	8	2	26	8	打込み	

表Ⅲ-29 ⅢH-04出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-18-1	104-3-1	-	3846	たたき石	-	ⅢbM	ⅢH-04	Z-21	(109.4)	86.0	46.5	600.0	Sa.	被熱
Ⅲ-18-2	104-3-2	-	3449	たたき石	-	ⅢbM	ⅢH-04	AA-22	124.0	86.0	52.0	680.0	Sa.	
Ⅲ-18-3	104-3-3	-	5189	滑沢面のある礫	-	ⅢbM	ⅢH-04	Z-21	(139.3)	108.5	66.2	1600.0	Sa.	
Ⅲ-18-4	104-3-4	-	5188	台石	-	ⅢbM	ⅢH-04	Z-21	195.0	130.0	36.0	1410.0	Sa.	被熱
Ⅲ-18-5	104-3-5	-	6436	小柄	-	ⅢbM	ⅢH-04	Z-22	226.9	15.1	3.9	21.4	Irn.	
Ⅲ-18-6	104-3-6	-	3446	鉤状鉄製品	-	ⅢbM	ⅢH-04	AA-23	117.5	89.5	11.8	88.9	Irn.	
Ⅲ-18-7	104-3-7	-	6437	古銭	-	ⅢbM	ⅢH-04	AA-22	24.5	24.4	1.0	2.5	Cu.	
Ⅲ-18-8	104-3-8	-	6438	古銭	-	ⅢbM	ⅢH-04	AA-22	23.8	23.8	1.2	2.7	Cu.	
Ⅲ-18-9	104-3-9	-	6439	古銭	-	ⅢbM	ⅢH-04	AA-22	24.5	24.9	1.2	2.5	Cu.	

表Ⅲ-30 ⅢH-04.S属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	5309	ⅢbM	完形	30.7	-30.1	21.1	-9.8	15.2	-3.2	1.5	-0.7	8.7	-	Sa.	
Ⅲ-19-10	-	-	5311	ⅢbM	完形	32.3	-28.6	25.8	-5.1	14.4	-4.0	1.3	-0.9	12.8	-	Sa.	
-	-	-	6459	ⅢbM	完形	45.8	-15.0	12.9	-18.0	11.1	-7.3	3.6	1.4	7.4	-	Mud.	
-	-	-	6455	ⅢbM	完形	46.1	-14.8	22.6	-8.3	13.1	-5.3	2.0	-0.2	15.8	-	Mud.	
-	-	-	6456	ⅢbM	完形	48.2	-12.6	20.9	-10.0	13.4	-5.1	2.3	0.1	14.4	-	Mud.	
Ⅲ-19-11	-	-	6470	ⅢbM	完形	56.3	-4.5	28.6	-2.3	12.7	-5.7	2.0	-0.2	18.6	-	Mud.	
-	-	-	6449	ⅢbM	完形	57.3	-3.5	25.3	-5.6	11.4	-7.0	2.3	0.1	18.0	-	Mud.	
Ⅲ-19-12	-	-	6444	ⅢbM	完形	58.1	-2.7	20.2	-10.7	13.7	-4.7	2.9	0.7	16.5	-	Mud.	
-	104-2	-	6466	ⅢbM	完形	61.3	0.5	22.7	-8.2	17.6	-0.8	2.7	0.5	29.6	-	Sa.	
-	-	-	6441	ⅢbM	完形	61.5	0.7	22.0	-8.9	15.1	-3.3	2.8	0.6	25.5	-	Sa.	
-	-	-	6472	ⅢbM	略完形	63.0	2.2	33.1	2.2	22.2	3.8	1.9	-0.3	56.2	-	Sa.	
Ⅲ-19-13	-	-	6471	ⅢbM	完形	68.5	7.7	28.2	-2.7	22.0	3.6	2.4	0.2	47.4	-	Sa.	
Ⅲ-19-14	-	-	3447	ⅢbM	完形	69.8	9.0	34.2	3.3	24.5	6.1	2.0	-0.2	70.3	-	Sa.	
Ⅲ-19-15	-	-	6442	ⅢbM	完形	78.8	18.0	29.3	-1.6	21.4	3.0	2.7	0.5	54.2	-	Sa.	
-	-	-	3448	ⅢbU	完形	88.0	27.2	40.5	9.6	21.5	3.1	2.2	0.0	73.6	-	Sa.	
Ⅲ-19-16	-	-	3847	ⅢbU	完形	107.3	46.5	107.1	76.2	44.8	26.4	1.0	-1.2	734.0	○	Sa.	
						60.8		30.9		18.4		2.2		75.2			
																	完形16点

獣骨集中3〔ⅢBB-03〕 (図Ⅲ-20・21、図版21)

位置：Y-19・20、Z-AA-17・18 検出層位：Ⅲb層中位

規模：A 348×210 cm B 192×66 cm C 1,020×630 cm

主要動物・部位：A シカ上顎歯・下顎歯 B シカ上顎歯・下顎歯 C シカ下顎歯・四肢骨

立地：T₃面の段丘北側の縁辺からT₃-T₁段丘崖の上位。

確認調査：段丘平坦面縁辺のⅢb層調査中に獣骨がまとまって検出したことから、ⅢBB-03を付した。平成20年度の調査は、当初重機で樽前bテフラを除去した範囲よりも斜面下位側に獣骨が広がることが確認されたので、一時調査を中断して斜面下位側の火山灰除去範囲を拡張した。この際、斜面中なので安全を確保できる範囲までを拡張している。拡張範囲も合わせて獣骨の検出をしたところ、獣骨集中の範囲は拡張区内に収まったが、次年度以降の調査区にも続くことがわかった。時間等の都合から20年度には調査範囲の拡張は行わなかった。全体を確認したところで撮影を行い、遺存状態の良好なものについては微細図を作成している。出土した獣骨は、台帳に現場段階での所見を記載し、基本的には全点の写真を撮影している。遺存状態が不良なものについては、ここまでの作業を行った後に破棄している。取り上げをするものについては、酢酸ビニル系樹脂(木工用ボンド)を希釈したものを塗布し、補強を行っている。このあとⅣ層を重機で除去し、Ⅴ層の調査中

に北東隅で BB304~330 がまとまって検出された。IV層等が落ち込んでいることから、根穴等の影響を受けて押し込まれたものと判断し、出土位置から、III BB-03 と一連のものと考えた。平成 22 年度の調査では、西側部分を検出し、同じ工程で調査を行っている。

獣骨の分布と特徴：獣骨集中は大きく 3 つのまとまりから成る。III BB-03A・B はシカの上顎歯、下顎歯で構成される。III BB-03C は微細図 (A-D、E-H) を作成した範囲と、その南側部分とは構成する部位が異なる。微細図を作成した範囲ではシカの下顎歯および四肢骨が主体であるが、南側では下顎歯のみが主体となっている。本遺構の特徴として第七章第 4 節の高橋氏の考察で指摘があるように下顎歯に比して上顎歯の数量が極端に少ないことが挙げられる。高橋氏はこのような状況と下顎骨間接突起頰側にカットマークがあり、頭蓋骨と分離させたと考えられるものがあること等から、頭蓋骨は別な地点で儀礼に供されたのではないかと想定されている。これについては同様の見解である。

遺物出土状態：滑沢面のある礫が 5 点出土している。遺跡全体でも滑沢面のある礫は 10 点程の出土であり、分布が非常に偏っている。これは滑沢面のある礫の機能・用途に関連するためと思われる。滑沢面のある礫は礫の素材形状が変わらずに、滑沢面をもつものを分類しており、礫の素材形状が変わらないことから、比較的柔らかい皮革製品や植物製品等の加工に関連するものと思われる。今後の課題として、使用痕分析等を行い、滑沢面のある礫の対象物等を明らかにしていくことが必要と考えられる。

出土遺物(図 III-21)：1~5 は滑沢面のある礫である。1~3 は楕円形の礫の端部に使用面がある。素材礫の大きさ・形状と使用面の位置から、能動的に使用したと考えられる。4 は表面に線条痕、裏面には滑沢面をもつものである。5 は大型の礫で、平坦面に滑沢面をもつもので、その大きさから 1~3 とは対照的に受動的に使用されたものと考えられる。6 は砥石で、両面に使用面をもつ。7 は金具片である。欠損のため全体の形状は不明である。

表 III-31 III H-03 周辺獣骨集中属性表

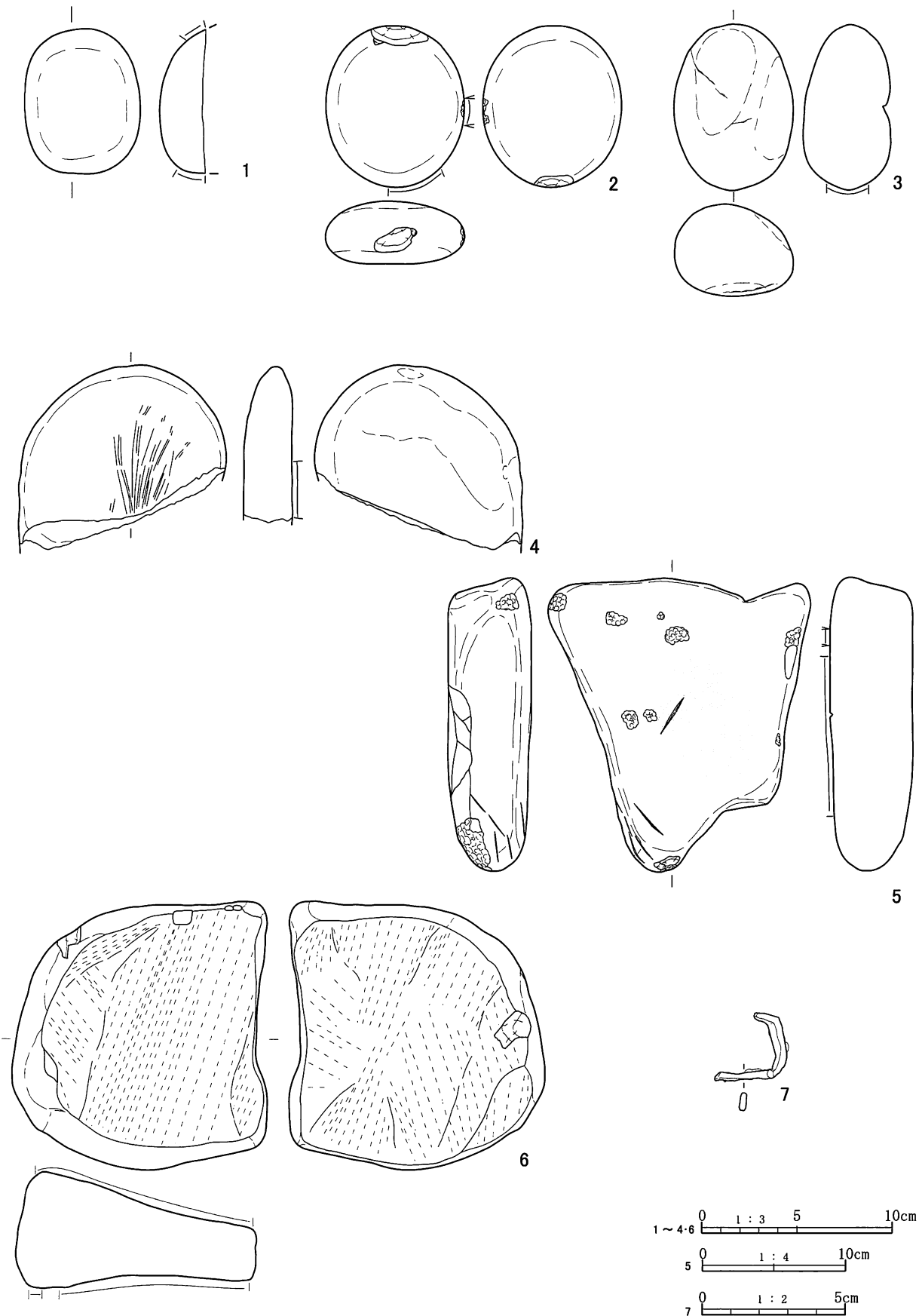
挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備 考
						長軸	短軸				
III-20	21	III BB-03A	Y-19・20	III bM	不整形	348	210	シカ下顎歯・上顎	-	III H-03・04	
III-20		III BB-03B	Y-19	III bM	不整形	192	66	シカ下顎歯・上顎	-	III H-03・04	
III-20		III BB-03C	Z-17~19、AA-17・18	III bM	不整形	1,020	630	シカ下顎歯・四肢骨	-	III H-03・04	

表 III-32 III BB-03 出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
III-21-1	105-1-1	-	17145	滑沢面のある礫	-	III bL	III BB-03	Y-20	70.6	60.1	(20.3)	170.0	Gin.	
III-21-2	105-1-2	-	17129	たたき石	III A	III bM	III BB-03	Z-19	84.9	72.0	33.0	345.0	Mud.	
III-21-3	105-1-3	-	8532	滑沢面のある礫	-	III bM	III BB-03	Z-18	87.0	63.0	48.0	360.0	Sa.	
III-21-4	105-1-4	-	8528	滑沢面のある礫	-	III bM	III BB-03	Z-18	(83.0)	107.0	25.0	440.0	Sa.	
III-21-5	105-1-5	-	17144	滑沢面と敲打痕のある大型の礫	II	III bL	III BB-03	Y-20	206.0	180.3	57.6	2640.0	Sa.	
III-21-6	105-1-6	-	8525	砥石	-	III bM	III BB-03	Z-18	139.0	133.0	61.0	1300.0	Sa.	
III-21-4	105-1-7	-	8529	金具?	-	III bM	III BB-03	Z-18	24.1	22.6	8.2	2.9	Irn.	



図Ⅲ-20 獣骨集中3 (ⅢBB-03) 平面図



図Ⅲ-21 獣骨集中3出土遺物

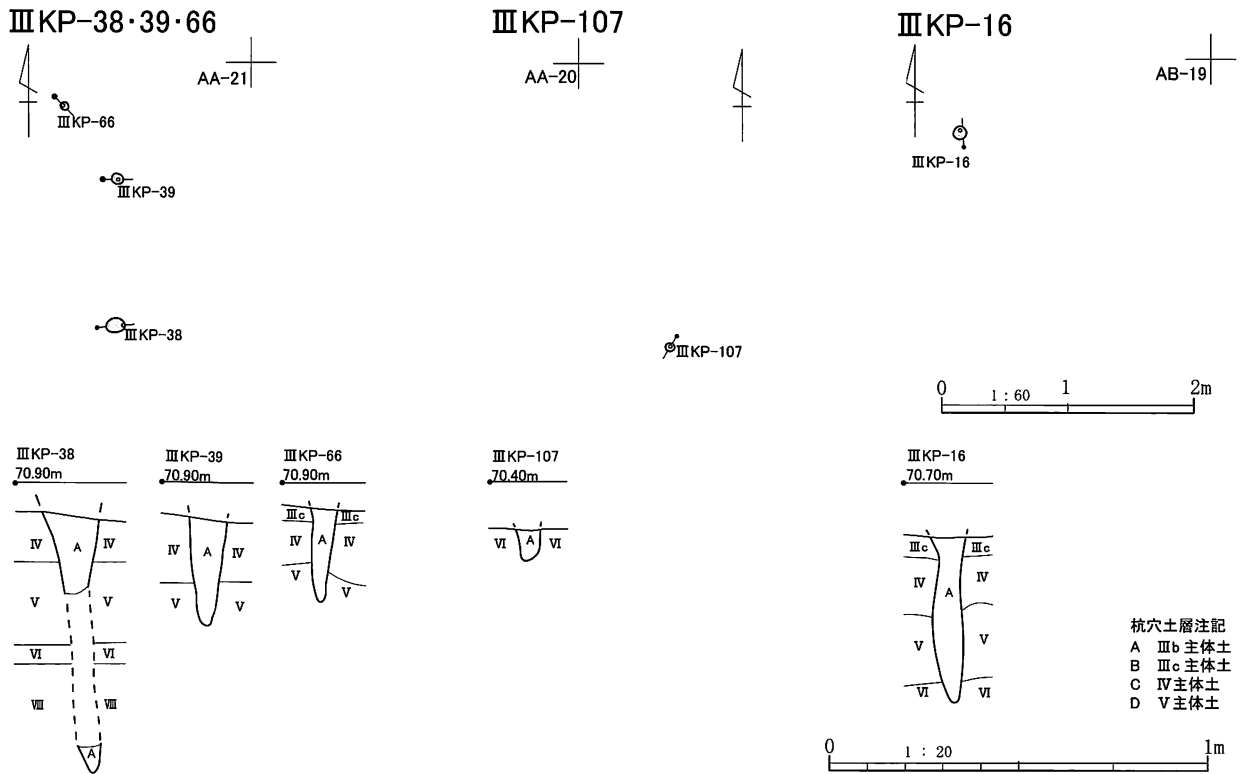
ⅢH-03・04 周辺杭跡 (図Ⅲ-22)

3・4号平地式住居跡の周辺で検出した、単体もしくは列を構成して検出したものである。

AA-21区：ⅢH-03・04の間から検出したもので、ⅢKP-38・39・66である。すべて打ち込み式である。ⅢKP-38は68cm以上深く打ち込まれている。ⅢKP-39・66は20cm以上深く打ち込まれている。これらは近接しているが列を構成するか判断することはできなかった。

AA-19区：ⅢKP-107は単体で検出したものである。Ⅵ層で検出したもので、Ⅲc～Ⅴ層の厚さを考慮すれば40cm以上深く打ち込まれたものである。

AE-19区：ⅢKP-16は単体で検出したものである。打ち込み式で、深さは44cmである。



図Ⅲ-22 ⅢH-03・04 周辺杭穴

表Ⅲ-33 ⅢH-03・04周辺杭穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-22	-	ⅢKP-38	15	1	68	4	打ち込み	
Ⅲ-22	-	ⅢKP-39	10	2	28	11	打ち込み	
Ⅲ-22	-	ⅢKP-66	6	1	25	2	打ち込み	
Ⅲ-22	-	ⅢKP-107	6	3	8	5	打ち込み	
Ⅲ-22	-	ⅢKP-16	9	2	44	3	打ち込み	

6号平地式建物跡〔ⅢH-06〕 (図Ⅲ-23・24、図版22)

位置：Z-24・25、AA-25

規模：(446) × 380 cm 長軸方向：N-47° E

付属遺構：炉跡 ⅢF-46～49

確認・調査(図Ⅲ-23)：Z-25区でⅢb層まで達する攪乱層を除去したところ、その下から焼土が4

カ所長軸方向を同じくして検出した。その内の2カ所は重複している事を確認した(ⅢF-46・47)。これは新旧2期のものが重複していると想定され、配置から2カ所1組の炉跡が新旧2期になると思われた。ⅢF-46～49の平面・断面の記録を行った。土壌サンプルは燃焼面まで攪乱が及んでいたことから回収は行っていない。炉跡の調査を終了したところで、住居跡の可能性を考えⅢc層上面～Ⅳ層上面まで数回に分けて精査を行ったが、炉跡の周囲で8基の柱穴しか確認することが出来なかった。検出した柱穴の本数は少ないが、炉跡との配置から主体部を構成すると考えられる柱穴列が想定できたため、平地式住居跡と捉え、最後に完掘写真を撮影している。

付属炉(図Ⅲ-23)：ⅢF-46・47は重複して検出した。長軸で半截し、土層断面を観察したところ、ⅢF-47が新しくⅢF-46が古いということが判った。ⅢF-48・49は非常に近接して検出している。住居跡の炉跡は2カ所1組で構成される場合が多く、ⅢF-46・47が重複し、新旧2期に分かれることから、長軸を同じくし近接するⅢF-48・49も新旧2期に分かれる可能性がある。その場合配置から、ⅢF-46・48とⅢF-47・49の2カ所1組で新旧2期と思われる。

柱穴(図Ⅲ-24)：すべて打ち込み式である。主体部を構成する柱穴は5本で(ⅢKP-173・177・178・180・181)、主体部の中に3本(ⅢKP-174～176)を検出している。主体部を構成するものはすべて20cm以上深く打ち込まれている。特に、2カ所のコーナーにあるⅢKP-178・181は50cmを超える。主体部の柱穴は柱穴上方が住居跡内側に傾く「外踏ん張り」の構造である。先述したように確認できた柱穴は8本と少なく、全ての柱穴が検出できたわけではないと思われる。柱穴の堆積状況によっては面的な検出が困難なものがあると考えられる。

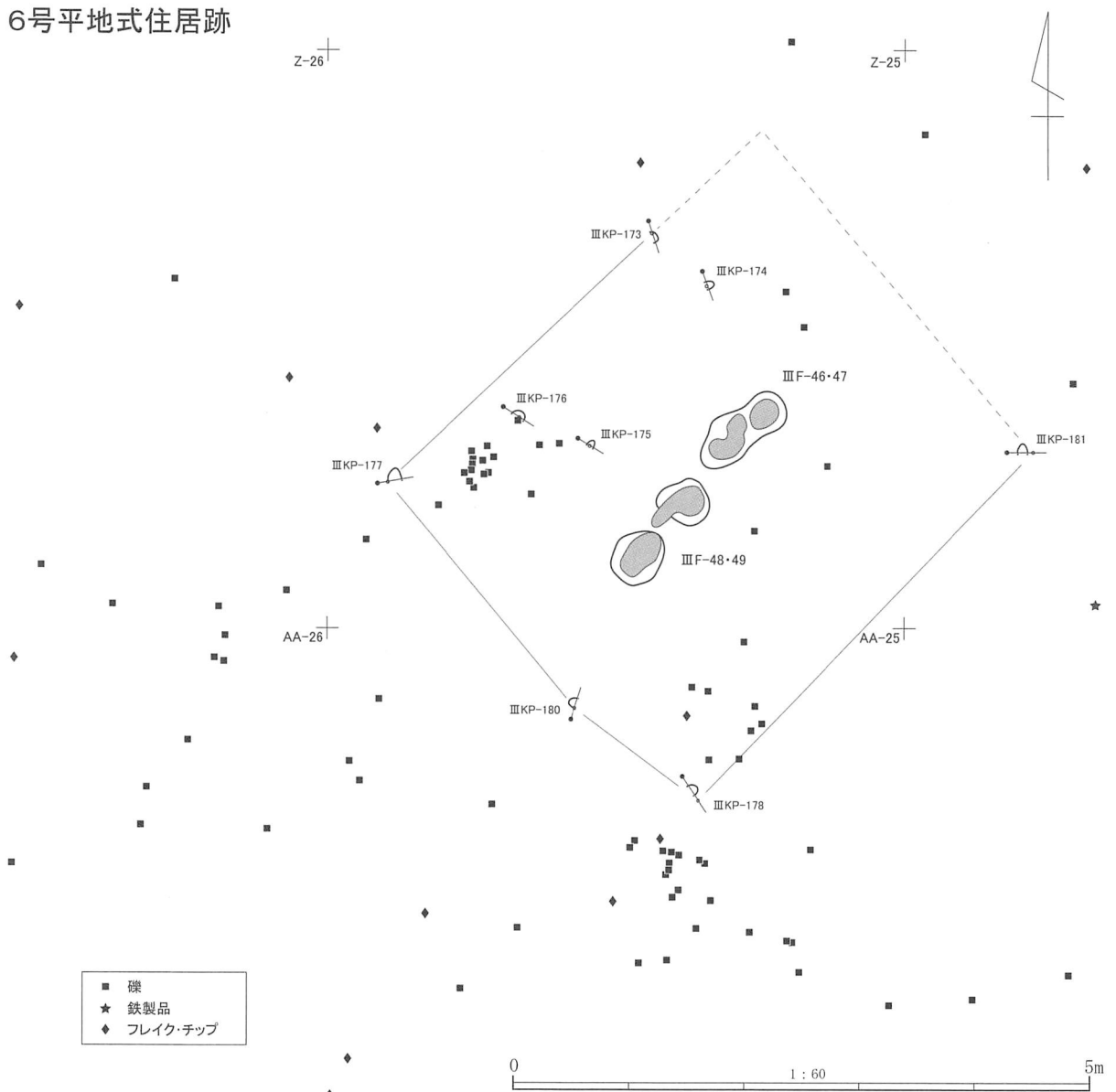
表Ⅲ-34 ⅢH-06属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴本数			付属遺構
						主体部		付属部		主体	付属	他	
						長軸	短軸	長軸	短軸				
Ⅲ-23	22-1	ⅢH-06	Z-24・25,AA-25	ⅢbM	N-47°E	(446)	380	-	-	5	-	3	焼土4

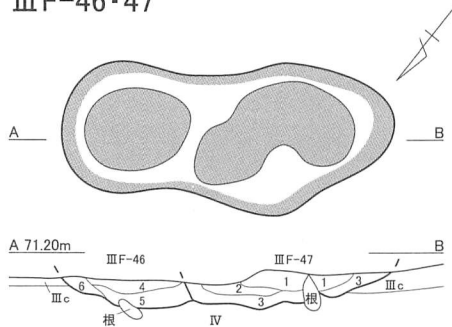
表Ⅲ-35 ⅢH-06付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-23	22-2	ⅢF-46	Z-25	ⅢbM	不整形	(34)	35	8	-	
Ⅲ-23		ⅢF-47	Z-25	ⅢbM		54	40	11	-	
Ⅲ-23	22-3	ⅢF-48	Z-25	ⅢbM	不整形	56	43	9	-	
Ⅲ-23		ⅢF-49	Z-25	ⅢbM		楕円形	51	43	9	-

6号平地式住居跡



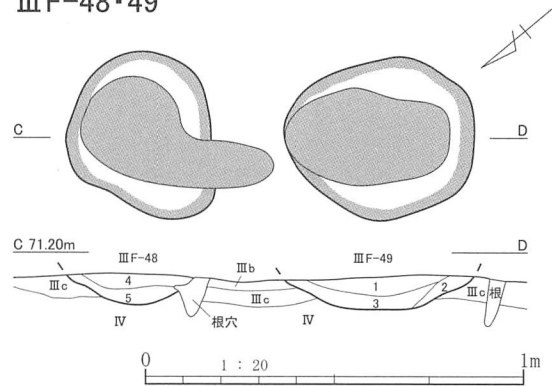
III F-46・47



III F-46・47

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 5YR4/8 赤褐色 | IIIc 強い被熱層上 |
| 2 7.5YR4/6 褐色 | IIIc 弱い被熱層 |
| 3 7.5YR2/3 極暗褐色 | 付帯黒色層 |
| 4 7.5YR5/8 明褐色 | IIIc 被熱層 |
| 5 10YR3/4 暗褐色 | 付帯黒色層 |
| 6 7.5YR2/3 極暗褐色 | 付帯黒色層 |

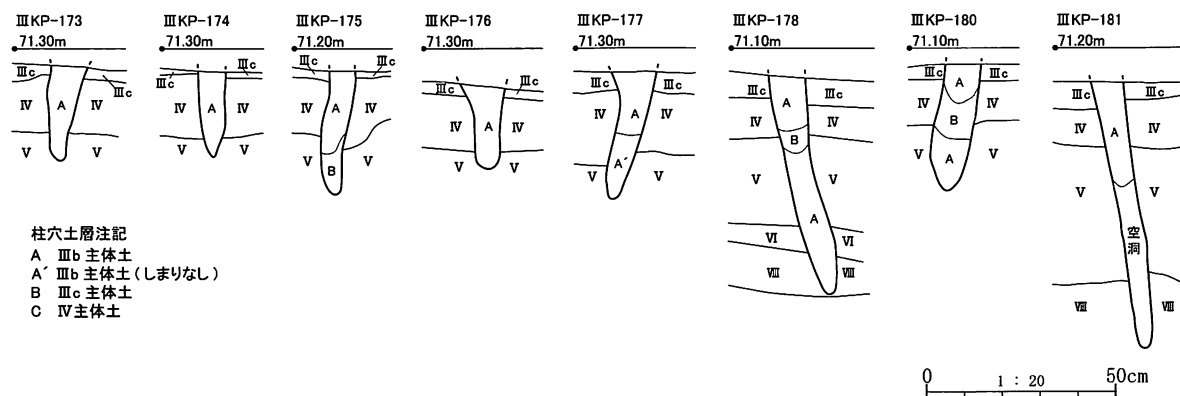
III F-48・49



III F-48・49

- | | |
|----------------|----------|
| 1 7.5YR6/8 橙色 | IIIc 被熱層 |
| 2 7.5YR4/6 褐色 | IV 被熱層 |
| 3 7.5YR3/3 暗褐色 | 付帯黒色層 |
| 4 7.5YR6/8 橙色 | IIIc 被熱層 |
| 5 7.5YR3/3 暗褐色 | 付帯黒色層 |

図III-23 6号平地式住居跡及び付属遺構



図Ⅲ-24 6号平地式住居跡柱穴断面図

表Ⅲ-36 ⅢH-06柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-24	-	ⅢKP-173	10	2	26	5	打込み	主体部
Ⅲ-24	22-4	ⅢKP-177	12	2	34	11	打込み	主体部
Ⅲ-24	22-5	ⅢKP-178	10	3	59	12	打込み	主体部
Ⅲ-24	22-6	ⅢKP-180	10	3	34	7	打込み	主体部
Ⅲ-24	22-7	ⅢKP-181	9	3	71	8	打込み	主体部
Ⅲ-24	-	ⅢKP-174	7	1	23	2	打込み	
Ⅲ-24	-	ⅢKP-175	7	2	33	3	打込み	
Ⅲ-24	-	ⅢKP-176	12	3	22	4	打込み	

第2節 建物跡

複数の柱穴で構成され、配置等から上屋構造が想定される遺構を建物跡とした。本遺跡では4軒を検出している。内訳は9本柱で「田」字形のものが2軒（建物跡2・4）、7本柱で長方形のものが1軒（建物跡1）、6本柱で長方形のものが1軒（建物跡3）である。建物跡2・4は柱の配置が同様であり、長軸方向が同じであることから、時期や機能等が関連する可能性がある。

建物跡1（図Ⅲ-25、図版23）

位置：AI・AJ-19

規模：248×212 cm 長軸方向：N-15° E

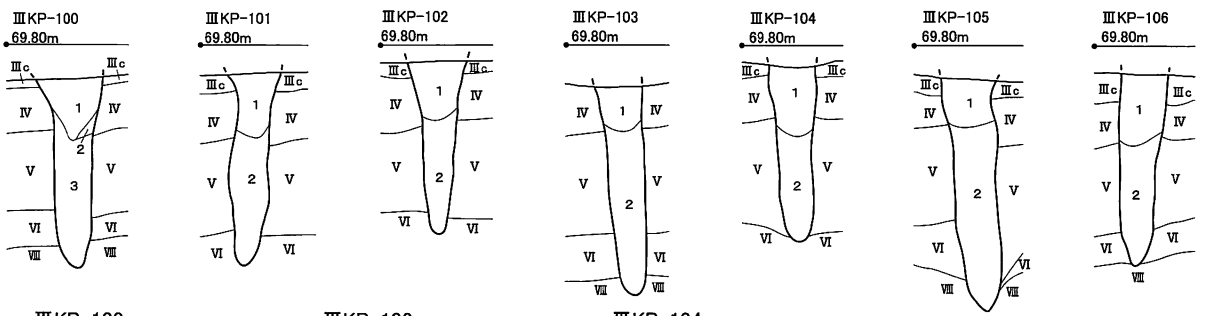
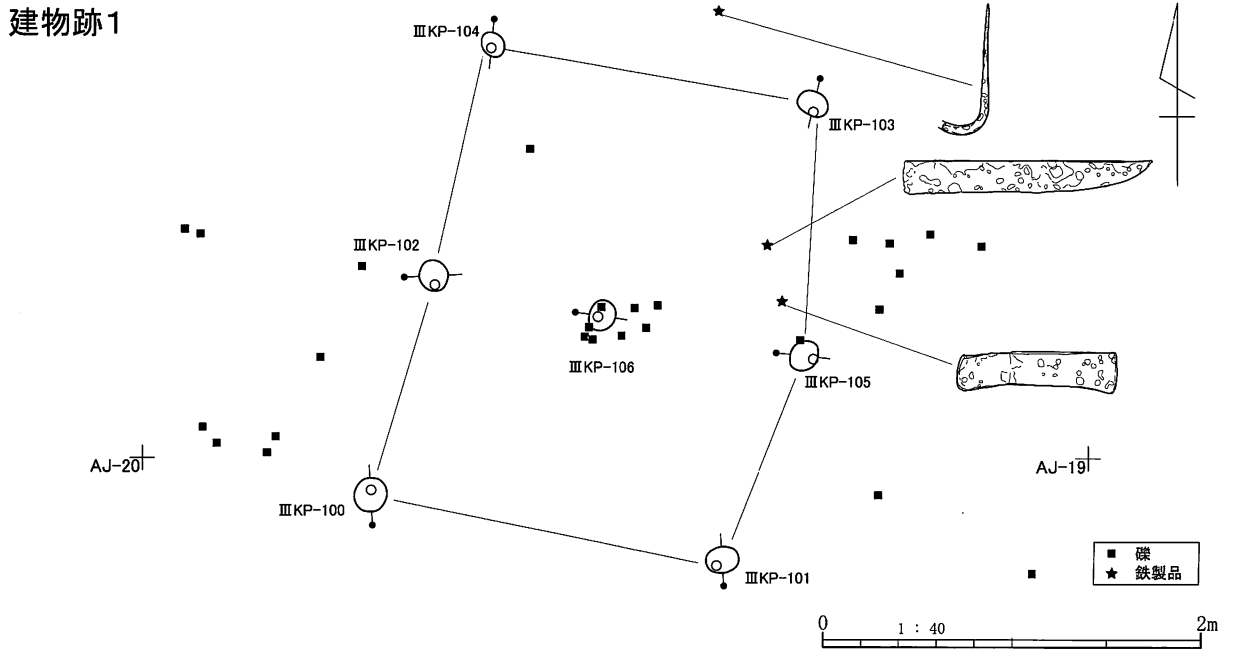
構成：7本柱（ⅢKP-100～106）

立地：T₃面の段丘平坦面中央よりやや南側に位置し、平地式住居跡等からは離れている。

確認・調査：Ⅲc～Ⅳ層で柱穴を検出している。7本の柱穴を確認したので、各柱穴間をジョレン等で精査を行ったが、他には確認されなかった。柱穴の配置から建物跡1と付番した。この時点では遺物をすでに取り上げており、整理作業の段階で、層位毎の遺物分布と建物跡1の位置関係を照合したところ、Ⅲb層中位で取り上げた遺物は鉄器が近接して出土するなど、包含層の遺物出土状態と異にすることから、建物跡に伴う遺物として捉えた。出土遺物の検出層位から、この建物跡1の所属時期をアイヌ文化期として捉えた。各柱穴の土層断面の記録を行った後に完掘している。

柱穴：平面形はいずれも楕円形である。ⅢKP-100～103・105・106は上幅が平地式住居跡の柱穴と比較して大きいことから、掘立柱の可能性が考えられるが、土層断面の観察からは明瞭な掘り方を確認することはできなかった。ⅢKP-103・105がやや傾く他は、ほぼ垂直である。

建物跡1



III KP-100
 1 7.5YR2/1 黒色 IIIb
 2 7.5YR3/2 黒褐色 IIIb + IV
 3 7.5YR2/1 黒色 IIIb = IV

III KP-102
 1 7.5YR2/1 黒色 IIIb
 2 7.5YR3/2 黒褐色 IIIb = IV

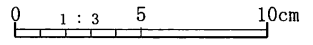
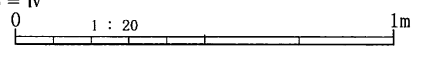
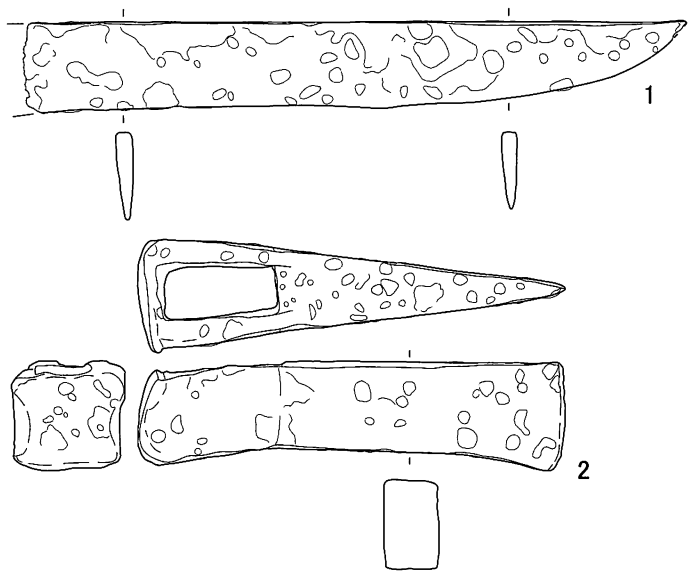
III KP-104
 1 7.5YR2/1 黒色 IIIb
 2 7.5YR2/2 黒褐色 IIIb = IV

III KP-101
 1 7.5YR2/1 黒色 IIIb
 2 7.5YR3/2 黒褐色 IIIb = IV

III KP-103
 1 7.5YR2/1 黒色 IIIb
 2 7.5YR2/2 黒褐色 IIIb = IV

III KP-105
 1 7.5YR2/1 黒色 IIIb
 2 7.5YR2/2 黒褐色 IIIb = IV

III KP-106
 1 7.5YR2/1 黒色 IIIb
 2 7.5YR3/2 黒褐色 IIIb = IV



図III-25 建物跡1及び出土遺物

遺物出土状態：東側柱穴列の際で1・2が水平に並んで出土している（図版23-2）。北側柱穴列の外側で3が出土している。ⅢKP-106の周辺では礫がややまとまって出土している。

出土遺物：1は刀の刀身部片で、平棟平造りである。2は鉄斧である。柄装着孔の幅は刃側で20mm、頭側で22mm、長軸は46mmの長台形である。頭の縁辺にはメクレが見られるが、製作、使用によるものか不明である。3は鉤状鉄製品で、鉤先は欠損している。基部の断面は方形だがカーブから先にかけて徐々に断面は隅丸方形になっている。

表Ⅲ-37 建物跡1柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-25	23-3	ⅢKP-100	18	3	50	2	掘立?	
Ⅲ-25	23-4	ⅢKP-101	14	2	51	3	掘立?	
Ⅲ-25	23-5	ⅢKP-102	16	3	46	1	掘立?	
Ⅲ-25	23-6	ⅢKP-103	13	3	55	5	掘立?	
Ⅲ-25	23-7	ⅢKP-104	12	3	46	3	掘立?	
Ⅲ-25	23-8	ⅢKP-105	14	1	61	5	掘立?	
Ⅲ-25	-	ⅢKP-106	12	2	51	2	掘立?	

表Ⅲ-38 建物跡1出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-25-1	105-2-8	-	1432	刀	-	ⅢbM	建物跡1	AI-19	(260.7)	35.6	6.5	200.0	Irn.	
Ⅲ-25-2	105-2-9	-	1433	鉄斧	-	ⅢbM	建物跡1	AI-19	168.9	42.0	44.4	906.0	Irn.	
Ⅲ-25-3	105-2-10	-	4493	鉤状鉄製品	-	ⅢbM	建物跡1	AI-19	139.1	49.0	9.5	583.0	Irn.	

建物跡2（図Ⅱ-26、図版24-1～7）

位置：V・W-23・24

規模：378×355 cm 長軸方向：N-41° W

構成：9本柱（ⅢKP-152～160）

立地：T₃面の段丘平坦面に位置する。

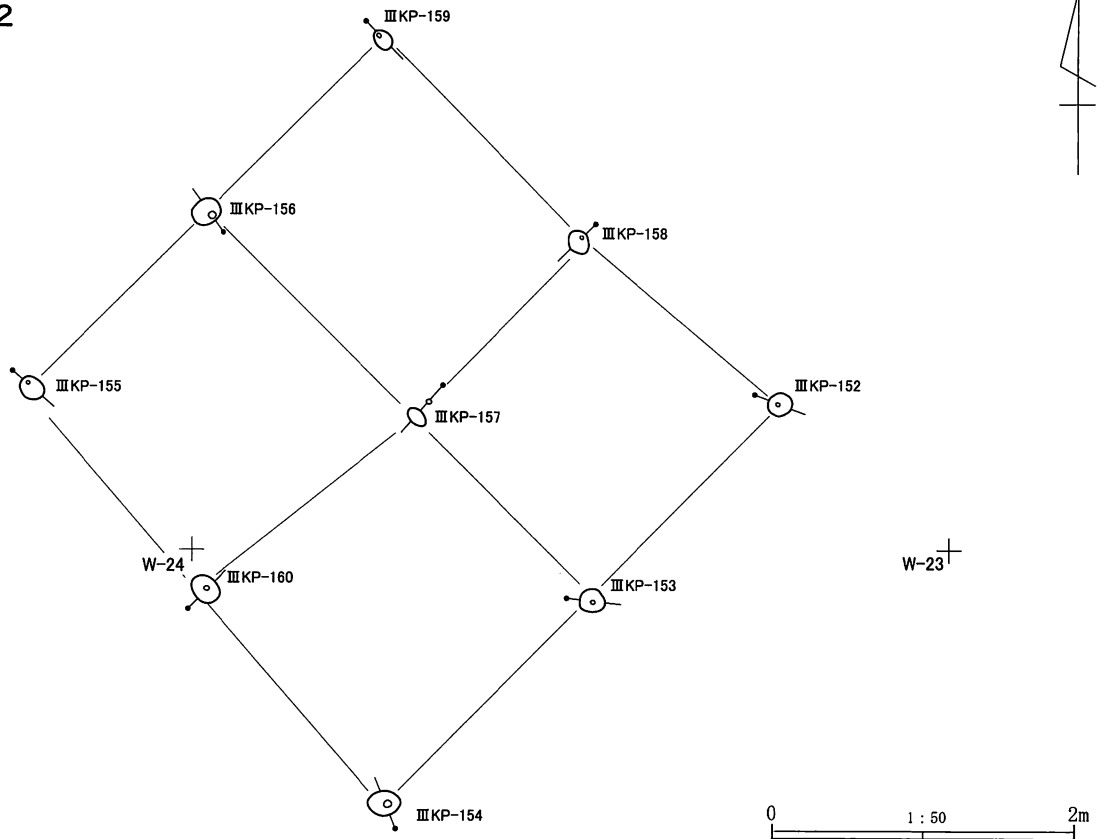
確認・調査：Ⅲc～Ⅳ層で9本の柱穴を検出し、配置等から建物跡とした。柱穴の配置は「田」字形である。所属時期は柱穴の覆土にⅢb層が堆積していることから、アイヌ文化期～擦文文化期の可能性がある。明確に時期区分を行うことが出来ず、便宜的にここで掲載している。

柱穴：平面形はいずれも楕円形である。深さはすべて50cmを超える。上幅は平地式住居跡の柱穴と比較して大きいことから、掘立柱の可能性が考えられる。土層断面の観察から明瞭な掘り方を確認することが出来るものはないが、ⅢKP-152の土層2・3、ⅢKP-158の土層2は掘り方埋土の可能性はある。他のものについては柱の腐食とともに掘り方埋土が崩落している可能性がある。

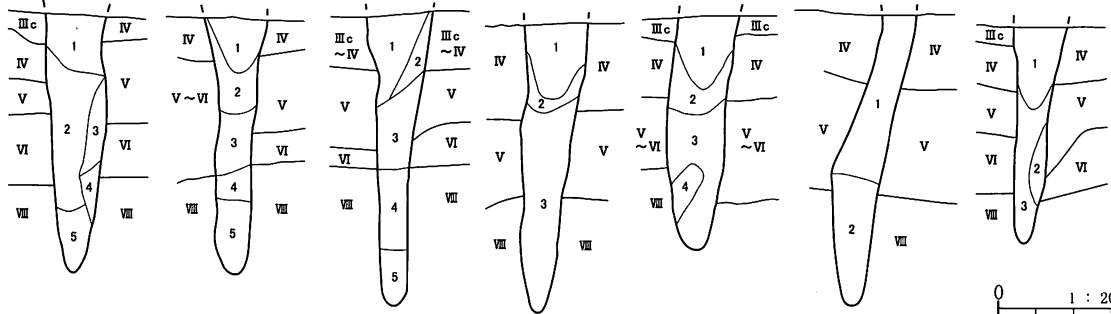
表Ⅲ-39 建物跡2柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-26	24-2	ⅢKP-152	16	2	68	1	掘立	
Ⅲ-26	24-3	ⅢKP-153	17	4	68	0	掘立	
Ⅲ-26	24-4	ⅢKP-154	17	3	77	1	掘立?	
Ⅲ-26	24-5	ⅢKP-155	17	4	77	4	掘立?	
Ⅲ-26	-	ⅢKP-156	16	5	62	3	掘立?	
Ⅲ-26	-	ⅢKP-157	9	4	78	9	掘立?	
Ⅲ-26	24-6	ⅢKP-158	14	2	57	4	掘立?	
Ⅲ-26	-	ⅢKP-159	14	4	72	4	掘立?	
Ⅲ-26	24-7	ⅢKP-160	16	3	63	1	掘立?	

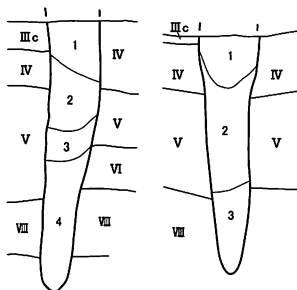
建物跡2



III KP-152 71.90m III KP-153 71.90m III KP-154 71.90m III KP-155 71.90m III KP-156 71.90m III KP-157 71.90m III KP-158 71.90m



III KP-159 71.90m III KP-160 71.90m



III KP-152

- 1 10YR2/1 黒色 IIIb = VI (均一) しまり弱
- 2 10YR2/2 黒褐色 IIIb - VI (均一) しまりなし
- 3 10YR2/1 黒色 IIIb = VI ≡ V (均一) しまりなし
- 4 10YR5/8 黄褐色 VII ≡ IIIb (均一) しまり弱
- 5 10YR3/4 暗褐色 IIIb - IV + VI (均一) しまりなし

III KP-154

- 1 10YR2/1 黒色 IIIb - IV (均一)
- 2 10YR2/2 黒褐色 IIIb - V ≡ VI (均一)
- 3 10YR2/2 黒褐色 IIIb - V ≡ VI (均一)
- 4 10YR3/1 黒褐色 IIIb = IV (均一) しまり弱
- 5 10YR1.7/1 黒色 IIIb ≡ IV (均一) しまり強

III KP-157

- 1 10YR2/3 黒褐色 IIIb = IV (均一) しまり強
- 2 10YR2/1 黒色 IIIb = IV ≡ V (均一) しまりなし

III KP-159

- 1 10YR2/1 黒色 IIIb - IV (均一) しまり強
- 2 10YR3/3 暗褐色 IIIb + IV しまり強
- 3 10YR2/1 黒色 IIIc = IV しまりなし
- 4 10YR3/2 黒褐色 IIIb - Vb (均一) しまり弱

III KP-153

- 1 10YR2/1 黒色 IIIb - IV (均一) しまり強
- 2 10YR2/2 黒褐色 IIIb = Vb ≡ VI (均一) しまり強
- 3 10YR2/2 黒褐色 IIIb = Vb ≡ VI (均一) しまりなし
- 4 10YR2/1 黒色 IIIb ≡ IV (均一) しまりなし
- 5 10YR2/3 黒褐色 IIIb + Vb ≡ VIIブロック (均一) しまり弱

III KP-155

- 1 10YR2/1 黒色 IIIb - IV (均一)
- 2 10YR2/2 黒褐色 IIIb - V ≡ VI (均一)
- 3 10YR2/3 黒褐色 IIIb - IV ≡ V (均一)

III KP-158

- 1 10YR2/1 黒色 IIIb - IV (均一) しまり強
- 2 10YR2/1 黒色 IIIc = IV しまりなし
- 3 10YR2/1 黒色 IIIc = IV しまり弱

III KP-160

- 1 10YR1.7/1 黒色 IIIb ≡ IV (均一) しまり弱
- 2 10YR2/1 黒色 IIIb = IV (均一) しまりなし
- 3 10YR2/2 黒褐色 IIIb ≡ IV・VI (均一) しまりなし

図III-26 建物跡2

建物跡3 (図Ⅱ-27 図版24-8~10)

位置: X・Y-24

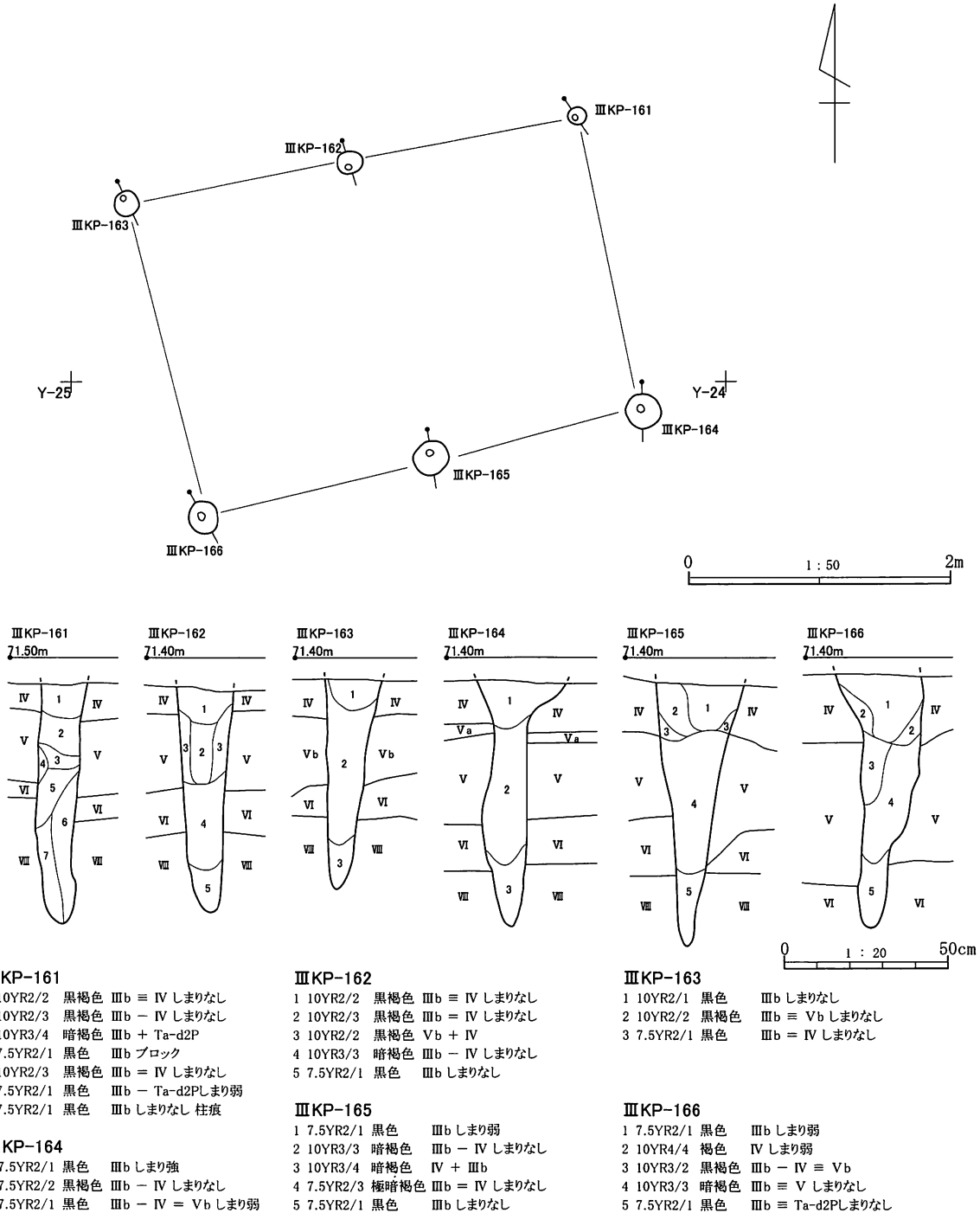
規模: 370×258 cm 長軸方向: N-77° E

構成: 6本柱 (ⅢKP-161~166)

立地: T₃面の段丘平坦面に位置する。

確認・調査: IV層上面で6本の柱穴を検出し、配置は長方形であり建物跡とした。所属時期は柱穴

建物跡3



図Ⅲ-27 建物跡3

の覆土にⅢb層が堆積していることから、アイヌ文化期～擦文文化期の可能性があるが、明確に時期区分を行うことが出来ず、便宜的にここで掲載している。

柱 穴：平面形は円形～楕円形である。深さはすべて60cmを超える。上幅は平地式住居跡の柱穴と比較して大きく、土層断面で掘り方が確認できるもの（ⅢKP-161・162）があることから、掘立柱と考えられる。ⅢKP-161の土層5・7はしまりが全くなく、柱痕と考えられる。これと接する土層6の掘り方埋土はTa-d2パミスが含まれる。ⅢKP-162の土層2はしまりがなく、土層3はV層主体土でしまりがあることから掘り方埋土と考えられる。その他のものは柱の腐食とともに掘り方埋土が崩落したため、掘り方が不明瞭であると考えられる。

表Ⅲ-40 建物跡3柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-27	24-9	ⅢKP-161	14	4	73	0	掘立	
Ⅲ-27	24-10	ⅢKP-162	18	4	68	2	掘立	
Ⅲ-27	-	ⅢKP-163	18	3	65	5	掘立	
Ⅲ-27	-	ⅢKP-164	27	3	75	2	掘立	
Ⅲ-27	-	ⅢKP-165	27	2	80	3	掘立	
Ⅲ-27	-	ⅢKP-166	27	3	78	5	掘立	

建物跡4（図Ⅱ-28 図版24-11～13）

位 置：R-25

規 模：295×280 cm 長軸方向：N-41° W

構 成：9本柱？（ⅢKP-182～189）

立 地：T₃面の段丘平坦面に位置する。この下位のV層では縄文時代の竪穴住居跡が出土しており、この範囲は竪穴内部とその掘り上げ土が堆積していた範囲である。Ⅲ層上面においても、この影響でやや起伏のある場所である。

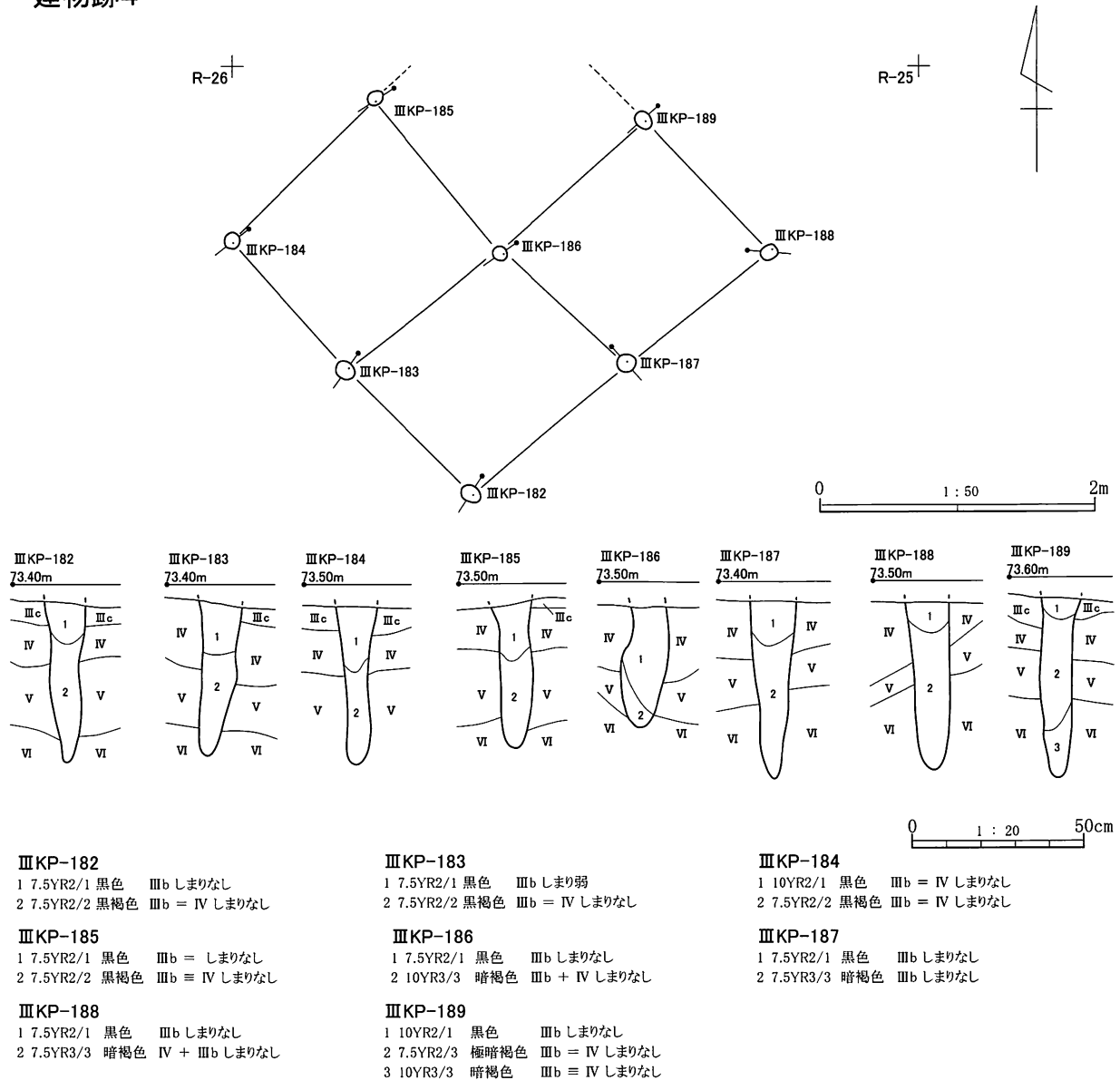
確認・調査：Ⅲc～Ⅳ層で8本の柱穴を検出した。8本の配置から「田」の字形の建物跡と考えられるが、北側コーナーは風倒木痕により壊されており確認することが出来なかった。所属時期は柱穴の覆土にⅢb層が堆積していることから、アイヌ文化期～擦文文化期の可能性があり、明確に時期区分を行うことが出来ず、便宜的にここで掲載している。

柱 穴：平面形はいずれも楕円形である。上幅は平地式住居跡の柱穴と比較してやや大きいことから、掘立柱の可能性が考えられるが、土層断面で明瞭な掘り方を確認することが出来たものはない。

表Ⅲ-41 建物跡4柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-28	-	ⅢKP-182	12	2	47	0	掘立？	
Ⅲ-28	-	ⅢKP-183	13	3	45	6	掘立？	
Ⅲ-28	-	ⅢKP-184	12	3	46	0	掘立？	
Ⅲ-28	-	ⅢKP-185	12	4	42	1	掘立？	
Ⅲ-28	24-12	ⅢKP-186	10	4	35	5	掘立？	
Ⅲ-28	-	ⅢKP-187	13	2	52	0	掘立？	
Ⅲ-28	24-13	ⅢKP-188	13	4	49	3	掘立？	
Ⅲ-28	-	ⅢKP-189	12	3	52	3	掘立？	

建物跡4



図Ⅲ-28 建物跡4

第3節 集中区

遺物が特に集中する範囲や焼土を中心に集中遺物が出土し、それに伴うと判断できる状態で確認できた場合、その範囲を「集中区」として捉え周辺の遺物を含めここで記載する。アイヌ文化期に属する集中区は4カ所ある。遺物等の主体はいずれもⅢb層中位で出土しており、古いアイヌ文化期に属すると思われる。

集中区1 (図Ⅲ-29・30 図版 25-1・2)

位置：Q・R・S-20・21

規模：831×603 cm 長軸方向：N-36° E

立地：T₃面の段丘縁片からT₃-T₁段丘崖の上位に位置する。

集中区1

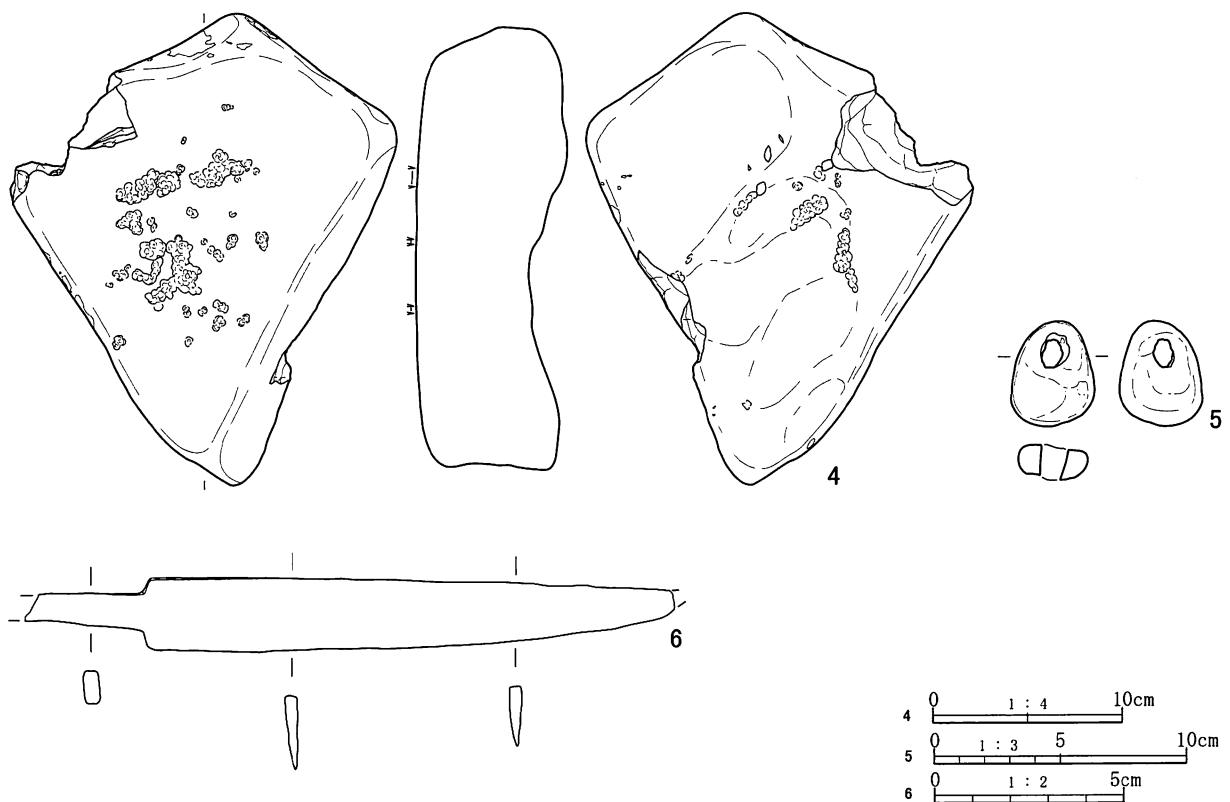


図Ⅲ-29 集中区1平面図及び出土遺物(1)

確認・調査：Q・R・S-20・21 区のⅢb層を調査中に多数の礫と共に礫石器や鉄器が出土した。立地から作業場等ではなく、道具等の廃棄場と想定し、この範囲の写真撮影を行った。この段階で周囲の精査に努めたが、灰・焼土粒・焼骨片等は検出していない。微細図の作成は行っておらず、トータルステーションで位置を記録しながら遺物を取り上げている。

出土遺物(図Ⅲ-29・30)：1・2はたたき石で、共に破損している。3・4は台石で3は一面、4は二面に敲打痕をもつものである。5は人為的な加工は見られないが、孔のあいた礫を意図的に持ち込んだ可能性を考え自然有孔礫として掲載する。6は刀子で、平棟平造りの両区である。

時期：出土遺物の層位より中世段階のアイヌ文化期と考えられる。



図Ⅲ-30 集中区1出土遺物(2)

表Ⅲ-42 集中区1出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-29-1	106-1-1	-	16390	たたき石	I B3	ⅢbU	-	R-21	(87.0)	49.0	52.0	235.0	Sa.	
Ⅲ-29-2	106-1-2	-	16725	たたき石	IV	ⅢbM	-	R-20	(67.5)	(81.0)	40.2	300.5	Sa.	
Ⅲ-29-3	106-1-3	-	16451	台石	-	ⅢbU	-	R-21	190.0	180.6	50.3	3100.0	Sa.	
Ⅲ-30-4	106-1-4	-	16377	台石	-	ⅢbU	-	R-21	248.0	200.1	78.0	4020.0	Sa.	
Ⅲ-30-5	106-1-5	-	16737	自然有孔礫	-	ⅢbM	-	Q-20	40.1	30.3	10.4	23.0	Sa.	
Ⅲ-30-6	106-1-6	-	16347	刀子	-	ⅢbU	-	Q-21	172.0	20.0	40.0	34.69	Iron.	

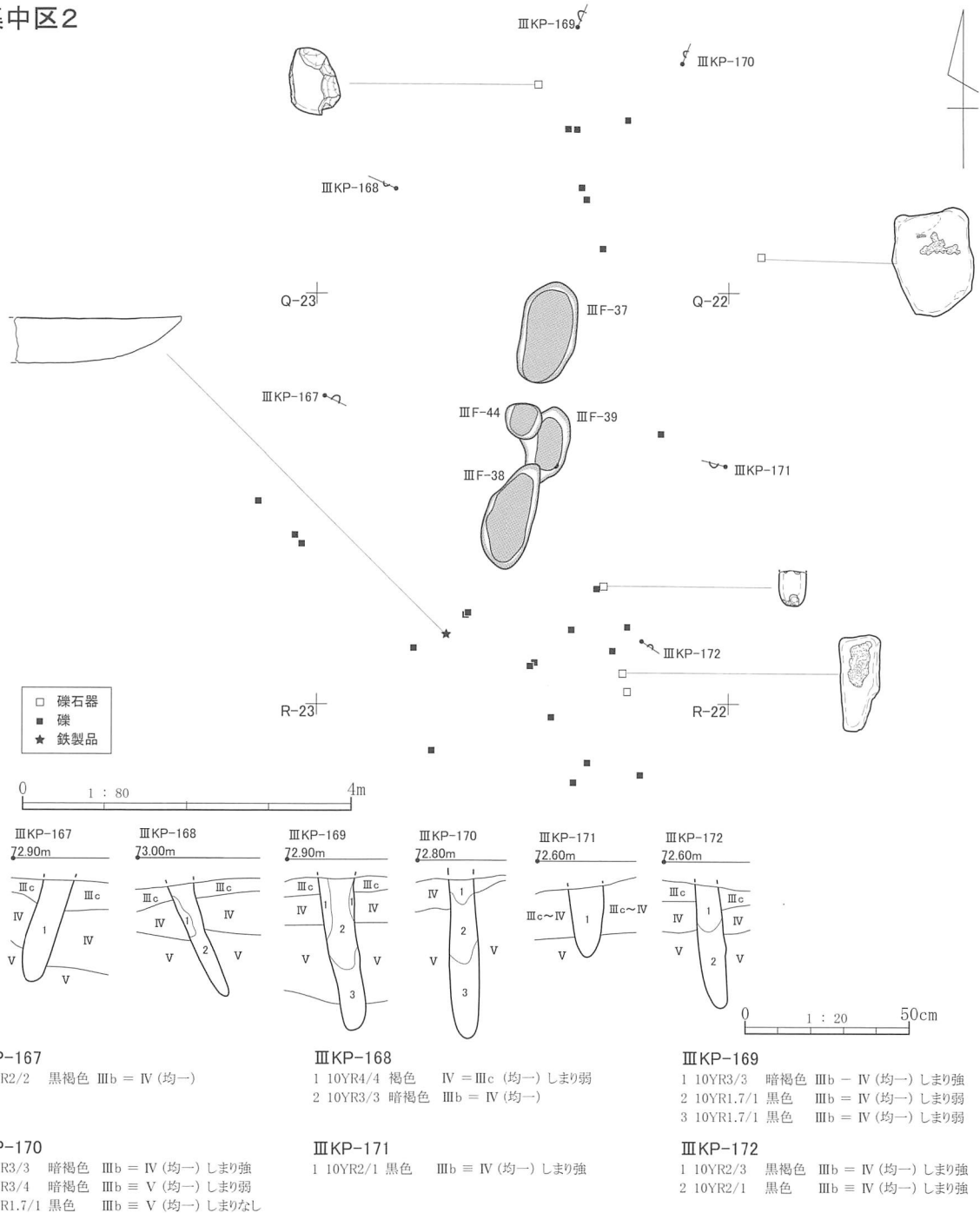
集中区2 (図Ⅲ-31~33 図版 25-3~10)

位置：P~R-20・21

規模：1,080×600 cm 長軸方向：N-12° E

立地：T₃面の段丘平坦面に位置する。

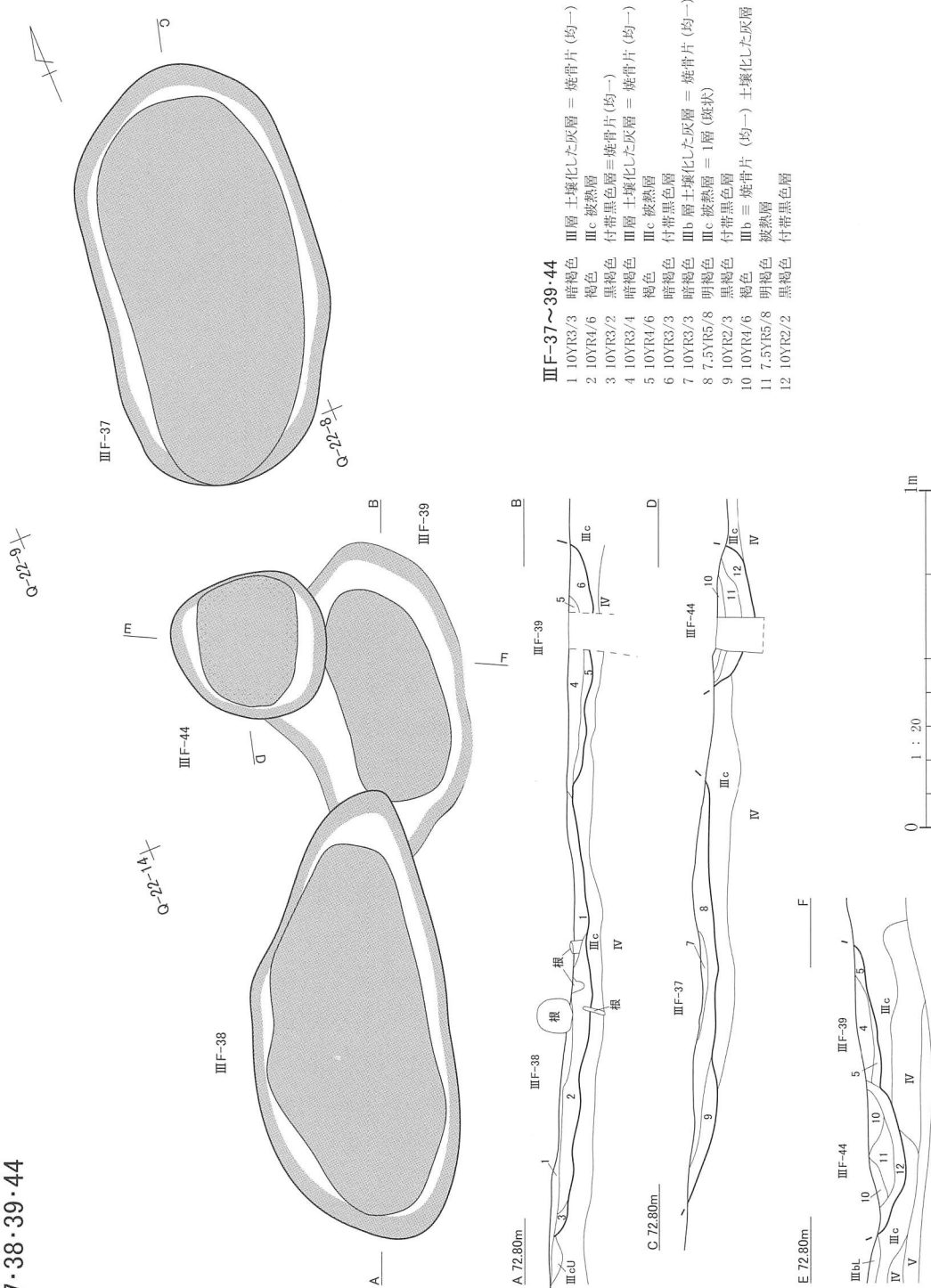
集中区2



図Ⅲ-31 集中区2平面図

確認・調査：Q・R-20・21 区でIIIb層中位の遺物を取り上げた後に精査を行ったところ、長軸方向をほぼ同じくする焼土を4カ所検出した。平面形から、その内の3カ所が(III F-38・39・44)重複していることを確認した。土層断面で切りあい関係が分かる位置にトレンチを設けて半截したところ、III F-39をIII F-38・44が切っている事を確認した。この新旧関係と焼土の位置関係から2カ所1組の焼土が新旧2期あると想定した。長軸方向を同じくする2カ所1組の焼土は、これまでの町内の成果から平地式住居跡の炉跡である可能性があったため、周辺をIIIc～IV層まで数回に分けて精査を行い柱穴の検出に努めた。その結果、周囲で6本の柱穴を確認したが、本数が少ないことと、その配

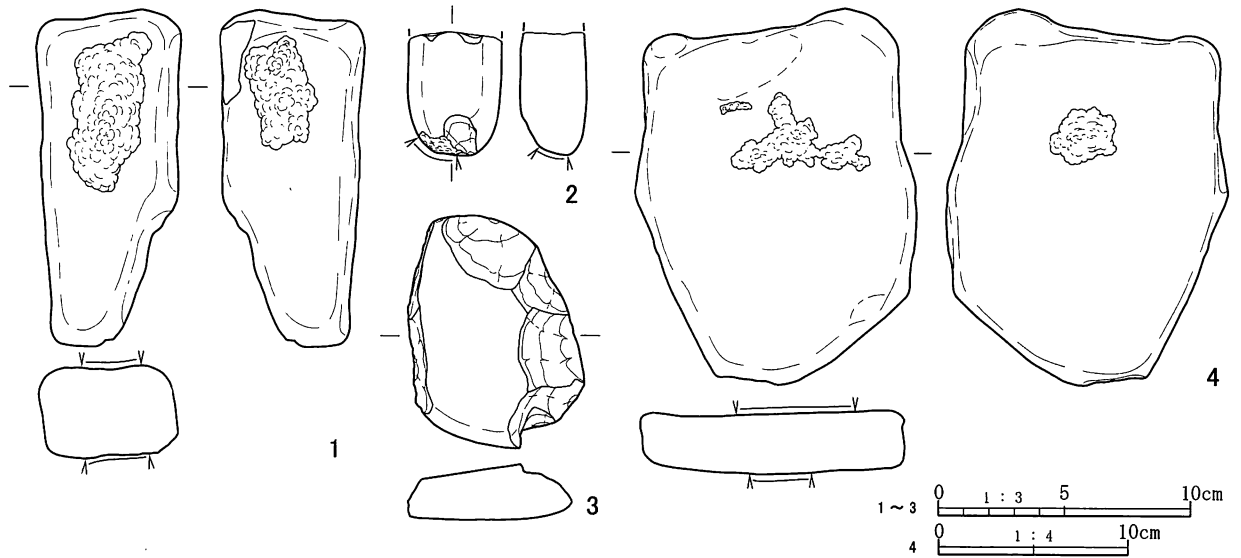
ⅢF-37・38・39・44



図Ⅲ-32 集中区2関連遺構

置から平地式住居跡の主体部を想定することができなかつたため集中区として掲載している。但し、柱穴を面的に確認することが困難なため、見逃している可能性もあり、平地式住居跡の可能性も十分に考えられる。

焼土(図Ⅲ-32)：焼土はⅢF-37~39・44の4カ所を検出しており、2カ所1組で新旧があると考えられる。切りあい関係と配置よりⅢF-37・39が古く、ⅢF-38・44が新しい。平面形はⅢF-44がほ



図Ⅲ-33 集中区2出土遺物

ぼ円形であるが、そのほかは細長い楕円形である。いずれも燃焼面の上には焼骨片を含む土壌化したと思われる黒色の灰層に覆われている。各焼土のフローテーションを行った結果、マタタビ属、キハダ属、サクラ属、クルミ属の炭化種子とサケ属、コイ科、哺乳綱の骨が得られている。また、ⅢF-38 で出土したクルミの AMS 年代測定を委託しており、暦年較正年代 (2σ) で 11 世紀前半から 12 世紀中頃の年代が得られている。現場では焼土の検出層位と焼土を覆う黒色土の厚さから時期を判断しているが、この焼土 4 ヲ所については擦文文化期か中世段階のアイヌ文化期にするかで判断を迷ったものの、周辺で擦文土器が出土しないことを考慮し、中世段階のアイヌ文化期と判断したものであった。AMS 年代測定の結果は想定していた年代よりもやや古く、擦文文化期まで遡る可能性もあるが、現場段階の判断を優先しここで掲載している。今後、別の試料で年代測定を再度行う等の検証が必要と考えている。

柱 穴 (図Ⅲ-31) : すべて打ち込み式である。深さは 20~50 cm である。先述したように確認したものだけでは、平地式住居跡と考えた場合、主体部を想定することが困難である。但し、ⅢKP-167 ~169 が「外踏ん張り」になること等、平地式住居跡の柱穴と似た出土状況のものも確認できる。

出土遺物 (図Ⅲ-33) : 1・2 はたたき石である。3 は加工痕のある礫で礫の側縁に連続した打ち欠きが見られるものである。4 は台石である。

表Ⅲ-43 集中区2付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-32	25-4	ⅢF-37	P・Q-22	ⅢbM	楕円形	125	67	7	焼骨片	
Ⅲ-32	25-5	ⅢF-38	Q-22	ⅢbM	楕円形	133	58	7	焼骨片	
Ⅲ-32	25-5・6	ⅢF-39	Q-22	ⅢbM	楕円形?	(95)	(58)	7	焼骨片	
Ⅲ-32	25-4・6	ⅢF-44	Q-22	ⅢbM	円形?	46	44	11	焼骨片	

表Ⅲ-44 集中区2柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-31	25-7	ⅢKP-167	9	2	30	16	打ち込み?	
Ⅲ-31	25-8	ⅢKP-168	9	1	36	24	打ち込み?	
Ⅲ-31	-	ⅢKP-169	10	3	46	7	打ち込み?	
Ⅲ-31	-	ⅢKP-170	8	2	49	1	打ち込み?	
Ⅲ-31	25-9	ⅢKP-171	10	2	21	1	打ち込み?	
Ⅲ-31	25-10	ⅢKP-172	6	2	37	6	打ち込み?	

表Ⅲ-45 集中区2出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-33-1	106-2-7	-	18115	たたき石	I A1	ⅢbL	-	Q-22	130.2	50.8	30.6	420.0	Sa.	
Ⅲ-33-2	106-2-8	-	16325	たたき石	I B2	ⅢbU	-	Q-22	(40.9)	30.7	20.6	75.0	Sa.	
Ⅲ-33-3	106-2-9	-	15357	加工痕のある礫	-	ⅢbU	-	P-22	90.6	(60.7)	20.1	150.5	Sa.	
Ⅲ-33-4	106-2-10	-	15361	台石	-	ⅢbL	-	P-21	190.8	140.9	30.2	1590.0	Sa.	

集中区3 (図Ⅲ-34~37 図版 26)

位置：W~Y-20~23

規模：1,306×1,194 cm 長軸方向：N-51° E

立地：T₃面の段丘平坦面に位置する。

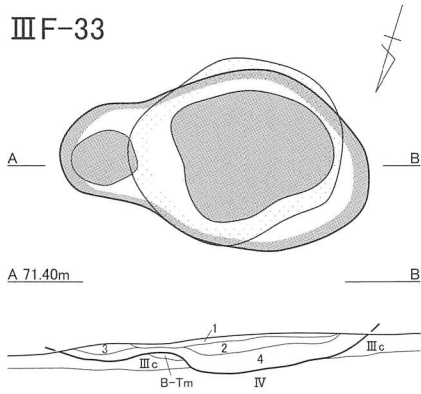
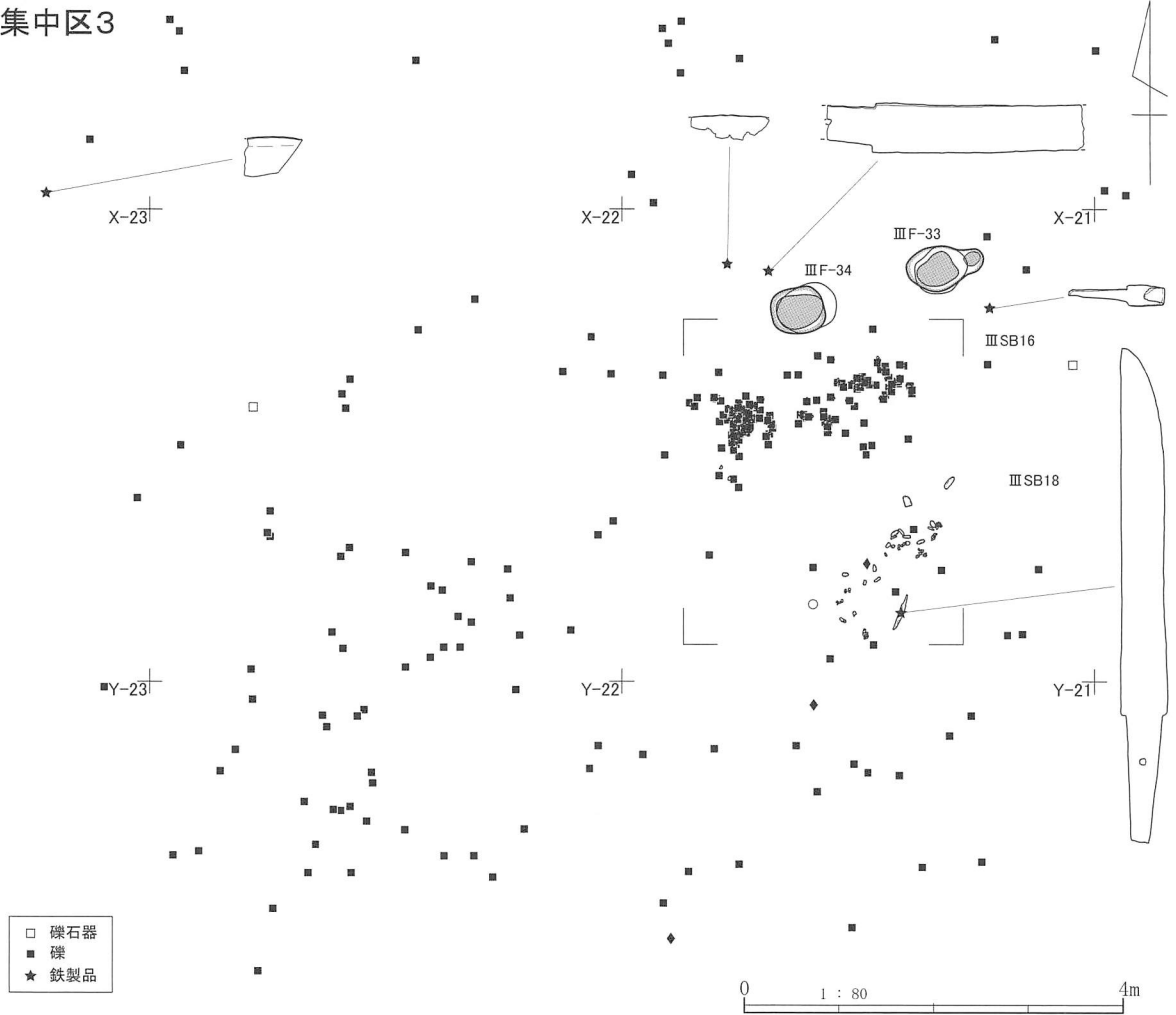
確認・調査：X-21区Ⅲb層中位の調査中に刀を検出した。また、その周囲から礫のまとまりを2ヵ所検出したため、それぞれ礫集中と捉えⅢSB-16・18を付番した。この礫の全面を検出して、周囲をその面まで下げた段階で、焼骨片を含み周囲より色調がやや明るい黒色土の範囲を2ヵ所確認した。この範囲の下に焼土の存在を想定し、長軸にベルトを設定した。これを残して焼土が明瞭に確認できるところまで全体的に調査を進めたところ、2ヵ所で焼土を検出した。このベルトに沿ってトレンチ調査を進め、各種記録を行った。焼土の長軸方向がほぼ同じであり、平地式住居跡の可能性を考慮して集中遺物を残し、周囲を段階的に下げ精査を繰り返したが柱穴は確認できなかった。また、礫集中全面を検出した段階で、この間より擦文土器の集中ⅢPB-04の一部を検出している。土器集中の基底面は礫集中より3cm程レベルが低く、礫集中がアイヌ文化期に位置付けられることが明確に分かる。焼土を中心に礫集中や鉄器が出土しており、作業場と考えられる。

焼土(図Ⅲ-34)：ⅢF-33・34の2ヵ所を検出している。いずれも燃焼面の上に焼骨片を含む土壌化した灰層に覆われている。また、ⅢF-34は灰層も僅かに確認できる。被熱層の厚さは共に4cm程と薄い。各焼土のフローテーションを行った結果、シソ属、ブドウ科、キハダ属、サクラ属、クルミ属等の炭化種子とサケ科、哺乳綱の焼骨片が得られている。また、ⅢF-33で出土したクルミのAMS年代測定を委託しており、暦年較正年代(2σ)で13世紀後半から14世紀後半の年代が得られている。現場では中世段階のアイヌ文化期と考えており、矛盾しない結果となっている。

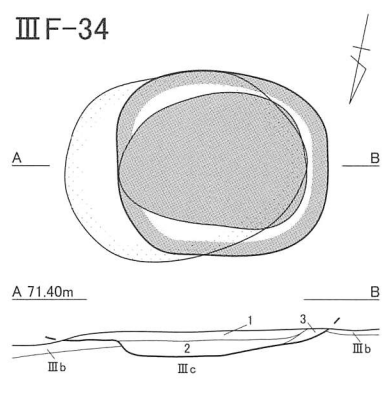
礫集中(図Ⅲ-35)：ⅢSB-16は西側に特に密集した範囲があり、東側ではやや散逸している。共に棒状礫で構成されていることから、一つの礫集中として扱っている。128点が出土しており、完形・略完形のは88点である。ⅢSB-18はやや散逸して41点が出土している。完形・略完形のは15点で破損率はやや高く、棒状礫で構成されている。長軸の平均を比較すると、ⅢSB-16とⅢSB-18では明らかに異なる。

出土遺物(図Ⅲ-36・37)：1・2は鉄鍋の口縁部片である。1の口唇は内側に張り出す。3は刀子で刃身を折り曲げて二次加工が施されている。4・5は平棟平造の刀で、両区である。中茎は共に刃側に向かって薄くなる台形で目釘穴がそれぞれ1ヵ所確認できる。5は刀身基部から中ほどにかけて刃縁が緩やかに内湾しており、研ぎ直しが繰り返された結果と思われる。6~23はⅢSB-16の構成礫である。完形88点の測定値の平均は長軸60.6mm、短軸29.5mm、厚さ16.9mmで棒状を呈するものが主である。24~30はⅢSB-18の構成礫である。完形15点の測定値の平均は長軸75.4mm、短軸32.1mm、厚さ19.3mmで、ⅢSB-16と同じく棒状を呈するものが主である。

集中区3



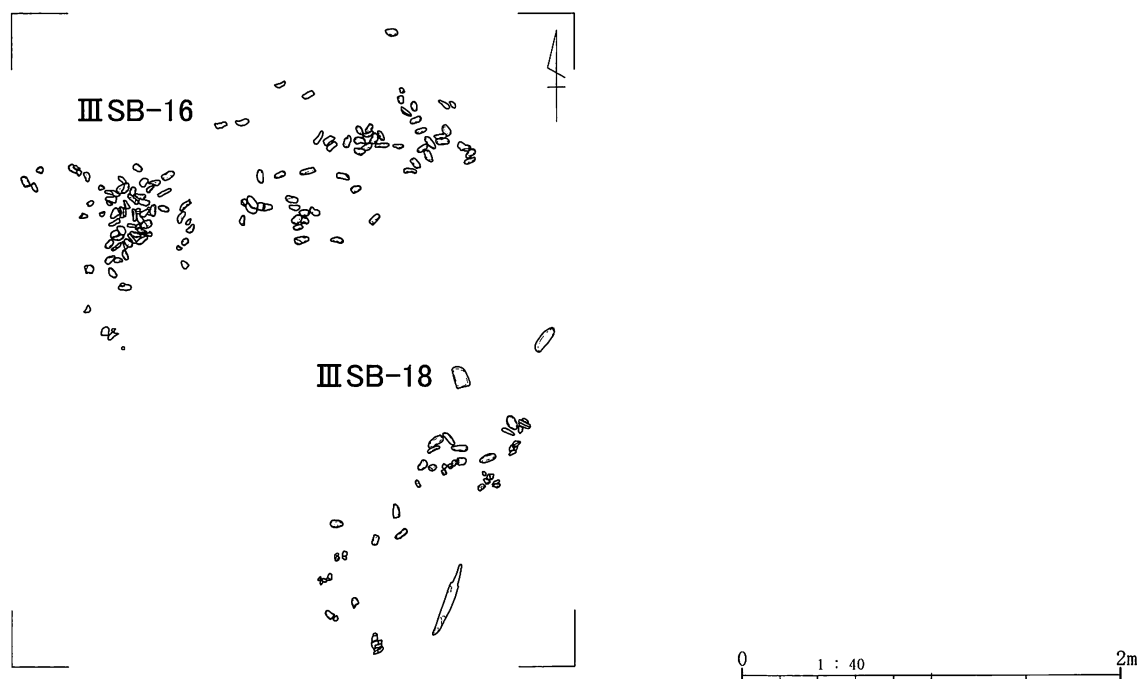
- III F-33**
- 1 10YR3/2 黒褐色 IIIb = 焼骨片 (均一)
 - 2 7.5YR4/6 褐色 IIIc被熱層
 - 3 10YR4/6 褐色 IIIc被熱層(弱い)
 - 4 10YR2/2 黒褐色 付帯黒色層



- III F-34**
- 1 10YR2/3 黒褐色 IIIb = 焼骨片 (均一) ≡ 灰 (ごく一部)
 - 2 10YR5/8 黄褐色 IIIc被熱層
 - 3 10YR2/2 黒褐色 付帯黒色層



図III-34 集中区3平面図及び関連遺構(1)



図Ⅲ-35 集中区3関連遺構 (2)

表Ⅲ-46 集中区3付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-34	26-2・3	ⅢF-33	X-21	ⅢbM	楕円形	82	50	10	焼骨片	
Ⅲ-34	26-4・5	ⅢF-34	X-21	ⅢbM	楕円形	70	48	7	灰・焼骨片	

表Ⅲ-47 集中区3出土遺物属性表

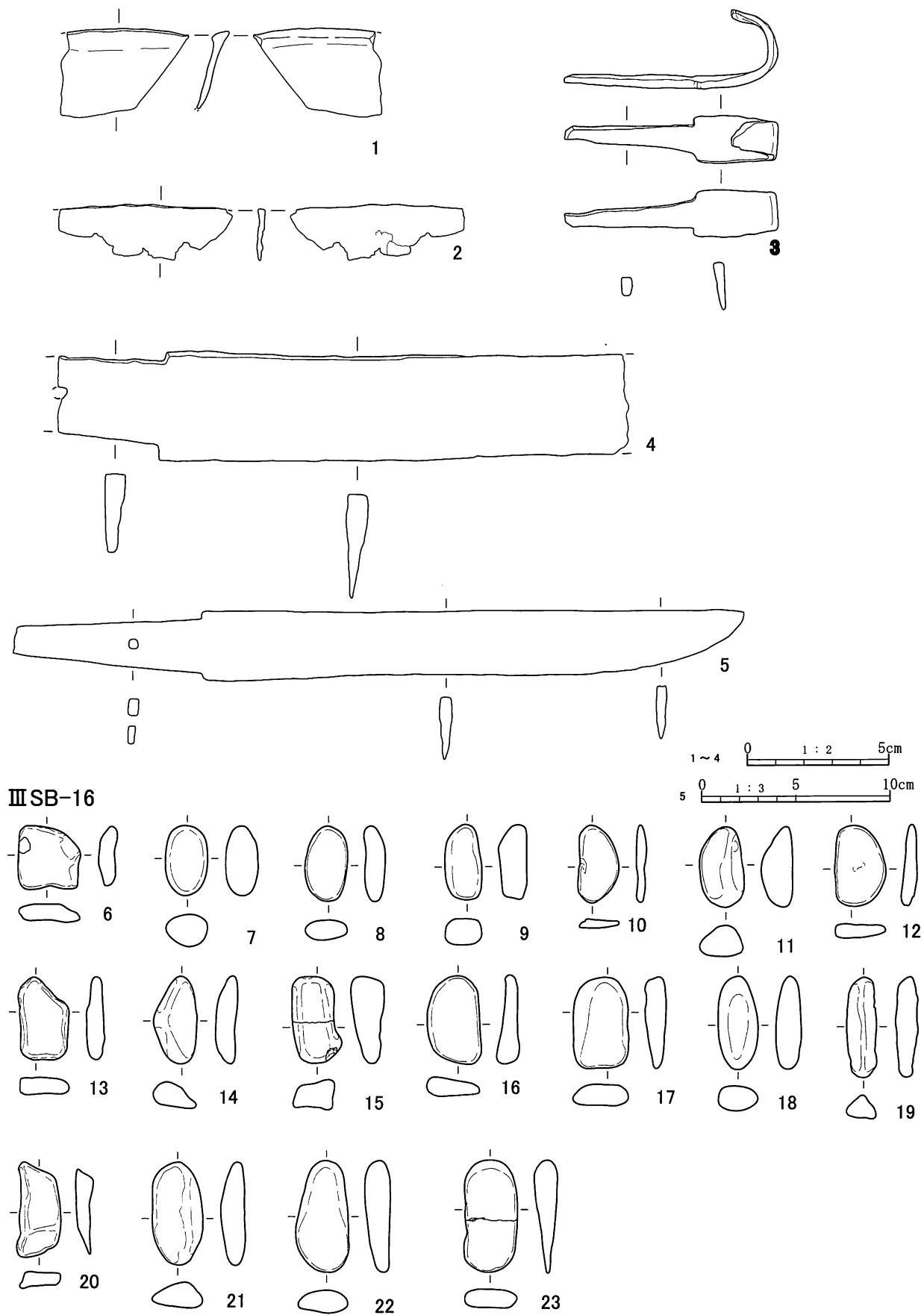
挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-36-1	107-1-1	-	15250	鉄鍋片	-	ⅢbU	-	W-23	(4.4)	(3.2)	0.6	18.9	Irn.	
Ⅲ-36-2	107-1-2	-	16602	鉄鍋片	-	ⅢbM	-	X-21	(6.3)	(1.9)	0.5	6.5	Irn.	
Ⅲ-36-3	107-1-3	-	16601	刀子	-	ⅢbM	-	X-21	7.6	1.7	0.6	14.6	Irn.	
Ⅲ-36-4	107-1-4	-	16629	刀	-	ⅢbM	-	X-21	(20.3)	4.2	1.3	205.0	Irn.	
Ⅲ-36-5	107-1-5	-	17052	刀	-	ⅢbM	ⅢSB-18	X-21	39.3	3.9	0.8	330.0	Irn.	

表Ⅲ-48 ⅢSB-16属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	-	-	17982	ⅢbM	完形	18.7	-41.9	15.6	-13.9	11.5	-5.4	1.2	-0.9	5.0	-	Sa.	
Ⅲ-36-6	-	-	17986	ⅢbM	完形	44.1	-16.5	43.2	13.7	13.5	-3.4	1.0	-1.1	32.8	-	Mud.	
-	-	-	18995	ⅢbM	完形	46.9	-13.7	31.9	2.4	18.2	1.3	1.5	-0.6	40.3	-	Mud.	
-	-	-	18989	ⅢbM	完形	47.6	-13.0	27.3	-2.2	21.1	4.2	1.7	-0.4	42.4	-	Mud.	
Ⅲ-36-7	-	-	18955	ⅢbM	完形	48.5	-12.1	29.1	-0.4	23.4	6.5	1.7	-0.4	40.3	-	Mud.	
-	-	-	17990	ⅢbM	完形	48.8	-11.8	31.5	2.0	15.6	-1.3	1.5	-0.6	30.0	-	Sa.	
-	-	ⅢS-317	-	ⅢbM	略完形	49.6	-11.0	28.0	-1.5	19.2	2.3	1.8	-0.3	31.0	-	Sa.	
-	107-2	-	17961	ⅢbM	完形	50.2	-10.4	32.0	2.5	10.1	-6.8	1.6	-0.5	22.0	-	Sa.	
-	-	-	17988	ⅢbM	完形	51.0	-9.6	26.4	-3.1	22.1	5.2	1.9	-0.2	39.0	-	Mud.	
-	-	-	17958	ⅢbM	完形	51.8	-8.8	28.0	-1.5	19.8	2.9	1.9	-0.3	33.4	-	Sa.	
Ⅲ-36-8	-	-	18994	ⅢbM	完形	52.1	-8.5	29.1	-0.4	13.5	-3.4	1.8	-0.3	29.2	-	Sa.	
-	-	-	17971	ⅢbM	完形	52.2	-8.4	23.7	-5.8	12.4	-4.5	2.2	0.1	23.9	-	Sa.	
-	-	-	18938	ⅢbM	略完形	52.3	-8.3	24.1	-5.4	20.0	3.1	2.2	0.1	34.9	-	Sa.	
Ⅲ-36-9	-	-	19007	ⅢbM	完形	52.5	-8.1	24.3	-5.2	18.4	1.5	2.2	0.1	38.9	-	Sa.	
-	-	-	18962	ⅢbM	完形	52.6	-8.0	34.4	4.9	10.2	-6.7	1.5	-0.6	25.5	-	Sa.	

表Ⅲ-48 ⅢSB-16属性表(続き)

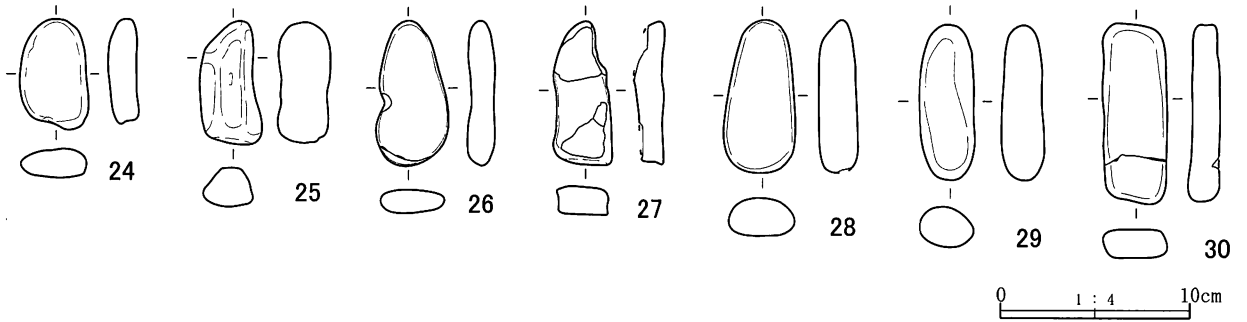
挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	17979	ⅢbM	完形	52.8	-7.8	28.8	-0.7	16.8	-0.1	1.8	-0.3	29.7	-	Sa.	
-	-	-	17964	ⅢbM	完形	53.1	-7.5	20.3	-9.2	13.2	-3.7	2.6	0.5	17.2	-	Mud.	
-	-	-	17981	ⅢbM	略完形	54.1	-6.5	27.6	-1.9	16.2	-0.7	2.0	-0.1	29.0	-	Sa.	
Ⅲ-36-10	-	-	18988	ⅢbM	完形	54.2	-6.4	27.4	-2.1	8.2	-8.7	2.0	-0.1	14.6	-	Mud.	
-	-	-	17959	ⅢbM	完形	54.5	-6.1	28.5	-1.0	10.3	-6.6	1.9	-0.2	19.2	-	Mud.	
-	-	-	18945	ⅢbM	完形	54.8	-5.8	31.9	2.4	25.9	9.0	1.7	-0.4	57.3	-	Sa.	
-	-	-	17975	ⅢbM	完形	55.1	-5.5	29.5	0.0	17.4	0.5	1.9	-0.2	38.2	-	Sa.	
-	-	-	17980	ⅢbM	完形	55.3	-5.3	30.6	1.1	15.3	-1.6	1.8	-0.3	33.3	-	Mud.	
Ⅲ-36-11	-	-	18971	ⅢbM	完形	55.8	-4.8	30.3	0.8	21.8	4.9	1.8	-0.3	43.7	-	Sa.	
-	-	-	18947	ⅢbM	完形	56.0	-4.6	21.1	-8.4	15.9	-1.0	2.7	0.6	25.3	○	Mud.	
-	-	-	18967	ⅢbM	完形	56.1	-4.5	35.9	6.4	21.7	4.8	1.6	-0.5	50.9	-	Sa.	
Ⅲ-36-12	-	-	18996	ⅢbM	完形	56.1	-4.5	35.5	6.0	12.0	-4.9	1.6	-0.5	29.9	-	Sa.	
-	-	-	17991	ⅢbM	完形	56.1	-4.5	35.6	6.1	13.3	-3.6	1.6	-0.5	33.7	-	Sa.	
-	-	-	17957	ⅢbM	略完形	56.9	-3.7	34.0	4.5	11.9	-5.0	1.7	-0.4	27.4	-	Sa.	
-	-	ⅢS-316	18990	ⅢbM	略完形	57.4	-3.2	29.0	-0.5	10.1	-6.8	2.0	-0.1	21.2	-	Sa.	
-	-	-	17995	ⅢbM	略完形	57.4	-3.2	16.5	-13.0	15.3	-1.6	3.5	1.4	20.5	-	Sa.	
-	-	-	17960	ⅢbM	完形	57.5	-3.1	29.1	-0.4	23.8	6.9	2.0	-0.1	40.7	-	Mud.	
-	-	-	19002	ⅢbM	完形	57.7	-2.9	31.0	1.5	12.8	-4.1	1.9	-0.2	34.1	-	Sa.	
-	-	-	18970	ⅢbM	略完形	57.7	-2.9	36.1	6.6	17.2	0.3	1.6	-0.5	42.5	-	Sa.	
-	-	-	18972	ⅢbM	完形	58.1	-2.5	30.1	0.6	16.2	-0.7	1.9	-0.2	46.5	-	Sa.	
Ⅲ-36-13	-	-	18954	ⅢbM	完形	58.3	-2.3	35.4	5.9	12.9	-4.0	1.6	-0.5	38.5	-	Sa.	
-	-	-	17963	ⅢbM	完形	58.6	-2.0	26.0	-3.5	10.3	-6.6	2.3	0.2	22.8	-	Sa.	
-	-	-	18974	ⅢbM	略完形	58.9	-1.7	29.5	0.0	15.3	-1.6	2.0	-0.1	32.7	-	Sa.	
-	-	-	18937	ⅢbM	完形	60.0	-0.6	27.8	-1.7	16.0	-0.9	2.2	0.1	34.7	-	Sa.	
-	-	-	18984	ⅢbM	完形	60.3	-0.3	29.0	-0.5	12.8	-4.1	2.1	0.0	24.0	-	Mud.	
-	-	-	18944	ⅢbM	略完形	60.3	-0.3	30.4	0.9	18.0	1.1	2.0	-0.1	44.2	-	Sa.	
-	-	-	18968	ⅢbM	略完形	60.6	0.0	35.8	6.3	14.7	-2.2	1.7	-0.4	40.1	-	Sa.	
-	-	-	18939	ⅢbM	完形	60.6	0.0	35.4	5.9	15.6	-1.3	1.7	-0.4	43.4	-	Sa.	
Ⅲ-36-14	-	-	17972	ⅢbM	完形	60.7	0.1	29.0	-0.5	19.6	2.7	2.1	0.0	39.1	-	Mud.	
-	-	-	18957	ⅢbM	完形	60.8	0.2	33.1	3.6	12.8	-4.1	1.8	-0.3	32.0	-	Sa.	
Ⅲ-36-15	-	-	19000	ⅢbM	略完形	61.0	0.4	31.6	2.1	22.6	5.7	1.9	-0.2	67.3	-	Sa.	
-	-	-	17987	ⅢbM	完形	61.3	0.7	18.3	-11.2	17.1	0.2	3.3	1.2	27.5	-	Mud.	
-	-	107-2	18949	ⅢbM	完形	61.3	0.7	26.9	-2.6	25.1	8.2	2.3	0.2	53.0	-	Sa.	
-	-	-	18999	ⅢbM	完形	61.6	1.0	24.0	-5.5	9.3	-7.6	2.6	0.5	20.4	-	Mud.	
-	-	-	18951	ⅢbM	完形	61.8	1.2	32.0	2.5	21.1	4.2	1.9	-0.2	36.7	-	Mud.	
-	-	-	17989	ⅢbM	完形	61.9	1.3	28.1	-1.4	19.8	2.9	2.2	0.1	30.2	-	Mud.	
-	-	-	18978	ⅢbM	完形	62.0	1.4	31.5	2.0	21.5	4.6	2.0	-0.1	50.1	-	Sa.	
-	-	ⅢS-315	-	ⅢbM	略完形	62.7	2.1	34.5	5.0	16.6	-0.3	1.8	-0.3	47.0	-	Sa.	
-	-	-	18966	ⅢbM	略完形	62.8	2.2	32.3	2.8	13.1	-3.8	1.9	-0.2	33.1	-	Sa.	
Ⅲ-36-16	-	-	18932	ⅢbM	完形	62.9	2.3	36.4	6.9	16.4	-0.5	1.7	-0.4	44.3	-	Sa.	
-	-	-	17992	ⅢbM	完形	63.1	2.5	23.5	-6.0	16.2	-0.7	2.7	0.6	20.7	-	Mud.	
-	-	-	17974	ⅢbM	完形	63.5	2.9	30.9	1.4	14.3	-2.6	2.1	0.0	29.5	-	Mud.	
Ⅲ-36-17	-	-	18953	ⅢbM	完形	63.5	2.9	38.1	8.6	16.0	-0.9	1.7	-0.4	55.8	-	Sa.	
-	-	-	18943	ⅢbM	完形	63.7	3.1	30.3	0.8	13.8	-3.1	2.1	0.0	31.4	-	Sa.	
-	-	-	18929	ⅢbM	完形	64.0	3.4	38.0	8.5	15.6	-1.3	1.7	-0.4	29.5	-	Mud.	
-	-	-	18946	ⅢbM	完形	64.1	3.5	23.7	-5.8	18.6	1.7	2.7	0.6	34.0	-	Mud.	
-	-	-	18964	ⅢbM	完形	64.2	3.6	24.3	-5.2	19.3	2.4	2.6	0.5	40.7	-	Sa.	
-	-	-	18979	ⅢbM	略完形	64.3	3.7	37.3	7.8	13.9	-3.0	1.7	-0.4	41.4	-	Sa.	
-	-	-	17973	ⅢbM	完形	64.6	4.0	31.1	1.6	22.0	5.1	2.1	0.0	50.4	-	Sa.	
-	-	-	18983	ⅢbM	完形	65.1	4.5	29.2	-0.3	19.5	2.6	2.2	0.1	51.5	-	Sa.	
-	-	-	18997	ⅢbM	完形	65.2	4.6	29.9	0.4	18.0	1.1	2.2	0.1	40.6	-	Mud.	
Ⅲ-36-18	-	-	18942	ⅢbM	完形	65.3	4.7	27.0	-2.5	17.6	0.7	2.4	0.3	40.2	-	Sa.	
-	-	-	18961	ⅢbM	完形	65.4	4.8	25.9	-3.6	18.7	1.8	2.5	0.4	36.8	-	Mud.	
-	-	-	18928	ⅢbM	完形	65.5	4.9	36.7	7.2	23.6	6.7	1.8	-0.3	77.6	-	Sa.	
-	-	-	17965	ⅢbM	略完形	65.6	5.0	31.4	1.9	18.5	1.6	2.1	0.0	32.1	-	Mud.	
Ⅲ-36-19	-	-	18959	ⅢbM	完形	66.9	6.3	29.7	0.2	13.0	-3.9	2.3	0.2	34.4	-	Mud.	
-	-	-	18931	ⅢbM	略完形	67.2	6.6	30.2	0.7	15.6	-1.3	2.2	0.1	38.6	-	Sa.	
-	-	-	18986	ⅢbM	完形	67.6	7.0	25.2	-4.3	17.9	1.0	2.7	0.6	45.9	-	Sa.	
-	-	-	18940	ⅢbM	完形	68.5	7.9	29.3	-0.2	23.0	6.1	2.3	0.2	67.4	-	Sa.	
-	-	-	18985	ⅢbM	完形	69.5	8.9	24.5	-5.0	18.8	1.9	2.8	0.7	36.4	-	Mud.	
-	-	-	19003	ⅢbM	略完形	70.4	9.8	24.8	-4.7	23.9	7.0	2.8	0.7	46.4	-	Mud.	
Ⅲ-36-20	-	-	18993	ⅢbM	完形	70.5	9.9	19.0	-10.5	16.0	-0.9	3.7	1.6	28.7	-	Sa.	
-	-	-	17970	ⅢbM	完形	70.6	10.0	27.0	-2.5	16.1	-0.8	2.6	0.5	29.5	-	Mud.	
-	-	-	18992	ⅢbM	完形	70.9	10.3	29.6	0.1	22.7	5.8	2.4	0.3	43.2	-	Sa.	
Ⅲ-36-21	-	-	18975	ⅢbM	略完形	71.8	11.2	33.3	3.8	19.8	2.9	2.2	0.1	54.2	-	Sa.	
-	-	-	18952	ⅢbM	完形	73.0	12.4	30.0	0.5	11.4	-5.5	2.4	0.3	30.3	-	Sa.	
-	-	-	18965	ⅢbM	略完形	73.7	13.1	35.0	5.5	21.8	4.9	2.1	0.0	53.7	-	Sa.	



ⅢSB-16

図Ⅲ-36 集中区3出土遺物(1)

ⅢSB-18



図Ⅲ-37 集中区3出土遺物(2)

表Ⅲ-48 ⅢSB-16属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比		重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差	長短比	標準 偏差				
-	-	-	18973	ⅢbM	略完形	76.7	16.1	27.5	-2.0	12.6	-4.3	2.8	0.7	35.7	-	Mud.	
-	-	-	18948	ⅢbM	略完形	78.0	17.4	24.4	-5.1	24.1	7.2	3.2	1.1	53.0	-	Mud.	
-	-	-	18941	ⅢbM	略完形	78.3	17.7	32.1	2.6	19.9	3.0	2.4	0.3	56.1	-	Sa.	
-	-	-	18958	ⅢbM	完形	78.7	18.1	24.7	-4.8	16.8	-0.1	3.2	1.1	40.3	-	Sa.	
Ⅲ-36-22	-	-	18976	ⅢbM	完形	79.0	18.4	35.6	6.1	17.7	0.8	2.2	0.1	62.4	-	Sa.	
Ⅲ-36-23	-	-	18980	ⅢbM	完形	79.8	19.2	36.2	6.7	16.7	-0.2	2.2	0.1	50.7	-	Mud.	
						60.6		29.5		16.9		2.1		37.5			
完形88点																	

表Ⅲ-49 ⅢSB-18属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比		重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差	長短比	標準 偏差				
Ⅲ-37-24	-	-	17838	ⅢbM	完形	58.3	-17.1	34.4	2.3	15.7	-3.6	1.7	-0.7	45.1		Sa.	
-	-	-	17843	ⅢbM	略完形	63.8	-11.6	36.3	4.2	19.5	0.2	1.8	-0.6	62.5		Sa.	
-	-	-	17817	ⅢbM	略完形	64.9	-10.5	27.0	-5.1	25.6	6.3	2.4	0.0	38.7		Mud.	
Ⅲ-37-25	-	-	17842	ⅢbM	完形	65.8	-9.6	31.3	-0.8	27.9	8.6	2.1	-0.3	77.0		Sa.	
-	-	-	17818	ⅢbM	完形	67.5	-7.9	26.1	-6.0	19.4	0.1	2.6	0.2	29.2		Mud.	
-	-	-	17825	ⅢbM	略完形	68.4	-7.0	31.7	-0.4	18.0	-1.3	2.2	-0.2	49.0		Mud.	
-	-	-	17819	ⅢbM	完形	68.7	-6.7	25.0	-7.1	15.9	-3.4	2.7	0.3	41.0		Sa.	
Ⅲ-37-26	-	-	17848	ⅢbM	完形	74.6	-0.8	37.6	5.5	14.6	-4.7	2.0	-0.4	56.0		Sa.	
Ⅲ-37-27	-	-	17840	ⅢbM	略完形	75.5	0.1	29.5	-2.6	16.6	-2.7	2.6	0.2	51.1		Sa.	
-	-	-	17841	ⅢbM	完形	75.7	0.3	26.7	-5.4	17.8	-1.5	2.8	0.4	40.2		Sa.	
-	-	-	17822	ⅢbU	完形	78.8	3.4	32.3	0.2	12.3	-7.0	2.4	0.0	48.9		Sa.	
Ⅲ-37-28	-	-	17816	ⅢbU	完形	80.5	5.1	38.1	6.0	20.7	1.4	2.1	-0.3	85.5		Sa.	
-	-	-	17821	ⅢbU	完形	85.2	9.8	38.5	6.4	25.5	6.2	2.2	-0.2	86.5		Sa.	
Ⅲ-37-29	-	-	17823	ⅢbU	完形	86.8	11.4	27.3	-4.8	24.7	5.4	3.2	0.8	69.8		Sa.	
-	-	-	17824	ⅢbU	完形	93.0	17.6	39.5	7.4	17.4	-1.9	2.4	0.0	77.3		Sa.	
Ⅲ-37-30	-	-	17849	ⅢbU	略完形	99.4	24.0	32.6	0.5	17.7	-1.6	3.0	0.6	88.2		Sa.	
						75.4		32.1		19.3		2.4		59.1			
完形15点																	

集中区4 (図Ⅲ-38~41 図版 27)

位置: T~V-22~24

規模: 1,416×1,366 cm 長軸方向: N-41° E

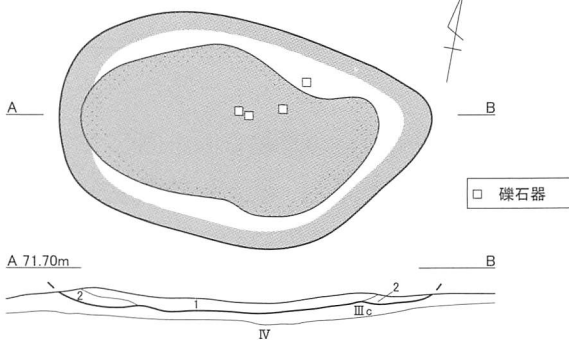
立地: T₃面の段丘平坦面に位置する。

確認・調査: U・V-22・23 区のⅢb層調査中に礫のまとまりを3カ所検出し、それぞれにⅢSB-13~15を付番した。これに近接して礫集中の基底面(Ⅲb層中位)でⅢF-32・43を検出している。ⅢF-43は大きな切り株により南側が壊されている。この面では平面形がやや不明瞭であったため、周囲を

集中区4



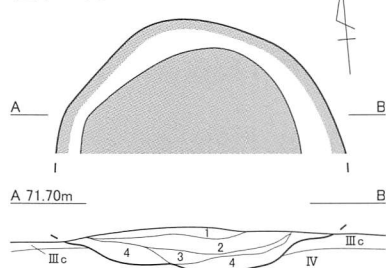
III F-32



III F-32

- 1 7.5YR5/8 明褐色 IIIb被熱層 = 焼骨片 (均一)
- 2 10YR2/3 黒褐色 付帯黒色層

III F-43

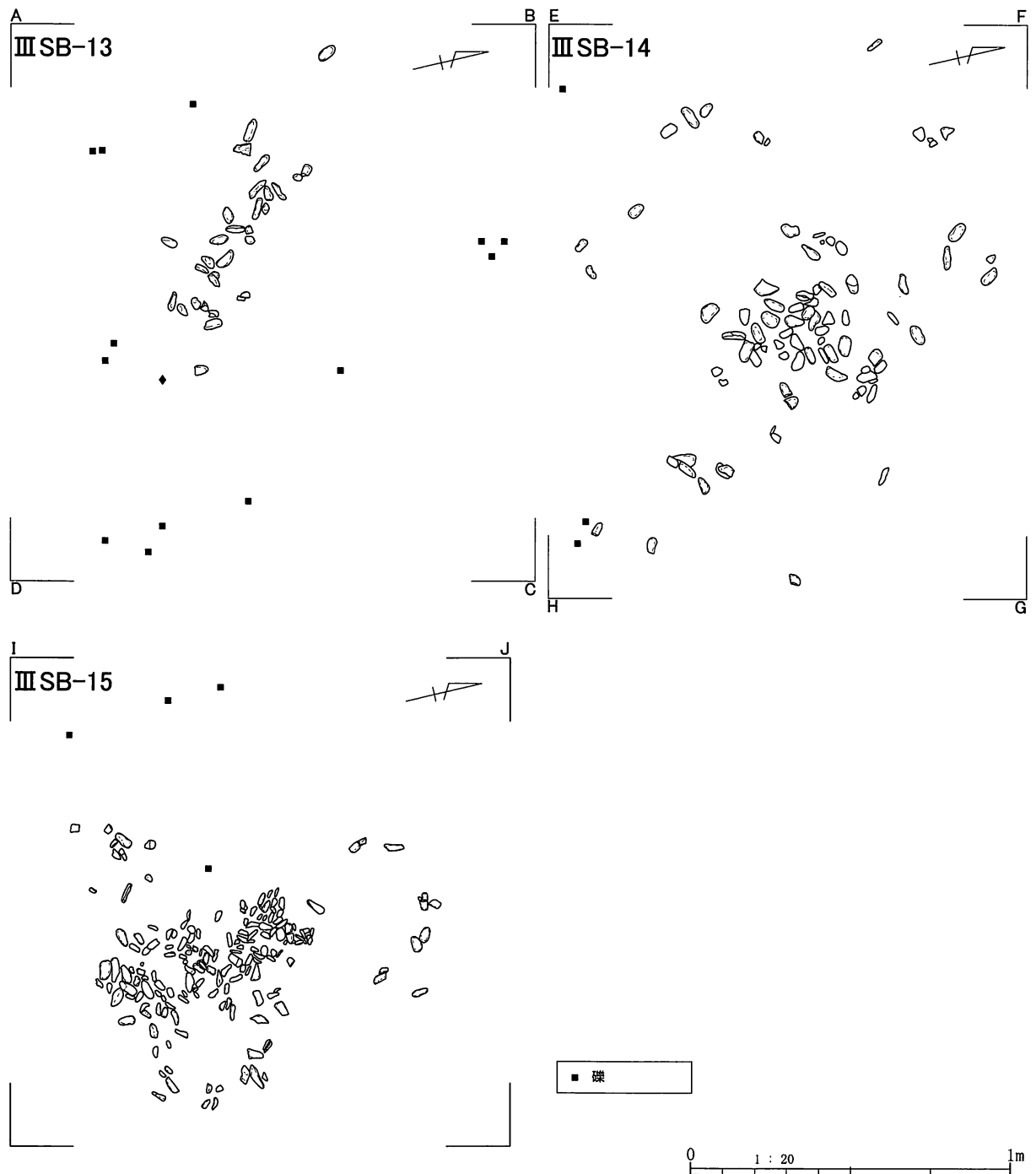


III F-43

- 1 10YR3/3 暗褐色 IIIb~c ≡ 焼骨片 (均一)
- 2 10YR5/8 黄褐色 IIIc 被熱層 ≡ 焼骨片 (極微)
- 3 10YR3/4 暗褐色 IIIc 被熱層 (弱い)
- 4 10YR2/3 黒褐色 付帯黒色層

0 1 : 20 1m

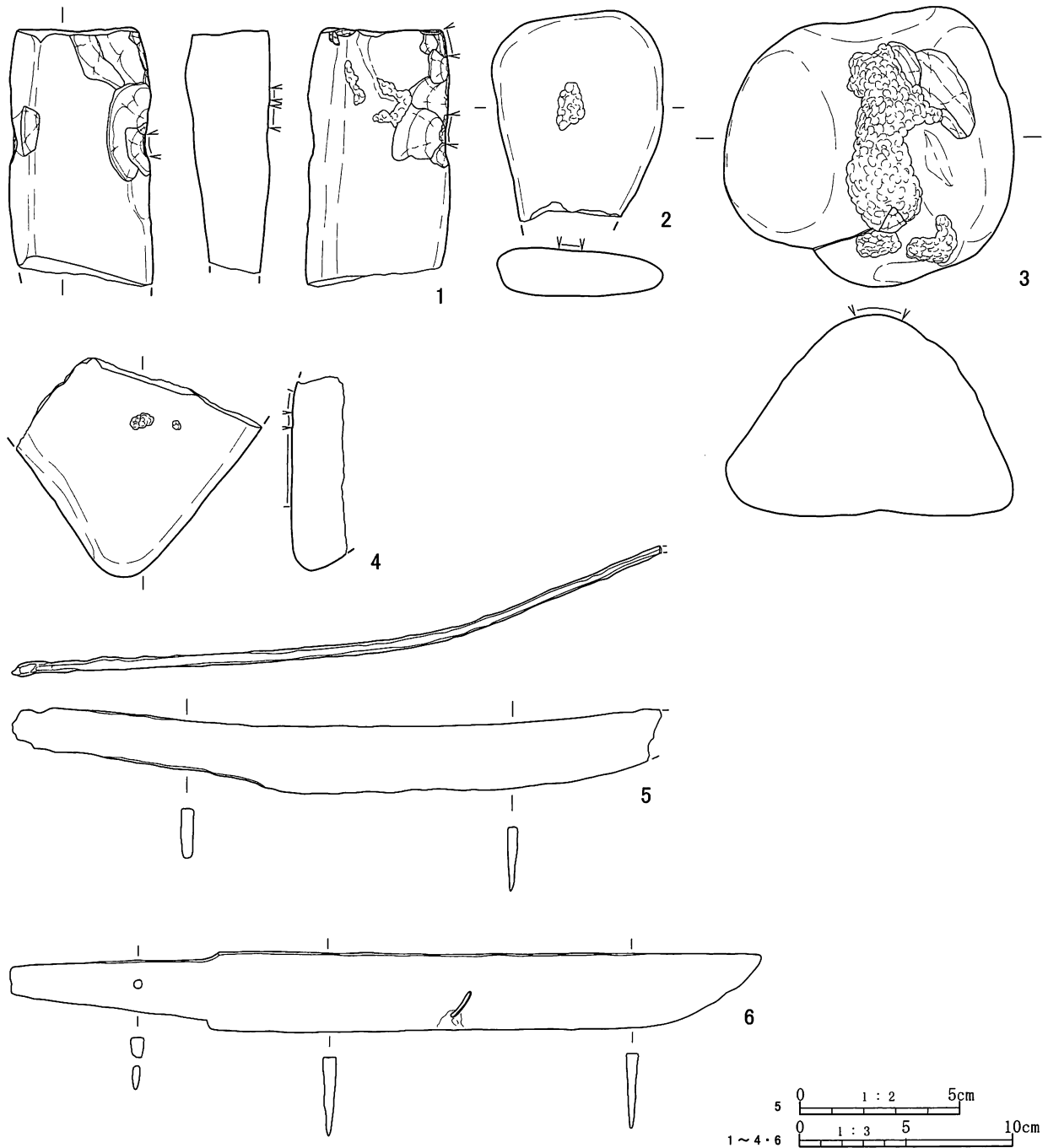
図III-38 集中区4平面図及び関連遺構(1)



図Ⅲ-39 集中区4 関連遺構 (2)

下げてから平面形の記録を行っている。ⅢF-43の平面形が不明なため長軸方向を同じくするかは不明であるが、焼土が2カ所並ぶことから平地式住居跡の可能性を考え、焼土と礫集中を残して周囲を段階的に掘り下げ精査を繰り返したが柱穴は確認できなかった。このため、現場では焼土を中心とした作業場跡と考え、この時点で撮影を行った。整理作業段階でこの礫集中と焼土の西側で広範囲に遺物がまとまって出土している事を確認した。これらを明確に分断することが出来なかったため合わせて一つの集中区として掲載している。

焼土(図Ⅲ-38)：ⅢF-32・43の2カ所を検出している。ⅢF-32は長楕円形である。規模のわりに被熱層は薄く4cm程である。ⅢF-43の平面形は南半が壊れているため不明である。被熱層の厚さ

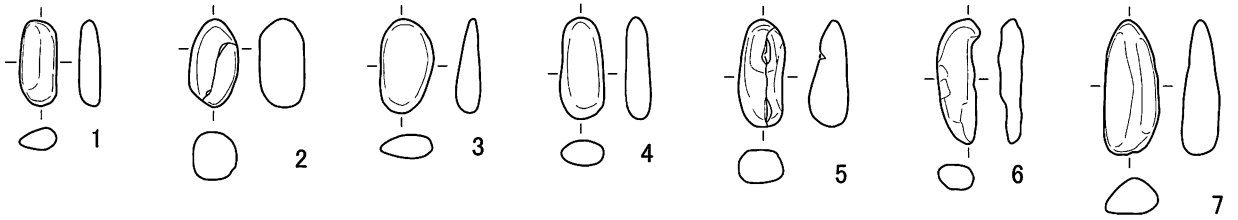


図Ⅲ-40 集中区4出土遺物(1)

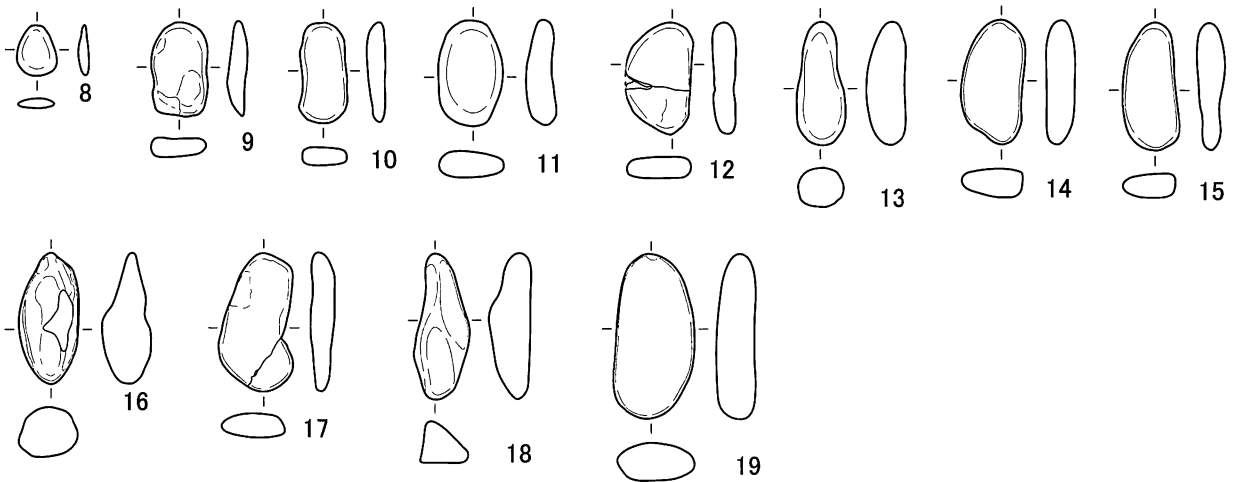
は8cmとやや厚く形成されている。フローテーションの結果、2カ所の焼土からヒエ属、キビ、シソ属、アサ、マタタビ属、ブドウ科、キハダ属、スモモ、クルミ属等多種にわたる炭化種子が得られている。また、哺乳網の焼骨片が僅かに回収されている。

礫集中(図Ⅲ-39)：ⅢSB-13~15の3カ所を検出している。ⅢSB-13は直線状に礫が配置することから、当初平地式住居跡の壁に沿っている可能性を考えていたが、周囲で柱穴等は見つかっていない。ⅢSB-15は礫全体を検出しようとしたところ、中央がくぼんで検出したので、下に土坑がある可能性を考え、中央にトレンチを設定し調査を行った。土層断面からⅢb層の黒色土が皿状に落ち込み、Ⅲc層との境が不明瞭であることが確認できた。このことから自然のくぼ地で出土したもの

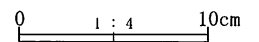
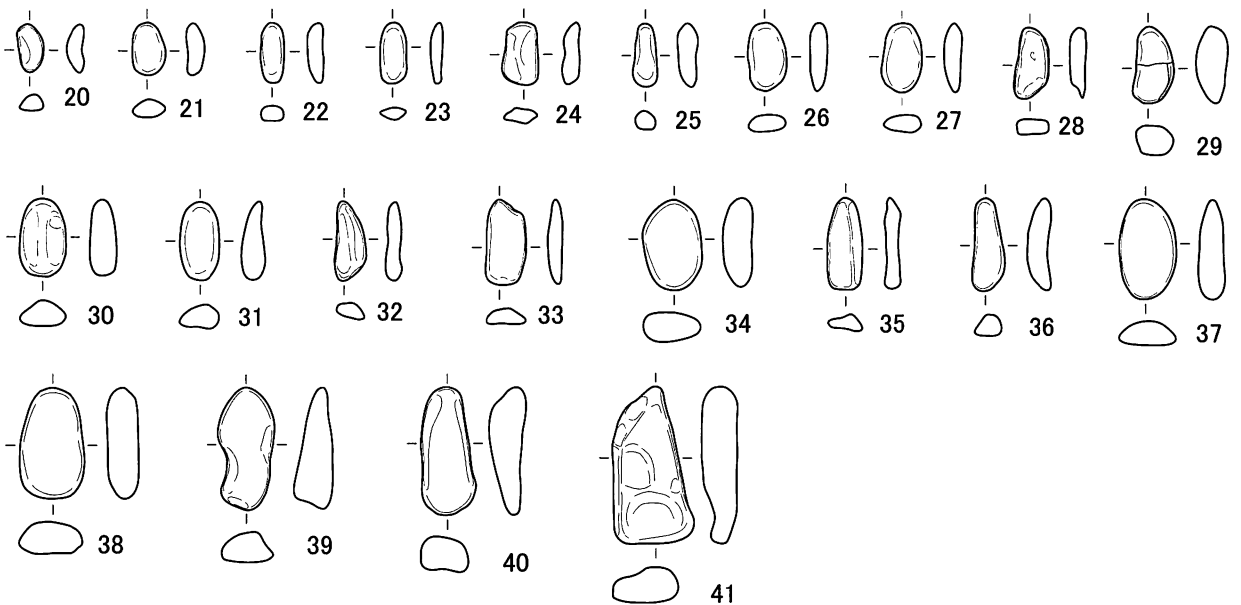
ⅢSB-13



ⅢSB-14



ⅢSB-15



図Ⅲ-41 集中区4出土遺物 (2)

と判断した。ⅢSB-13は31点が出土し、完形・略完形は20点である。ⅢSB-14は86点が出土し、完形・略完形は49点である。ⅢSB-15は222点が出土し、完形・略完形は123点で、ⅢSB-15は長軸平均が43.8mmと非常に小形のものである。礫の形状は他の礫集中と同様に棒状礫のものが主体であるが、他のものとは性格が異なると思われる。

出土遺物(図Ⅲ-40・41)：1～3はたたき石である。3は重量が900gを超えるが、断面三角形礫の頂部を使用しており、台石としての使用が困難と考えられることからたたき石とした。4は滑沢面

と敲打痕のある大型礫の破片である。5 は刀子で、区は不明瞭である。刀身中央付近でやや折れ曲がっているが、意図的に加工したものであるかは不明である。6 は平棟平造の小刀で、両区である。

表Ⅲ-50 集中区4付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-38	27-4	ⅢF-32	U-22	ⅢbM	楕円形	99	61	5	焼骨片	
Ⅲ-38	27-5	ⅢF-43	U-22	ⅢbM	?	(77)	(35)	12	焼骨片	

表Ⅲ-51 集中区4出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-40-1	107-4-6	-	15497	たたき石	1A3	ⅢbU	-	U-23	120.2	66.0	40.0	470.0	Sa.	
Ⅲ-40-2	107-4-7	-	16168	たたき石	I A1	ⅢbU	-	V-22	(96.0)	80.0	20.2	265.0	Sa.	
Ⅲ-40-3	107-4-8	-	16053	たたき石	Ⅱ B2	ⅢbM	-	V-23	130.2	130.4	90.5	2025.0	Sa.	
Ⅲ-40-4	108-1-1	-	16051	滑沢面と敲打痕のある大型の礫	Ⅱ	ⅢbU	-	V-23	(104.4)	117.0	24.6	830.0	Sa.	
Ⅲ-40-5	108-1-2	-	15959	刀子	-	ⅢbU	-	V-23	(208.0)	20.2	4.0	49.44	Irn.	
Ⅲ-40-6	108-1-3	-	15960	刀	-	ⅢbU	-	T-23	352.5	38.1	6.0	275.0	Irn.	

表Ⅲ-52 ⅢSB-13属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
Ⅲ-41-1	-	-	17486	ⅢbL	完形	43.3	-9.7	18.7	-7.3	11.2	-3.9	2.3	0.2	12.6	-	Sa.	
Ⅲ-41-2	-	-	17482	ⅢbL	略完形	45.2	-7.8	23.9	-2.1	23.0	7.9	1.9	-0.2	37.2	-	Sa.	
-	-	-	ⅢS-303	ⅢbL	完形	45.4	-7.6	23.0	-3.0	16.7	1.6	2.0	-0.1	13.0	-	Sa.	
-	-	-	ⅢS-301	ⅢbL	完形	45.7	-7.3	25.1	-0.9	17.3	2.2	1.8	-0.3	24.0	-	Sa.	
-	-	-	ⅢS-313	ⅢbL	略完形	47.6	-5.4	28.6	2.6	12.4	-2.7	1.7	-0.4	20.0	-	Sa.	
-	-	-	17475	ⅢbL	完形	48.0	-5.0	26.8	0.8	15.6	0.5	1.8	-0.3	24.0	-	Sa.	
Ⅲ-41-3	-	-	17483	ⅢbL	完形	48.8	-4.2	28.4	2.4	14.3	-0.8	1.7	-0.4	21.5	-	Sa.	
-	-	-	17476	ⅢbL	完形	49.2	-3.8	25.2	-0.8	13.5	-1.6	2.0	-0.1	20.1	-	Sa.	
-	-	-	ⅢS-304	ⅢbL	略完形	50.2	-2.8	25.5	-0.5	14.7	-0.4	2.0	-0.1	21.9	-	Sa.	
-	108-2	-	17485	ⅢbL	完形	50.6	-2.4	29.0	3.0	12.3	-2.8	1.7	-0.4	21.0	-	Sa.	
-	-	-	17484	ⅢbL	完形	52.6	-0.4	25.8	-0.2	12.5	-2.6	2.0	-0.1	20.0	-	Sa.	
Ⅲ-41-4	-	-	17471	ⅢbL	完形	52.8	-0.2	22.8	-3.2	13.1	-2.0	2.3	0.2	21.4	-	Sa.	
-	-	-	17492	ⅢbL	完形	54.1	1.1	30.6	4.6	13.9	-1.2	1.8	-0.3	33.1	-	Sa.	
Ⅲ-41-5	-	-	17497	ⅢbL	略完形	55.5	2.5	23.4	-2.6	20.7	5.6	2.4	0.3	34.7	-	Sa.	
-	-	-	ⅢS302	ⅢbL	略完形	56.0	3.0	23.8	-2.2	12.4	-2.7	2.4	0.3	21.5	-	Sa.	
-	-	-	17478	ⅢbL	完形	58.4	5.4	22.9	-3.1	15.7	0.6	2.6	0.5	24.4	-	Sa.	
-	-	-	17468	ⅢbL	完形	59.8	6.8	32.7	6.7	16.4	1.3	1.8	-0.3	46.3	-	Sa.	
-	-	-	17489	ⅢbL	完形	61.6	8.6	31.4	5.4	10.9	-4.2	2.0	-0.1	20.3	-	Sa.	
Ⅲ-41-6	-	-	17477	ⅢbL	略完形	64.9	11.9	22.4	-3.6	15.2	0.1	2.9	0.8	12.5	-	Ser.	
Ⅲ-41-7	-	-	17469	ⅢbL	略完形	70.4	17.4	29.0	3.0	19.7	4.6	2.4	0.3	45.8	-	Sa.	
						53.0		26.0		15.1		2.07		24.8			
																	完形20点

表Ⅲ-53 ⅢSB-14属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
Ⅲ-41-8	-	-	19202	ⅢbL	完形	25.7	-34.4	20.4	-9.9	5.1	-11.2	1.3	-0.7	3.3	-	Mud.	
-	-	-	16670	ⅢbM	略完形	26.4	-33.7	18.2	-12.1	4.0	-12.3	1.5	-0.5	2.3	-	Mud.	
-	-	-	16679	ⅢbM	完形	40.9	-19.2	33.7	3.4	12.1	-4.2	1.2	-0.8	21.5	-	Sa.	
-	-	-	16686	ⅢbM	完形	46.3	-13.8	33.5	3.2	14.4	-1.9	1.4	-0.6	30.7	-	Sa.	
Ⅲ-41-9	-	-	16684	ⅢbM	略完形	49.4	-10.7	29.1	-1.2	11.0	-5.3	1.7	-0.3	20.5	-	Sa.	
-	-	-	19231	ⅢbL	略完形	50.6	-9.5	27.1	-3.2	19.3	3.0	1.9	-0.1	33.8	-	Sa.	
-	108-3	-	19253	ⅢbL	略完形	50.8	-9.3	31.6	1.3	15.1	-1.2	1.6	-0.4	30.2	-	Sa.	
-	-	-	ⅢS306	ⅢbM	完形	51.5	-8.6	25.7	-4.6	17.0	0.7	2.0	0.0	29.4	-	Sa.	
-	-	-	19214	ⅢbL	完形	51.5	-8.6	21.8	-8.5	22.6	6.3	2.4	0.4	31.4	-	Mud.	
Ⅲ-41-10	-	-	19252	ⅢbL	完形	51.9	-8.2	25.1	-5.2	9.9	-6.4	2.1	0.1	19.7	-	Sa.	
-	-	-	16676	ⅢbM	完形	51.9	-8.2	26.1	-4.2	17.6	1.3	2.0	0.0	29.6	-	Sa.	
-	-	-	16682	ⅢbM	完形	52.2	-7.9	26.4	-3.9	16.6	0.3	2.0	0.0	27.9	-	Sa.	
Ⅲ-41-11	-	-	19205	ⅢbL	完形	55.3	-4.8	33.4	3.1	14.3	-2.0	1.7	-0.3	36.2	-	Mud.	

表Ⅲ-53 ⅢSB-14属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	16681	ⅢbM	完形	55.3	-4.8	32.2	1.9	11.4	-4.9	1.7	-0.3	26.8	-	Sa.	
-	-	ⅢS305	-	ⅢbM	略完形	55.8	-4.3	25.7	-4.6	19.0	2.7	2.2	0.2	30.6	-	Sa.	
-	-	-	19255	ⅢbL	略完形	56.2	-3.9	34.7	4.4	26.5	10.2	1.6	-0.4	43.8	-	Ser.	
-	-	-	16680	ⅢbM	完形	56.3	-3.8	25.1	-5.2	13.6	-2.7	2.2	0.2	26.9	-	Sa.	
-	-	-	16678	ⅢbM	完形	56.8	-3.3	36.9	6.6	16.1	-0.2	1.5	-0.5	45.2	-	Sa.	
-	-	-	19243	ⅢbL	完形	57.2	-2.9	31.6	1.3	15.5	-0.8	1.8	-0.2	42.0	-	Sa.	
Ⅲ-41-12	-	ⅢS311	-	ⅢbM	略完形	57.9	-2.2	33.7	3.4	12.2	-4.1	1.7	-0.3	33.8	-	Sa.	
-	-	-	19258	ⅢbL	完形	58.1	-2.0	35.0	4.7	22.5	6.2	1.7	-0.3	54.7	-	Sa.	
-	-	-	19241	ⅢbL	完形	58.3	-1.8	33.6	3.3	13.6	-2.7	1.7	-0.3	33.3	-	Sa.	
-	-	-	19222	ⅢbL	完形	59.2	-0.9	28.6	-1.7	19.7	3.4	2.1	0.1	44.2	-	Sa.	
-	-	-	19232	ⅢbL	完形	59.4	-0.7	34.2	3.9	18.1	1.8	1.7	-0.3	45.8	-	Sa.	
-	-	-	19207	ⅢbL	完形	60.0	-0.1	27.7	-2.6	20.6	4.3	2.2	0.2	39.1	-	Sa.	
-	-	-	19239	ⅢbL	完形	60.2	0.1	27.9	-2.4	15.4	-0.9	2.2	0.2	35.1	-	Sa.	
-	-	-	19242	ⅢbL	略完形	63.2	3.1	31.7	1.4	23.5	7.2	2.0	0.0	53.4	-	Mud.	
-	-	-	16687	ⅢbM	完形	63.3	3.2	29.1	-1.2	9.9	-6.4	2.2	0.2	19.8	-	Mud.	
Ⅲ-41-13	-	-	16688	ⅢbM	完形	63.5	3.4	23.8	-6.5	19.5	3.2	2.7	0.7	34.8	-	Sa.	
-	-	-	19226	ⅢbL	完形	63.9	3.8	41.0	10.7	12.9	-3.4	1.6	-0.4	51.0	-	Sa.	
-	-	-	19236	ⅢbL	完形	64.0	3.9	36.7	6.4	11.8	-4.5	1.7	-0.3	34.5	-	Sa.	
Ⅲ-41-14	108-3	-	19238	ⅢbL	完形	64.4	4.3	31.3	1.0	15.1	-1.2	2.1	0.1	42.4	-	Sa.	
-	-	-	19201	ⅢbL	完形	64.7	4.6	30.5	0.2	18.5	2.2	2.1	0.1	44.3	-	Sa.	
-	-	-	19250	ⅢbL	完形	65.0	4.9	27.5	-2.8	13.6	-2.7	2.4	0.4	26.7	-	Sa.	
-	-	-	16673	ⅢbM	完形	65.2	5.1	21.5	-8.8	15.6	-0.7	3.0	1.0	20.4	-	Mud.	
Ⅲ-41-15	-	-	19233	ⅢbL	完形	65.7	5.6	27.3	-3.0	14.9	-1.4	2.4	0.4	33.4	-	Sa.	
-	-	-	19237	ⅢbL	完形	66.5	6.4	29.0	-1.3	15.4	-0.9	2.3	0.3	33.4	-	Sa.	
-	-	ⅢS309	-	ⅢbM	略完形	67.6	7.5	32.5	2.2	15.7	-0.6	2.1	0.1	37.3	-	Sa.	
Ⅲ-41-16	-	-	19203	ⅢbL	完形	69.2	9.1	30.8	0.5	25.8	9.5	2.2	0.2	50.5	-	Mud.	
-	-	-	19228	ⅢbL	完形	70.6	10.5	33.1	2.8	22.5	6.2	2.1	0.1	70.5	-	Sa.	
-	-	-	19221	ⅢbL	略完形	71.0	10.9	35.0	4.7	14.6	-1.7	2.0	0.0	45.6	-	Sa.	
-	-	-	19225	ⅢbL	完形	71.4	11.3	28.3	-2.0	22.3	6.0	2.5	0.5	57.9	-	Sa.	
Ⅲ-41-17	-	-	19211	ⅢbL	略完形	72.5	12.4	41.1	10.8	13.3	-3.0	1.8	-0.2	44.5	-	Sa.	
-	-	ⅢS312	-	ⅢbM	完形	73.0	12.9	35.1	4.8	17.2	0.9	2.1	0.1	57.6	-	Sa.	
-	-	ⅢS314	19254 19313	ⅢbL	完形	73.1	13.0	28.1	-2.2	11.7	-4.6	2.6	0.6	24.5	-	Mud.	
-	-	-	19240	ⅢbL	完形	73.3	13.2	27.1	-3.2	23.2	6.9	2.7	0.7	49.2	-	Sa.	
Ⅲ-41-18	-	-	19204	ⅢbL	完形	75.9	15.8	27.4	-2.9	22.5	6.2	2.8	0.8	48.5	-	Mud.	
-	-	-	16677	ⅢbM	完形	76.2	16.1	36.6	6.3	13.4	-2.9	2.1	0.1	49.4	-	Sa.	
Ⅲ-41-19	-	-	16690	ⅢbM	完形	86.8	26.7	42.0	11.7	20.4	4.1	2.1	0.1	100.2	-	Sa.	
						60.1		30.3		16.3		2.0		37.7	完形49点		

表Ⅲ-54 ⅢSB-15属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
Ⅲ-41-20	-	-	19292	ⅢbL	完形	24.9	-18.9	12.9	-6.9	8.9	-2.6	1.9	-0.4	3.7	-	Sa.	
-	-	-	17024	ⅢbM	完形	27.1	-16.7	10.9	-8.9	9.4	-2.1	2.5	0.2	2.7	-	Mud.	
-	-	-	19319	ⅢbL	完形	27.4	-16.4	12.9	-6.9	6.5	-5.0	2.1	-0.2	3.4	-	Sa.	
-	-	-	16971	ⅢbM	完形	27.5	-16.3	11.5	-8.3	6.7	-4.8	2.4	0.1	2.5	-	Sa.	
Ⅲ-41-21	-	-	16933	ⅢbM	完形	27.6	-16.2	16.3	-3.5	9.8	-1.7	1.7	-0.6	5.6	-	Sa.	
-	-	-	17060	ⅢbL	完形	28.3	-15.5	12.9	-6.9	11.0	-0.5	2.2	-0.1	5.0	-	Sa.	
-	-	-	19303	ⅢbL	略完形	29.3	-14.5	17.5	-2.3	8.5	-3.0	1.7	-0.6	5.4	-	Sa.	
-	-	-	19287	ⅢbL	完形	29.5	-14.3	15.5	-4.3	5.8	-5.7	1.9	-0.4	3.1	-	Mud.	
-	-	-	19272	ⅢbL	完形	29.8	-14.0	14.6	-5.2	7.1	-4.4	2.0	-0.3	3.1	-	Sa.	
-	-	-	17048	ⅢbM	完形	30.4	-13.4	14.1	-5.7	4.7	-6.8	2.2	-0.1	1.9	-	Sa.	
-	-	-	16929	ⅢbM	完形	30.5	-13.3	13.6	-6.2	10.9	-0.6	2.2	-0.1	5.1	-	Sa.	
-	-	-	16990	ⅢbM	完形	30.8	-13.0	15.3	-4.5	7.7	-3.8	2.0	-0.3	4.8	-	Sa.	
Ⅲ-41-22	-	-	17007	ⅢbM	完形	31.2	-12.6	11.8	-8.0	8.4	-3.1	2.6	0.3	4.2	-	Sa.	
-	-	-	19318	ⅢbL	完形	31.3	-12.5	10.3	-9.5	7.9	-3.6	3.0	0.7	3.8	-	Mud.	
-	-	-	19316	ⅢbL	完形	31.7	-12.1	12.1	-7.7	9.0	-2.5	2.6	0.3	3.7	-	Mud.	
Ⅲ-41-23	-	-	17041	ⅢbM	完形	31.8	-12.0	13.2	-6.6	6.7	-4.8	2.4	0.1	3.3	-	Sa.	
-	-	-	19309	ⅢbL	完形	32.1	-11.7	18.4	-1.4	5.5	-6.0	1.7	-0.6	3.5	-	Mud.	
-	-	-	16957	ⅢbM	完形	32.1	-11.7	16.4	-3.4	8.0	-3.5	2.0	-0.3	5.5	-	Sa.	
-	-	-	19290	ⅢbL	完形	32.2	-11.6	17.1	-2.7	9.6	-1.9	1.9	-0.4	6.6	-	Sa.	
-	-	-	19264	ⅢbL	完形	32.4	-11.4	12.3	-7.5	9.1	-2.4	2.6	0.3	3.7	-	Mud.	
Ⅲ-41-24	-	-	19295	ⅢbL	完形	32.5	-11.3	18.6	-1.2	9.3	-2.2	1.7	-0.6	5.9	-	Mud.	
-	-	-	16953	ⅢbM	完形	32.5	-11.3	17.3	-2.5	8.5	-3.0	1.9	-0.4	6.1	-	Sa.	
-	-	-	16965	ⅢbM	完形	32.7	-11.1	11.6	-8.2	8.5	-3.0	2.8	0.5	3.8	-	Sa.	

表Ⅲ-54 ⅢSB-15属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考									
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差															
-	-	-	19300	ⅢbL	完形	32.8	-11.0	16.5	-3.3	8.4	-3.1	2.0	-0.3	6.3	-	Sa.										
Ⅲ-41-25	-	-	16944	ⅢbM	完形	33.4	-10.4	12.5	-7.3	9.5	-2.0	2.7	0.4	5.2	-	Sa.										
-	-	-	16989	ⅢbM	完形	33.8	-10.0	15.9	-3.9	9.5	-2.0	2.1	-0.2	7.7	-	Sa.										
-	-	-	19299	ⅢbL	完形	34.3	-9.5	20.9	1.1	6.1	-5.4	1.6	-0.7	5.9	-	Sa.										
-	-	-	19302	ⅢbL	略完形	34.4	-9.4	11.9	-7.9	10.9	-0.6	2.9	0.6	5.4	-	Sa.										
-	-	-	17005	ⅢbM	完形	34.5	-9.3	12.7	-7.1	7.1	-4.4	2.7	0.4	4.1	-	Sa.										
-	-	-	17051	ⅢbM	完形	35.0	-8.8	13.0	-6.8	9.8	-1.7	2.7	0.4	5.1	-	Sa.										
-	-	-	16936	ⅢbM	略完形	35.3	-8.5	12.0	-7.8	5.4	-6.1	2.9	0.6	2.7	-	Mud.										
Ⅲ-41-26	-	-	19282	ⅢbL	完形	35.7	-8.1	20.1	0.3	9.1	-2.4	1.8	-0.5	9.3	-	Sa.										
-	-	-	19317	ⅢbL	完形	35.8	-8.0	18.5	-1.3	10.8	-0.7	1.9	-0.4	7.7	-	Mud.										
-	-	-	16932	ⅢbM	完形	36.2	-7.6	15.6	-4.2	14.8	3.3	2.3	0.0	11.9	-	Sa.										
-	-	ⅢS-384	16967	ⅢbM	完形	36.3	-7.5	17.1	-2.7	12.4	0.9	2.1	-0.2	8.2	-	Mud.										
-	-	16976	ⅢbM	完形	-										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	16963	ⅢbM	完形	36.3	-7.5	16.5	-3.3	7.9	-3.6	2.2	-0.1	7.3	-	Mud.										
-	-	-	16962	ⅢbM	略完形	36.4	-7.4	12.6	-7.2	7.1	-4.4	2.9	0.6	3.7	-	Mud.										
Ⅲ-41-27	-	-	17073	ⅢbM	完形	36.4	-7.4	20.4	0.6	9.5	-2.0	1.8	-0.5	7.8	-	Sa.										
-	-	ⅢS-377	16950	ⅢbM	完形	36.5	-7.3	19.2	-0.6	12.3	0.8	1.9	-0.4	8.8	-	Sa.										
-	-	-	19285	ⅢbL	完形	36.6	-7.2	22.7	2.9	13.3	1.8	1.6	-0.7	13.8	-	Sa.										
-	-	-	19296	ⅢbL	完形	36.8	-7.0	13.1	-6.7	10.2	-1.3	2.8	0.5	5.0	-	Sa.										
-	-	-	16995	ⅢbM	完形	36.9	-6.9	10.8	-9.0	9.3	-2.2	3.4	1.1	3.5	-	Mud.										
Ⅲ-41-28	-	-	17002	ⅢbM	完形	37.1	-6.7	17.4	-2.4	8.8	-2.7	2.1	-0.2	7.8	-	Sa.										
-	-	-	16964	ⅢbM	完形	37.7	-6.1	14.6	-5.2	10.1	-1.4	2.6	0.3	6.4	-	Sa.										
-	-	-	16969	ⅢbM	完形	37.8	-6.0	16.2	-3.6	7.0	-4.5	2.3	0.0	5.2	-	Sa.										
-	-	-	17042	ⅢbM	完形	38.1	-5.7	18.4	-1.4	7.8	-3.7	2.1	-0.2	5.3	-	Sa.										
-	-	-	16924	ⅢbM	完形	38.7	-5.1	18.0	-1.8	8.4	-3.1	2.2	-0.1	8.6	-	Mud.										
-	-	-	19293	ⅢbL	完形	38.9	-4.9	17.8	-2.0	12.6	1.1	2.2	-0.1	10.4	-	Sa.										
-	-	-	19271	ⅢbL	完形	39.2	-4.6	16.3	-3.5	10.4	-1.1	2.4	0.1	7.2	-	Mud.										
-	-	-	17045	ⅢbM	完形	39.3	-4.5	15.7	-4.1	8.3	-3.2	2.5	0.2	5.5	-	Sa.										
-	-	ⅢS-376	17046	ⅢbM	略完形	39.6	-4.2	18.3	-1.5	5.7	-5.8	2.2	-0.1	5.9	-	Sa.										
-	-	17049	ⅢbM	-											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	16956	ⅢbM	完形	39.6	-4.2	15.2	-4.6	12.8	1.3	2.6	0.3	9.5	-	Sa.										
-	-	-	19281	ⅢbL	完形	39.6	-4.2	15.7	-4.1	12.7	1.2	2.5	0.2	10.4	-	Sa.										
Ⅲ-41-29	108-4	ⅢS-379	16943	ⅢbM	完形	39.7	-4.1	19.8	0.0	16.7	5.2	2.0	-0.3	17.0	-	Sa.										
-	-	16945	ⅢbM	-											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	17047	ⅢbM	-											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	ⅢS-382	19274	ⅢbL	完形	39.9	-3.9	18.7	-1.1	10.3	-1.2	2.1	-0.2	7.8	-	Mud.										
-	-	17034	ⅢbM	-											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	16955	ⅢbM	略完形	40.0	-3.8	14.3	-5.5	4.5	-7.0	2.8	0.5	2.6	-	Mud.										
-	-	-	16987	ⅢbM	完形	40.0	-3.8	16.6	-3.2	6.5	-5.0	2.4	0.1	4.1	-	Mud.										
Ⅲ-41-30	-	-	16981	ⅢbM	完形	40.1	-3.7	24.0	4.2	13.9	2.4	1.7	-0.6	16.7	-	Sa.										
-	-	-	17861	ⅢbL	完形	40.5	-3.3	33.1	13.3	13.7	2.2	1.2	-1.1	16.2	-	Sa.										
Ⅲ-41-31	-	-	16923	ⅢbM	完形	40.8	-3.0	20.5	0.7	13.4	1.9	2.0	-0.3	13.7	-	Sa.										
-	-	-	16982	ⅢbM	完形	40.9	-2.9	19.6	-0.2	14.9	3.4	2.1	-0.2	13.2	-	Sa.										
-	-	-	16959-2	ⅢbM	略完形	41.1	-2.7	19.7	-0.1	7.4	-4.1	2.1	-0.2	6.5	-	Mud.										
-	-	-	16947	ⅢbM	完形	41.1	-2.7	19.9	0.1	8.2	-3.3	2.1	-0.2	6.7	-	Sa.										
-	-	-	16926	ⅢbM	完形	41.2	-2.6	20.8	1.0	10.8	-0.7	2.0	-0.3	6.3	-	Mud.										
-	-	-	16993	ⅢbM	完形	41.5	-2.3	11.8	-8.0	7.5	-4.0	3.5	1.2	3.6	-	Mud.										
Ⅲ-41-32	-	-	16968	ⅢbM	完形	41.6	-2.2	16.0	-3.8	9.2	-2.3	2.6	0.3	7.2	-	Sa.										
-	-	-	16998	ⅢbM	完形	42.2	-1.6	19.9	0.1	13.9	2.4	2.1	-0.2	9.5	-	Sa.										
-	-	-	17858	ⅢbL	完形	42.2	-1.6	18.9	-0.9	10.9	-0.6	2.2	-0.1	10.9	-	Sa.										
-	-	-	16952	ⅢbM	完形	42.4	-1.4	19.8	0.0	10.5	-1.0	2.1	-0.2	9.0	-	Mud.										
-	-	-	19279	ⅢbL	完形	42.7	-1.1	11.9	-7.9	7.2	-4.3	3.6	1.3	6.1	-	Sa.										
-	-	-	16986	ⅢbM	完形	43.2	-0.6	18.7	-1.1	8.7	-2.8	2.3	0.0	7.1	-	Sa.										
-	-	-	16942	ⅢbM	完形	43.5	-0.3	13.9	-5.9	7.3	-4.2	3.1	0.8	3.9	-	Mud.										
Ⅲ-41-33	-	-	16938	ⅢbM	完形	44.3	0.5	20.7	0.9	8.6	-2.9	2.1	-0.2	10.2	-	Sa.										
-	-	ⅢS-374	17066-1-2	ⅢbL	略完形	44.6	0.8	20.1	0.3	7.9	-3.6	2.2	-0.1	10.1	-	Sa.										
-	-	17065	ⅢbL	-											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	17023	ⅢbM	略完形	44.8	1.0	13.9	-5.9	10.1	-1.4	3.2	0.9	6.4	-	Mud.										
-	-	ⅢS-369	19260	ⅢbL	略完形	45.9	2.1	15.8	-4.0	7.9	-3.6	2.9	0.6	7.0	-	Mud.										
-	-	19268	ⅢbL	-											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	ⅢS-386	19288	ⅢbL	完形	46.0	2.2	17.2	-2.6	11.5	0.0	2.7	0.4	8.9	-	Mud.										
-	-	19291	ⅢbL	-											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅲ-41-34	-	-	17016	ⅢbM	完形	46.0	2.2	29.3	9.5	16.8	5.3	1.6	-0.7	29.3	-	Sa.										
-	-	-	16960	ⅢbM	完形	46.2	2.4	16.3	-3.5	6.5	-5.0	2.8	0.5	6.2	-	Mud.										
-	-	-	17038	ⅢbM	完形	46.3	2.5	16.0	-3.8	12.7	1.2	2.9	0.6	12.8	-	Sa.										
-	-	-	17004	ⅢbM	完形	46.6	2.8	20.7	0.9	13.4	1.9	2.3	0.0	17.5	-	Sa.										
-	-	-	19270	ⅢbL	完形	47.4	3.6	17.7	-2.1	11.6	0.1	2.7	0.4	9.6	-	Mud.										

表Ⅲ-54 ⅢSB-15属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
Ⅲ-41-35	-	-	16941	ⅢbM	完形	47.7	3.9	16.8	-3.0	9.4	-2.1	2.8	0.5	8.1	-	Mud.	
-	-	ⅢS-373	17012	ⅢbM	略完形	48.0	4.2	30.9	11.1	11.6	0.1	1.6	-0.7	15.3	-	Mud.	
-	-	-	17013-1	ⅢbM											-	-	
-	-	-	19294	ⅢbL	略完形	48.1	4.3	23.7	3.9	11.8	0.3	2.0	-0.3	12.4	-	Mud.	
-	-	-	16988	ⅢbM	完形	48.3	4.5	22.5	2.7	16.8	5.3	2.1	-0.2	22.8	-	Sa.	
-	-	-	16958	ⅢbM	完形	48.4	4.6	17.9	-1.9	8.5	-3.0	2.7	0.4	7.2	-	Mud.	
Ⅲ-41-36	-	-	19280	ⅢbL	完形	48.6	4.8	16.8	-3.0	12.8	1.3	2.9	0.6	11.5	-	Sa.	
-	-	ⅢS-367	17014	ⅢbM	略完形	49.4	5.6	23.1	3.3	11.0	-0.5	2.1	-0.2	13.8	-	Sa.	
-	-	-	17013-2	ⅢbM											-	-	
-	-	-	16951	ⅢbM	完形	49.8	6.0	17.3	-2.5	7.5	-4.0	2.9	0.6	7.6	-	Mud.	
-	-	-	17015	ⅢbM	完形	49.8	6.0	26.2	6.4	18.3	6.8	1.9	-0.4	30.7	-	Sa.	
-	-	-	17017	ⅢbM	完形	50.2	6.4	23.8	4.0	10.9	-0.6	2.1	-0.2	18.6	-	Sa.	
-	-	-	19267	ⅢbL	完形	50.5	6.7	27.5	7.7	16.2	4.7	1.8	-0.5	19.7	-	Mud.	
-	-	-	17029	ⅢbM	完形	51.2	7.4	29.2	9.4	9.6	-1.9	1.8	-0.5	16.9	-	Sa.	
-	-	-	16977	ⅢbM	完形	52.0	8.2	25.1	5.3	16.3	4.8	2.1	-0.2	27.8	-	Sa.	
Ⅲ-41-37	-	-	19298	ⅢbL	完形	52.4	8.6	29.5	9.7	14.2	2.7	1.8	-0.5	26.3	-	Sa.	
-	-	-	19297	ⅢbL	完形	52.8	9.0	22.1	2.3	13.0	1.5	2.4	0.1	17.3	-	Sa.	
-	-	-	19322	ⅢbL	完形	53.8	10.0	16.5	-3.3	11.5	0.0	3.3	1.0	9.7	-	Sa.	
-	-	-	17040	ⅢbM	完形	55.0	11.2	21.1	1.3	16.0	4.5	2.6	0.3	21.7	-	Sa.	
-	-	-	19314	ⅢbL	完形	55.1	11.3	23.3	3.5	14.5	3.0	2.4	0.1	19.3	-	Sa.	
-	-	-	19304	ⅢbL	完形	55.9	12.1	29.0	9.2	13.8	2.3	1.9	-0.4	29.9	-	Sa.	
-	108-4	-	17018	ⅢbM	完形	56.0	12.2	27.5	7.7	20.3	8.8	2.0	-0.3	28.2	-	Sa.	
-	-	-	17862	ⅢbL	完形	56.6	12.8	38.0	18.2	18.4	6.9	1.5	-0.8	44.5	-	Sa.	
-	-	-	16999	ⅢbM	完形	57.3	13.5	21.3	1.5	10.4	-1.1	2.7	0.4	15.1	-	Sa.	
Ⅲ-41-38	-	-	19308	ⅢbL	完形	57.5	13.7	33.3	13.5	17.4	5.9	1.7	-0.6	46.9	-	Sa.	
-	-	-	16984	ⅢbM	完形	57.6	13.8	16.0	-3.8	15.2	3.7	3.6	1.3	11.5	-	Sa.	
-	-	-	16970	ⅢbM	完形	57.6	13.8	27.1	7.3	17.0	5.5	2.1	-0.2	31.8	-	Sa.	
-	-	-	19262	ⅢbL	略完形	58.3	14.5	27.7	7.9	16.5	5.0	2.1	-0.2	28.9	-	Sa.	
-	-	-	16922	ⅢbM	完形	58.8	15.0	25.2	5.4	13.9	2.4	2.3	0.0	26.3	-	Sa.	
-	-	-	17860	ⅢbL	完形	59.2	15.4	36.6	16.8	19.3	7.8	1.6	-0.7	63.7	-	Sa.	
-	-	-	17028	ⅢbM	完形	60.0	16.2	26.5	6.7	19.3	7.8	2.3	0.0	36.3	-	Sa.	
-	-	-	17027	ⅢbM	完形	60.9	17.1	17.8	-2.0	12.1	0.6	3.4	1.1	11.8	-	Sa.	
-	-	ⅢS-385	17008	ⅢbM	完形	62.9	19.1	38.8	19.0	17.6	6.1	1.6	-0.7	55.7	-	Sa.	
-	-	-	19289	ⅢbL											-	-	
-	-	-	17857	ⅢbL	完形	63.0	19.2	21.1	1.3	20.0	8.5	3.0	0.7	30.6	-	Sa.	
-	-	-	17011	ⅢbM	完形	63.5	19.7	27.9	8.1	14.1	2.6	2.3	0.0	24.8	-	Sa.	
Ⅲ-41-39	-	-	19306	ⅢbL	完形	63.9	20.1	29.5	9.7	21.0	9.5	2.2	-0.1	36.3	-	Sa.	
-	-	-	17856	ⅢbL	完形	64.0	20.2	36.0	16.2	20.0	8.5	1.8	-0.5	66.9	-	Sa.	
-	-	-	16921	ⅢbM	完形	64.1	20.3	28.7	8.9	19.8	8.3	2.2	-0.1	43.3	-	Sa.	
-	-	ⅢS-383	16914	ⅢbM	略完形	65.7	21.9	29.5	9.7	16.5	5.0	2.2	-0.1	23.6	-	Sa.	
-	-	-	17050	ⅢbM											-	-	
Ⅲ-41-40	-	-	19307	ⅢbL	完形	67.3	23.5	27.9	8.1	20.0	8.5	2.4	0.1	47.3	-	Sa.	
-	-	-	19261	ⅢbL	完形	72.2	28.4	21.7	1.9	19.0	7.5	3.3	1.0	33.4	-	Sa.	
-	-	-	17863	ⅢbL	完形	78.8	35.0	33.0	13.2	24.5	13.0	2.4	0.1	87.1	-	Sa.	
Ⅲ-41-41	-	-	17855	ⅢbL	完形	82.1	38.3	41.3	21.5	19.4	7.9	2.0	-0.3	89.9	-	Sa.	
						43.8		19.8		11.5		2.3		14.8	完形123点		

第4節 土坑墓

1号土坑墓〔ⅢGP-01〕 (図Ⅲ-42~44 カラー図版4・8、図版28)

位置：AK・AL-14・15

規模：〔主体部〕 139×65 cm 〔造成部〕 414×332 cm

〔封土〕 314×218 cm

遺構の用語：〔墓坑〕 本遺構全体の総称 〔主体部〕 遺体を埋葬した土坑部分

〔造成部〕 主体部構築前の切土造成 〔封土〕 主体部を覆うマウンド

〔掘り上げ土〕 造成時の排土

主体部平面形：長台形 長軸方向：N-37° E

立地：T₃面の段丘先端の縁辺部。チャシ跡に隣接する。

確認調査：樽前bテフラ除去時に、馬蹄形状の溝と、その中央に隅丸方形の窪みを確認した。オニキシベ2遺跡の調査を踏まえ、土坑墓の可能性が高く、この段階で落ち込みの状態を撮影している。隅丸方形の窪みに対し長軸とその中央で直交する十字のベルトを設定し、このベルトに沿って一部のトレンチ調査を行った。主体部の壁の立ち上がりが確認された段階でⅢGP-01を付し、トレンチ調査を一時中断し、Ⅲ層上面で地形測量図を作成した。基本的には10cm毎の等高線を記録しているが、必要に応じ2cmの等高線も記録している。地形測量図を作成後に、調査を再開した。まず、ベルトを残して調査を進め、造成部と封土・掘り上げ土の上面を検出した。封土の窪みの調査を進め、坑底と壁の立ち上がりを確認した。この際、坑底で副葬品の一部を検出している。土層断面の記録を行い、ベルト部分の調査を進めた。坑底付近の調査では人骨の出土を想定し、慎重に調査を進めたが出土せず、主体部北側で副葬品を検出した。副葬品の出土状態の写真撮影、実測を行ない取り上げた。

造成部(図Ⅲ-42・43)：段丘縁辺を切土し平坦面を造成している。造成面は平坦で、斜面上位側は、V層まで達している。造成時の掘り上げ土は斜面下位側に排出している。

主体部形態(図Ⅲ-42)：主体部の規模は139×65cmで、平面形は長台形である。深さは造成部の面より35cmである。坑底面は水平で、壁はほぼ直角に立ち上がる。これまでの厚幌ダム関係の調査で発見されたアイヌ文化期の土坑墓は7基あるが、その中でもひと際規模の小さいものである。

堆積状態(図Ⅲ-43)：土層2・3は封土。4～11は主体部埋土、12は造成時の掘り上げ土である。

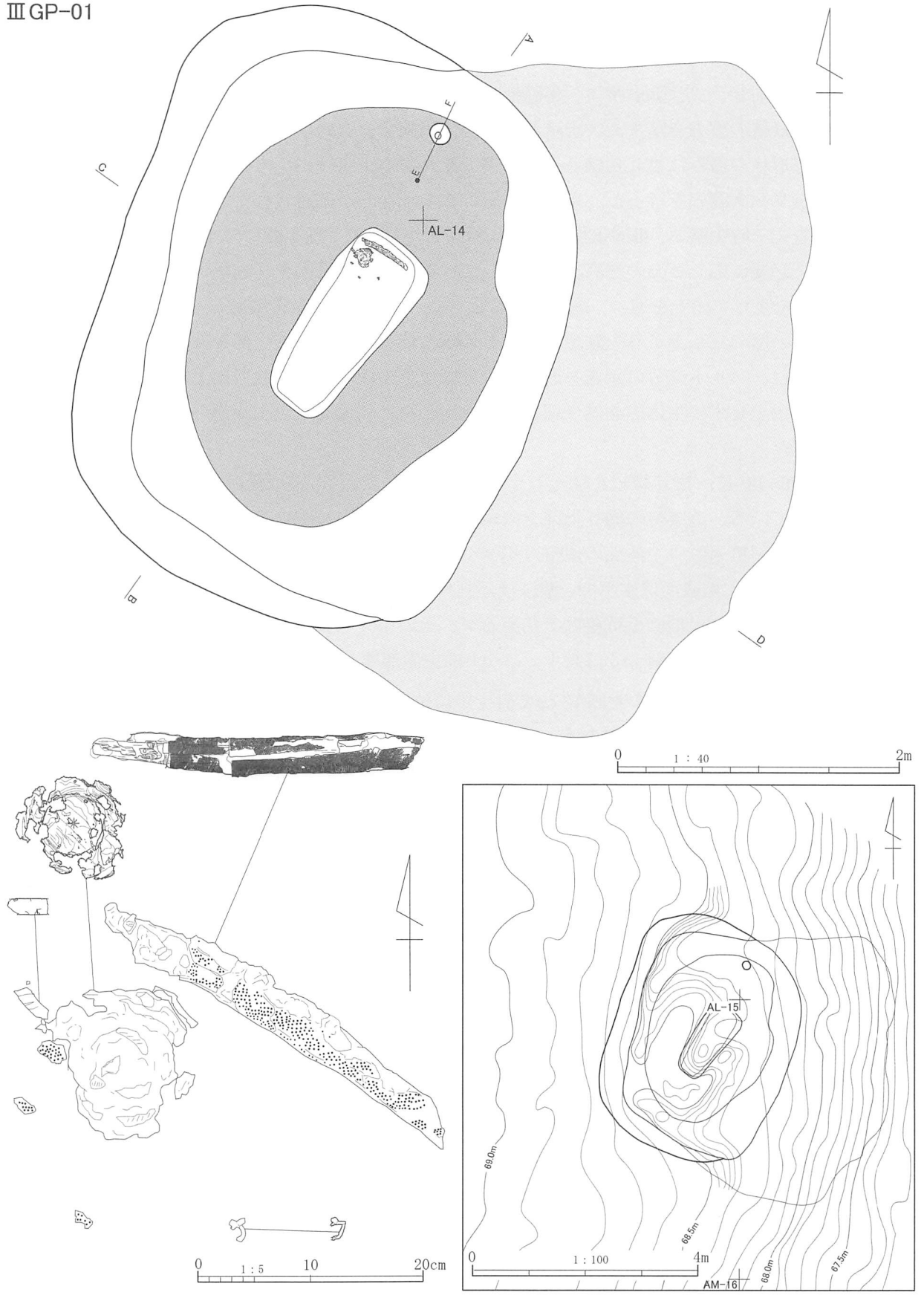
墓標穴(図Ⅲ-43)：主体部の北側73cmで封土中に位置する。平面形は円形である。土層堆積状態は2・3が封土である。墓標穴の覆土は1つである。

副葬品出土状態(図Ⅲ-42)：鮫皮着せの腰刀は北側壁面と平行して坑底面に水平に置かれた状態で出土している。佩裏を下側にし、刃側を北にしている。また鮫鞘の漆塗膜片が3点、坑底面から出土している。漆塗皿の塗膜は高台を下側にし出土している。また、この周辺から板状の金属製品と、刀装具と見られる鉄製品が出土している。

頭位：人骨が検出されなかったため、主体部の平面形や墓標穴の位置及び副葬品の位置から考えると北東側と思われる。副葬品は遺体頭部と主体部北側の壁面の間に副葬されていたと思われる。アイヌ文化期の土坑墓では伸展葬の例が多いことから、本土坑墓も伸展葬であったと想定すると、副葬品の位置を踏まえて身長は120cm程ということになる。

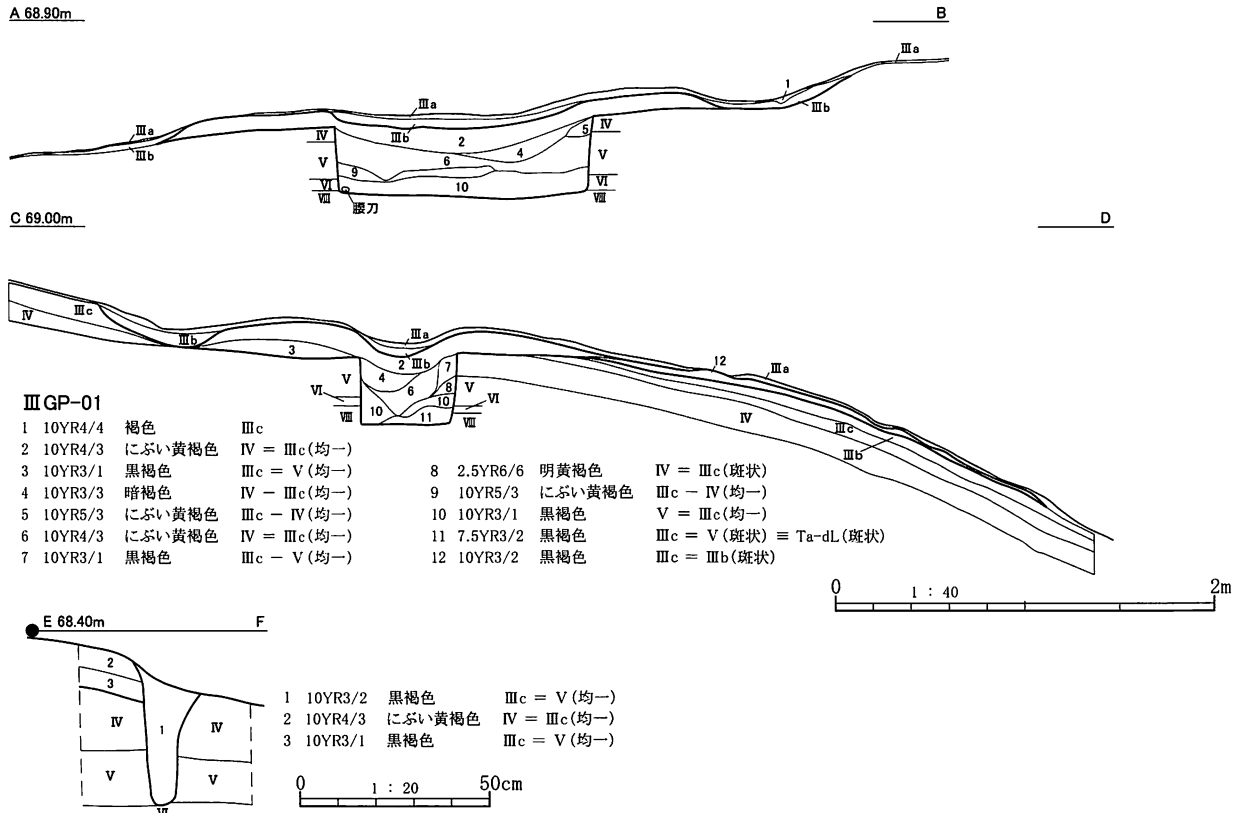
出土遺物(図Ⅲ-44)：1は鮫皮着せ合口式の腰刀である。鞘には鮫皮の上から塗られた漆の塗膜のみが残る。部分的に塗膜ははがれて、鞘の木質部もしくは刀身が露出している。また、鞘の先端には塗膜、木質は残っていなかった。塗膜に囲まれ白色の皮歯が極一部に残っている。佩裏で鮫皮のつなぎ目が確認でき、そのつなぎ目で皮歯の大きさが異なることからA～Dの4枚の皮を使用している可能性がある(Ⅲ-44 鞘部鮫皮単位別色分け模式図)。但しC・Dは小さく、剥がれた破片が付着している等の可能性もあるが、少なくともA・Bの2枚の皮は利用している。櫃穴は両面にあり、木質部の腐朽で変形しているが、およそ5×1.5cmで0.5cm程窪む。柄部分は木質が僅かに残っており、木質が残っていない部分は、茎に幅3mm程の樹皮状のものが巻かれていることが確認できる。目釘は錆びていることから鉄製と思われる。刀身の造りは不明である。本資料の材質の分析及び保

ⅢGP-01



※Ⅲ層上面で地形測量を行っている。

図Ⅲ-42 1号土坑墓（ⅢGP-01）平面図及び副葬品出土状態



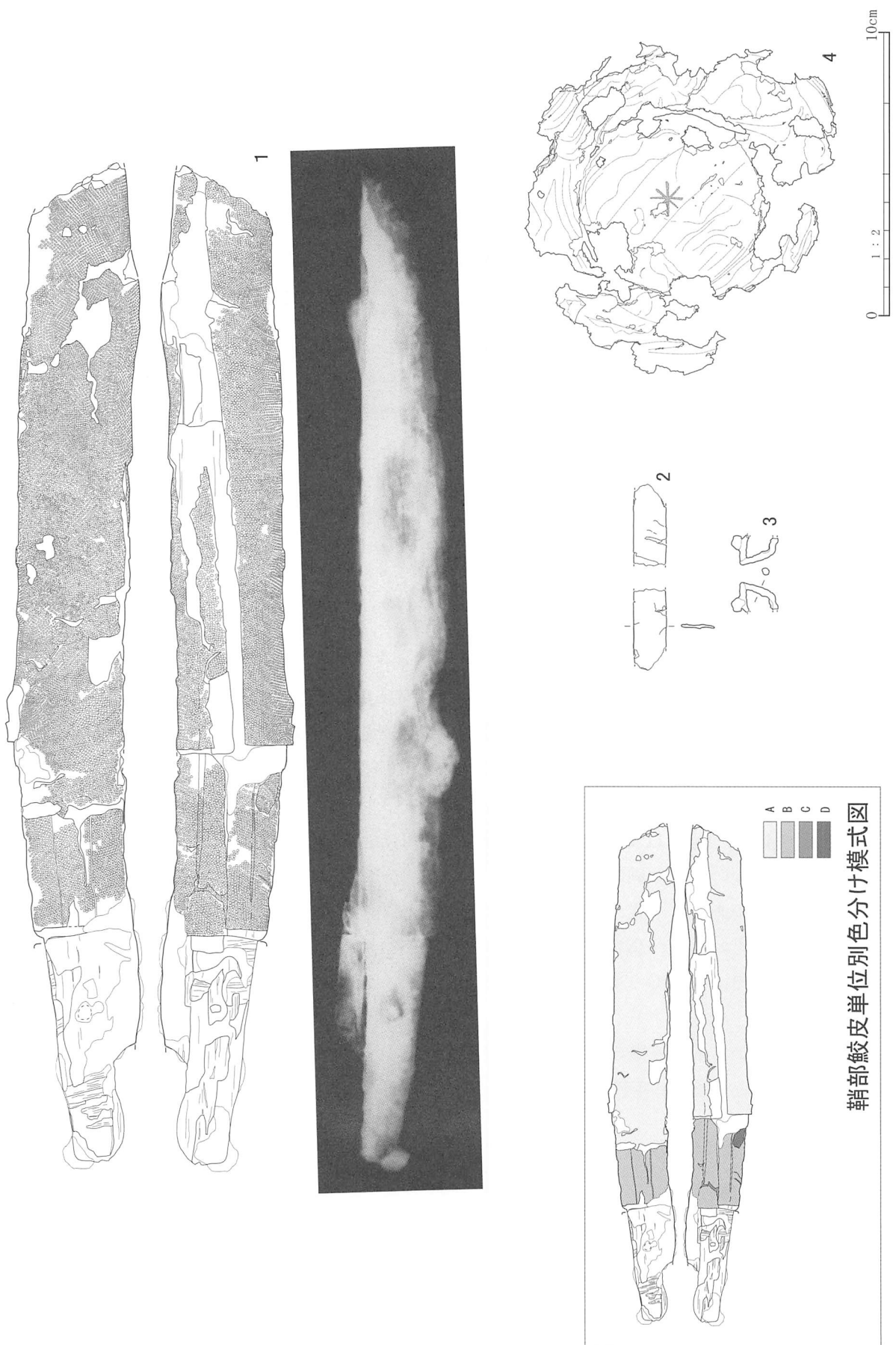
図Ⅲ-43 1号土坑墓土層断面図

存処理を元興寺文化財研究所に委託しており、その結果は第Ⅶ章第8節で詳細を掲載している。分析の結果、鞆は鮫もしくは鱧の皮とされているが、遺存状態が不良のためそれ以上の同定は行えなかったとのことである。鮫皮着せ合口式の腰刀の類例は恵庭市恵庭公園遺跡（恵庭市教育委員会 2004）や三重県雲出島貫遺跡（三重県埋蔵文化財センター 2000）にある。2は板状の金属製品で、両端は欠損している。幅は11.6mmである。白色で、風化の状態等から錫製と思われる。腰刀に付属するものかもしれない。3は両端が欠損している。針金状のものを曲げたもので、刀装具かもしれない。4は漆塗皿である。木質は失われ塗膜のみである。塗膜が円環状に盛り上がっている部分があり高台の痕跡と思われる。高台脇から口縁までの高さ、高台の径から皿と考えられる。表面は全面黒色で、高台内に朱色で「*」が手書きされている。内面は暗赤褐色で、手書きの字とは色が異なる。

時期：検出層位から中世段階のアイヌ文化期と考えられる。土坑墓内出土の炭化材をAMS年代測定を行ったところ、暦年較正年代(1σ)で13世紀末から14世紀後半の年代幅が得られている。

表Ⅲ-55 III GP-01属性表

挿図番号	図版番号	層位	グリッド	計測対象	平面形		調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		長さ	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸			
III-42	28-1・2	IIIbM	AK・AL-14・15	造成部	隅丸方形/-	414	332	-	-	-	-	
				主体部	長台形/長台形	139	65	132	51	35	N-37°E	



鞍部絞皮単位別色分け模式図

图Ⅲ-44 ⅢGP-01 出土副葬品

表Ⅲ-56 ⅢGP-01墓標穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-43	-	ⅢGP-01	15	5	32	1	打込み	

表Ⅲ-57 ⅢGP-01出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-44-1	カラー 6-1-1	-	1350	鮫皮着せ腰刀	-	2	ⅢGP-01	AL-15	356.5	40.9	16.5	277.0	Irn.	
Ⅲ-44-2	カラー 6-1-2	-	1349	刀装具?	-	2	ⅢGP-01	AL-15	16.5	(10.6)	1.8	0.3	Irn.	
Ⅲ-44-3	カラー 6-1-3	-	1352	板状金属製品	-	2	ⅢGP-01	AL-15	(29.3)	11.6	1.3	112.0	Sn.	
Ⅲ-44-4	カラー 6-1-4	-	1351	漆器皿	-	2	ⅢGP-01	AL-15	122.0	99.8	-	-	Jp.	

第5節 焼土

Ⅲb 層中位で検出した焼土をアイヌ文化期に属するものとして扱う。平地式住居跡、集中区に含まれないものは4カ所ある。

ⅢF-06 (図Ⅲ-45 図版 29-1・2)

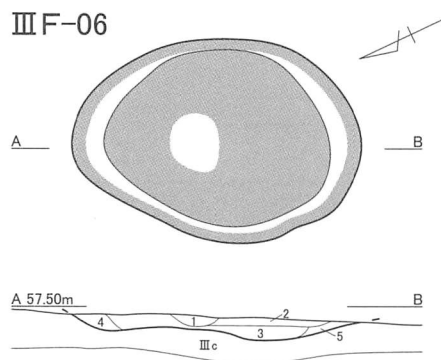
AL-8 区で検出した。1号平地式住居跡内で検出しており、住居跡の炉跡(ⅢF-04・05A)と同じⅢb 層中位で検出した。位置的に1号平地式住居跡とは関係のないものと捉え、ここで扱う。平面形は楕円形である。被熱層の厚さは4cmと薄い、赤色化は著しい。フローテーションの結果、哺乳綱の焼骨片が得られている。

ⅢF-09 (図Ⅲ-45 図版 29-3・4)

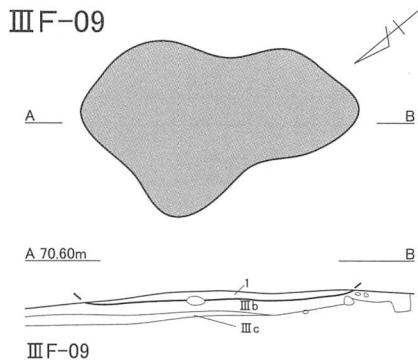
AA・AB-18・19 区のⅢb 層中位で検出した。平面図作成後に長軸中央でトレンチを設定し調査したところ、トレンチ掘削中に擦文文化期の礫集中(ⅢSB-07)の一部が出土した。この礫集中を残しつつトレンチを掘削して土層断面の確認および、記録を行った。平面形は不整形である。被熱層の厚さは2cmと非常に薄い。フローテーションの結果、キビ、マメ科、キハダ属、クルミ属の炭化種子とシカの臼歯・中足骨等の焼骨片が得られている。

ⅢF-40 (図Ⅲ-45 図版 29-5・6)

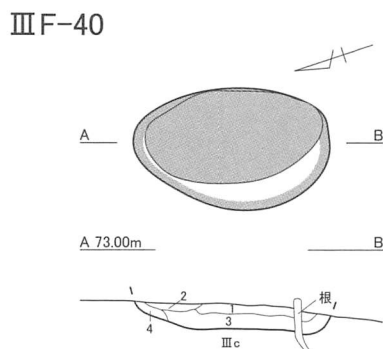
R-23 区のⅢb 層中位で検出した。近接してⅢF-41も検出している。長軸方向が同じことから平地式住居跡の炉跡の可能性を考え、周辺を段階的に掘り下げながら精査を繰り返したが、柱穴は確認できなかった。また、整理作業段階でこれらの焼土を集中区として設定するか検討を行ったが、集中遺物等が伴わないことと、周辺で遺物がほとんど出土していないことから、ここで掲載している。平面形は楕円形である。土層1・2は灰層が残っている。被熱層の厚さは4cm程である。フローテーションの結果、キハダ属、クルミ属等の炭化種子と哺乳綱の骨が得られている。



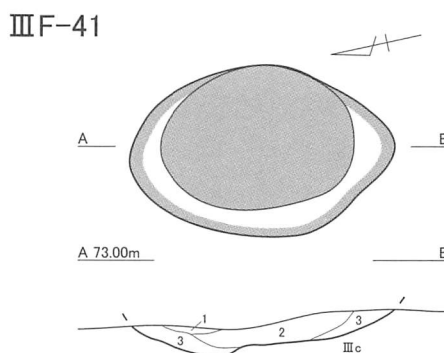
- III F-06**
 1 7.5YR2/1 黒色 根穴攪乱
 2 7.5YR3/1 黒褐色 IIIc = 焼土(斑状)
 3 7.5YR4/4 褐色 IIIc被熱層
 4 7.5YR2/2 黒褐色 付帯黒色層
 5 7.5YR2/3 極暗褐色 付帯黒色層



- III F-09**
 1 7.5YR5/4 にぶい褐色 IIIb被熱層 ≡ 焼骨片



- III F-40**
 1 10YR2/3 黒褐色 IIIb = 灰層 ≡ 焼骨片(均一)
 2 7.5YR4/6 褐色 灰層 + 被熱層 = 焼骨片(均一)
 3 7.5YR5/8 明褐色 IIIc 被熱層 ≡ 焼骨片(均一)
 4 10YR3/4 暗褐色 付帯黒色層



- III F-41**
 1 10YR6/4 にぶい黄橙色 灰層 ≡ 焼骨片
 2 7.5YR4/6 褐色 IIIc 被熱層
 3 10YR2/3 黒褐色 付帯黒色層

0 1 : 20 1m

図III-45 アイヌ文化期焼土

III F-41 (図III-45 図版 29-5・7)

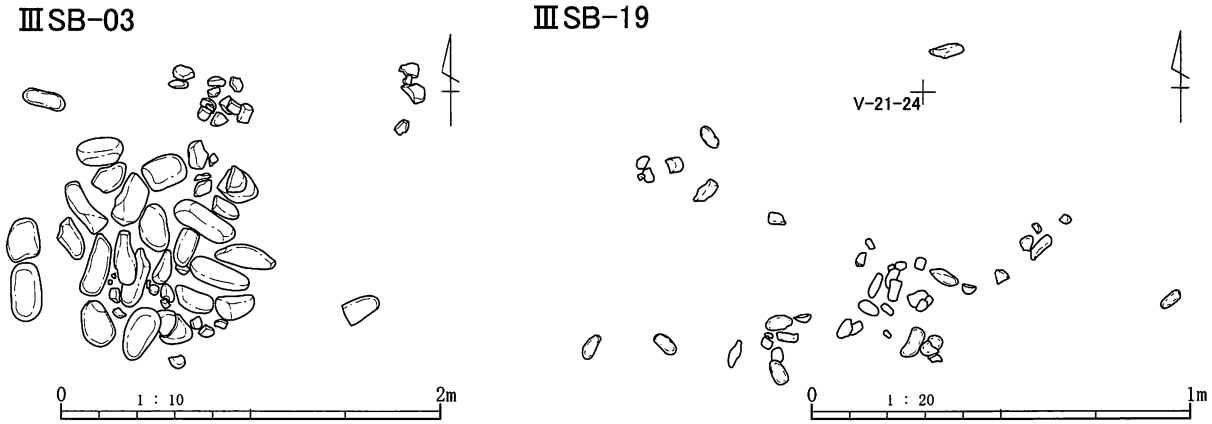
R-23 区のIIIb層中位で検出した。調査の経緯は近接して検出したIII F-40と同じである。平面形は楕円形である。土層1は灰層で良好に残っている。被熱層の厚さは7cmほどである。フローテーションの結果、クルミ属の炭化種子と哺乳綱の骨が得られている。クルミのAMS年代測定の委託を行ったところ、暦年較正年代(2σ)で11世紀中頃から13世紀初頭の年代幅が得られている。現場段階では焼土の検出層位と灰層の遺存状態から、中世段階のアイヌ文化期と想定しており、それよりも若干古い年代となっている。現場での土壌回収には特に問題点は無かったと思われるが、その後の作業において付番ミス等は考えられる。共伴すると考えられるIII F-40からも炭化種子が得られている事から、今後これのAMS年代測定を行い検証が必要と思われる。

表III-58 焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
III-45	29-1・2	III F-06	AL-8	III bM	楕円形	77	54	6	焼骨片	
III-45	29-3・4	III F-09	AA・AB-18	III bM	不整形	73	46	2	焼骨片	
III-45	29-5・6	III F-40	R-23	III bM	楕円形	52	32	7	灰・焼骨片	
III-45	29-5・7	III F-41	R-23	III bM	楕円形	70	46	7	灰・焼骨片	

第6節 集中遺物

Ⅲb 層中位以上で検出した集中遺物をアイヌ文化期に属するものとして扱う。他の遺構に関連しない集中遺物は礫集中が2カ所である。



図Ⅲ-46 アイヌ文化期集石

表Ⅲ-59 ⅢSB-03属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差	
-	-	-	7166	ⅢbM	完形	58.8	-13.5	23.7	-12.0	15.9	-5.7	2.5	0.4	25.1	-	Sa.		
-	-	-	7145	ⅢbM	完形	53.1	-19.1	33.7	-2.1	17.6	-4.0	1.6	-0.5	42.8	-	Sa.		
-	-	ⅢS104	7129	ⅢbM	完形	61.3	-10.9	35.7	0.0	18.4	-3.2	1.7	-0.4	38.6	-	Sa.		
-	-		7140	ⅢbM														
-	-	-	7171	ⅢbM	完形	61.3	-10.9	38.3	2.6	12.9	-8.7	1.6	-0.5	40.7	-	Sa.		
-	-	-	7164	ⅢbM	完形	62.5	-9.7	44.6	8.9	19.3	-2.3	1.4	-0.7	60.5	-	Sa.		
-	-	-	7161	ⅢbM	完形	67.5	-4.7	46.9	11.2	14.0	-7.6	1.4	-0.7	44.4	-	Sa.		
-	-	-	7139	ⅢbM	完形	60.7	-11.5	45.0	9.3	29.1	7.5	1.3	-0.8	97.7	-	Sa.		
-	-	-	7321	ⅢbM	完形	64.3	-7.9	34.9	-0.8	25.5	3.9	1.8	-0.3	74.0	-	Sa.		
-	-	-	7320	ⅢbM	完形	65.6	-6.6	24.0	-11.7	17.0	-4.6	2.7	0.6	33.2	-	Sa.		
-	-	-	7169	ⅢbM	完形	67.3	-4.9	42.3	6.6	24.4	2.8	1.6	-0.5	86.6	-	Sa.		
-	-	-	7162	ⅢbM	完形	66.7	-5.5	37.6	1.9	20.5	-1.1	1.8	-0.3	68.0	-	Sa.		
-	-	-	7148	ⅢbM	完形	70.5	-1.7	22.5	-13.2	15.3	-6.3	3.1	1.0	33.4	-	Sa.		
-	108-6	ⅢS109	7154	ⅢbM	完形	71.5	-0.8	43.5	7.8	26.0	4.4	1.6	-0.5	93.9	-	Sa.		
-			-	7155														ⅢbM
-		-	-	7136	ⅢbM	完形	74.5	2.3	42.0	6.3	24.8	3.2	1.8	-0.3	105.2	-	Sa.	
-		-	-	7137	ⅢbM													
-		-	-	7156	ⅢbM	完形	75.7	3.5	30.2	-5.6	21.2	-0.4	2.5	0.4	46.0	-	Sa.	
-		-	-	7146	ⅢbM	完形	72.1	-0.1	33.5	-2.2	27.2	5.6	2.2	0.1	82.8	-	Sa.	
-		-	-	7168	ⅢbM	完形	72.0	-0.2	41.8	6.1	27.0	5.4	1.7	-0.4	102.9	-	Sa.	
-		-	-	7153	ⅢbM	完形	73.5	1.3	41.6	5.9	22.2	0.6	1.8	-0.3	76.9	-	Sa.	
-		-	-	7167	ⅢbM	完形	77.1	4.9	25.0	-10.8	14.2	-7.5	3.1	1.0	50.3	-	Sa.	
-		-	-	7163	ⅢbM	完形	77.5	5.3	41.6	5.9	21.5	-0.1	1.9	-0.2	98.4	-	Sa.	
-		-	-	7157	ⅢbM	完形	84.7	12.5	32.2	-3.5	18.4	-3.2	2.6	0.5	55.6	-	Sa.	
-		-	-	7143	ⅢbM	完形	83.2	11.0	29.4	-6.3	24.9	3.3	2.8	0.7	64.6	-	Sa.	
-		-	-	7158	ⅢbM	完形	90.8	18.6	28.3	-7.4	20.5	-1.1	3.2	1.1	68.0	-	Sa.	
-		-	-	7144	ⅢbM	完形	84.5	12.3	38.1	2.4	28.4	6.8	2.2	0.1	115.5	-	Sa.	
-		-	-	7142	ⅢbM	完形	88.0	15.8	40.7	5.0	33.4	11.8	2.2	0.1	153.7	-	Sa.	
-		-	ⅢS110	7138	ⅢbM	完形	93.6	21.4	31.1	-4.6	22.0	0.4	3.0	0.9	73.9	-	Sa.	
-	-	7141		ⅢbM														
						72.2		35.7		21.6		2.1		70.5				
															完形26点			

ⅢSB-03 (図Ⅲ-46 図版 29-8)

AM-20 区のⅢbM層で検出した。周囲では、これ以外に遺物はほとんど出土していない。非常にまとまって検出しており、44×44 cmの範囲から 45 点が出土している。接合後の完形・略完形は 26 点である。礫の形状は棒状のものが殆どである。

ⅢSB-19 (図Ⅲ-46)

V-21 区のⅢbM層で検出した。138×73 cmの範囲から 40 点が出土している。特に集中している範囲は線状に礫が分布している。壁等に沿って出土している可能性を考え、周囲で柱穴等の確認を行ったが、確認されなかった。接合後の完形・略完形は 17 点である。礫の形状は棒状のものが殆どである。

表Ⅲ-60 ⅢSB-19属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	17110	ⅢbM	完形	54.1	-14.0	29.9	-2.2	19.7	1.2	1.8	-0.4	40.4	-	Sa.	
-	-	-	17093	ⅢbM	完形	57.2	-10.9	30.3	-1.8	12.0	-6.5	1.9	-0.3	27.7	-	Sa.	
-	-	-	17076	ⅢbM	完形	64.2	-3.9	34.2	2.1	14.4	-4.1	1.9	-0.3	45.8	-	Sa.	
-	-	-	17097	ⅢbM	完形	64.3	-3.8	20.2	-11.9	19.6	1.1	3.2	1.0	39.1	-	Sa.	
-	-	-	17081	ⅢbM	完形	64.9	-3.2	37.3	5.2	20.3	1.8	1.7	-0.5	66.5	-	Sa.	
-	-	-	17077	ⅢbM	完形	65.1	-3.0	31.3	-0.8	22.9	4.4	2.1	-0.1	53.2	-	Mud.	
-	108-7	ⅢS400	17074	ⅢbM	略完形	67.0	-1.1	36.8	4.7	13.5	-5.0	1.8	-0.4	41.9	-	Sa.	
-			17075	ⅢbM													
-		-	17086	ⅢbM	完形	67.5	-0.6	32.3	0.2	18.2	-0.3	2.1	-0.1	51.1	-	Sa.	
-		-	17079	ⅢbM	完形	69.4	1.3	31.9	-0.2	17.5	-4.1	2.2	0.0	46.6	-	Sa.	
-		-	17111	ⅢbM	完形	69.4	1.3	25.8	-6.3	23.4	1.8	2.7	0.5	41.1	-	Mud.	
-		-	17083	ⅢbM	略完形	70.8	2.7	39.9	7.8	19.2	-2.4	1.8	-0.4	57.0	-	Sa.	
-		-	17090	ⅢbM	完形	71.8	3.7	42.3	10.2	14.1	-7.5	1.7	-0.5	65.3	-	Sa.	
-		-	17102	ⅢbM	略完形	71.9	3.8	26.5	-5.6	21.8	0.2	2.7	0.5	42.4	-	Sa.	
-		-	17078	ⅢbM	略完形	72.1	4.0	32.4	0.3	17.3	-4.3	2.2	0.0	51.0	-	Sa.	
-		-	17080	ⅢbM	完形	72.4	4.3	32.1	0.0	19.4	-2.2	2.3	0.1	44.2	-	Sa.	
-	-	ⅢS395	-	-	略完形	77.3	9.2	31.6	-0.5	20.6	-1.0	2.4	0.2	74.6	-	Sa.	
-	-	ⅢS397	-	-	完形	78.8	10.7	30.7	-1.4	21.1	-0.5	2.6	0.4	51.0	-	Sa.	
						68.1		32.1		18.5		2.2		49.3			

完形17点

第7節 アイヌ文化期包含層出土遺物

金属製品 (図Ⅲ-47・48 図版 109、110-1)

1~4は小刀である。1は切先が欠損したものである。平棟平造りで、棟区は明瞭であるが、刃区は緩やかである。茎には目釘穴が1ヵ所あり、断面形は方形である。刃身中央で緩やかにねじれて折れ曲がっている。2は切先片で、樋が入る。3は茎が欠損しており目釘穴の有無を確認できないが、刃身長より小刀と分類した。平棟平造りの両区である。茎の断面形は棟側の幅が広い台形である。4は茎の下端部、切先が欠損している。平棟平造りの両区である。5・6は短刀で茎の下端部、切先が欠損している。共に平棟平造りで両区であるが、6の刃区はやや不明瞭である。7・8は刀子である。9~11は刀剣類の破片で、細分は行っていない。12~17は刀剣類の再加工品である。12は刃身部片で、破断面付近は捩れており、破断面は僅かに潰れていることから再加工品とした。13は茎から刃身にかけての破片で、両区は潰されて段がなくなっている。また、刃身側の破断面も潰れている。潰れた区付近で折れ曲がっている。14は刃身部片と思われ、切先側は欠損しており、茎側は潰れている。13・14は潰れの位置等が似ており同一個体であったと思われる。15は刃身部片で、破断面は

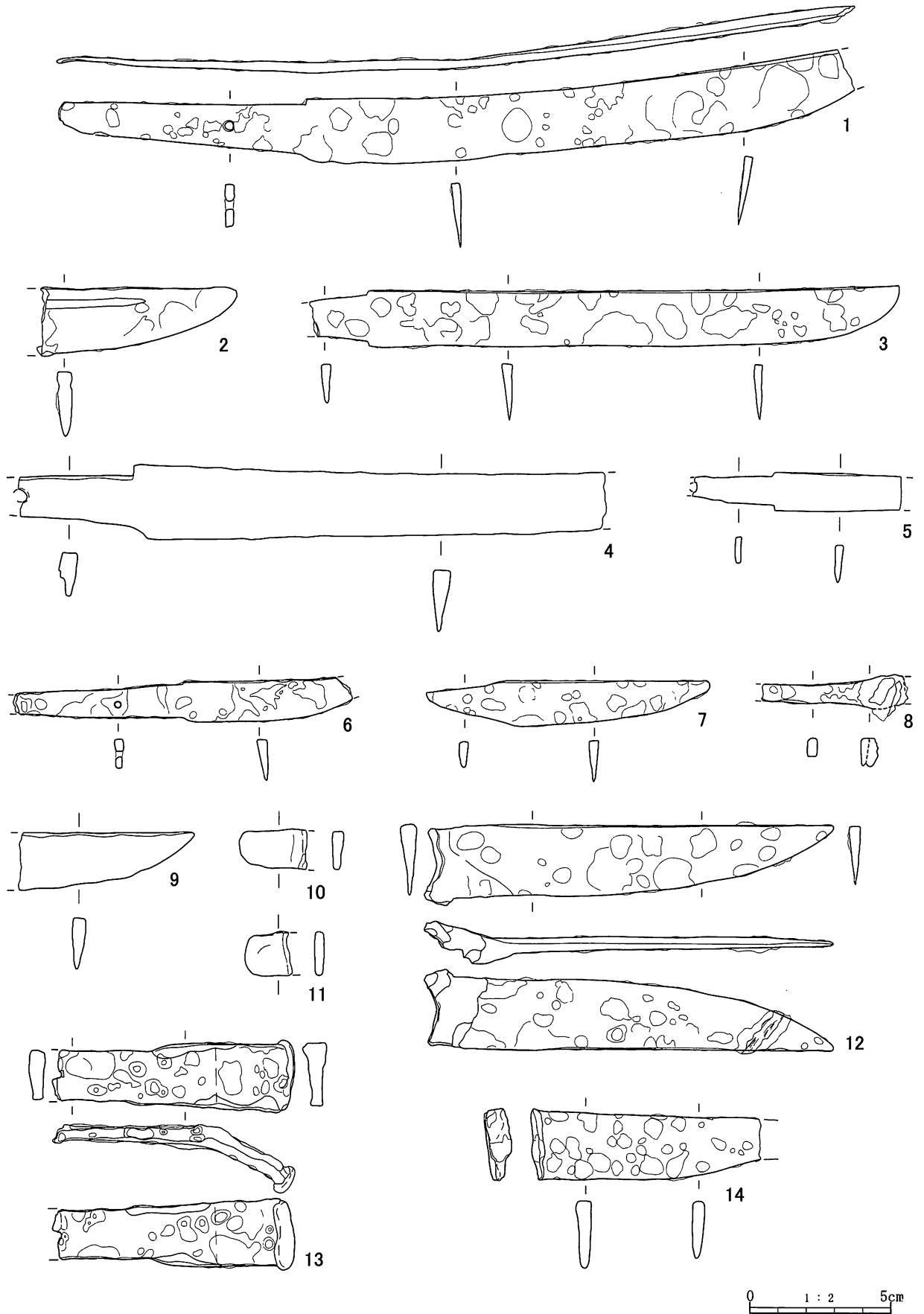
平滑であることから、再加工されたと思われる。18 は鋤である。19 は目貫と思われる。20 は鉄鏃で茎は折れ曲がっている。鏃身は平ノミ形で、篋被関部は台形状で茎との変換点は明瞭である。21 は先端部が欠損しているが針と思われる。22 は先端部が欠損しているが、断面形状等より鉤状鉄製品と思われる。23 は棒状鉄片である。24 は鉄斧で、基部断面がコの字状である。26 はU字形の鋤（鋤）先で、基部は欠損している。

石器（図Ⅲ-49・50 図版 110-2、111）

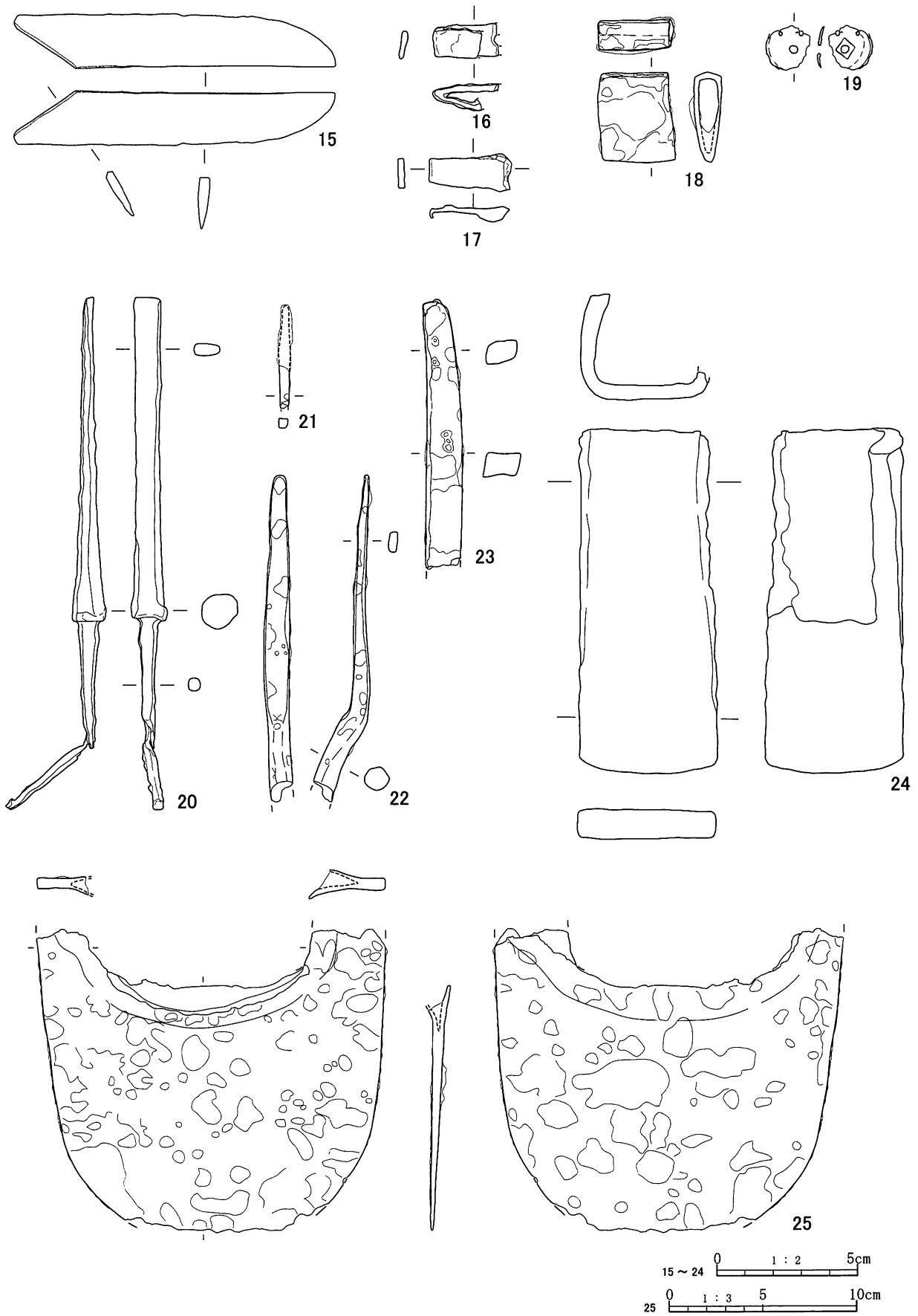
26～29・35 はたたき石である。29 は両面に5mm程の深さの敲打痕がある。また、一部に研磨面があることから、砥石としても使用している。35 は1200gあるが、側面の稜を利用していることからたたき石とした。30 は砥石で、研磨面の周囲に錆と思われる付着物がある（トーンで図示）。付着物は礫皮の小さな窪みに埋まっており、鉄製品を研いだ際の鉄粉が付着していたと思われる。31・32 は滑沢面のある礫で、重量より31は手持ち、32は置いて使用したと思われる。33・34 は台石である。36 は滑沢面と敲打痕のある大型礫である。37 は加工痕のある礫である。断面は長方形で、その稜に連続した細かな剥離が見られる。

磁器（図Ⅲ-50 図版 111）

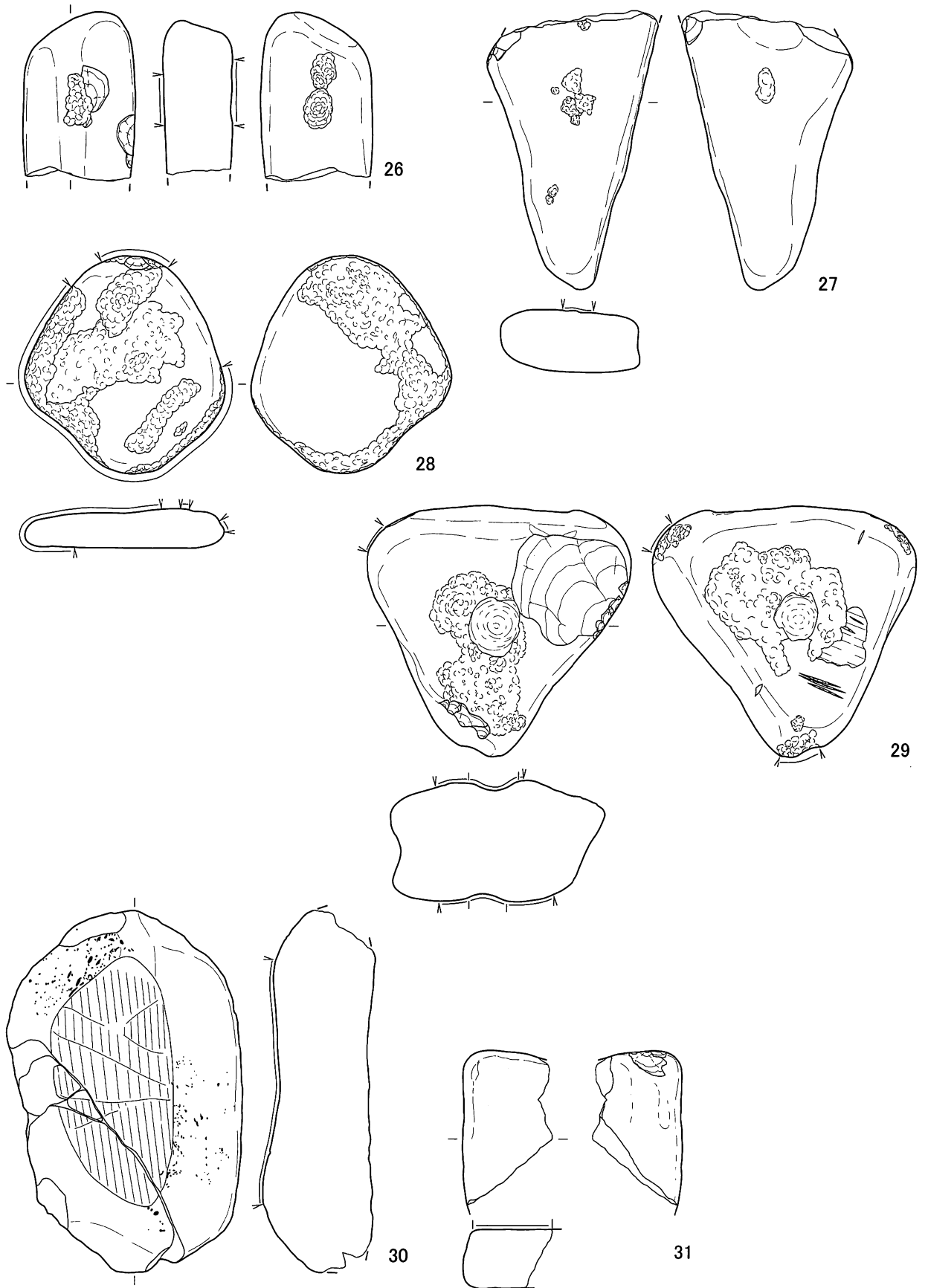
38 は青磁碗の口縁部片である。破断面の角は鋭角で、磨滅等は見られないことから、出土地点の周囲を詳細に調査したが、同一個体の破片は見つからなかった。口縁は外反し、口唇部断面形は丸い。北海道埋蔵文化財センター 鈴木信氏、上ノ国町教育委員会 塚田直哉氏に実見して頂いたところ、胎土等より龍泉窯のもので、上田分類（上田 秀夫 1982）のD-II類に相当するとご教示頂いた。年代は14世紀後半～15世紀と考えられる。



図Ⅲ-47 アイヌ文化期包含層出土遺物(1)

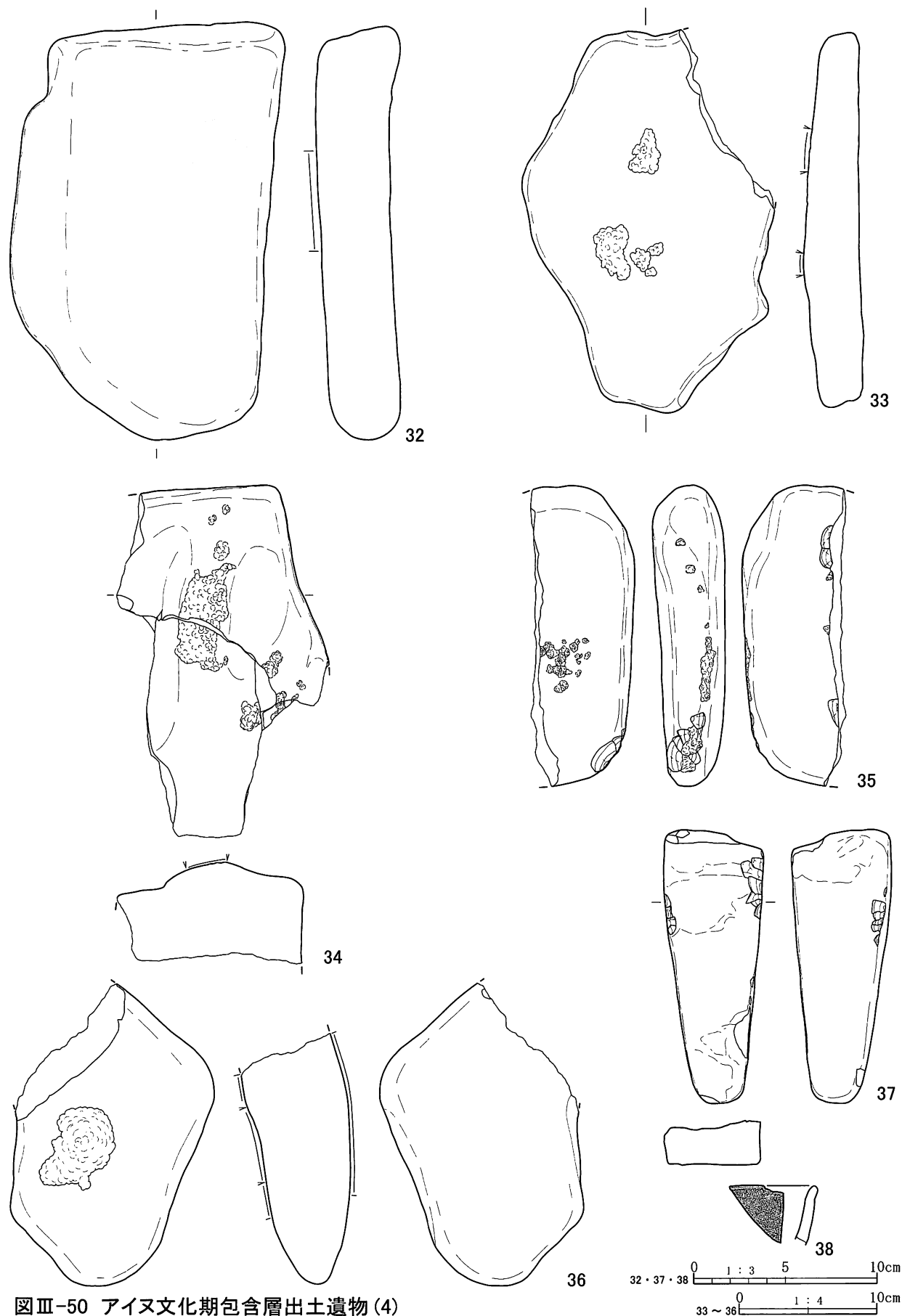


図Ⅲ-48 アイヌ文化期包含層出土遺物(2)



図Ⅲ-49 アイヌ文化期包含層出土遺物(3)

0 1 3 5 10cm



図Ⅲ-50 アイヌ文化期包含層出土遺物(4)

表Ⅲ-61 アイヌ文化期包含層出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-47-1	109-1	-	1415	小刀	-	ⅢbM	AH-15	(282.2)	23.8	3.3	68.0	lrn.	
Ⅲ-47-2	109-2	-	102	小刀	-	ⅢbM	AE-9	(70.9)	24.9	5.4	26.0	lrn.	
Ⅲ-47-3	109-3	-	1416	小刀	-	ⅢbM	AK-18	(208.9)	19.6	3.7	47.9	lrn.	
Ⅲ-47-4	109-4	-	15142	小刀	-	Ⅲa	Q-22	(208.0)	29.0	8.0	100.9	lrn.	
Ⅲ-47-5	109-5	-	15254	短刀	-	ⅢbU	Y-24	(74.0)	14.0	3.0	7.9	lrn.	
Ⅲ-47-6	109-6	-	3216	短刀	-	ⅢbU	AD-22	(120.0)	14.8	14.8	11.0	lrn.	
Ⅲ-47-7	109-7	-	4406	刀子	-	ⅢbM	AI-18	100.9	16.7	3.5	13.4	lrn.	
Ⅲ-47-8	109-8	-	5180	刀子	-	ⅢbM	AD-21	(51.0)	15.6	7.5	4.4	lrn.	
Ⅲ-47-9	109-9	-	15143	切先片	-	Ⅲa	Q-22	(63.0)	22.0	5.0	15.2	lrn.	
Ⅲ-47-10	109-10	-	15252	茎片	-	ⅢbU	V-21	(24.0)	14.0	5.0	5.1	lrn.	
Ⅲ-47-11	109-11	-	15253	茎片	-	ⅢbU	V-21	(16.0)	17.0	4.0	3.5	lrn.	
Ⅲ-47-12	109-12	-	2200	刀剣類再加工品	-	ⅢbM	AB-20	144.8	27.1	7.6	7.6	lrn.	
Ⅲ-47-13	109-13	-	3217	刀剣類再加工品	-	ⅢbU	AD-23	(83.3)	23.4	10.0	51.2	lrn.	
Ⅲ-47-14	109-14	-	3218	刀剣類再加工品	-	ⅢbM	AM-16	(80.5)	25.3	8.5	8.5	lrn.	
Ⅲ-48-15	109-15	-	15251	刀剣類再加工品	-	ⅢbU	W-21	117.0	20.0	6.0	30.9	lrn.	
Ⅲ-48-16	109-16	-	15249	刀剣類再加工品	-	ⅢbU	Z-24	(22.0)	13.0	6.0	4.2	lrn.	
Ⅲ-48-17	109-17	-	17053	刀剣類再加工品	-	ⅢbM	Y-24	(29.0)	15.0	9.0	3.5	lrn.	
Ⅲ-48-18	109-18	-	4526	鋸	-	ⅢbM	AD-17	32.6	25.8	11.8	9.4	lrn.	
Ⅲ-48-19	109-19	-	4405	目貫	-	ⅢbM	AI-18	(15.9)	(15.3)	0.4	0.4	lrn.	
Ⅲ-48-20	110-1-1	-	15012	鉄鏃	-	ⅢbU	W-23	181.0	20.0	15.0	47.8	lrn.	
Ⅲ-48-21	110-1-2	-	103	針	-	ⅢbM	AE-8	(36.6)	5.0	5.5	1.2	lrn.	
Ⅲ-48-22	110-1-3	-	2166	鉤状鉄製品	-	ⅢbM	AJ-16	(117.0)	9.1	8.0	25.3	lrn.	
Ⅲ-48-23	110-1-4	-	5250	棒状鉄片	-	ⅢbM	AB-22	(93.6)	12.2	10.8	47.1	lrn.	
Ⅲ-48-24	110-1-5	-	15101	鉄斧	-	ⅢbU	AA-24	122.0	50.0	23.0	370.0	lrn.	
Ⅲ-48-25	110-1-6	-	1430	鋏先	-	ⅢbU	AD-18	(162.6)	(85.7)	13.5	48.0	lrn.	
Ⅲ-49-26	110-2-7	-	16225	たたき石	I A3	ⅢbU	V-21	90.0	50.8	30.6	272.0	Sa.	
Ⅲ-49-27	110-2-8	-	15328	たたき石	I A3	ⅢbU	O-23	148.9	90.3	32.8	505.0	Sa.	
Ⅲ-49-28	110-2-9	-	16667	たたき石	Ⅱ A3	ⅢbM	Z-21	110.6	100.6	20.1	325.0	Sa.	
Ⅲ-49-29	110-2-10	-	16252	たたき石	Ⅱ A3	ⅢbU	W-20	132.1	125.6	58.5	1445.0	Sa.	
Ⅲ-49-30	111-1	ⅢST-102	16196	砥石	-	ⅢbU	U-21	190.3	120.6	50.8	1535.0	Sa.	
Ⅲ-49-31	111-2	-	2712	滑沢面のある礫	-	ⅢbM	AF-20	(83.0)	(46.0)	31.5	180.0	Sa.	
Ⅲ-50-32	111-3	-	2863	滑沢面のある礫	-	ⅢbM	AC-19	225.0	139.0	40.0	2350.0	Sa.	
Ⅲ-50-33	111-4	-	17173	台石	-	ⅢbM	Y-24	270.9	180.3	40.0	2500.0	Sa.	
Ⅲ-50-34	111-5	-	15367	台石	-	ⅢbU	Q-23	256.6	155.0	68.3	3160.0	Sa.	
Ⅲ-50-35	111-6	-	15338	たたき石	V	ⅢbU	P-23	220.1	75.1	51.5	1200.0	Sa.	
Ⅲ-50-36	111-7	-	17180	滑沢面と敲打痕のある大型礫	Ⅱ	ⅢbM	Y-24	220.3	140.5	70.9	2760.0	Sa.	
Ⅲ-50-37	111-8	-	15632	加工痕のある礫	-	ⅢbU	S-25	149.6	54.9	24.3	270.0	Sa.	
Ⅲ-50-38	111-9	-	15144	青磁碗	-	ⅢbU	W-23	-	-	6.1	5.5	Cr.	